南橘東原遺跡

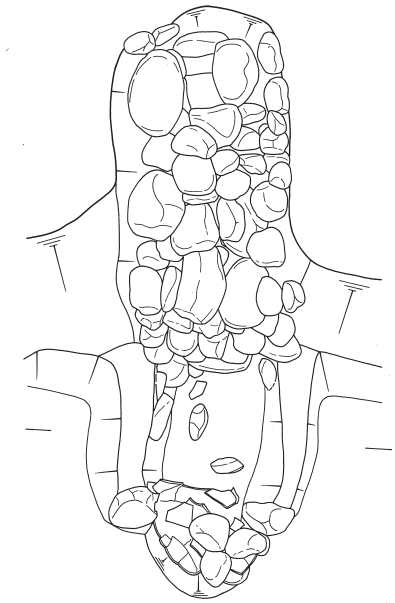
南橘中学校第二グランド整備事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

２００８．３

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

南橋東原遺跡

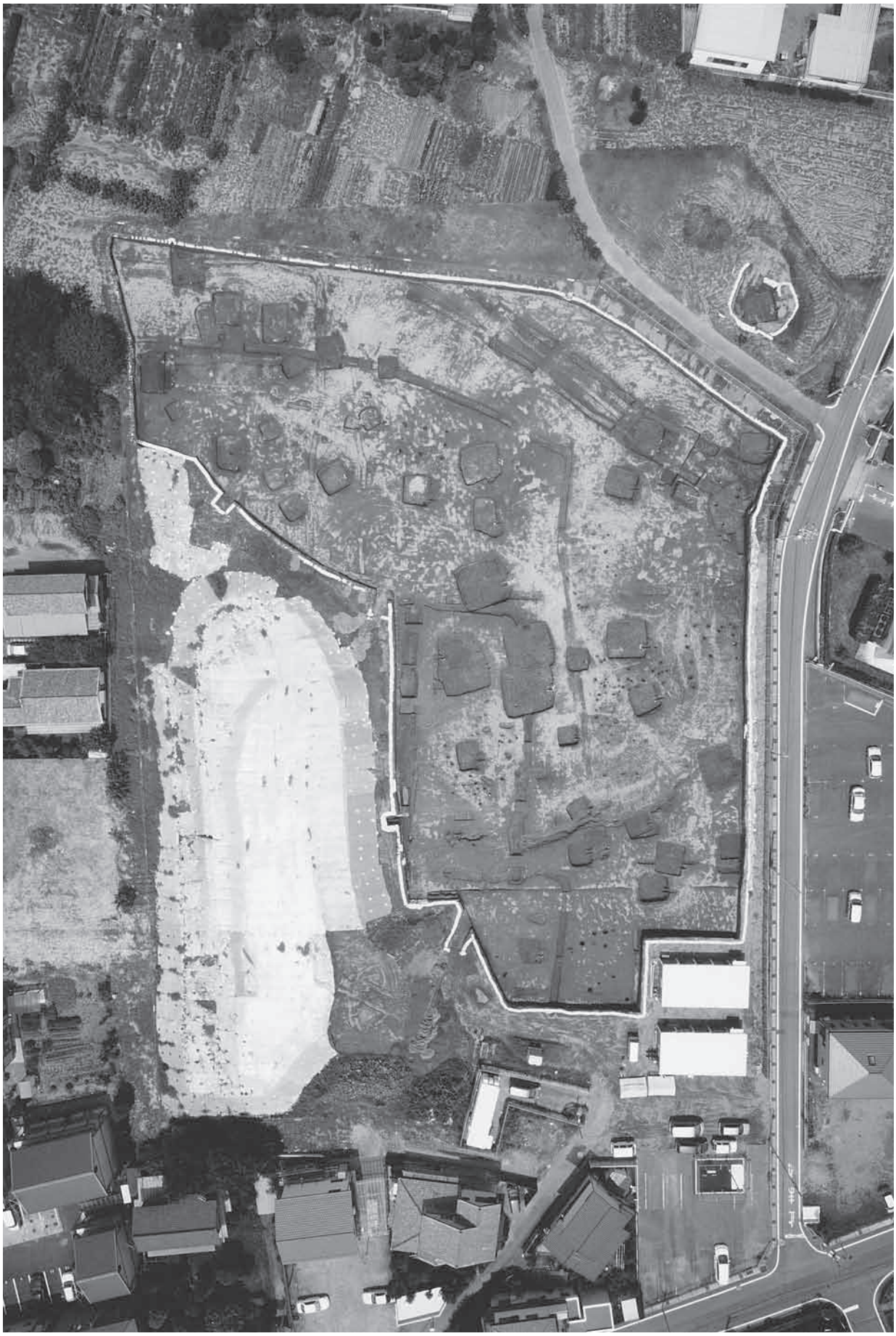
南橋中学校第二グランド整備事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書



31号住居跡の石組竈

２００８．３

前橋市埋蔵文化財発掘調査団



調査区全景

H－25号住居跡出土遺物

H－51号住居跡出土遺物

はじめに

前橋市は、関東平野の北西部に位置し、雄大な裾野を広げる名山赤城山を背に坂東太郎として名高い利根川や詩情豊かな広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情に溢れる県都です。

古代において前橋市域は、広大に分布する穀倉地帯を控え、前橋天神山古墳などの初期古墳をはじめ王山古墳・天川二子山古墳といった首長墓が連綿と築かれ、上野毛の国の中心地として栄え、10基を数える古墳が国指定となっています。続く律令時代になってからは総社・元総社地区に山王廃寺、国分僧寺、国分尼寺、国府など上野国の中枢をなす施設が次々に造られました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎬をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東三名城の一つに数えられる厩橋城が築かれました。

前橋市の北西部、赤城山の南西麓に位置する南橘町周辺は、旧利根川の氾濫原と考えられ、遺跡の存在も希薄な地とされていました。今回、報告書を上梓する南橘東原遺跡の調査では、古墳時代から平安時代にいたる多くの竪穴式住居跡、中世の溝跡を検出し、地域の歴史・前橋の歴史を解明する上で、貴重な資料を得ることができました。

最後になりましたが、この調査事業を円滑に進められたのは、関係機関や各方面のご配慮の結果といえます。また、酷暑の中、直接調査に携わってくださった担当者・作業員のみなさんに厚くお礼申しあげます。

本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

平成20年3月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団
団　長　　**砂　川　次　郎**

例　　言

1　本報告書は、前橋市立南橘中学校第二グラウンド造成工事に伴う南橘東原遺跡発掘調査報告書である。

2　調査主体は、前橋市埋蔵文化財発掘調査団である。

3　発掘調査の要項は次のとおりである。

調　査　場　所	群馬県前橋市日輪寺町107番４ほか
発掘調査期間	平成19年５月14日～平成19年８月31日
整理・報告書作成期間	平成19年９月１日～平成20年３月21日
発掘・整理担当者	山下歳信・阿久澤真一・池田史人 綿貫綾子（嘱託員）

4　本書の原稿出筆・編集は山下が行った。

5　発掘調査・整理作業にかかわった方々は次のとおりである。
安部シゲ子・石原義夫・井上和久・岩木操・大澤俊夫・神澤とし江・岸フクエ・北爪啓子・斉藤亀寿
斉藤頼江・杉渕富雄・須田博治・高澤京子・角田愷・勅使川原幸枝・徳江基・登坂うた子・渡木秋子
友永茂・中澤光江・中山昭・中矢のり子・萩原秀子・橋本茂・平林しのぶ・星野和子・森下陽介・山野居綾
湯浅たま江・湯浅道子

6　発掘調査で出土した遺物は、当発掘調査団より前橋市教育委員会に保管を依頼し、前橋市教育委員会文化財保護課で保管されている。

凡　　例

1　挿図中に使用した北は、座標北である。

2　挿図に国土交通省国土地理院発行の１：200,000地形図（宇都宮・長野）、１：25,000地形図（前橋）、１：10,000前橋市原形図を使用した。

3　遺跡の略称は、19B13である。

4　遺構及び遺構施設の略称は、次のとおりである。
Ｈ…古墳・奈良・平安時代の竪穴式住居跡　　Ｔ…竪穴状遺構　　Ｂ…掘立柱建物跡
Ｗ…溝跡　　Ａ…道路状遺構　　Ｄ…土坑　　Ｐ…柱穴

5　遺構・遺物の実測図の縮尺は、原則的に次のとおりである。その他、各図スケールを参照されたい。
遺構　　全体図…１：200、住居跡・竪穴状遺構・掘立柱建物跡…１：60、竈…１：30
遺物　　土器・鉄製品・石製品…１／３、２／３

6　計測値については、（　　）は現存値、〔　　〕は復元値を表す。

7　セクション注記と遺物観察表の色調については新版標準土色帳（小山・竹原）を基準とした。

目　　次

巻頭写真

はじめに

例　　言

凡　　例

目　　次

本　文　目　次

挿　図　目　次

図　版　目　次

Ⅰ　調査に至る経緯 ・・・1

Ⅱ　遺跡の位置と環境・・1～10

1　遺　跡　の　立　地

2　歴　史　的　環　境

Ⅲ　調査の方針と経過・・・11

1　調　査　方　針

2　調　査　経　過

Ⅳ　遺　構　と　遺　物・・・12～45

1　縄文時代

2　古墳時代～平安時代

（1）　竪穴住居跡

（2）　竪穴状遺構

（3）　掘立柱建物跡

（4）　溝　　跡

（5）　道路状遺構

（6）　土坑・ピット

（7）　流　水　路

Ⅴ　土層とテフラ・・・46～52

Ⅵ　ま　　と　　め・・・53～56

挿　図　目　次

第１図　遺跡の位置・・・・・・・・・・・・・・・2
第２図　調査区の位置・・・・・・・・・・・・・・3
第３図　周辺の遺跡・・・・・・・・・・・・・・5・6
第４図　南橋東原遺跡全体図・・・・・・・57・58
第５図　１号住居跡・・・・・・・・・・・・・・59
第６図　２・３号住居跡・・・・・・・・・・・・60
第７図　４号住居跡・・・・・・・・・・・・・・61
第８図　５・６、11号住居跡・・・・・・・・・・62
第９図　12、13号住居跡・・・・・・・・・・・・63
第10図　14、15、16号住居跡・・・・・・・・・・64
第11図　16号住居跡・・・・・・・・・・・・・・65
第12図　17号住居跡・・・・・・・・・・・・・・66
第13図　18、19号住居跡・・・・・・・・・・・・67
第14図　20号住居跡・・・・・・・・・・・・・・68
第15図　21、22号住居跡・・・・・・・・・・・・69
第16図　24、25号住居跡・・・・・・・・・・・・70
第17図　25、26号住居跡・・・・・・・・・・・・71
第18図　27、57号住居跡・・・・・・・・・・・・72
第19図　28、29号住居跡・・・・・・・・・・・・73
第20図　30、31号住居跡・・・・・・・・・・・・74
第21図　31号住居跡カマド・・・・・・・・・・・75
第22図　32・33号住居跡①・・・・・・・・・・・76
第23図　32・33号住居跡②・・・・・・・・・・・77
第24図　32・33号住居跡③・・・・・・・・・・・78
第25図　34、35号住居跡・・・・・・・・・・・・79
第26図　35、36号住居跡・・・・・・・・・・・・80
第27図　37、38号住居跡・・・・・・・・・・・・81
第28図　38・39号住居跡・・・・・・・・・・・・82
第29図　40、41・42号住居跡・・・・・・・・・・83
第30図　42、43号住居跡・・・・・・・・・・・・84
第31図　44、45号住居跡・・・・・・・・・・・・85
第32図　46号住居跡・・・・・・・・・・・・・・86
第33図　48・49、50号住居跡・・・・・・・・・・87
第34図　51号住居跡・・・・・・・・・・・・・・88
第35図　52・53号住居跡・・・・・・・・・・・・89
第36図　54・56号住居跡・・・・・・・・・・・・90
第37図　55号住居跡、１号竪穴状遺構
　　１号掘立柱建物跡・・・・・・・・・・・91
第38図　溝等全体図・・・・・・・・・・・・・・92
第39図　溝土層図・・・・・・・・・・・・・・・93
第40図　縄文土器、
　　１～４号住居跡出土遺物・・・・・・・94
第41図　４～12号住居跡出土遺物・・・・・・・95
第42図　12～17号住居跡出土遺物・・・・・・・96
第43図　17～20号住居跡出土遺物・・・・・・・97
第44図　20～22号住居跡出土遺物・・・・・・・98
第45図　24～25号住居跡出土遺物・・・・・・・99
第46図　25～27号住居跡出土遺物・・・・・・・100
第47図　27～31号住居跡出土遺物・・・・・・・101
第48図　31～32号住居跡出土遺物・・・・・・・102
第49図　32～37号住居跡出土遺物・・・・・・・103
第50図　38～42号住居跡出土遺物・・・・・・・104
第51図　42～46号住居跡出土遺物・・・・・・・105
第52図　46～51号住居跡出土遺物・・・・・・・106
第53図　51～53号住居跡出土遺物・・・・・・・107
第54図　54～57号住居跡出土遺物、
　　Ｗ－８号溝出土遺物　・・・・・・・・108
第55図　Ｗ－８号溝他出土遺物　・・・・・・・109

表目次

第１表　周辺の遺跡・・・・・・・・・・・・　7～9　　第２表　竪穴住居跡一覧　・・・・・・・・・・　38
第３表　出土遺物観察表・・・・・・・・・　39～45

写真図版

PL 1
Ｈ－１号住居跡遺物出土状況 ／ Ｈ－１号住居跡全景 ／ Ｈ－２・３号住居跡全景 ／ Ｈ－２号住居跡竈全景
Ｈ－３号住居跡全景 ／ Ｈ－３号住居跡竈全景 ／ Ｈ－４号住居跡遺物出土状況 ／ Ｈ－４号住居跡貯蔵穴
PL 2
Ｈ－４号住居跡全景 ／ Ｈ－5・６号住居跡遺物出土状況 ／ Ｈ－５号住居跡竈全景 ／ Ｈ－11号住居跡全景
Ｈ－12号住居跡遺物出土状況 ／ Ｈ－12号住居跡全景 ／ Ｈ－13号住居跡遺物出土状況 ／ Ｈ－13号住居跡全景
PL 3
Ｈ－14号住居跡全景 ／ Ｈ－15号住居跡遺物出土状況 ／ Ｈ－15号住居跡全景 ／ Ｈ－16号住居跡遺物出土状況
Ｈ－14号住居跡全景 ／ Ｈ－17号住居跡竈全景 ／ Ｈ－17号住居跡埋設土器 ／ Ｈ－18号住居跡全景
PL 4
Ｈ－19号住居跡遺物出土状況 ／ Ｈ－19号住居跡全景 ／ Ｈ－20号住居跡遺物出土状況 ／ Ｈ－20号住居跡竈全景
Ｈ－20号住居跡全景 ／ Ｈ－21号住居跡全景 ／ Ｈ－22号住居跡竈全景 ／ Ｈ－24号住居跡遺物出土状況
PL 5
Ｈ－24号住居跡鎌出土状況 ／ Ｈ－24号住居跡竈全景 ／ Ｈ－25号住居跡遺物出土状況
Ｈ－25号住居跡竈周辺遺物出土状況 ／ Ｈ－25号住居跡甑出土状況
PL 6
Ｈ－25号住居跡竈内遺物出土状況 ／ Ｈ－25号住居跡竈内異物出土状況 ／ Ｈ－25号住居跡全景
Ｈ－26号住居跡遺物出土状況 ／ Ｈ－26号住居跡竈異物出土状況 ／ Ｈ－27号住居跡遺物出土状況
Ｈ－27号住居跡遺物出土状況 ／ Ｈ－27・57号住居跡全景
PL 7
Ｈ－28号住居跡全景 ／ Ｈ－29号住居跡遺物出土状況 ／ Ｈ－30号住居跡全景 ／ Ｈ－31号住居跡遺物出土状況
Ｈ－31号住居跡遺物出土状況近影 ／ Ｈ－31号住居跡竈検出状況 ／ 同住居跡竈検出状況 ／ 同住居跡竈燃焼部状況
PL 8
Ｈ－31号住居跡竈燃焼部状況 ／ 同住居跡竈燃焼部状況 ／ 同住居跡竈煙道部石積状況
同住居跡竈石積状況 ／ 同住居跡竈煙道部基部石積状況
PL 9
Ｈ－32・33号住居跡遺物出土状況 ／ Ｈ－32号住居跡全景 ／ Ｈ－32号住居跡竈全景 ／ Ｈ－33号住居跡全景
Ｈ－33号住居跡竈全景 ／ Ｈ－33号住居跡竈状況 ／ Ｈ－34号住居跡検出状況 ／ Ｈ－34号住居跡竈全景
PL10
Ｈ－35号住居跡全景 ／ Ｈ－36号住居跡検出状況 ／ Ｈ－36号住居跡全景 ／ Ｈ－37号住居跡遺物出土状況
Ｈ－37号住居跡全景 ／ Ｈ－38号住居跡竈検出状況 ／ Ｈ－39号住居跡新旧竈 ／ Ｈ－40号住居跡遺物出土状況

PL11
Ｈ－40号住居跡勾玉出土状況 ／ Ｈ－40号住居跡遺物出土状況 ／ Ｈ－40号住居跡全景 ／ Ｈ－41号住居跡全景
Ｈ－42号住居跡遺物出土状況 ／ Ｈ－41・42号住居跡土層堆積状況 ／ Ｈ－43号住居跡全景
Ｈ－44号住居跡遺物出土状況
PL12
Ｈ－44号住居跡全景 ／ Ｈ－45号住居跡遺物出土状況 ／ Ｈ－45号住居跡全景 ／ Ｈ－46号住居跡全景
Ｈ－46号住居跡竈全景／ Ｈ－46号住居跡煙出し口／ Ｈ－48号住居跡遺物出土状況／ Ｈ－49号住居跡遺物出土状況
PL13
Ｈ－48・49号住居跡全景／ Ｈ－50号住居跡全景／ Ｈ－50号住居跡遺物出土状況／ Ｈ－51号住居跡遺物出土状況
同住居跡遺物出土状況近影／同住居跡遺物出土状況近影／同住居跡遺物出土状況近影／同住居跡竈内遺物出土状況
PL14
Ｈ－51号住居跡出土状況（南から）／ Ｈ－51号住居跡出土状況（真上から）
PL15
Ｈ－51号住居跡全景 ／ Ｈ－52号住居跡遺物出土状況 ／同住居跡遺物出土状況近影 ／ Ｈ－53号住居跡遺物出土状況
Ｈ－53号住居跡全景 ／ Ｈ－53号住居跡竈全景 ／ Ｈ－54・56号住居跡遺物出土状況 ／ Ｈ－54・56号住居跡全景
PL16
Ｈ－54号住居跡全景 ／ Ｈ－55号住居跡全景 ／ Ｈ－57号住居跡全景 ／ 竪穴状遺構全景（Ｔ－１）
掘立柱建物跡(Ｂ－１）／ 流水路に堆積した白砂(東から）／流水路に堆積した白砂(西から）／ 流水路全景(西から）
PL17
流水路全景（西から）／ Ｗ－４・６（東から）／ Ｗ－５板碑出土状況 ／ Ｗ－８集石状況
Ｗ－８集石内土鍋出土状況 ／ Ｗ－８集石完掘状況 ／ Ｗ－12（南から）／ 作業風景

PL18　縄文土器 ／ Ｈ－1～４号住居跡出土遺物
PL19　Ｈ－４、５、９号住居跡出土遺物
PL20　Ｈ－29、31号住居跡出土遺物
PL21　Ｈ－19、20号住居跡出土遺物
PL22　Ｈ－20、22号住居跡出土遺物
PL23　Ｈ－25号住居跡出土遺物
PL24　Ｈ－25、26号住居跡出土遺物
PL25　Ｈ－26、27、28住居跡出土遺物
PL26　Ｈ－29、31号住居跡出土遺物
PL27　Ｈ－31、32号住居跡出土遺物
PL28　Ｈ－33、35～37号住居跡出土遺物
PL29　Ｈ－38～42号住居跡出土遺物
PL30　Ｈ－43～46、48、49号住居跡出土遺物
PL31　Ｈ－50、51号住居跡出土遺物
PL32　Ｈ－51～54号住居跡出土遺物
PL33　Ｈ－54～57号住居跡出土遺物・鉄製品
PL34　石製品、土製品、溝出土遺物

Ⅰ　調査に至る経緯

本発掘調査は、前橋市立南橘中学校第二グラウンド造成事業に伴い実施された。試掘調査は、平成19年４月12日～20日の間、0.8㎥バックホウを使用して東西方向11本、南北方向３本のトレンチを設定し実施し、古墳時代～奈良・平安時代の竪穴住居跡、溝跡を確認したので、教育委員会総務課・同教育施設課と文化財保護課で協議検討を重ね、その結果、平成19年５月８日付けで、前橋市教育委員会管理部総務課より南橘中学校第二グラウンド造成のための埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会文化財保護課に提出された。保護課ではこれを受け、内部組織である前橋市埋蔵文化財発掘調査団　団長　砂　川　次　郎に対し、調査実施について協議を行い、調査団はこれを受諾した。平成19年５月14日、調査依頼者である前橋市長　高　木　政　夫と前橋市埋蔵文化財発掘調査団　団長　砂　川　次　郎との間で、本発掘調査の委託契約を締結し、５月17日に現地での発掘調査を開始するに至った。

なお、遺跡名称は「南橘東原遺跡」（遺跡コード：19B13）の「南橘」は旧地籍の大字名、「東原」は小字名を採用した。

Ⅱ　遺跡の位置と環境

１　遺跡の立地

前橋市は、利根川が赤城・榛名の両火山の裾合を経て関東平野を望むところに位置し、地形・地質の特徴から、北東部の赤城火山斜面（赤城の山麓）、南西部の前橋台地利根川右岸、南部から南西部にかけての前橋台地利根川左岸、旧利根川の河道にあたる広瀬川低地帯という４つの地域に分けられる。

本遺跡は広瀬川低地帯上に赤城火山斜面から南西方向に放射状に広がる小規模扇状地（白川扇状地）の末端付近に位置し、北方の川端町・日輪寺町には赤城火山の山麓崖が直線的な崖で画されている。東方550ｍに赤城白川、西方100ｍに旧利根川の河道である桃ノ木川、その西方に広瀬川が流れ、台地の中央には現利根川が貫流している。現在の利根川の流路は中世以降のもので、旧利根川は現在の広瀬川流域と推定される。

本遺跡は、前橋市街地から北へ約4.2㎞の地点、前橋市日輪寺町地内に所在している。東に南橘公民館があり、さらに東には県道津久田停留場・前橋線（通称石井県道）が南北に走行する。北東500ｍ前後で勢多郡富士見村と接する。西側は桃ノ木川を挟んで西岸の一般国道17号線沿いの住宅地となる。南には南橘団地が連立し、その南には前橋市立南橘中学校がある。北側は畑地と住宅地が混在し、北西500ｍには県重要文化財十一面観世音像を安置する名刹日輪寺が鎮座する。本遺跡はこれらの幹線道路から奥に入ったところに位置し、周囲には田畑が多い住宅地という静かで落ち着いた環境である。

２　歴史的環境

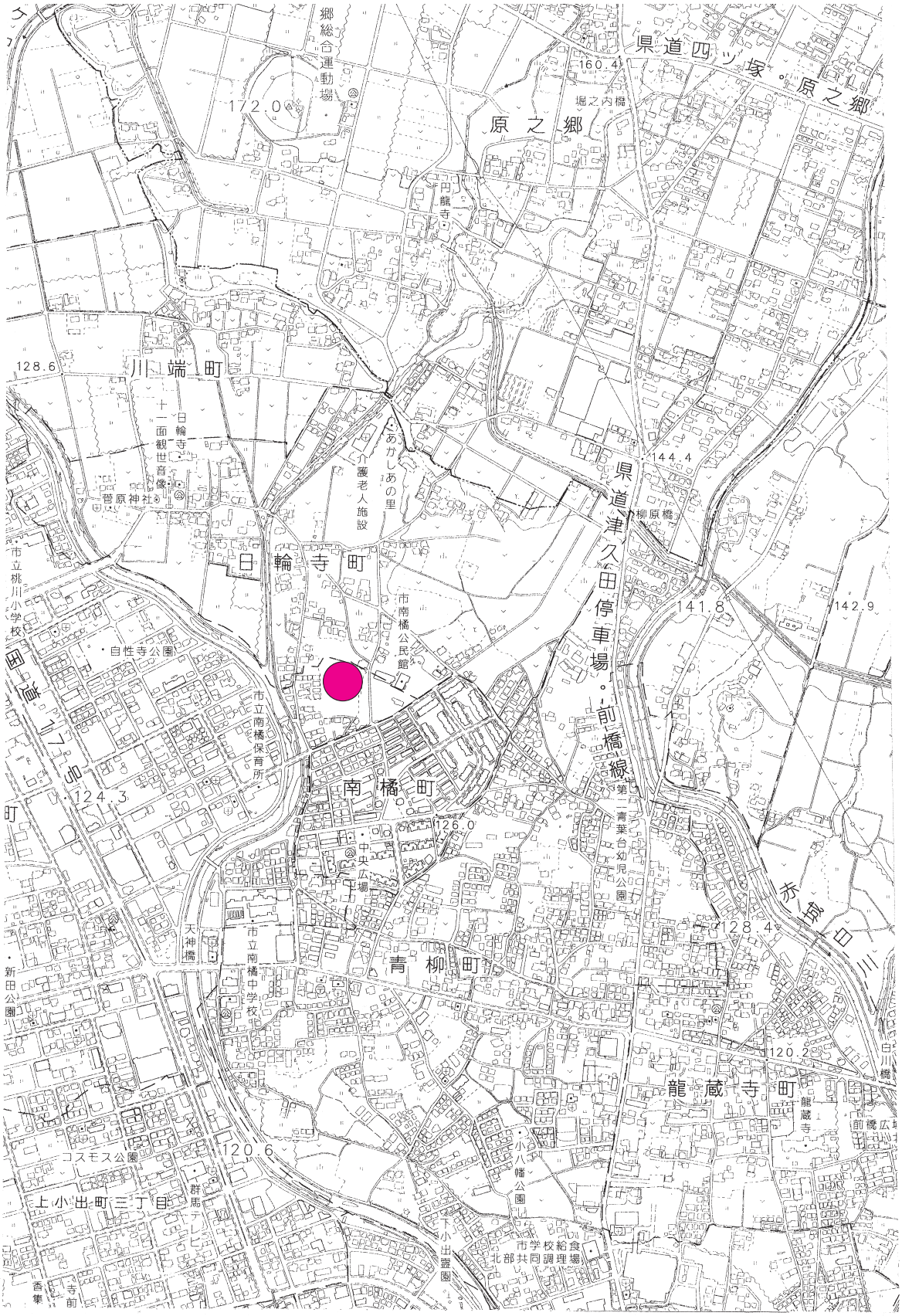
本遺跡地の南西、利根川右岸には、古墳時代後期から終末までの上野地域と中央政権との関連をうかがわせる総社古墳群と山王廃寺、古代の中心地であった上野国府、さらに、中世には長尾氏により国府の堀割を利用し築かれたとされる蒼海城があり、歴史的環境に優れている。周辺の埋蔵文化財発掘調査によって、これまで連綿として続いてきた歴史を物語る多くの知見が集積されている。

縄文時代の遺跡としては、前期・中期の集落跡が検出された産業道路東（２）・産業道路西遺跡（３）や前期諸磯式期の土偶が出土している元総社蒼海遺跡群（４）、上野国分僧寺・尼寺中間地域（５）が筆頭に挙げられ、

1：200,000

0　5　10　15　20 キロメートル

第１図　遺跡の位置


郷総合運動場
172.0
160.4
県道四ツ塚・原之郷
堀之内橋
原之郷
円龍寺
128.6
川端町
十一面観世音像
日輪寺
菅原神社
あかしあの里
介護老人施設
144.4
県道津久田停車場・前橋線
柳原橋
日輪寺町
市立桃川小学校
市南橋公民館
141.8
142.9
自性寺公園
市立南橋保育所
124.3
南橋町
126.0
中央広場
第二青葉台幼児公園
128.4
赤城白川
天神橋
市立南橋中学校
青柳町
新田公園
120.2
龍蔵寺町
龍蔵寺
前橋広域
コスモス公園
120.6
小八幡公園
群馬テレビ
上小出町三丁目
下小出霊園
市学校給食北部共同調理場
香集寺前

第２図　調査区の位置

縄文文化を考える上で重要な資料といえる。

弥生時代の調査例は少ない。当時の稲作の様子を示す水田・集落跡等が検出され、本県における条理水田の発端となった国指定史跡の日高遺跡（６）、後期住居跡が検出された上野国分僧寺･尼寺中間地域や桜ヶ丘遺跡（７）、下東西遺跡（８）等に散見されるだけである。

古墳時代の遺跡としては、総社古墳群が挙げられる。古墳群を代表するものには、６世紀前半代に川原石を用いた積石塚である王山古墳（９）、主軸長さ70mの前方後円墳で、総社城の遠見櫓として利用されたことから名付けられた遠見山古墳（10）、前方部と後円部にそれぞれ横穴式両袖型の石室が築造された前方後円墳の総社二子山古墳（11）、両袖型横穴式石室をもつ方墳の愛宕山古墳（12）、高い石造技術で作られた石室を持つ蛇穴山古墳（13）、県内古墳最終末期と考えられ仏教文化の影響を強く受けた方墳の宝塔山古墳（14）があり、この地域と中央との関係を考えるうえで重要な意味をもつ古墳群であるといえる。

また、宝塔山古墳の南西500mには白鳳期の建立と考えられ、放光寺と称される山王廃寺跡（16）がある。さらにこの寺の塔心礎や石製鴟尾、根巻石等の石造物群は、宝塔山古墳の石棺や蛇穴山古墳の石室と同系統の石造技術を駆使して加工されている。これらのことから､この寺は上野地域を治めていた「上毛野氏」の氏寺であり、この古墳群には「上毛野氏」一族が葬られているとも考えられている。これらから、この地が「車評」の中心地として､仏教文化が古墳文化と併存しながら機能していた様子が窺える。なお､平成18年度から５カ年計画で「山王廃寺範囲内容確認調査」が実施され､平成19年度では､「金堂」の版築基壇や「回廊」の西側礎石が確認された。

奈良･平安時代になると、上野国府、国分僧寺、国分尼寺の建設と相まって、本地域は古代の政治的･経済的･文化的中心地としての様相を呈してくる。律令期における国司の政治活動拠点で地方を統治する機能をもつ国府域（15）は、山王廃寺跡の南方の牛池川と染谷川に挟まれた現元総社町に置かれたと想定される。

国府に関連する遺跡には､県下最大級の掘立柱建物跡が検出された元総社小学校校庭遺跡（17）や「國厨」「曹司」「国」「邑厨」等と書かれた墨書土器や人形が出土した元総社寺田遺跡（18）、律令期の掘立柱建物跡と考えられる柱穴が検出された元総社宅地遺跡（19）がある。また、国府域（20）の推定を可能にした大規模な東西方向の溝跡が検出された閑泉樋遺跡（21）や元総社蒼海遺跡群と南北方向の溝跡が検出された元総社明神遺跡（22）の調査成果により、国府域の東北外郭線が想定されるに至った。さらに、周辺遺跡からは、官人が用いたと考えられる円面硯、巡方（腰帯具）、緑釉陶器も出土し、国府について考えるうえで貴重な資料となっている。

近年では、蒼海遺跡群内に計画している元総社公民館予定地（23）において、上野国府の北側を区切ると推定される溝と３間×10間以上の大型建物跡が確認された。

国分僧寺（24）は山王廃寺跡の南西方向約１㎞にあり、大正15年に国指定史跡となり、昭和40年代から部分的ながら調査が進められるようになった。本格的な発掘調査は昭和55年12月から始まり、主要伽藍の礎石、築垣、塀等が確認されている。さらに、国分尼寺の調査では、昭和44・45年に推定中軸線上のトレンチ調査が行われ伽藍配置が推定できるようになった。さらに平成12年に前橋市埋蔵文化財発掘調査団で南辺の寺域確認調査（25）を行い、西南隅と東南隅の築垣、それと平行する溝跡や道路状遺構が確認された。国分僧寺、国分尼寺周辺では、関越自動車道建設に伴う発掘調査が行われ、上野国分僧寺、尼寺中間地域では、当時の大規模な集落跡や掘立柱建物群が確認された。

また、群馬町（現在の高崎市）の調査等により、国府推定地から約1.5km南の地点にＮ－64°－Ｅ方向の東山道（国府ルート）があることが推定されている。また、推定日高道は、日高遺跡で検出された幅約4.5m の道路状遺構を国府方面に延長したものである。これらは、当時の交通網を物語る重要な遺構である。

中世に至り、永享元年（1429）、上野国守護代の長尾氏によって古代国府跡に築かれた蒼海城は城郭としての機能を有し県内でも最古級に位置づけられる。しかも、県下最初の城下町を形成したと考えられている。蒼海城の縄張りは国府と関係が深く、現在の本地域の主要道路はこの縄張りに沿って造られていると推測される。

第３図　周辺の遺跡

Tab. 1　南橘東原遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺　　跡　　名	調査年度	時代：主な遺構・出土遺物
1	南橘東原遺跡	2007	本遺跡
2	産業道路東遺跡	1966	縄文：住居跡
3	産業道路西遺跡		縄文：住居跡
4	元総社蒼海遺跡群（13）	2007	縄文：住居跡・土坑、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・工房跡・溝跡、中世：溝跡・土壙墓
5	上野国分僧寺・尼寺中間地域（事業団）	1980～83	縄文：住居跡・配石遺構、弥生：住居跡・方形周溝墓、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡、中世：掘立柱建物跡・溝状遺構・道路状遺構
6	日高遺跡（事業団）	1977	弥生：水田跡・方形周溝墓・住居跡、木製農具、平安：条里制水田跡
7	桜ヶ丘遺跡		弥生：住居跡
	総社桜ヶ丘遺跡・Ⅱ遺跡	1985．87	奈良・平安：住居跡
8	下東西遺跡（事業団）	1980～84	縄文：屋外埋甕、弥生：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・柵列、中世：溝跡
9	王山古墳（総社１号墳）	1972	古墳：前方後円墳（６Ｃ中）
10	遠見山古墳（総社６号墳）	未調査	古墳：前方後円墳（５Ｃ後半）
11	総社二子山古墳（総社11号墳）	未調査	古墳：前方後円墳（６Ｃ末～７Ｃ初）
12	愛宕山古墳（総社10号墳）	1996	古墳：円墳（７Ｃ初）
13	蛇穴山古墳（総社８号墳）	1975	古墳：方墳（８Ｃ初）
14	宝塔山古墳（総社９号墳）	未調査	古墳：方墳（７Ｃ末）
15	稲荷山古墳（総社12号墳）	1988	古墳：円墳（６Ｃ後半）
16	山王廃寺跡	（1974）	古墳：塔心礎・根巻石
17	元総社小学校校庭遺跡	1962	平安：掘立柱建物跡・柱穴群・周濠跡
18	元総社寺田遺跡Ⅰ～Ⅲ（事業団）	1988～91	古墳：水田跡・溝跡、奈良・平安： 住居跡・溝跡・人形・斎串・墨書土器、中世 ：溝跡
19	元総社宅地遺跡1～23トレンチ	2000	古墳：住居跡、平安：住居跡・掘立柱建物跡・鍛冶場跡・溝跡・道路状遺構、中世：溝跡、近世：住居跡・五輪塔・椀類
20	国府域		
21	閑泉樋遺跡	1983	奈良・平安：溝跡（上幅6.5～７m、下幅3.24m、深さ２m）
22	元総社明神遺跡Ⅰ～Ⅻ	1982～96	古墳：住居跡・水田跡・堀跡、奈良・平安：住居跡・溝跡・大形人形、中世：住居跡・溝跡・天目茶碗
23	元総社蒼海遺跡群（９）・(10)	2007．08	
24	上野国分寺跡（県教委）	1980～88	奈良：金堂基壇・塔基壇
25	上野国分尼寺跡	1999	奈良：西南隅・東南隅築垣
26	中尾遺跡（事業団）	1976	奈良・平安：住居跡
27	中島遺跡	1980	奈良・平安：住居跡
28	柿木遺跡・Ⅱ遺跡	1983．88	奈良・平安：住居跡・溝跡
29	草作遺跡	1984	古墳：住居跡、平安：住居跡、中世：井戸跡
30	閑泉樋南遺跡	1985	古墳：住居跡、奈良・平安：溝跡
31	寺田遺跡	1986	平安：溝跡・木製品
32	天神遺跡・Ⅱ遺跡	1986．88	奈良・平安：住居跡
33	屋敷遺跡・Ⅱ遺跡	1986．95	古墳：住居跡、平安：住居跡、中世：掘跡・石敷遺構

番号	遺　　跡　　名	調査年度	時代：主な遺構・出土遺物
34	大友屋敷Ⅱ・Ⅲ遺跡	1987	古墳：住居跡、平安：住居跡・溝跡、中世：地下式土坑
35	堰越遺跡	1987	奈良・平安：住居跡・溝跡
36	堰越Ⅱ遺跡	1988	平安：住居跡
37	昌楽寺廻向遺跡・Ⅱ遺跡	1988	奈良・平安：住居跡
38	村東遺跡	1988	古墳：住居跡・溝跡、奈良・平安：住居跡、中世：堀跡
39	熊野谷遺跡	1988	縄文：住居跡、平安：住居跡・溝跡
	熊野谷Ⅱ・Ⅲ遺跡	1989	平安：住居跡
40	弥勒遺跡・Ⅱ遺跡	1989．95	古墳：住居跡、平安：住居跡
41	大屋敷遺跡Ⅰ～Ⅵ	1992～2000	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：掘立柱建物跡・地下式土坑 ・溝跡
42	元総社稲葉遺跡	1993	縄文：土坑、平安：住居跡・瓦塔
43	上野国分寺参道遺跡	1996	古墳：住居跡、平安：住居跡
44	大友宅地添遺跡	1998	平安：水田跡
45	総社閑泉明神北遺跡	1999	古墳：畠跡・水田跡・溝跡、中世：溝跡
	総社閑泉明神北Ⅱ遺跡	2001	古墳：住居跡・溝跡、奈良・平安：住居跡・溝跡
	総社閑泉明神北Ⅴ遺跡	2004	古墳：水田跡、奈良・平安：住居跡
	元総社蒼海遺跡群（７）	2005	奈良・平安：住居跡・溝跡
	元総社蒼海遺跡群（９）・(10)	2006	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝跡
46	元総社小見遺跡	2000	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝跡・道路状遺構
47	元総社西川遺跡（事業団）	2000	古墳：住居跡・畠跡、奈良 ・平安：住居跡・溝跡
48	総社甲稲荷塚大道西遺跡	2001	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：畑跡、近世：溝跡
	総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡	2001	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・溝跡、近世：溝跡
49	元総社小見Ⅲ遺跡	2001	古墳：住居跡・溝跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝跡、中世：掘立柱建物跡・溝跡
	元総社小見内Ⅵ遺跡	2003	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：井戸跡
	元総社蒼海遺跡群 (12)	2006	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：井戸跡
50	総社甲稲荷塚大道西Ⅲ遺跡	2002	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・畠跡・溝跡
	総社閑泉明神北Ⅲ遺跡	2002	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
	総社甲稲荷塚大道西Ⅳ遺跡	2003	古墳：畠跡 、中世：畠跡
51	元総社小見Ⅱ遺跡	2002	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：溝跡、道路状遺構
	元総社小見Ⅳ・Ⅴ遺跡	2003	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：掘立柱建物跡
	元総社小見Ⅵ・Ⅶ遺跡	2004	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
	元総社蒼海遺跡群（４）	2005	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
52	元総社小見Ⅲ遺跡	2002	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：溝跡、道路状遺構
	元総社草作Ⅴ遺跡	2002	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
53	稲荷塚道東遺跡（事業団）	2003	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・溝跡・竈構築材採掘跡・井戸跡
54	元総社小見内Ⅶ遺跡	2003	縄文：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡、中世：畠跡・溝跡
	元総社蒼海遺跡群（１）・（５）	2005	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：溝跡・土坑跡

番号	遺　　跡　　名	調査年度	時代：主な遺構・出土遺物
55	元総社蒼海遺跡群（８）	2006	奈良・平安：住居跡、緑釉陶器
56	総社城		
57	芳賀東部団地遺跡	1976～81	縄文：住居跡、古墳：円墳、奈良・平安：住居跡、平安：掘立柱建物跡・製鉄跡
58	芳賀西部団地遺跡	1975	縄文：住居跡、古墳：円墳（５Ｃ後～６Ｃ初）、中近世：井戸跡
59	芳賀北部団地遺跡	1973～74	縄文：住居跡、奈良・平安：住居跡、製鉄跡
60	小神明遺跡群	1982～83	
61	端気遺跡群		縄文：住居跡、弥生：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世以後：環濠・井戸跡・土坑等
62	青柳宿上遺跡	1952	奈良：住居跡
63	丑子塚遺跡	1954	平安：住居跡
64	引切塚遺跡	1987	古墳：住居跡、奈良：住居跡
65	オブ塚西古墳	1959	古墳：円墳（６Ｃ中）
66	オブ塚古墳（芳賀村48号墳）	1951	古墳：前方後円墳（６Ｃ後）
67	桂正田稲荷古墳		古墳：円墳（７Ｃ後）
68	東公田古墳		古墳：円墳（７Ｃ後）
69	塩原塚古墳	1954	古墳：円墳（７Ｃ初）
70	田口八幡Ⅰ・Ⅱ遺跡	1999	古墳：円墳 、奈良・平安：住居跡
71	田中田遺跡	1983～84	縄文：住居跡・土坑、古墳：住居跡
72	冠木古墳群		古墳：円墳
73	横室古墳		
74	田中遺跡	1986	縄文：住居跡・配石遺構・土坑
75	寄居遺跡	1986	中近世：溝跡
76	荒井古墳		
77	岩之下遺跡	1986	縄文：土坑、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
78	金山城跡		中世城郭
79	九十九山古墳		古墳：前方後円墳（６Ｃ前）
80	原之郷鰻沢遺跡	1997	平安：住居跡・竪穴状遺構・掘立柱建物跡・土坑跡
81	原之郷東原遺跡		奈良・平安：住居跡
82	旭久保遺跡	1995～96	縄文：包含層、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
83	旭久保Ⅱ遺跡	1997	古墳：住居跡
84	西新井遺跡		縄文 時代後～晩期
85	大塚古墳		古墳：前方後円墳（６Ｃ後）
86	宇敷木材遺跡		
87	青柳寄居遺跡	1983	古墳：水田跡、平安：住居跡
88	茶木田遺跡	1984	奈良・平安：住居跡、中世 ：井戸跡
89	田口下田尻遺跡・田口上田尻遺跡	2006	古墳～平安：住居跡・道路跡、中世：墓跡、近世：泥流復旧痕など
90	前橋城跡		近世城郭

※　遺跡名の欄の（事業団）は（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団を表す

このように歴史的に重要な役割を果たしてきた総社・元総社地区であるが、その中でも上野国府が所在したと推定される元総社地区は注目される地域の一つである。元総社蒼海土地区画整理事業に伴い、平成11年より継続的に本地域の発掘調査が行われている。これにより、手付かずの状態であった本地域の全容が明らかになっていくであろう。今後、この調査の進捗によって、上野国府や蒼海城が解明されていくことを期待する。

一方、利根川左岸の赤城火山斜面で本遺跡の東方約４km では、昭和48年より開始された芳賀地区団地造成計画に伴う調査面積約6.1ha の芳賀北部団地遺跡（58）、調査面積約2.5ha の芳賀西部団地遺跡（57）、調査面積約33ha の芳賀東部団地遺跡（56）の発掘調査により縄文時代前期の竪穴住居跡、中期末葉と後期後半の敷石住居跡、後期の竪穴住居跡、古墳、奈良・平安時代の竪穴住居跡が700軒以上、掘立柱建物跡206軒、中世の堀跡等が検出された。

芳賀団地周辺では、小神明遺跡群（59）、端気遺跡群（60）、その他青柳遺跡（61）で古墳時代、宿上遺跡（62）で奈良時代、丑子塚遺跡（63）で平安時代、引切塚遺跡（64）で古墳から奈良時代の竪穴住居が確認され、古墳では６世紀中頃の箱式棺状石室を持つオブ塚西古墳（65）、市指定史跡の前方後円墳で横穴式である６世紀後半のオブ塚古墳（66）、７世紀後半と見られる横穴式の桂正田稲荷古墳（67）および東公田古墳（68）が上げられる。

さらに北方の田口町地区では、７世紀初頭と考えられる円墳で両袖型の横穴式石室の塩原古墳（69）や田口八幡Ⅰ・Ⅱ遺跡（70）、冠木古墳群（72）、市境と接する勢多郡富士見村（71・73～83）でも縄文時代から古墳、奈良・平安時代、中近世と続く人々の生活を窺える。

本遺跡の存在する広瀬川低地は、従来利根川の氾濫原と考えられていたため、遺跡の存在は希薄な場所と想定されていた所であるが、わずかに縄文後期から晩期の西新井遺跡（84）、６世紀後半の前方後円墳の大塚古墳（85）平安時代の集落が推定される宇敷木材遺跡（86）、水田址と平安時代の集落を検出した青柳寄居遺跡（87）、奈良・平安時代の竪穴住居跡と中世の遺構を検出した茶木田遺跡（87）、平成17年８月から着手された一般国道17号の改築工事に伴う発掘調査で田口下田尻遺跡・田口上田尻遺跡（88）からは古墳時代～平安時代の竪穴住居跡、天明３年の浅間山噴火に伴い発生した泥流の復旧痕などが発見されている。今後、自然堤防と見られる微高地等で遺跡が検出される可能性が考えられる。

Ⅲ　調査方針と経過

１　調査方針

委託された調査箇所の造成地は、北東から南西にかけて約2.8mの高低差を有し、造成高は海抜126.29mであるため、東側の約２/３が掘削を受けることが判明した。群馬県埋蔵文化財取り扱い基準では遺構検出面から30cmの保護層を必要とするため、海抜125.99m以上にある検出面7,040㎡に対して発掘調査を実施した。

グリッド座標については世界測地系　Ｘ＝＋44000.000m・Ｙ＝－72200.000を基点（Ｘ０・Ｙ０）とする４ｍピッチのものを使用し、西から東へＸ０、１、２…、北から南へＹ０、１、２…と付番し、グリッド呼称は北西杭の名称を使用した。

本遺跡のＸ13・Ｙ10の公共座標は以下のとおりである。

日本測地系	Ｘ＝＋47,820.000　Ｙ＝－69,128.000		
緯　　度	36° 25’ 42″.6303	経　　度	139° 03’ 44″.5562
子午線収差角	27’ 28″.2	増 大 率	0.999959

調査方法については、表土掘削・遺構確認・方眼杭等設置・遺構掘下・遺構精査・測量・全景写真の手順で行うこととした。

図面作成は、平板・簡易遣り方測量を用い、遺構平面図は原則として１/20、住居跡竈は１/10の縮尺で作成した。遺物については平面図を作成し、台帳に各種記録を記載しながら収納した。包含層の遺物はグリッド単位で収納し、重要遺物については分布図・遺物台帳の記載を行い収納した。

２　調査経過

現地調査は平成19年５月17日から８月31日まで行った。調査経過は下記のとおりである。

５月17日から調査区の北から表土剥を開始し、同時に安全対策（安全ネット）を行った。

５月23日、粉塵対策の為に散水車の導入とブルーシートにより土山残土流出を防ぐ保護策を講じた。
　　同日、北側西方部からグリット杭とＢＭの設置を開始する。

５月30日、住居跡掘り下げを開始する。６月６日、表土剥ぎが終了する。

７月６日から13日、中学生の職場体験学習に三名が参加する。

７月24日、現地説明会の記者発表をする。８月１日、梅雨があける。

８月７日、ラジコンヘリによる空中撮影を行った。

８月11日、現地説明会を開催し、猛暑にも係わらず約500名の来場者があった。

８月20日、プレハブ用地として利用していた部分の表土掘削を行う。

８月29日、調査終了する。精査の結果、土師竪穴住居跡52軒、掘立柱建物跡１軒、竪穴状遺構１基、溝跡15条、道路状遺構２ヶ所、土坑２基、柱穴群、地割れ等が検出された。

８月31日、現地の引渡しを現地作業の全てを完了する。

12月25日より文化財保護課庁舎に戻り、出土遺物・図面・写真当の整理作業及び報告書作成にあたる。

平成20年３月21日までに全ての作業を終了した。

Ⅳ　遺構と遺物

１　縄文時代

遺構の検出は無かったが、前期諸磯ｂ式期に比定される土器片２点が検出された。１は平行沈文に爪形を連続させ、２は浮線文に刻みを施す。

２　古墳時代～平安時代

（１）竪穴住居跡

Ｈ－１号住居跡（Fig ５・40、PL １・18）

位　　置　調査区の北西、標高126m、Ｘ１・２、Ｙ０・１グリット

主軸方向　Ｎ－85°－Ｅ

形 状 等　やや南北に長い方形と推察され、北壁部分が調査区外。東西4.7m、南北（5.1）m、南壁現高40cm。

面　　積　〔20.28〕㎡

床　　面　ほぼ平坦で、堅緻面が広く分布する。

周　　溝　竈周辺を除き検出され、幅25～30cm、深さ５～10cm。

　竈　　東壁中央南よりに検出され、主軸方向Ｎ－82°－Ｅ、全長1.56m、最大幅1.36m、焚口部幅30cm>
構築材には褐色粘土を用いる。煙道部は東壁より75cm ほど張り出す。

柱　　穴　Ｐ１－41cm ×35cm の楕円形、深さ12cm。Ｐ２－28cm ×30cm の円形、深さ19cm。Ｐ３－75cm ×88cm の楕円形、深さ26cm。Ｐ４－75cm ×86cm の楕円形、深さ24cm。Ｐ５－71cm ×75cm の歪んだ円形、深さ22cm。

貯 蔵 穴　南東隅の皿状の窪みと推察される。

重　　複　住居跡の中央やや北方上面をＷ－１が東西に走行する。

出土遺物　土師器甕１点（３）、須恵器坏１点（４）、墨書土器２点（５・６）の計４点を図示。

時　　期　埋土や出土遺物から９世紀中葉と考えられる。

Ｈ－２号住居跡（Fig ６・40、PL １・18）

位　　置　調査区の北西、標高126m、Ｘ２・３、Ｙ２・３グリット

主軸方向　Ｎ－75°－Ｅ

形 状 等　南北に長い長方形。東西3.62m、南北（4.78）m、壁残高27～48cm。

面　　積　15.58㎡

床　　面　ほぼ平坦で、中央付近に焼土分布がある。

周　　溝　検出できなかった。

　竈　　東壁中央南よりに検出され、主軸方向Ｎ－75°－Ｅ、全長87cm、最大幅95cm、焚口部幅43cm。
構築材に褐色粘土と川原石を用い、煙道部の奥壁には３石を配し、東壁より15cm ほど張り出す。

柱　　穴　検出できなかった。

貯 蔵 穴　南東隅に検出され、長軸58cm、短軸46cm、深さ20cm の隅丸三角形を呈する。

重　　複　北東部でＨ－３号住居跡、南辺で中世の溝Ｗ－２と重複しており、新旧関係はＨ－３号住居跡→本遺構→Ｗ－２の順である。

出土遺物　竈内と貯蔵穴より出土。土師器の墨書土器３点（７～９）を図示。

時　　期　埋土や出土遺物から９世紀中葉と考えられる。

Ｈ－３号住居跡（Fig ６・40、PL １・18）

位　　置　調査区の北西、北壁沿い。標高126.10m。Ｘ２・３、Ｙ１・２グリット

主軸方向　Ｎ－87°－Ｅ

形 状 等　方形。東西3.98m、 南北4.58m、壁残高はＨ－２号住居跡の重複部分を除き53～62cm。東辺の竈北側部分の壁面上方が開く。

面　　積　16.14㎡

床　　面　ほぼ平坦。

周　　溝　検出できなかった。

　竈　　東壁中央南よりに検出され、主軸方向Ｎ－87°－Ｅ、全長１ｍ、最大幅1.12m、焚口部幅55cm。袖部構築材は、粘土と川原石を用いる。煙道部は東壁より20cm ほど張り出す。

柱　　穴　検出されなかった。

貯 蔵 穴　検出されなかった。

重　　複　南東部分でＨ－２号と重複しており、新旧関係は本遺構→Ｈ－２号住居跡の順である。

出土遺物　竈左袖の北壁と南壁沿いに出土。須恵器坏２点（10・11）と覆土出土の須恵器坏（117）を図示。

時　　期　埋土や出土遺物から８世紀後葉と考えられる。

Ｈ－４号住居跡（Fig ７・30、PL １・２・18・19）

位　　置　調査区の北西。標高126.20m。Ｘ４・５、Ｙ１～４グリット

主軸方向　Ｎ－97°－Ｅ

形 状 等　南北が長い長方形。東西4.48m、南北5.65m、壁残高46～57cm。南辺を除いて壁面上方が開き、特に東辺の竈北側が緩やかに大きく開く。

面　　積　22.80㎡

床　　面　ほぼ平坦。南壁中央付近に長さ43cm、幅20cm のＬ字形を呈する扁平な石を配する。

周　　溝　南東隅を除いて検出され、幅20～30cm、深さ６～15cm。

　竈　　東壁中央南よりに検出され、主軸方向Ｎ－78°－Ｅ、全長1.1m、最大幅1.35m、焚口部幅31cm。構築材には褐色粘土と川原石を用い、煙道部には川原石が４石集中する。煙道部は東壁より25cm 前後張り出す。

柱　　穴　検出できなかった。

貯 蔵 穴　南東隅に設けられ、65×72cm の隅丸方形、深さ25cm。

重　　複　南壁の上面を中世の溝Ｗ－２に壊されている。

出土遺物　南方と貯蔵穴から検出され、土師器甕２点（12・13）、脚台付甕の脚部片（14）、土師器椀１点（21）、須恵器坏（15）、須恵器蓋（16～19）４点、砥石（23）、鉄製品（22）の計11点を図示。

時　　期　埋土や出土遺物から９世紀中葉と考えられる。

Ｈ－５号住居跡（Fig ８・41、PL ２・19）

位　　置　調査区の北西、西壁沿い。標高125.90m。Ｘ０・１、Ｙ３・４グリット

主軸方向　Ｎ－87°－Ｅ

形 状 等　南北が長い長方形。東西4.17m、 南北5.06m、 壁残高44～61cm。

面　　積　（20.52）㎡

床　　面　ほぼ平坦。
周　　溝　検出できなかった。
竈　　東壁中央南よりに検出され、主軸方向Ｎ－90°－Ｅ、全長1.12m、最大幅77cm、焚口部幅40cm。
構築材は褐色粘土を用いる。袖部先端に川原石を直立気味に設け、袖石内幅は38cm。その他に燃焼部に川原石が存在する。煙道部は東壁より50cm 前後張り出す。
柱　　穴　検出されなかった。
貯 蔵 穴　検出されなかった。
重　　複　Ｈ－６号住居跡と重複する。新旧関係はＨ－６号住居跡→本遺構の順である。
出土遺物　東壁沿いに散在して出土。土師器甕（24）、土師器脚台付甕（25）、須恵器高台付皿（26）、土師器坏（27）の４点を図示。
時　　期　埋土や出土遺物から９世紀中葉と考えられる。

Ｈ－６号住居跡（Fig ８、PL ２）
位　　置　調査区の北西、西壁沿い。標高125.90m。Ｘ０・１、Ｙ３・４グリット
主軸方向　Ｎ－89°－Ｅ
形 状 等　南北が長い長方形。東西4.06m、南北5.42m、壁残高29～47cm。
面　　積　（22.21）㎡
床　　面　平坦と推察される。
周　　溝　検出できなかった。
竈　　東壁に構築されたものと考えられる。
柱　　穴　検出されなかった。
貯 蔵 穴　検出されなかった。
重　　複　Ｈ－５号住居跡と重複する。新旧関係は本遺構→Ｈ－５号住居跡の順である。
出土遺物　皆無であった。
時　　期　Ｈ－５号住居跡より古いことから９世紀以前と考えられる。

Ｈ－７～Ｈ－10号住居跡　欠番

Ｈ－11号住居跡（Fig ８、PL ２）
位　　置　調査区の北方。標高126.10m。Ｘ５・６、Ｙ３・４グリット
主軸方向　Ｎ－63°－Ｅ
形 状 等　西壁がやや歪む方形。東西3.15m、南北3.15m、壁残高は重複する溝部分を除いて59～83cm。
面　　積　8.67㎡
床　　面　ほぼ平坦。
周　　溝　検出されなかった。
竈　　東壁中央南よりに検出され、主軸方向Ｎ－63°－Ｅ、全長92cm、最大幅73cm、焚口部幅31cm。
構築材には褐色粘土を用いる。煙道部は東壁より43cm 張り出す。
柱　　穴　検出されなかった。
貯 蔵 穴　検出されなかった。
重　　複　北東部分にＷ－２、北西部分にＷ－３が重複する。両者とも本遺構より新しい。

出土遺物　土師器の小片が中央やや西よりに出土したのみであった。
時　　期　埋土や出土遺物から７世紀代と考えられる。

Ｈ－12号住居跡（Fig ９・41・42、PL ２・19・20）
位　　置　調査区の北方。標高126.20m。Ｘ６・７、Ｙ２～４グリット
主軸方向　Ｎ－84°－Ｅ
形 状 等　南北に長い長方形。東西3,74m、南北4,88m、壁残高50cm 前後。
面　　積　16.77㎡
床　　面　ほぼ平坦。
周　　溝　検出されなかった。
　竈　　東壁中央南よりに検出され、右袖上部はＷ－２によって破壊されている。主軸方向Ｎ－84°－Ｅ、全長1.07m、最大幅（90）cm、焚口部幅（45）cm。
構築材には褐色粘土と河原石を用い、袖部先端には方形の粘土塊を用い、袖部内幅47cm。張り出しは、東壁より60cm 前後。
柱　　穴　検出されなかった。
貯 蔵 穴　検出されなかった。
重　　複　中央部分を東西に中世の溝Ｗ－２と西壁に沿ってＷ－１が走行する。新旧関係は、本遺構→Ｗ－１→Ｗ－２の順である。
出土遺物　土師器甕（28）、須恵器壺（29）、須恵器坏（30）の３点を図示。
時　　期　埋土や出土遺物から９世紀中葉と考えられる。

Ｈ－13号住居跡（Fig ９、PL ２）
位　　置　調査区の北方。標高126.40m。Ｘ８・９、Ｙ３・４グリット
主軸方向　Ｎ－91°－Ｅ
形 状 等　やや南北に長い方形。東西2.94m、南北3.36m、壁残高51～71cm。南東と北西部を除く壁上方が開く。
面　　積　7.53㎡
床　　面　ほぼ平坦。
周　　溝　検出されなかった。
　竈　　東壁中央南よりに検出され、主軸方向Ｎ－98°－Ｅ、全長１m、最大幅79cm、焚口部幅30cm。
構築材に褐色粘土を用いる。煙道部は東壁より25cm ほど細長く張り出す。
柱穴・貯蔵穴　検出されなかった。
重　　複　中央やや南部分を東西にＷ－２が走行する。新旧関係は本遺構→Ｗ－２の順である。
出土遺物　竈前面より長胴甕の小片が出土。
時　　期　埋土や出土遺物から６世紀後葉と考えられる。

Ｈ－14号住居跡（Fig10、PL ３）
位　　置　調査区の北西、標高125.90m。Ｘ１・２、Ｙ５グリット
主軸方向　Ｎ－55°－Ｅ
形 状 等　方形。東西2.42m、 南北2.6m、壁残高40～49cm。
面　　積　5.40㎡

床　　面　ほぼ平坦。
周　　溝　検出されなかった。
竈　　東壁中央南よりに検出され、主軸方向Ｎ－55°－Ｅ、全長81cm、最大幅79cm、焚口部幅（40）cm。
構築材は褐色粘土を用いる。煙道部は東壁より30cm 前後張り出す。
柱　　穴　検出されなかった。
貯 蔵 穴　検出されなかった。
重　　複　なし。
出土遺物　コーナー部に円礫が見られ、北東部分で土師器の小片が出土したのみであった。
時　　期　埋土や出土遺物から７世紀代と考えられる。

Ｈ－15号住居跡（Fig10・42、PL ３）
位　　置　調査区の北方、標高126.20m。Ｘ８・９、Ｙ５グリット
主軸方向　Ｎ－59°－Ｅ
形 状 等　隅丸方形。東西2.75m、南北2.95m、壁残高58～73cm。
面　　積　6.96㎡
床　　面　ほぼ平坦。
周　　溝　検出されなかった。
竈　　東壁中央南よりに検出され、主軸方向Ｎ－62°－Ｅ、全長1.48m、最大幅65cm、焚口部幅20cm。
構築材は褐色粘土を用いる。煙道部は東壁を70cm ほどトンネル状に刳り貫き、煙出口は35cm 前後の円形。
柱　　穴　検出されなかった。
貯 蔵 穴　検出されなかった。
重　　複　西辺の中央部分に近現代の攪乱が及び、Ｍ－14が南北に走行する。
出土遺物　南東部分で二枚重ねの状態で出土した土師器坏（31・32）の２点を図示。
時　　期　埋土や出土遺物から６世紀後葉と考えられる。

Ｈ－16号住居跡（Fig10・11・42、PL ３・20）
位　　置　調査区の北方、標高126.30m。Ｘ11・12、Ｙ６・７グリット
主軸方向　Ｎ－78°－Ｅ
形 状 等　東西に長い長方形。東西5.84m、南北5.53m、壁残高53～78cm。東壁と南壁を除いて壁上面が開く。
面　　積　25.43㎡
床　　面　ほぼ平坦。
周　　溝　検出されなかった。
竈　　東壁中央南よりに検出され、主軸方向Ｎ－83°－Ｅ、全長1.75m、最大幅77cm、焚口部幅45cm。
構築材は褐色粘土を用い、両袖先端に川原石を直立に設ける。袖石内幅は44cm。煙出口は川原石を方形状に積み、20cm 前後の空間を作り出している。奥壁は４石を積み上げている。この煙出口は東壁より35cm 前後張り出す。
柱　　穴　検出されなかった。
貯 蔵 穴　南東隅に検出され、60×67cm の円形で、深さ75cm。
重　　複　なし。

出土遺物　土師器甕（33・34）の２点を図示。北西隅に編み石が集中する。
時　　期　埋土や出土遺物から７世紀前葉と考えられる。

Ｈ－17号住居跡（Fig12・42・43、PL ３・33・34）
位　　置　調査区の北東、標高127.00m。X17・18、Ｙ５・６グリット
主軸方向　Ｎ－108°－Ｅ
形 状 等　南北に長い長方形。東西3.99m、南北5.07m、壁残高49～74cm。
面　　積　18.48㎡
床　　面　ほぼ平坦。
周　　溝　検出されなかった。
　竈　　東壁中央付近に検出され、主軸方向Ｎ－109°－Ｅ、全長1.13m、最大幅63cm、焚口部幅28cm。構築材は褐色粘土を用い、左袖先端部に河原石を設ける。竈の両袖から25～30cm の壁面に扁平な河原石が配されている。燃成部から煙道部は東壁より65cm 張り出す。
柱　　穴　検出されなかった。
貯 蔵 穴　南東隅に口縁部と底部を欠く、土師器甕（35）を埋設している。
重　　複　中世の溝Ｍ－４～６と重複する。
出土遺物　壁沿いに点在し、西壁沿いに鎌が出土。土師器小型甕（36）、須恵器坏（37～39）３点、鎌（40・41）２点、紡錘車（42）、砥石（43）の８点を図示。
時　　期　埋土や出土遺物から９世紀前葉と考えられる。

Ｈ－18号住居跡（Fig13・43、PL ３・20）
位　　置　調査区の北東、標高126.80m。X16・17、Ｙ６～８グリット
主軸方向　Ｎ－112°－Ｅ
形 状 等　東西にやや長い方形。東西4.85m、南北4.45m、壁残高64～83cm。北西部を除いて壁面の上方が開く。
面　　積　15.76㎡
床　　面　ほぼ平坦。
周　　溝　検出されなかった。
　竈　　東壁中央やや東よりに検出され、主軸方向Ｎ－114°－Ｅ、全長1.29m、最大幅79cm、焚口部幅（35）cm。構築材は灰褐色粘土を用いる。煙道部は東壁の直立部より45cm ほど張り出す。
柱　　穴　検出されなかった。
貯 蔵 穴　検出されなかった。
重　　複　なし。
出土遺物　竈の北方と西壁沿いに出土し、土師器坏（44）１点を図示。
時　　期　埋土や出土遺物から６世紀後葉頃と考えられる。

Ｈ－19号住居跡（Fig13・43、PL ４・20・21）
位　　置　調査区の北東隅、標高127.30m。X21・22、Ｙ５・６グリット
主軸方向　Ｎ－88°－Ｅ
形 状 等　方形。東西4.15m、南北4.30m、壁残高59～89cm。
面　　積　（16.03）㎡

床　　面　平坦で堅緻面が竈前面～中央部に分布。

周　　溝　検出されなかった。

竈　　東壁中央やや南よりに検出され、主軸方向Ｎ－94°－Ｅ、全長1.46m、最大幅85cm、焚口部幅40cm。構築材に褐色粘土を用い、両袖先端に川原石を設け、右袖石は外傾している。袖石内幅は40cm 前後。煙道部は東壁より35cm ほど張り出す。

柱　　穴　検出されなかった。

貯 蔵 穴　検出されなかった。

重　　複　南西隅で僅かに中世の溝Ｍ－４と重複する。

出土遺物　竈の焚口部と中央から南西部分に分布。長胴甕（45～50）６点、土師器坏（51）の計７点を図示。

時　　期　埋土や出土遺物から６世紀後葉と考えられる。

Ｈ－20号住居跡（Fig14・43・44、PL ４・21・22）

位　　置　調査区の北東、東壁沿い。標高127.80m。Ｘ20・21、Ｙ７～９グリット

主軸方向　Ｎ－68°－Ｅ

形　状等　方形。東西（5.95）m、南北6.7m、壁残高は調査区東壁面で１m。

面　　積　（31.46）㎡

床　　面　ほぼ平坦で、堅緻面が壁沿い付近まで広範囲に広がる。

周　　溝　検出されなかった。

竈　　東壁中央北よりに検出され、主軸方向Ｎ－68°－Ｅ、全長1.33m、最大幅89cm、焚口部幅37cm。構築材は褐色粘土を用い､左袖先端部には長胴甕(53)を設ける｡煙道部は東壁より40cmほど張り出す。

柱　　穴　Ｐ１～Ｐ５の５か所を検出。Ｐ１は58×68cm の楕円形、深さ50cm、Ｐ２は直径66cm の円形、深さ58cm、Ｐ３は64×68cm の円形、深さ62cm、Ｐ４は61×64cm の円形、深さ55cm、Ｐ５は（40）×58cm の楕円形、深さ62cm を測る。主柱穴はＰ２～Ｐ５と考えられ、３m 前後の柱間を測る。

貯 蔵 穴　調査区外の南東隅に想定される。

重　　複　本住居跡の上面を中世の溝Ｗ－５・６が北西～南東方向に走行し、南辺の中央付近ではＨ－３０号住居跡と重複する。新旧関係はＨ－30号住居跡→本遺構→Ｗ－５→Ｗ－６の順である。

出土遺物　南西隅を除いて広範囲に点在する。土師器甕（52～54）、土師器壺（55.56）、須恵器甕片（57）、須恵器長頸壺の頸部（58）、須恵器頸部（59）、須恵器蓋（60）、須恵器坏（61）、土師器高坏（62.63）、土師器坏（64～70）と刻書を施す土師器坏片（71）を図示。

時　　期　埋土や出土遺物から７世紀中～後葉と考えられる。

Ｈ－21号住居跡（Fig15、PL ４）

位　　置　調査区の北寄り、標高126.20m。Ｘ13・14、Ｙ８・９グリット

主軸方向　Ｎ－42°－Ｅ

形 状 等　南北に長い長方形。東西2.52m、南北2.96m、壁残高10cm 前後。

面　　積　6.81㎡

床　　面　平坦である。

周　　溝　検出できなかった。

竈　　東壁中央南よりに検出され、主軸方向Ｎ－48°－Ｅ、全長1.02m、最大幅70cm、焚口部幅25cm。構築材には褐色粘土を用いる。燃成部～煙道部は東壁より80cm 前後張り出す。

柱　　穴　検出されなかった。
貯 蔵 穴　検出されなかった。
重　　複　なし。
出土遺物　覆土から僅かに土師器坏片が出土したのみであった。
時　　期　埋土や出土遺物から８～９世紀と考えられる。

Ｈ－22号住居跡（Fig15・44、ＰＬ４・22）
位　　置　調査区の北寄り、標高126.0m。Ｘ９・10、Ｙ７・８グリット
主軸方向　Ｎ－91°－Ｅ
形 状 等　方形。東西4.8m、 南北4.2m、壁残高57～80cm。
面　　積　16.13㎡
床　　面　ほぼ平坦で、竈前面に堅緻面が広がる。
周　　溝　検出できなかった。
竈　　東壁南よりに検出され、主軸方向Ｎ－99°－Ｅ、全長1.70m、最大幅92cm、焚口部幅34cm。
構築材は褐色粘土を用いる。竈周辺部分の壁面は上方で扇状に開く。燃成部～煙道部は東壁より1.15ｍほど張り出す。
柱　　穴　検出できなかった。
貯 蔵 穴　南西隅に検出され、40cm 四方の方形で、深さ54cm。
重　　複　なし。
出土遺物　北西隅に集中して出土し、土師器甕（72）、須恵器高台付椀（73）、土師器坏（74）の３点を図示。
時　　期　埋土や出土検出できなかった。遺物から９世紀前葉と考えられる。

Ｈ－23号住居跡　欠番

Ｈ－24号住居跡（Fig16・45、ＰＬ４・５・33）
位　　置　調査区の北寄り、標高126.00m。Ｘ12・13、Ｙ８・９グリット
主軸方向　Ｎ－89°－Ｅ
形 状 等　南北に長い長方形で南東部に張出しの施設。東西3.58m（張出しを含む4.28m）、南北4.85m（張出しを含む5.4m）、壁残高58～68cm。
面　　積　16.60㎡
床　　面　ほぼ平坦で、竈前面に堅緻面が中央付近まで広がり、西壁に焼土の分布が検出された。
周　　溝　検出されなかった。
竈　　東壁中央南よりに検出され、主軸方向Ｎ－91°－Ｅ、全長1.48m、最大幅75cm、焚口部幅30cm。
構築材は粘土を用いる。両袖先端に川原石を設け、袖石内幅30cm。煙道部は65cm 前後舌状に張り出す。
柱　　穴　検出されなかった。
貯 蔵 穴　検出されなかった。
重　　複　なし。
出土遺物　竈内の支脚に長胴甕片、南東部の張出し状施設に鎌（75）、南西隅で刀子（76）が出土したのみである。
２点の鉄製品を図示。
時　　期　埋土や出土遺物から９世紀と考えられる。

Ｈ－25号住居跡（Fig16・17・45・46　PL ５・６・23・24）

位　　置　調査区の北西寄り、標高126.00m。Ｘ６・７、Ｙ６～８グリット

主軸方向　Ｎ－57°－Ｅ

形 状 等　方形。東西4.35m、南北4.18m、壁残高77～109cm。南壁を除いて三方の壁面が上方で開く。

面　　積　16.42㎡

床　　面　ほぼ平坦。

周　　溝　南壁中央付近から西壁、そして北壁の中央までコの字形に設ける。幅20cm 前後、深さ５cm。

　竈　　東壁中央南よりに検出され、主軸方向Ｎ－67°－Ｅ、全長1.63m、最大幅94cm、焚口部幅38cm。
煙道は東壁をトンネル状に１m近く刳り貫き、煙出口は35cm 前後の円形。
構築材は褐色粘土を用い、焚口部は両袖先端部に川原石を直立に設ける。両袖石の上面には長さ60cmで角柱状に加工した角閃石安山岩を架け、鳥井状とする。燃焼部に支脚が設けられ、土師器甕（80）を支える。

柱　　穴　検出されなかった。

貯 蔵 穴　検出されなかった。

重　　複　なし。

出土遺物　竈内とその前面、竈脇の東壁沿いに完形個体が集中し、南西隅にも出土。竈内には二個体の土師器甕（80と81）が設置され、両個体を安定させるために土師器坏（101）を天井石との間に配している。左袖部の脇には土師器短頸壺（84）に重なって土師器甑（83）が出土。土師器壺（77）、土師器甕４点（78～81）、土師器高坏（82）、土師器短頸壺２点（84.85）、土師器坏16点（86～101）の計25点を図示。

時　　期　埋土や出土遺物から６世紀後葉と考えられる。

Ｈ－26号住居跡（Fig17・46、PL ６・24・25）

位　　置　調査区の北西寄り、標高126.00m。Ｘ４・５、Ｙ５・６グリット

主軸方向　Ｎ－117°－Ｗ

形 状 等　方形。東西2.72m、南北2.85m、壁残高46～62cm。

面　　積　6.95㎡

床　　面　平坦で、竈前面と北方に堅緻面が分布。

周　　溝　検出されなかった。

　竈　　央南よりに検出され、主軸方向Ｎ－117°－Ｗ、全長1.02m、最大幅56cm、焚口部幅23cm。
構築材は褐色粘土を用いる。煙道部は西壁より18cm ほど張り出す。

柱　　穴　検出されなかった。

貯 蔵 穴　検出されなかった。

重　　複　なし。

出土遺物　竈左袖上面の長胴甕（102）と焚口で出土した土師器坏（103）の２点を図示。

時　　期　埋土や出土遺物から６世紀後葉と考えられる。

Ｈ－27号住居跡（Fig18・46・47、PL ６・25）

位　　置　調査区の北西寄り、標高125.90m。Ｘ３・４、Ｙ６・７グリット

主軸方向　Ｎ－85°－Ｅ

形 状 等　南北に長い長方形。東西4.60m、南北5.58m、壁残高59～79cm。四方の壁上面が緩やかに開口する。
面　　積　18.56㎡
床　　面　平坦で、竈前面から中央部分に堅緻面が広がる。
周　　溝　検出されなかった。
竈　　東壁中央南よりに検出され、主軸方向N－98°－E、全長1.59m、最大幅98cm、焚口部幅44cm。
構築材は褐色粘土を用いる。燃成部～煙道部は東壁の直立部分より１m前後張り出す。
柱　　穴　中央部分に73cm 前後の円形で深さ15cm の掘り込みを検出した。
貯 蔵 穴　南東隅に検出され、45×40cm の方形で深さ25cm を測る。西辺に川原石を二石配する。
重　　複　H－57号住居跡と重複し、新旧関係はH－57号住居跡→本遺構の順である。
出土遺物　須恵器坏３点（104～106）、土師器坏２点（107.108）、暗文を施す土師器坏（109）、墨書土器片（110～113）、砥石（114）を図示。
時　　期　埋土や出土遺物から９世紀前葉と考えられる。

H－28号住居跡（Fig19・47、PL ７・25）
位　　置　調査区の北西寄り、標高125.90m。X４・５、Y７・８グリット
主軸方向　N－66°－E
形 状 等　東西に長い長方形。東西3.97m、南北3.48m、壁面は底面より30cm 程で開口して緩やかに立ち上がり、壁残高60cm 前後。
面　　積　8.47㎡
床　　面　ほぼ平坦で、竈前面から中央部に堅緻面が広がる。
周　　溝　検出されなかった。
竈　　東壁中央に検出され、主軸方向N－66°－E、全長1.03m、最大幅66cm、焚口部幅22cm。
構築材は褐色粘土を用いる。煙道部は東壁から40cm 前後舌状に張り出す。
柱　　穴　検出されなかった。
貯 蔵 穴　南東隅に検出され、38cm ほどの正方形で深さ25cm。
重　　複　なし。
出土遺物　竈前面に集中して出土。長胴甕（115）、土師器壺の口縁部片（116）、土師器短頸壺（117）、土師器坏３点（118～120）の計６点を図示。
時　　期　埋土や出土遺物から６世紀後葉と考えられる。

H－29号住居跡（Fig19・47、PL ７・26）
位　　置　調査区の北西寄り、標高125.90m。X８・９、Y５グリット
主軸方向　N－57°－E
形 状 等　やや南北に長い方形。東西3.21m、南北3.44m、壁残高49～63cm。
面　　積　10.24㎡
床　　面　平坦で、竈前面から中央付近に堅緻面が広がる。
周　　溝　南壁と西壁の一部に検出された。
竈　　東壁中央南よりに検出され、主軸方向N－57°－E、全長1.01m、最大幅97cm、焚口部幅28cm。
構築材は褐色粘土を用いる。煙道部は東壁より20cm ほど張り出す。
柱　　穴　検出されなかった。

貯 蔵 穴　南東隅に検出され、35cm 前後の方形で深さ40cm。
重　　複　なし。
出土遺物　床面中央付近に出土し、土師器坏（121）を図示。
時　　期　埋土や出土遺物から７世紀前葉と考えられる。

Ｈ－30号住居跡（Fig20、PL ７）
位　　置　調査区の北東、東壁沿い。標高127.70m。Ｘ21、Ｙ８・９グリット
主軸方向　Ｎ－82°－Ｅ
形 状 等　方形と推察され、その大半が東の調査区外である。検出された西辺の南北3.37m、壁高55cm 前後。
面　　積　（3.92）㎡
床　　面　検出された部分は平坦。
周　　溝　検出されなかった。
　竈　　不明。
柱　　穴　不明。
貯 蔵 穴　不明。
重　　複　Ｈ－20号住居跡と重複し、新旧関係は本遺構→Ｈ－20号住居跡の順である。
出土遺物　出土遺物は皆無であった。
時　　期　Ｈ－20号住居跡より古い６世紀代と考えられる。

Ｈ－31号住居跡（Fig20・21・47・48、PL ７・８・26・27）
位　　置　調査区の中央付近、標高126.00m。Ｘ11～13、Ｙ10・11グリット
主軸方向　Ｎ－69°－Ｅ
形 状 等　方形。東西6.96m、南北6.50m、壁残高65～105cm。東壁の竈の南北が上方で開く。
面　　積　42.81㎡
床　　面　平坦で、中央部分と南壁中央付近に堅緻面に認められた。
周　　溝　検出されなかった。
　竈　　東壁中央南よりに検出され、主軸方向Ｎ－71°－Ｅ、全長2.27m、最大幅90cm、焚口部幅32cm。
構築材は褐色粘土を用いて長さ50cm ほどの袖部を作り、先端部に川原石を直立気味に設け、両袖の頂部には長胴甕が架けられていたと考えられる。煙道部は東壁を長さ1.5m、幅80cm、深さ95cm 程の箱形の掘り込みに大量の川原石を積み上げて作られている。その基部は、東壁の下部に袖石と同様に２石を直立させ、20～35cm の川原石を４石使用して両側壁を構成し、奥壁は40cm 前後の川原石で閉じ、その上に３石を積み上げている。煙道正面は川原石を小口積とし、燃焼部から30cm 前後の空間を保って95cm ほど進み、直立気味の煙出口に続く。煙出口は一辺20cm ほどの方形な空間を作り出している。焚き口部前面に川原石が多量に検出されたことから煙道部を構成していたものの崩落が考えられる。
柱　　穴　Ｐ１～Ｐ４の四ヶ所に検出され、Ｐ１－Ｐ４の柱間は3.1m 前後。
貯 蔵 穴　検出されなかった。
重　　複　南方部分で東西に走行する中世の溝Ｗ－７・８と重複する。
出土遺物　土師器壺（122）、土師器甕（123）、土師器台付甕（124）、須恵器甕口縁部片（125）、土師器短頸壺（126）、土師器坏（127～145）、紡錘車（146）、土錘（147）の26点を図示。

時　　期　埋土や出土遺物から７世紀後葉と考えられる。

Ｈ－32号住居跡（Fig　22・23・48・49、PL ９・27）

位　　置　調査区の中央、標高126.00m。Ｘ13～15、Ｙ12・13グリット

主軸方向　Ｎ－73°－Ｅ

形 状 等　方形。東西6.61m、南北6.62m、壁残高48～75cm。

面　　積　（41.50）㎡

床　　面　ほぼ平坦。

周　　溝　東壁の北寄りに1.4m と南壁沿いに4.25m 検出された。

竈　　東壁中央南よりに検出され、主軸方向Ｎ－76°－Ｅ、全長1.13m、最大幅？、焚口部幅？。
構築材は褐色粘土を用いる。（作業の不備により、平面図なし）

柱　　穴　Ｐ１～Ｐ４の主柱穴４本が検出された。Ｐ１は33cm の円形、深58cm、Ｐ２は34cm の円形、深さ60cm、Ｐ３は34cm の円形、深さ55cm、Ｐ４は35cm の円形、深さ57cm で、東西3.4m、南北3.6m の柱間。

貯 蔵 穴　南東隅に検出され、東西60cm、南北74cm の長方形を呈し、深さ30cm 前後。

重　　複　中央やや西に南北に走行する中世の溝Ｗ－８、南辺でＨ－33号住居跡と重複する。重複関係はＨ－33号住居跡→本遺構→Ｗ－８の順である。

出土遺物　土師器壺（148）、土師器丸底甕（149）、須恵器蓋（150）、土師器坏（151～155）、土錘（156）の９点を図示。

時　　期　埋土や出土遺物から７世紀前葉と考えられる。

Ｈ－33号住居跡（Fig22・23・24・49、PL ９・28）

位　　置　調査区の中央、標高125.90m。Ｘ13～15、Ｙ13～15グリット

主軸方向　Ｎ－75°－Ｅ

形 状 等　方形。東西7.7m、南北7.5m以上、 壁残高50cm。

面　　積　（51.35）㎡

床　　面　ほぼ平坦。

周　　溝　南辺の中央部やや西方で長さ1.05mが検出された。

竈　　東壁中央南よりに検出され、主軸方向Ｎ－77°－Ｅ、全長1.57m、最大幅1.17m、焚口部幅30cm。
構築材は褐色粘土を用い、袖先端部に川原石を内傾気味に設ける。袖石内幅は45cm。煙道部は東壁より50cm 程舌状に張出す掘り方に川原石を馬蹄形に配し、２石で天井部を構成する。煙出口は15×20cm の方形な空間とし、奥壁は３石を積み上げている。

柱　　穴　Ｐ１～Ｐ４の主柱穴４本が検出された。Ｐ１は45cm の円形、Ｐ２は48cm の円形、Ｐ３は65×55cm の円形で深さ60cm、Ｐ４は47cm 前後の円形で、Ｐ３を除いて川原石を伴う。柱間はＰ１－Ｐ２、Ｐ１－Ｐ４が3.8m、Ｐ２－Ｐ３が3.5m、Ｐ３－Ｐ４が4.25m。

貯 蔵 穴　南東隅に検出され、東西86cm、南北76cm の方形を呈し、深さ50cm 前後。

重　　複　Ｈ－32号住居跡と同様に中世の溝Ｗ－８が走行し、北辺でＨ－32号住居跡と重複する。新旧関係は本遺構→Ｈ－32号住居跡→Ｗ－８の順である。

出土遺物　土師器甕（157～159）、土師器坏（160～162）の６点を図示。

時　　期　埋土や出土遺物から６世紀後葉と考えられる。

Ｈ－34号住居跡（Fig25、PL ９）

位　　置　調査区の中央、標高126.20m。X15・16、Y13グリット

主軸方向　N－88°－E

形 状 等　方形。東西3.28m、南北3.53m、壁残高42～53cm。

面　　積　10.23㎡

床　　面　ほぼ平坦。

周　　溝　検出されなかった。

竈　　東壁中央付近に検出され、主軸方向N－93°－E、全長94cm、最大幅62cm、焚口部幅32cm。
構築材は褐色粘土を用いる。両袖先端に川原石をやや内傾気味に設ける。その袖石内幅31cm でその頂部に長さ42cm の細長い川原石を鳥居状に架けていたと考えられる。燃焼部には支脚を据える。煙道部は東壁より55cm ほど張り出す。

柱　　穴　検出されなかった。

貯 蔵 穴　検出されなかった。

重　　複　西方部分に南北に走行するW－７と道路状遺構が重複する。

出土遺物　南壁に立てかけられている状態で炭化材を検出。覆土から須恵器甕片が出土した。

時　　期　埋土や出土遺物から６世紀後葉と考えられる。

Ｈ－35号住居跡（Fig25・26・49、PL10・28）

位　　置　調査区の中央、標高126.30m。X16～18、Y12・13グリット

主軸方向　N－85°－E

形 状 等　方形。東西5.78m、南北5.44m、壁残高49～63cm。東壁に最大幅75cm のテラスが沿う。

面　　積　29.15㎡

床　　面　ほぼ平坦で、堅緻面が竈前面から南壁沿いと中央部分に分布する。

周　　溝　検出されなかった。

竈　　東壁中央南よりに検出され、主軸方向N－90°－E、全長2.30m、最大幅87cm、焚口部幅38cm。東壁から煙出口まで1.3mほど張り出す。煙道は東壁をトンネル状に80cm 程刳り貫き、35×44cm の楕円形に煙出しを開ける。
構築材は褐色粘土を用い、袖先端部に川原石をやや内傾させて設ける。その袖石内幅30cm で、その頂部に長さ53cm の細長い川原石を架けていたと考えられる。

柱　　穴　５ヶ所に検出され、Ｐ１は33×37cm の円形、深さ63cm。Ｐ２は34×40cm の楕円形、深さ65cm。Ｐ３は32×40cm の楕円形、深さ65cm。Ｐ４は30cm 前後の円形、深さ65cm。Ｐ６は35×37cm の円形、深さ62cm。Ｐ６を除く四本が主柱穴と考えられ、柱間は2.6m 前後を測る。

貯 蔵 穴　南東隅に検出され、一辺55cm 程の正方形を呈し、深さ27cm。

重　　複　なし。

出土遺物　点在して出土している。須恵器蓋（163）、土師器短頸壺（164）、土師器坏（165～168）の６点を図示。

時　　期　埋土や出土遺物から７世紀前葉と考えられる。

Ｈ－36号住居跡（Fig26・49、PL10・28）

位　　置　調査区の中央、標高126.10m。X15・16、Y15・16グリット

主軸方向　N－80°－E

形 状 等　方形。東西2.92m、南北2.88m、壁残高77～88cm。
面　　積　7.76㎡
床　　面　ほぼ平坦で、竈前面に堅緻面が認められる。
周　　溝　検出されなかった。
竈　　東壁中央南よりに検出され、主軸方向Ｎ－80°－Ｅ、全長96cm、最大幅77cm、焚口部幅30cm。構築材は褐色粘土を用い、両袖先端に軽石を設け、左袖部の軽石はやや倒れ気味である。その袖石内幅は20cm。燃焼部から煙道部は東壁より40cm 前後舌状に張り出す。
柱　　穴　検出されなかった。
貯 蔵 穴　検出されなかった。
重　　複　なし。
出土遺物　竈内より出土した土師器坏（169）を図示。
時　　期　埋土や出土遺物から６世紀後葉と考えられる。

Ｈ－37号住居跡（Fig27・49、PL10・28）
位　　置　調査区の中央付近、標高126.30m。Ｘ17・18、Ｙ14・15グリット
主軸方向　Ｎ－64°－Ｅ
形 状 等　やや東西が長い方形。東西4.55m、南北4.12m、壁残高51～82cm。東壁と南壁の上方が開く。
面　　積　14.70㎡
床　　面　ほぼ平坦で、竈前面から細長く西方に堅緻面が広がる。
周　　溝　検出されなかった。
竈　　東壁中央南よりに検出され、主軸方向Ｎ－72°－Ｅ、全長1.39m、最大幅77cm、焚口部幅29cm。
構築材は褐色粘土を用い、袖先端部の左袖に川原石、右袖に軽石を設け、その袖石内幅は31cm。煙道部は東壁の垂直の立ち上がり部分から70cm 前後細長く張り出す。
柱　　穴　検出されなかった。
貯 蔵 穴　検出されなかった。
重　　複　なし。
出土遺物　カマド前面の堅緻面周辺に出土。須恵器蓋（170）、須恵器坏（171）、土師器坏（172～174）、軽石を楔状に加工した製品（175）の６点を図示。
時　　期　埋土や出土遺物から７世紀前葉と考えられる。

Ｈ－38号住居跡（Fig27・28・50、PL10・29・33）
位　　置　調査区中央西壁沿い、標高125.80m。Ｘ11・12、Ｙ13・14グリット
主軸方向　Ｎ－82°－Ｅ
形 状 等　やや東西に長い方形。東西5.33m、南北4.8m、北壁残高65cm。
面　　積　23.28㎡
床　　面　平坦であるが、堅緻面の分布は西壁に設置された竈前面に認められた。
周　　溝　検出されなかった。
竈　　北壁の中央に旧竈の痕跡（掘り方）、西壁の中央南寄りに新しい竈が検出された。
旧竈　主軸方向Ｎ－10°－Ｗ、全長（1.04）m、焚口部幅（36）cm。煙出口は北壁より25cm 張り出す。
新竈　主軸方向Ｎ－98°－Ｗ、全長1.37m、最大幅94cm、焚口部幅50cm。煙出口は西壁より25cm 張

り出す。新竈の構築材は褐色粘土を用い、袖先端部に川原石を設け、その袖石内幅は40cm 前後。

柱　　穴　６カ所に検出され、Ｐ１とＰ４が本住居跡の主柱穴である。南方で隣接するＰ２とＰ６、重複するＰ３とＰ７がＨ－38号住居跡かＨ－39号住居跡に所属するかは明確でない。Ｐ１とＰ４の柱間は2.65m前後。

貯 蔵 穴　北東隅に検出されたＰ５が旧竈に係る貯蔵穴と考えられる。東西に長い楕円形を呈し、東西長1.4m、南北長0.65m、深さ40cm。

重　　複　Ｈ－39号住居跡と重複する。新旧関係はＨ－39号住居跡→本遺構である。

出土遺物　土師器甕２点（176・177）、土師器坏３点（178～180）、鉄製品（181.182）と軽石加工品（183.184）の９点を図示。

時　　期　埋土や出土遺物から７世紀前葉と考えられる。

Ｈ－39号住居跡（Fig28・50、PL10・29）

位　　置　調査区中央西壁沿い、標高125.80m。X11・12、Y13・14グリット

主軸方向　Ｎ－76°－Ｅ

形 状 等　方形。東西6.8m 前後、南北6.2m、壁残高40cm 前後。

面　　積　（40.20）㎡

床　　面　ほぼ平坦であるが、堅緻面は明瞭でなかった。

周　　溝　検出されなかった。

竈　　東壁中央付近に２箇所の竈の掘り方を検出し、北方を１号竈、南方を２号竈と呼称する。１号竈は主軸方向Ｎ－72°－Ｅ、全長0.9m、最大幅38cm、焚口部幅35cm。煙出口は東壁より30cm 前後張り出す。２号竈は主軸方向Ｎ－76°－Ｅ、全長0.8m以上、最大幅42cm、焚口部幅？。煙出口は東壁より30cm前後張り出す。最終時に構築された竈は西壁の中央部分に構築された可能性が考えられ、Ｈ－38号住居跡の南西隅付近に検出された楕円形の掘り込み P10が貯蔵穴と想定される。

柱　　穴　Ｐ８とＰ９が主柱穴であり、残る北方の２本は重複するＨ－38号住居跡内にある。Ｐ８とＰ９の柱間は3.2m 前後。

貯 蔵 穴　想定される P10は南北に長い楕円形を呈し、南北長73cm、東西長60cm、深さ20cm。

重　　複　Ｈ－38号住居跡と重複する。新旧関係は本遺構→Ｈ－38号住居跡である。

出土遺物　須恵器壺（185）、土師器坏２点（186・187）を図示。

時　　期　埋土や出土遺物から６世紀後葉と考えられる。

Ｈ－40号住居跡（Fig29・50、PL10・11・29・33・34）

位　　置　調査区中央やや南西寄り、標高125.80m。X11・12、Y16・17グリット

主軸方向　Ｎ－81°－Ｅ

形 状 等　南北に長い長方形。東西3.14m、南北4.25m、壁残高58～61m。東壁の上方が開く。

面　　積　12.54㎡

床　　面　ほぼ平坦で、竈前面から堅緻面が広がる。

周　　溝　南東隅を除いて全周する。幅15～20cm、深さ３～８cm を測る。

竈　　東壁中央南よりに検出され、主軸方向Ｎ－82°－Ｅ、全長1.75m、最大幅1.03m、焚口部幅40cm。構築材は褐色粘土を用いる。煙道部は東壁より１m程細長く張り出す。

柱　　穴　南壁中央やや東寄りの貯蔵穴に隣接して検出され、25cm の円形、深さ13cm。

貯 蔵 穴　南東隅に検出され、58×68cm の方形、深さ15cm。
重　　複　なし。
出土遺物　貯蔵穴と北西部分に散在して出土。土師器甕（188）、須恵器坏（189）、鎌（190）と鑿（191）の鉄製品、勾玉（192）、土錘（193）の６点を図示。
時　　期　埋土や出土遺物から８世紀後葉と考えられる。

Ｈ－41号住居跡（Fig29・50、PL11・29）
位　　置　調査区南東の東壁沿い、標高126.30m。Ｘ21、Ｙ19・20グリット
主軸方向　不明。
形 状 等　方形と推察される。東西2.8m 以上、南北3.9m 以上、壁高は調査区東面で70cm。
面　　積　（12.34）㎡
床　　面　平坦で、堅緻面が広がる。
周　　溝　検出されなかった。
　竈　　東壁に構築されていると考えられ、竈の掘り方と考えられる掘り込みがセクションに認められる。
柱　　穴　不明。
貯 蔵 穴　不明。
重　　複　南方でＷ－10、中央付近から北よりにＨ－42号住居跡と重複する。重複関係はＨ－42号住居跡→本遺構→Ｗ－10の順である。
出土遺物　覆土により出土した須恵坏（194）を図示。
時　　期　埋土や出土遺物から９世紀代と考えられる。

Ｈ－42号住居跡（Fig29・30・51、PL11・29）
位　　置　調査区南東の東壁沿い、標高126.10m。Ｘ21、Ｙ19・20グリット
主軸方向　Ｎ－84°－Ｅ
形 状 等　方形と推察される。東西3.15m 以上、南北3.57m、 壁高はＨ－41号住居跡との重複部分を除いて60cm 前後を測る。
面　　積　（10.51）㎡
床　　面　平坦で、広範囲に堅緻面が広がる。
周　　溝　セクション面で検出された。
　竈　　東壁に構築されていると考えられる。
柱　　穴　中央やや南寄りで30cm 前後の皿状の窪みを検出した。
貯 蔵 穴　検出されなかった。
重　　複　Ｈ－41号住居跡と重複し、新旧関係は本遺構→Ｈ－41号住居跡の順である。
出土遺物　廃棄された川原石が中央部分にあり、遺物は点在して出土。須恵器壺の胴部片（195）、須恵器高坏（196）、土師器短頸壺（197）、土師器坏（198～200）の６点を図示。
時　　期　埋土や出土遺物から６世紀後葉と考えられる。

Ｈ－43号住居跡（Fig30・51、PL11・30）
位　　置　調査区の南東寄り、標高126.10m。Ｘ18・19、Ｙ19・20グリット
主軸方向　Ｎ－94°－Ｅ

形 状 等　やや南北が長い方形。東西4.08m、南北4.46m、壁残高25cm 前後。
面　　積　17.10㎡
床　　面　ほぼ平坦。
周　　溝　検出されなかった。
　竈　　東壁中央南よりに検出され、主軸方向N－103°－E、全長1.03m、最大幅86cm、焚口部幅40cm。
　　構築材は褐色粘土を用いる。東壁より燃成部～煙道部が55cm ほど張り出す。
柱　　穴　検出されなかった。
貯 蔵 穴　検出されなかった。
重　　複　中央やや南を東西に本遺構より新しいW－９が走行する。
出土遺物　僅かに竈内から甕の小片と南東隅で須恵坏（201）が出土した。
時　　期　埋土や出土遺物から９世紀代と考えられる。

Ｈ－44号住居跡（Fig31・51、PL11・12・30）
位　　置　調査区の南東寄り、標高126.10m。X17・18、Y18・19グリット
主軸方向　N－66°－E
形 状 等　東西に長い長方形。東西3.76m、南北2.93m、壁残高30～60cm。東辺から南辺に方形状の掘り込みが巡る。
面　　積　10.27㎡
床　　面　ほぼ平坦。
周　　溝　検出されなかった。
　竈　　東壁中央に検出され、主軸方向N－66°－E、全長1.06m、最大幅75cm、焚口部幅30cm。
　　構築材は褐色粘土を用いる。煙出口部分は東壁より僅かに張り出す。
柱　　穴　検出されなかった。
貯 蔵 穴　南東隅に検出され、33×38cm の方形、深さ20cm。
重　　複　北辺に沿って江戸時代の流水跡が重複する。
出土遺物　貯蔵穴内から土師器坏（203）、竈左袖の北方で甕片、中央やや西壁寄りから土師器坏（202）が出土。
時　　期　埋土や出土遺物から６世紀後葉と考えられる。

Ｈ－45号住居跡（Fig31・51、PL12・30）
位　　置　調査区中央やや南東寄り、標高126.00m。X15・16、Y18・19グリット
主軸方向　N－57°－E
形 状 等　方形で、南辺の２／３が流水路によって削られる。東西3.06m、南北3.16m、壁残高50cm 前後。北辺には幅35cm ほどの棚状施設がある。
面　　積　8.94㎡
床　　面　平坦である。
周　　溝　検出されなかった。
　竈　　東壁中央やや東よりに検出され、主軸方向N－57°－E、全長1.17m、最大幅80cm、焚口部幅25cm。
　　構築材は褐色粘土を用いる。煙道部は東壁より50cm 程細長く張り出す。
柱　　穴　検出されなかった。
貯 蔵 穴　検出されなかった。
重　　複　南辺に沿って江戸時代の流水跡が重複する。

出土遺物　竈内出土の土師器小型甕（204）を図示。
時　　期　埋土や出土遺物から７世紀代と考えられる。

Ｈ－46号住居跡（Fig32・51・52、PL12・30・33）
位　　置　調査区の南東寄り、標高126.10m。Ｘ18・19、Ｙ20・21グリット
主軸方向　Ｎ－87°－Ｅ
形 状 等　東西に長い長方形。東西4.13m、南北3.95m、壁残高65～78cm。
面　　積　14.86㎡
床　　面　平坦を呈し、竈前面から南東部分を堅緻面が広がる。
周　　溝　検出されなかった。
　竈　　東壁中央南よりに検出され、主軸方向Ｎ－93°－Ｅ、全長1.90m、最大幅66cm、焚口部幅30cm。
　　構築材は褐色粘土を用いる。煙道部は東壁より１ｍ程張り出し、トンネル状に地山を50cm ほど刳り貫き、煙出口には胴部下半を欠く長胴甕（205）を逆位で使用。
柱　　穴　検出されなかった。
貯 蔵 穴　南東隅に検出され、35×42cm の方形、深さ15cm。
重　　複　なし。
出土遺物　全面に点在し、南西隅には編石が集中して出土。土師器小型甕（206）、土師器短頸壺（207・208）、土師器高坏（209・210）、土師器坏（211～215）、刀子（216）の11点を図示。
時　　期　埋土や出土遺物から６世紀後葉と考えられる。

Ｈ－47号住居跡
位　　置　調査区南東の東壁沿い、標高126.30m。Ｘ20・21、Ｙ16・17グリット
主軸方向　Ｎ－67°－Ｅ
形 状 等　その大半は掘り方部分が残存する。方形を呈し、東西5.05m、南北4.95m、壁残高5cm 前後。
面　　積　（29.10）㎡
床　　面　平坦を呈すると考えられる。
周　　溝　検出されなかった。
　竈　　東壁中央南よりに僅かに焼土分布が検出された。
柱　　穴　検出されなかった。
貯 蔵 穴　検出されなかった。
重　　複　なし。
出土遺物　なし。
時　　期　埋土や出土遺物から９世紀代と考えられる。

Ｈ－48号住居跡　（Fig33・52、PL12・13・30）
位　　置　調査区中央やや南寄り、標高126.10m。Ｘ16・17、Ｙ19・20グリット
主軸方向　Ｎ－81°－Ｅ
形 状 等　南北に長い長方形。東西3.27m、南北4.16m、壁残高７～17cm。
面　　積　12.80㎡
床　　面　ほぼ平坦。

周　　溝　検出されなかった。
　竈　　東壁中央南よりに検出され、主軸方向N－78°－E、全長1.06m、最大幅90cm、焚口部幅37cm。
　　構築材は褐色粘土を用いる。東壁からの張り出しは30cm。左袖部と東壁に川原石が集中する。
柱　　穴　検出されなかった。
貯 蔵 穴　南東隅に検出され、長軸82cm、短軸56cm の方形を呈し、深さ30cm 前後。
重　　複　W－15とH－49号住居跡と重複し、新旧関係はH－49号住居跡→本遺構→W－15の順である。
出土遺物　貯蔵穴と東壁中央等に点在し、完形の須恵坏２点（217・218）を図示。
時　　期　時期は埋土や出土遺物から９世紀中葉と考えられる。

H－49号住居跡　（Fig33・52、PL12・13・30・34）
位　　置　調査区中央やや南寄り、標高126.00m。X15・16、Y19・20グリット
主軸方向　N－79°－E
形 状 等　方形。東西3.45m、南北3.71m、壁残高60cm 前後。
面　　積　11.46㎡
床　　面　ほぼ平坦。
周　　溝　検出されなかった。
　竈　　東壁中央付近に検出され、主軸方向N－75°－E、全長1.13m、最大幅95cm、焚口部幅27cm。
　　構築材は褐色粘土を用いる。煙出口をほぼ東壁ライン上に設ける。
柱　　穴　検出されなかった。
貯 蔵 穴　検出されなかった。
重　　複　東方でW－15とH－48号住居跡が重複し、新旧関係は本遺構→H－48号住居跡→W－15の順である。
出土遺物　土師器小型壺（219）、土師器坏（220）、紡錘車（221）の３点を図示。
時　　期　埋土や出土遺物から６世紀後葉と考えられる。

H－50号住居跡（Fig33・52、PL13・31）
位　　置　調査区の南方、標高125.80m。X14・15、Y23・24グリット
主軸方向　N－82°－E
形 状 等　西方の半分が検出されないが、方形と推察される。東西（2.06）m、南北3.46m、壁残高12～20cm。
面　　積　（10.00）㎡
床　　面　検出面は平坦で、竈前面に堅緻面が広がる。
周　　溝　検出されなかった。
　竈　　東壁中央南よりに検出され、主軸方向N－84°－E、全長1.06m、最大幅93cm、焚口部幅30cm。
　　構築材は粘土を用いる。燃焼部から煙道部は東壁から35cm 張り出す。
柱　　穴　検出されなかった。
貯 蔵 穴　南東隅に検出され、45×50cm の隅丸方形を呈し、深さ20cm。
重　　複　なし。
出土遺物　貯蔵穴と北方に散在して出土。須恵器坏（222）、土師器坏（223・224）の３点を図示。
時　　期　埋土や出土遺物から９世紀後葉と考えられる。

H－51号住居跡（Fig34・52・53、PL13～15・31・32）

位　　置　調査区の北東、標高127.80m。X20・22、Y１・２グリット
主軸方向　N－88°－E
形 状 等　東西に長い長方形。東西5.09m、南北4.36m、壁残高54～71cm。壁面は床面より50cm 前後まで直立に立ち上がり、上方で25～40cm 幅で緩やかに開く。
面　　積　14.84㎡
床　　面　平坦で、竈前面から堅緻面が中央部に大きく広がる。
周　　溝　検出されなかった。
　竈　　東壁中央やや南よりに検出され、主軸方向N－72°－E、全長1.41m、最大幅75cm、焚口部幅42cm。構築材は褐色粘土を用い、袖先端部に川原石を直立気味に設ける。その袖石内幅は42cm。両端の袖石には長胴甕が天井部に利用されていたと考えられる。燃焼部には支脚を設ける。煙道部は東壁の直立部分から30cm ほど張り出す。
柱　　穴　検出されなかった。
貯 蔵 穴　検出されなかった。
重　　複　なし。
出土遺物　その大半は竈内と右袖脇に集中し、右袖脇には、土師器甕（232と227）が倒立した状態、土師器甑（233）と土師器甕（231）は東壁上面からずれ落ちた状況で出土。土師器甕８点（225～232）、土師器甑（233）の９点を図示。
時　　期　埋土や出土遺物から６世紀後葉と考えられる。

Ｈ－52号住居跡（Fig35・53、PL15・32）
位　　置　調査区の南東寄り、標高126.00m。X18・19、Y22・23グリット
主軸方向　N－85°－E
形 状 等　東西に長い長方形。東西3.72m、南北3.25m、壁残高48～59cm。
面　　積　11.08㎡
床　　面　ほぼ平坦で、カマド前面から中央部分に堅緻面が広がる。
周　　溝　検出されなかった。
　竈　　東壁中央南よりに検出され、主軸方向N－85°－E、全長1.07m、最大幅75cm、焚口部幅30cm。構築材は粘土を用いる。煙出口は東壁ライン上に設ける。
柱　　穴　検出されなかった。
貯 蔵 穴　竈右袖脇の南東隅に検出され、東西にやや長い隅丸方形。東西長53cm、南北長40cm、深さ28cm。
重　　複　なし。
出土遺物　竈の左袖脇、貯蔵穴、中央やや西寄りに出土し、須恵器甕片（234）、土師坏２点（235･236）を図示。
時　　期　埋土や出土遺物から６世紀後葉と考えられる。

Ｈ－53号住居跡（Fig35・53、PL15・32）
位　　置　調査区の南東、標高125.90m。X18・19、Y25・26グリット
主軸方向　N－106°－E
形 状 等　南北に長い長方形。東西3.16m、南北4.93m、壁残高25～57cm。
面　　積　14.05㎡
床　　面　平坦で、竈前面から西方に堅緻面が広がる。

周　　溝　検出されなかった。

竈　　東壁中央南よりに検出され、主軸方向N－106°－E、全長1.96m、最大幅75cm、焚口部幅40cm程と考えられる。煙道部は東壁より1.6m程細長く張り出し、５石の川原石を蓋石として横並びに配する。煙出口は50cmほどの円形、深さ22cm。構築材は粘土を用い、袖部の張り出しは僅かである。

柱　　穴　検出されなかった。

貯蔵穴　南東隅に検出され、42×50cmの方形で、深さ24cm。

重　　複　南東隅と竈煙道部がH－56号住居跡と重複し、新旧関係はH－55号住居跡→本遺構の順である。

出土遺物　土師器甕（237）、須恵器坏３点（238～240）の計４点を図示。

時　　期　埋土や出土遺物から８世紀前葉と考えられる。

H－54号住居跡（Fig36・54、PL15・16・32）

位　　置　調査区の南東、標高125.90m。X18・20、Y27・28グリット

主軸方向　N－81°－E

形状等　東西に長い長方形。東西5.12m、南北4.07m、壁残高31～42cm。

面　　積　18.89㎡

床　　面　平坦で、竈前面から細長く堅緻面が西方に広がり、中部付近でH－56号住居跡の堅緻面と接する。

周　　溝　検出されなかった。

竈　　東壁中央南よりに検出され、主軸方向N－78°－E、全長1.41m、最大幅1.40m、焚口部幅45cm。構築材は灰褐色粘土を用い、右袖先端部に１石を設ける。燃成部側壁から煙道部の境には、川原石を馬蹄形に配する。煙道部は東壁より60cm前後張り出す。

柱　　穴　検出されなかった。

貯蔵穴　南東隅に検出され、55×58cmの円形で深さ15cm。

重　　複　北方でH－56号住居跡と重複する。新旧関係はH－56号住居跡→本遺構の順である。

出土遺物　竈内と南壁沿いに点在して出土。土師器甕（241）、須恵器高台付椀（242）、須恵器坏（243～247）、須恵器蓋（248・249）の９点を図示。

時　　期　埋土や出土遺物から８世紀中葉と考えられる。

H－55号住居跡（Fig37・54、PL16・33）

位　　置　調査区の南東、標高125.90m。X20・21、Y25・26グリット

主軸方向　N－74°－E

形状等　方形。東西4.45m、南北4.35m、壁残高30～57cm。

面　　積　17.56㎡

床　　面　平坦で、竈前面から中央部分に堅緻面が広がる。

周　　溝　検出されなかった。

竈　　東壁中央南よりに検出され、主軸方向N－90°－E、全長82cm、最大幅82cm、焚口部幅30cm。構築材は褐色粘土を用い、袖部先端に川原石を直立気味に設ける。その袖石内幅は30cm前後。煙道部は東壁より20cmほど張り出す。

柱　　穴　検出されなかった。

貯蔵穴　南東隅に検出され、楕円形で長軸80cm、短軸55cm、深さ55cm。

重　　複　なし。

出土遺物　床面からの出土遺物は皆無であった。覆土から出土した土師坏（250）を図示。
時　　期　埋土や出土遺物から６世紀後葉以降と考えられる。

Ｈ－56号住居跡（Fig36・54、PL15・33）
位　　置　調査区の南東、標高125.90m。Ｘ19・20、Ｙ26・27グリット
主軸方向　Ｎ－81°－Ｅ
形状方形　東西4,2m、南北（3.86）m、壁残高45～73cm。
面　　積　14.11㎡
床　　面　平坦で、竈前面から南方中央部に堅緻面が広がる。
周　　溝　検出されなかった。
　竈　　東壁中央南よりに検出され、主軸方向Ｎ－88°－Ｅ、全長1.33m、最大幅57cm、焚口部幅30cm。
　　構築材は褐色粘土を用いたと考えられるが、Ｈ－54号住居跡に破壊されているため詳細は不明。
柱　　穴　検出されなかった。
貯 蔵 穴　竈右脇に検出され、60cm 前後の円形で深さ25cm。
重　　複　南方でＨ－54号住居跡、北方でＨ－53号住居跡と重複する。
　　新旧関係は本遺構→Ｈ－53号住居跡→Ｈ－54号住居跡の順である。
出土遺物　東壁沿いの中央やや北で出土した土師坏（251）を図示。
時　　期　埋土や出土遺物から６世紀中葉と考えられる。

Ｈ－57号住居跡（Fig18・54、PL16・33）
位　　置　調査区北西の西壁沿い、標高125.90m。Ｘ３・４、Ｙ６・７グリット
主軸方向　Ｎ－61°－Ｅ
形 状 等　大半がＨ－27号住居跡によって壊され、竈の設置されている東辺中央部から南東部分が残る。方形と推察される。壁残高50cm 前後。
面　　積〔2.12〕㎡
床　　面　不明
周　　溝　検出されなかった。
　竈　　東壁中央南よりに検出され、主軸方向Ｎ－51°－Ｅ、全長93cm、最大幅90cm、焚口部幅39cm。
　　構築材は褐色粘土を用い、袖先端部に川原石を内傾させて設ける。袖石内幅は40cm 前後。煙道部は東壁より45cm 前後張り出す。
柱　　穴　不明
貯 蔵 穴　検出されなかった。
重　　複　Ｈ－27号住居跡と重複し、新旧関係は本遺構→Ｈ－27号住居跡の順である。
出土遺物　南東隅の土師器壺（252）、土師器高坏の坏部（253）、竈前面の土師器坏（254）を図示。尚、土師器高坏の坏部はＨ－46号住居跡出土の高坏脚部（209）と接合した。
時　　期　埋土や出土遺物から６世紀中葉と考えられる。

（２）竪穴状遺構
１号竪穴状遺構（Fig37・54、PL16・33）
位　　置　調査区の南東隅、標高125.80m。Ｘ21、Ｙ27・28グリット

主軸方向　N－97°－E
形 状 等　隅丸方形。東西2.35m、南北2.10m、壁残高30～35cm。
面　　積　4.6㎡
底　　面　ほぼ平坦。
出土遺物　土師坏（255）を図示。
時　　期　出土遺物から６世紀後葉と考えられる。

（３）掘立柱建物跡

１号掘立柱建物跡（Fig37・54、PL16）

位　　置　調査区の北方、標高126.30m。Ｘ９・11、Ｙ５・６グリット
主軸方向　N－97°－E
形 状 等　東西２間×南北２間　東西長（桁行）5.84m、南北長（梁行）3.56m
柱　　穴　Ｐ１－0.7×0.62mの楕円形、深さ35cm、Ｐ２－40cm前後の円形、深さ18cm、Ｐ３－0.53×0.46mの楕円形　深さ40cm　Ｐ４－0.6×0.52mの楕円形　深さ35cm　Ｐ５－0.5×0.45mの円形　深さ44cm　Ｐ６－45cm前後の円形　深さ44cm　Ｐ７－0.53×0.46mの円形　深さ37cm　Ｐ８－0.62×0.55の楕円形　深さ39cm
面　　積　20.79㎡
出土遺物　なし
時　　期　住居跡が営まれた時代の所産と考えられる。

（４）溝　　跡

Ｗ－１号溝跡（Fig.38）

位　　置　調査区の北西部に検出され、Ｘ６、Ｙ０グリットで南西方向にほぼ直角に折れる。
主軸方向　東辺は南北軸、北辺はほぼ東西軸とする。
規 模 等　長さ　東西辺28.50m以上、南北辺38m以上　最大幅　1.5m　深さ　20cm前後
形 状 等　検出状況ではＬ字形。北・東辺は調査区外に伸びる。
重　　複　Ｈ－１・12号住居跡と重複しており、新旧関係は本遺構が一番新しい。
出土遺物　なし。
時　　期　中・近世。

Ｗ－２号溝跡（Fig.38・39）

位　　置　調査区の中央部分から北西部分に検出され、Ｘ15、Ｙ６グリットで南西方向に直角気味に折れる。北辺がやや弧状気味に走行し、調査区外に及ぶ。東辺の南先端部をＸ15、Ｙ17グリッドとする。
主軸方向　東辺は角から13mほど南北軸とし、その先をＷ－81°－Ｎとする。北辺は角からＨ－13号住居跡までの28mをＷ－22°－Ｎとし、その西方は東西軸方向で走行する。
規 模 等　長さ　東西辺62m以上、南北辺45m　最大幅　上幅1.45m、深さ　５～50cm前後を測り、底面は東辺が南から北方、北辺は東から西方に向けて傾斜する。
形 状 等　Ｌ字形を呈し、北辺がやや弧状気味に走行し、調査区外に伸びる。東辺の南先端部はＸ15、Ｙ17グリッドとする。断面形は上面が大きく開くＵ字形とする。底面に鉄分凝固が見られる。
重　　複　Ｈ－11～13・34号住居跡と重複し、Ｘ15・16、Ｙ10～14グリットで本遺構の西に13m並走する道路状

遺構と考えられる硬化面を切っている。新旧関係はＨ－11～13・34号住居跡→道路状遺構→本遺構の順である。

出土遺物　なし

時　　期　中・近世

Ｗ－３号溝跡（Fig.38）

位　　置　Ｘ０～５、Ｙ３グリット　調査区の北西に検出され、Ｗ－１号溝跡と12mの間隔でほぼ並走し、Ｗ－２号溝跡が北側で並走気味に走行する。東方先端部はＨ－10号住居跡部分とし、西方は調査区外に伸びる。

主軸方向　ほぼ東西軸方向とする。

規 模 等　長さ　20m以上　最大幅　1.3m　深さ　20～40cm

形 状 等　ほぼ直線で、底面は西方に向けて傾斜する。

出土遺物　鉄斧（PL33）が混入して出土。

時　　期　中・近世

Ｗ－４号溝跡（Fig.38・39、PL.17）

位　　置　Ｘ12～22、Ｙ１～７グリット　調査区の北辺から北東部に検出され、本遺構とＷ－５・６号溝が並走気味に走行する。

主軸方向　Ｗ－30°－Ｎとする。

規 模 等　長さ　43m以上　最大幅　1.8m　深さ　20～40cm で底面は西方に傾斜する。

形 状 等　直線状とし、西先端部が不明瞭で、東は調査区外に伸びる。

重　　複　Ｈ－17・19号住居跡が重複する。

出土遺物　なし

時　　期　中世

Ｗ－５号溝跡（Fig.38・39、PL.17）

位　　置　Ｘ12～21、Ｙ１～８グリット　調査区の北辺から北東部に検出された。

主軸方向　Ｗ－35°－Ｎとする。

規 模 等　長さ　46.5m以上　最大幅　1.4m（東壁断面の数値）　深さ　40cm（東壁断面の数値）

形 状 等　直線状とし、東は調査区外に伸びる。

重　　複　西方でＷ－５の先端部、東方でＷ－６号溝と重複し、Ｈ－17・20号住居跡を切っている。
新旧関係はＨ－17・20号住居跡→本遺構→Ｗ－５号溝跡の順である。

出土遺物　覆土上面でカワラケ（266）と板碑（271）が出土。

時　　期　中世

Ｗ－６号溝跡（Fig.38・39、PL.17）

位　　置　Ｘ９～21、Ｙ１～８グリット　調査区の北辺から北東部に検出され、西先端部は不明瞭。

主軸方向　Ｗ－31°－Ｎとする。

規 模 等　長さ　54m以上　最大幅　1.6m以上（東壁断面の数値）　深さ　60cm（東壁断面の数値）

形 状 等　直線状とし、東は調査区外に伸びる。

重　　複　東方でW－５と重複し、Ｈ－17・20号住居跡を切っている。
出土遺物　なし
時　　期　中世

W－７号溝跡（Fig.38）
位　　置　X11～14、Y11グリットに跨り、調査区やや北側で検出された。
主軸方向　ほぼ東西軸とする。
規 模 等　長さ15.10m　最大幅　1.15m　深さ　30cm 前後で、西方に向けて傾斜する。
形 状 等　直線的に走行し、箱堀状の断面形を呈する。
出土遺物　土製茶釜（264）
時　　期　Ｈ－31号住居跡より新しく、中近世。

W－８号溝跡（Fig.38・39、PL.17）
位　　置　Ｘ９～13・14、Y11～21グリットに跨り、北東角をX14、Y12グリットポイント、南東角をX14、Y21グリットとして、調査区の西方寄りに検出された。
主軸方向　北辺はW－５°－Ｎとし、東辺はほぼ南北軸、南辺はほぼ東西軸とする。
規 模 等　長さ　北辺20m以上、東辺38m、南辺11m　最大幅　2.42m　最深部　63cm
形 状 等　コの字形を呈し、北辺は調査区外に伸び、南辺の先端はX11、Y24グリットとする。断面形は薬研堀状を呈する。X14、Y17グリットで本遺構の埋没後に構築された集石遺構（PL.17　W－８集石）が存在する。
出土遺物　集石遺構に伴って土鍋（256・257・258）、捏鉢（259・261）・常滑片（260）、茶釜（263）等が出土。砥石（270）は、W－８号溝跡との交差する部分で出土。
重　　複　Ｈ－31～33号住居跡、W－13号溝跡と重複し、新旧関係は住居跡→W－13号溝跡→本遺構→集石遺構の順である。
時　　期　中世の所産と考えられる。

W－９号溝跡（Fig.38）
位　　置　X18～20、Y20グリットに跨って検出された。
主軸方向　Ｎ－88°－Ｅとする。
規　　模　長さ　8.60m　最大幅　75cm　深さ　30cm 前後
形 状 等　東西方向の直線で、U字形の断面形を呈する。
出土遺物　なし
重　　複　Ｈ－43号住居跡より新しい。
時　　期　埋土から古代の可能性が考えられる。

W－10号溝跡（Fig.38）
位　　置　X21、Y20グリットに検出され、西先端部がＨ－41号住居跡の南西隅付近とし、調査区の東外に伸びる。
主軸方向　ほぼ東西軸とする。
規 模 等　長さ　3.3m以上　最大幅　1.8m（東壁断面の数値）　深さ　１m（東壁断面の数値）

形 状 等　直線状を呈し、薬研状の断面とする。
出土遺物　なし
時　　期　818年の泥流層の堆積を切って構築され、Ｈ－41号住居跡より新しい。

Ｗ－11号溝跡（Fig.38）
位　　置　Ｘ14～16、Ｙ20～25グリットに検出され、Ｘ16、Ｙ21グリットポイント付近で南西方向に直角に折れる。南北走行の南方は、調査区外に伸びる。
主軸方向　東西・南北走行ともに東西・南北軸とする。
規 模 等　長さ　南北長18m以上　東西長（6.5）m　最大幅　1.2m　深さ　20cm 前後。
形 状 等　Ｌ字形を呈し、浅い皿状の断面形とする。
出土遺物　なし
時　　期　中世と考えられ、Ｗ－８号溝跡より古い。

Ｗ－12号溝跡（Fig.38、PL.17）
位　　置　Ｘ10、Ｙ12～21グリットに検出され、北先端部をＸ10、Ｙ12グリットとし、南方が調査区外に伸びる。
主軸方向　南北軸方向とする。
規 模 等　長さ　37m以上　最大幅　2.3m　深さ　60cm
形 状 等　南北軸に直線状とする。断面形は箱堀状を呈し、東側の立ち上がりをやや開き気味とする。
出土遺物　なし
時　　期　中世

Ｗ－13号溝跡（Fig.38）
位　　置　Ｘ７～９、Ｙ10～12グリットに検出され、Ｘ９、Ｙ11グリットを南東角として南東方向にほぼ直角に折れる。
主軸方向　北辺は東西軸、東辺は南北軸とする。
規 模 等　長さ　北辺７m以上、東辺４m以上　幅　60～90cm　深さ　５～20cm で底面は南方に傾斜する。
形 状 等　検出状況ではＬ字形を呈し、東・北辺の先端部は調査区外に伸びる。
出土遺物　なし
時　　期　中世？

Ｗ－14号溝跡（Fig.38）
位　　置　Ｘ８、Ｙ４～11グリットに検出され、西方のＷ－１号溝跡の東辺と６m前後の間隔を隔てて東側で並走する。Ｘ８、Ｙ８グリット部分で途切れ、南北に分断し、南部の南先端部はＷ－13号溝跡と接し、北部の北先端部は撹乱部分で不明瞭となる。
主軸方向　ほぼ南北軸とする。
規 模 等　長さ　南部分－8.5m、北部分－８m　最大幅　1.1m　深さ　26cm　形状等　断面形は浅い皿状を呈する。
出土遺物　なし
時　　期　中世・近世

W－15号溝跡（Fig.38）

位　　置　X16、Y19～20グリットに検出され、H－48・49号住居跡の重複する部分に検出された。北方に６ｍほどにW－２号溝の南先端部が位置する。

主軸方向　ほぼ南北軸とする。

規 模 等　長さ　5.53m　最大幅　1.45m　最深部　31㎝　細長い瓜状を呈し、底面は平坦とする。

出土遺物　住居跡に係わると考えられる土師器片が混入する。

時　　期　中世・近世

（５）道路状遺構

２ヶ所に確認された。１ヶ所はH－34号住居跡とW－２号溝跡が重複する付近で硬化面が検出された。W－２号溝跡の西側で重複し、長さ17m、最大幅1.2mを測る。新旧関係は、H－34号住居跡→道路状遺構→W－２号溝の順である。

もう一ヶ所は、W－４～６号溝跡がH－19と20号住居跡の上面を走行する付近で検出された。その硬化面の範囲はH－19と20号住居跡間の付近であった。新旧関係は、H－34号住居跡→道路状遺構→W－６号溝跡→W－５号溝跡の順である。両者とも中世の所産と考えられる。

（６）土坑・ピット

D－１（Fig ３）

位　　置　X５・６、Y５グリットに検出され、D－２号土坑と重複する。

主軸方向　N－105°－Eとする。

形状・規模　東西に長い隅丸方形を呈する。長軸長　2.05m　短軸長　0.8m　深さ　20cm 前後。

出土遺物　なし　時期　カーボン・FP 軽石を含む黒色土から、古代の可能性が考えられる。

D－２（Fig ３）

位　　置　X５・６、Y５グリットに検出され、D－１号土坑と重複するが、新旧関係は不明。

主軸方向　N－102°－Eとする。

形状・規模　東西に長い隅丸方形を呈する。長軸長　2.50m　短軸長　1.40m　深さ　20cm 前後。

出土遺物　なし　時期　D－１号土坑と同様に、古代の可能性が考えられる。

ピット（Fig ３）

位　　置　H－35・37号住居跡の周辺、H－40、W－11号の周囲に検出された。

遺構形状等　掘立柱建物跡と肯定される柱穴列は明確でない。H－37号住居跡の南方には柵列と考えられる東西列が存在する。

（７）流水路（Fig38、PL.16・17）

調査区の南方、H－47号住居跡の西辺付近から、西南西方向に向け40m程の長さで、白砂で充填された流水跡を検出した。H－44・45号住居跡の一部を削り、W－８号溝の上面を流下する。流水によって削られた波板状の痕跡、礫の回転運動によって出来た甌穴（深い所で確認面より１ｍ以上の深さを測る）が見られる。

出土遺物は、砂利に混じって煙管の雁首、京焼系茶碗の底部、元豊通寶等が出土した。これらから江戸時代の18世紀代以降の洪水跡と考えられる。

東原遺跡住居跡一覧

住居番号	時　期	主軸方向	面　積　㎡	竈位置	備　　考
H－1	9世紀中葉	N－85°－E	〔20.28〕	東壁中央南寄り	土師甕・須恵坏・土師坏（墨書）
H－2	9世紀中葉	N－75°－E	15.58	東壁中央寄り	土師坏（墨書）
H－3	8世紀後葉	N－87°－E	16.14	東壁中央南寄り	須恵坏
H－4	9世紀中葉	N－97°－E	22.80	東壁中央南寄り	土師甕・須恵蓋・須恵坏・土師坏・砥石等
H－5	9世紀中葉	N－87°－E	〔20.52〕	東壁中央南寄り	土師甕・須恵高台坏・土師坏
H－6	9世紀以前	N－89°－E	〔22.21〕	東壁	
H－7～10	欠				
H－11	7世紀代	N－63°－E	8.67	東壁中央南寄り	
H－12	9世紀中葉	N－84°－E	16.77	東壁中央南寄り	土師甕・須恵坏等
H－13	6世紀後葉	N－91°－E	7.53	東壁中央南寄り	
H－14	7世紀代	N－55°－E	5.40	東壁中央南寄り	
H－15	6世紀後葉	N－59°－E	6.96	東壁中央南寄り	土師坏
H－16	7世紀前葉	N－78°－E	25.43	東壁中央南寄り	土師甕
H－17	9世紀前葉	N－108°－E	18.48	東壁中央寄り	土師甕・須恵坏・須恵蓋・鎌・紡錘車・砥石
H－18	6世紀後葉	N－112°－E	15.76	東壁中央やや南寄り	土師坏
H－19	6世紀後葉	N－88°－E	〔16.03〕	東壁中央やや南寄り	土師甕・土師坏
H－20	7世紀中～後葉	N－68°－E	〔31.46〕	東壁中央やや北寄り	土師甕・須恵蓋・恥高坏・土師坏等
H－21	8～9世紀代	N－42°－E	6.81	東壁中央南寄り	
H－22	9世紀前葉	N－91°－E	16.13	東壁中央南寄り	土師甕・須恵高台椀・土師坏
H－23	欠				
H－24	9世紀代	N－89°－E	16.60	東壁中央南寄り	鎌・刀子
H－25	6世紀後葉	N－57°－E	16.42	東壁中央南寄り	土師甕・土師甑・土師高坏・
H－26	6世紀後葉	N－117°－E	6.95	東壁中央南寄り	土師甕・土師坏
H－27	9世紀前葉	N－85°－E	18.56	東壁中央南寄り	須恵坏・土師坏（暗文・墨書）・砥石
H－28	6世紀後葉	N－66°－E	8.47	東壁中央	土師甕・土師坏
H－29	7世紀前葉	N－57°－E	10.24	東壁中央南寄り	
H－30	6世紀代	N－82°－E	〔3.92〕	東壁？	
H－31	7世紀後葉	N－69°－E	42.81	東壁中央南寄り	土師甕・土師高坏・土師坏・紡錘車・土錘等
H－32	7世紀前葉	N－73°－E	〔41.50〕	東壁中央南寄り	須恵蓋・土師甕・土師坏・土錘等
H－33	6世紀後葉	N－75°－E	〔51.35〕	東壁中央南寄り	土師甕・土師甕
H－34	6世紀後葉	N－88°－E	10.23	東壁中央	
H－35	7世紀前葉	N－85°－E	29.15	東壁中央南寄り	須恵蓋・土師坏
H－36	6世紀後葉	N－80°－E	7.76	東壁中央南寄り	土師坏
H－37	7世紀前葉	N－64°－E	14.70	東壁中央南寄り	土師坏・軽石製品
H－38	7世紀前葉	N－82°－E	23.28	北壁中央～西壁中央南寄り	土師甕・土師坏
H－39	6世紀後葉	N－76°－E	〔40.20〕	東壁中央に新旧竈	
H－40	8世紀後葉	N－81°－E	12.54	東壁中央南寄り	須恵坏・土師甕・鎌・突鑿・勾玉・土錘
H－41	9世紀代		〔12.34〕	東壁？	須恵坏
H－42	6世紀後葉	N－84°－E	〔10.51〕	東壁？	須恵高坏・土師短頸壺・土師坏
H－43	9世紀代	N－94°－E	17.10	東壁中央南寄り	須恵坏
H－44	6世紀後葉	N－66°－E	10.27	東壁中央	土師坏
H－45	7世紀代	N－57°－E	8.94	東壁中央やや南寄り	土師小型甕
H－46	6世紀後葉	N－87°－E	14.86	東壁中央南寄り	土師甕・土師高坏・土師坏・刀子等
H－47	9世紀代	N－67°－E	〔29.10〕	東壁中央南寄り	
H－48	9世紀中葉	N－81°－E	12.80	東壁中央南寄り	須恵坏
H－49	6世紀後葉	N－79°－E	11.46	東壁中央	土師短頸壺・土師坏・紡錘車
H－50	9世紀後葉	N－82°－E	〔10.00〕	東壁中央南寄り	土師坏・須恵坏
H－51	6世紀後葉	N－88°－E	14.84	東壁中央南寄り	土師甕・土師甑
H－52	6世紀後葉	N－85°－E	11.08	東壁中央南寄り	須恵壺・土師坏
H－53	8世紀前葉	N－106°－E	14.05	東壁中央南寄り	土師甕・須恵坏
H－54	8世紀中葉	N－81°－E	18.94	東壁中央南寄り	土師甕・須恵坏・須恵蓋
H－55	6世紀後葉	N－74°－E	17.56	東壁中央南寄り	土師坏
H－56	7世紀前葉	N－81°－E	14.11	東壁中央南寄り	土師坏
H－57	6世紀中葉	N－61°－E	〔2.12〕	東壁中央南寄り	土師甕・土師坏

南橘東原遺跡出土遺物観察表

番号	遺構番号 層位	器種名	①口径　②器高 ③底径	①胎土　②焼成 ③色調　④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術
1		縄文土器	①　－　②　－ ③　－		
2		縄文土器	①　－　②　－ ③　－		
3	H－1 1ほか	土師器 甕	①　－　②〔21.8〕 ③　5.0	①微砂　②良好　酸化焔 ③にぶい黄橙　④4/5	底部から胴部上半付近が残存。胴部上半が張ると考えられる。胴部外面縦方向の篦削り。
4	H－1 19+20	須恵器 坏	①　12.9　②　3.1 ③　7.9	①微砂　②良好　還元焔 ③青灰　④ほぼ完形	やや上げ底気味の底部から体部は内彎し、口縁はやや外反して開く。轆轤整形で、底部は回転糸切り未調整。
5	H－1－30	土師器 坏	①（12.2）②　3.8 ③　－	①微砂　②良好　酸化焔 ③にぶい橙　④1/2弱	浅い丸底から口縁部は内彎気味に開いて立ち上がる。口縁部横撫で。体部調整不明。底部篦削り。内底に「拝？」の墨書。
6	H－1－31	土師器 坏	①　－　②　－ ③　－	①細粒　②良好　酸化焔 ③にぶい橙　④底部片	底部篦削り。内底に「生」の墨書
7	H－2 6+7	土師器 坏	①（12.2）②　3.4 ③　－	①微砂　②良好　酸化焔 ③にぶい橙　④口縁半分欠	浅い丸底から口縁部は内彎気味に外傾し、口端部分を僅かに内彎する。口縁部横撫で。体部調整不明。底部篦削り。底部内面に「生」の墨書
8	H－2 4+5	土師器 坏	①　10.6　②　3.4 ③　－	①微砂　②良好　酸化焔 ③にぶい橙　④ほぼ完形	平底から口縁部は直立気味に内彎する。口縁部横撫で。体部指頭圧痕。底部篦削り。底部内外面に「生」の墨書。
9	H－2 覆土	土師器 坏	①　－　②　－ ③　－	①微砂　②良好　酸化焔 ③にぶい橙　④底部片	底部内外面に墨書。内面は「生」の筆跡と考えられる。
10	H－3－2	須恵器 坏	①　11.3　②　4.0 ③　6.0	①細粒　②還元焔 ③青灰　④口縁1/3欠	口縁はやや内彎気味に立ち上がる。轆轤整形で、底部は回転糸切り未調整。
11	H－3－6	須恵器 坏	①　13.9　②　4.6 ③　8.1	①細粒　②還元焔 ③灰白　④完形	体部は直線的に外傾する。轆轤整形で、底部は回転篦削り。
12	H－4－12	土師器 甕	①（19.8）②〔15.1〕 ③　－	①細粒　②良好　酸化焔 ③橙　④胴下半欠	口縁は「コ」の字状に似る。胴部は中位付近で大きく張る。口縁は横撫で。外面は横方向の篦削り。内面横方向の板撫で。
13	H－4－7	土師器 甕	①（12.2）②〔9.9〕 ③　－	①細粒　②良好　酸化焔 ③にぶい橙　④口～胴中1/3残	口縁は「コ」の字状を呈し、胴部は中位付近で大きく張る。口縁は横撫で。外面は斜め方向の篦削り。内面横方向の板撫で。
14	H－4 貯蔵穴	土師器 台付甕	①　－　②　3.7 ③（9.7）	①微砂　②良好　酸化焔 ③にぶい橙　④脚部	「八」の字に開く脚部。内外面横撫で。
15	H－4 貯蔵穴	須恵器 坏	①（12.6）②　4.4 ③（6.8）	①中粒　②還元焔 ③褐灰　④1/2	内彎して体部が膨らみ、口縁は外反して開く。内外面は轆轤整形撫で、回転糸切り未調整。
16	H－4	須恵器 蓋	①　16.0　②　4.1 ③　－	①細粒　②良好　還元焔 ③灰白　④口縁1/3欠	中窪みのボタン状摘みで、天上部は高く平坦で口縁部は直線的に開き、端部を垂直に折り返す。轆轤整形で天井部は回転篦削り。
17	H－4	須恵器 蓋	①　16.7　②　3.4 ③　－	①細粒　②良好　還元焔 ③灰白　④口縁部欠	ボタン状の摘みで中央が突起する。天井部は平坦で口縁部は直線的に開き、口端部を垂直に折り返す。轆轤整形で天井部は回転ヘラ削り。
18	H－4 貯蔵穴	須恵器 蓋	①　－　②〔3.5〕 ③　－	①微砂　②良好　還元焔 ③灰白　④口縁部欠	ボタン状の摘みで中央が僅かに突起する。天井部は平坦で口縁部は直線的に開く。轆轤整形で天井部は回転ヘラ削り。
19	H－4 貯蔵穴	須恵器 蓋	①　－　②〔3.1〕 ③　－	①細粒　②良好　還元焔 ③灰　④口縁部欠	ボタン状の摘みで中央が突起し、端部が突出する。天井部は平坦で口縁部は直線的に開く。轆轤整形で天井部は回転ヘラ削り。
20	H－4	土師器 鉢	①（19.0）②　8.9 ③（9.0）	①微砂　②良好　酸化焔 ③にぶい橙　④1/2	平底気味の底部から体部は強く内彎して立ち上がり、口端部を僅かに外反させる。口縁部横撫で。底部と体部横位篦削り。
21	H－4－9	土師器 坏	①（12.1）②　3.1 ③　9.4	①細粒　②良好　酸化焔 ③にぶい褐　④1/2	平底から口縁部は直線的に外傾する。口縁部横撫で。体部指頭圧痕。底部篦削り。
24	H－5－4	土師器 甕	①　18.4　②　13.5 ③　－	①細粒　②良好　酸化焔 ③にぶい橙　④胴下半欠	口縁部は「コ」の字状に外反し、胴部上半が張り、最大径をこの部分とする。口縁部横撫で。胴部外面上位横の篦削り。
25	H－5－17	土師器 台付甕	①　－　②〔9.2〕 ③　10.2	①細粒　②良好　酸化焔 ③にぶい橙　④胴下半～脚部	胴下半と「八」の字に開く脚部。胴下半縦方向の篦削り。脚部内外面横撫で。
26	H－5 床直	須恵器 台付皿	①　13.8　②　3.0 ③　6.7	①細粒　②良好　還元焔 ③灰白　④口縁1/3欠	体部は底部より直線的に開き、口縁部を外反させる。高台は直立気味に付す。口縁横撫で。底部回転糸切り未調整。
27	H－15 覆土	土師器 坏	①　11.8　②　3.4 ③　－	①微砂　②酸化焔 ③橙　④口縁1/2欠	平底から口縁部は直線的に外傾し、口端部分が僅かに内彎する。口縁部横撫で。体部指頭圧痕。底部篦削り。
28	H－12 2～4	土師器 甕	①（19.4）②〔19.4〕 ③　－	①微砂　②良好　酸化焔 ③橙　④胴下半欠	口縁部は「く」の字状に外反し、胴部上半が張り、最大径をこの部分とする。口縁部横撫で。胴部外面横、中から下位縦方向の篦削り。
29	H－12 床直	須恵器 壺	①　－　②　－ ③　－	①細粒　②良好　還元焔 ③灰　④胴部片	外面に格子目文様の叩き目が残る。
30	H－12 6+7	須恵器 坏	①（11.8）②　3.3 ③　6.2	①細粒　②普通　還元焔 ③灰白　④1/3	体部は内彎して開き、口縁部は僅かに外反する。。轆轤整形で底部回転糸切り未調整。
31	H－15－1	土師器 坏	①　10.8　②　3.4 ③　－	①微砂　②良好　酸化焔 ③橙　④3/4	丸底の底部から緩やかに立ち上がり、口縁は外反気味に直立する。口縁と体部の境は緩やかな稜をなす。口縁横撫で。体部篦削り。
32	H－15－2	土師器 坏	①　11.0　②　3.7 ③　－	①微砂　②良好　酸化焔 ③にぶい橙　④ほぼ完形	丸底の底部から緩やかに立ち上がり、口縁は直立気味とする。口縁と体部の境は緩やかな稜をなす。口縁横撫で。体部篦削り。
33	H－16 5ほか	土師器 甕	①（22.6）②　42.3 ③　3.3	①中粒　②良好　酸化焔 ③にぶい橙　④口～胴部に欠損	長胴甕で、口縁部は水平気味に開く。頸部の括れはほとんどない。口縁部横撫で。胴部外面縦方向、下位斜め方向の篦削り。内面縦方向の撫で。
34	H－16 7ほか	土師器 甕	①　21.4　②　38.6 ③　5.9	①中粒　②良好　酸化焔 ③にぶい橙　④胴部に欠	長胴甕で、口縁部は水平気味に開く。頸部の括れはほとんどない。口縁部横撫で。胴部外面縦方向、下位斜め横方向の篦削り。内面横方向の板撫で。
35	H－17 埋設土器	土師器 甕	①　－　②〔25.4〕 ③　4.8	①微砂　②良好　酸化焔 ③橙　④口縁欠	口縁部を欠損する。胴部上半の張りが強い。胴部外面上位横斜め方向、中～下位斜め方向の篦削り。内面横方向の板撫で。
36	H－17－6	土師器 小型甕	①　10.7　②〔9.8〕 ③　－	①微砂　②普通　酸化焔 ③にぶい橙　④胴下半欠	尻つぼみの球形胴部で中位やや上方に最大径をもつ。口縁は直立とし、口唇部外反する。内外面口縁部横撫で。胴部外面横位の篦削り。
37	H－17－7	須恵器 坏	①（12.0）②　3.9 ③　6.1	①細粒　②良好　還元焔 ③灰白　④口縁1/3欠	体部は内彎して開き、口縁部は僅かに外反する。。轆轤整形で底部回転糸切り未調整。
38	H－17－8	須恵器 坏	①　12.2　②　3.5 ③　6.2	①微砂　②良好　還元焔 ③灰白　④口縁1/3欠	上げ底気味の底部より体部は内彎して開き、口縁部は外反する。。轆轤整形で底部回転糸切り未調整。
39	H－17 覆土	須恵器 坏	①（11.6）②　3.5 ③　6.2	①微砂　②良好　還元焔 ③灰　④口縁に欠	体部は内彎して開き、口縁部は僅かに外反する。。轆轤整形で底部回転糸切り未調整。
44	H－18－15	土師器 坏	①（12.0）②　3.7 ③　－	①微砂　②良好　酸化焔 ③橙　④1/2	やや浅めの丸底から体部が緩やかに内彎し、口縁は直線的に開く。口縁と体部の境は緩やかな稜をなす。口縁横撫で。体部篦削り。
45	H－19－5	土師器 甕	①　19.4　②　38.8 ③　4.5	①細粒　②良好　酸化焔 ③橙　④完形	長胴甕で、口縁部は水平気味に開き、胴部との境は稜をなす。胴部最大径は中位付近に有する。口縁部横撫で。胴部外面縦方向の篦削り。内面横方向の板撫で、底部指撫で。
46	H－19－3	土師器 甕	①　18.6　②　31.2 ③　4.8	①細粒　②良好　酸化焔 ③にぶい橙　④部分的に欠	長胴甕で、口縁部は水平気味に開く。胴部最大径は中位に有する。口縁部横撫で。胴部外面縦方向、下位斜め方向の篦削り。内面横方向の板撫で。

番号	遺構番号 層位	器種名	①口径　②器高 ③底径	①胎土　②焼成 ③色調　④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術
47	H－19－11	土師器 甕	①　18.8　②〔14.3〕 ③　－	①細粒②良好　酸化焔 ③にぶい赤褐　④胴中位下欠	長胴甕で、口縁部は外反して開き、頸部は括れ、胴部との境に稜をなす。口縁部横撫で。胴部外面斜め方向の篦削り。内面横方向の板撫で。
48	H－19 14ほか	土師器 甕	①　22.6　②〔17.5〕 ③　－	①細粒　②良好　酸化焔 ③にぶい黄褐　④胴中位下欠	長胴甕で、口縁部は水平気味に開く。口縁部横撫で。胴部外面縦方向の篦削り。
49	H－19 12＋13	土師器 甕	①（21.6）②〔13.6〕 ③　－	①細粒　②良好　酸化焔 ③橙　④口～胴中位片	長胴甕で、口縁部は水平気味に開く。口縁部横撫で。胴部外面縦方向の篦削り。内面斜め方向の板撫で。
50	H－19 17ほか	土師器 甕	①　－　②〔23.0〕 ③　3.5	①細粒　②良好　酸化焔 ③にぶい褐　④胴中位～底部	長胴甕の胴部中位から底部。体部斜め方向の篦削り、内面横方向の板撫で。
51	H－19 9＋10	土師器 坏	①　10.7　②　4.1 ③　－	①細粒　②良好　酸化焔 ③にぶい橙　④口縁1/2欠	浅めの丸底から緩やかに体部が立ち上がり、口縁は直立気味とする。口縁と体部の境は稜をなす。口縁部横撫で。体部篦削り。
52	H－20 14ほか	土師器 甕	①　22.8　②〔19.1〕 ③　－	①細粒　②良好　酸化焔 ③にぶい褐　④胴中位下欠	長胴甕で、口縁部は水平気味に開く。口縁部横撫で。胴部外面縦方向の篦削り。内面横方向の板撫で。
53	H－20－81	土師器 甕	①　22.0　②〔17.4〕 ③　－	①細粒　②良好　酸化焔 ③にぶい赤褐　④胴中位下欠	長胴甕で、口縁部は水平気味に開く。頸部でやや括れる。胴部最大径は上位に有する。口縁部横撫で。胴部外面斜め方向の篦削り。
54	H－20 竈内	土師器 甕	①　－　②〔11.9〕 ③　5.0	①細粒　②良好　酸化焔 ③にぶい橙　④胴中～底部	長胴甕の胴部下半から底部。胴部外面下半縦、底部付近斜め方向の篦削り。
55	H－20－34	土師器 壺	①　19.0　②〔8.5〕 ③　－	①細粒　②良好　酸化焔 ③にぶい黄橙　④口縁1/2欠	「く」の字状に直線的に外反する口縁部から胴上半。
56	H－20－4	土師器 壺	①（15.2）②〔7.0〕 ③　－	①細粒　②良好　酸化焔 ③黄灰　④口縁1/2欠	外反して開く口縁部から胴上半。
57	H－20－9	須恵器	①　－　②　－ ③　－	①細粒　②良好　還元焔 ③灰　④頸～胴中位片	外面並行の叩き目文様、内面青海波の叩き目文様。
58	H－20－40	須恵器 長頸壺	①　－　②〔12.5〕 ③　－	①細粒　②良好　還元焔 ③緑灰　④頸部片	長頸壺の頸部片。外面に櫛歯状工具による波状文。
59	H－20	須恵器 頸部片	①　－　②　－ ③　－	①細粒　②良好　還元焔 ③灰白　④頸部片	
60	H－20－1	須恵器 蓋	①　17.6　②〔3.5〕 ③　－	①細粒　②良好　還元焔 ③灰白　④口縁1/3と摘欠	扁平な体部から口縁は直線的に開く。口縁と体部の境は稜をなす。轆轤整形で、外面天井部全面を手持ち篦削りで調整する。摘みの剥落痕跡。
61	H－20－26	須恵器 坏	①　(8.8)②　3.6 ③　(5.4)	①微砂　②良好　還元焔 ③灰白　④1/2	底部から内彎して立ち上がる。体部と口縁の境に一条の沈線が巡り、口縁は内屈する。内外面轆轤整形で、底部周縁と体部立ち上がり部に回転篦削り。
62	H－20 42ほか	土師器 高坏	①　－　②〔8.8〕 ③（13.8）	①微砂　②良好　酸化焔 ③にぶい黄橙　④坏部欠	脚部は短く、「八」の字状に開く。端部は短く水平気味に開く。脚部外面縦位の篦削り、は端部横撫で。内面横位の篦削り。
63	H－20－52	土師器 高坏	①　－　②〔4.6〕 ③　(8.0)	①微砂　②良好　酸化焔 ③灰黄　④坏部欠	坏部の体部と底部の境に稜をなし、脚部は低く裾部が大きく開く。
64	H－20－3	土師器 坏	①　12.2②　7.6 ③　－	①微砂　②良好　酸化焔 ③橙　④1/4欠	丸底から内彎し深みのある体部とし、口縁部は直立する。口縁と体部の境は稜をなす。口縁部横撫で。体部篦削り。
65	H－20－2	土師器 坏	①　11.5　②　3.5 ③　－	①微砂　②良好　酸化焔 ③橙　④1/2	体部は丸底から内彎し、口縁は短く直立気味とする。口縁と体部の境は屈曲部をなす。口縁横撫で。体部篦削り。
66	H－20 5＋7	土師器 坏	①　10.2　②　3.6 ③　－	①微砂　②良好　酸化焔 ③橙　④完形	体部は丸底から内彎し、口縁は短く内屈気味とする。口縁と体部の境は屈曲部をなす。口縁横撫で。体部篦削り。
67	H－20－62	土師器 坏	①　10.2　②　3.3 ③　－	①細粒　②良好　酸化焔 ③にぶい橙　④1/2	体部は丸底から内彎し、口縁は短く内屈する。口唇部を尖り気味とする。口縁と体部の境は屈曲部をなす。口縁横撫で。体部篦削り。
68	H－20－74	土師器 坏	①　11.6　②　3.4 ③　－	①微砂　②良好　酸化焔 ③にぶい橙　④1/2	体部は丸底から内彎し、口縁は短く直立気味とする。口縁と体部の境は僅かな稜をなす。口縁横撫で。体部篦削り。
69	H－20－87	土師器 坏	①　10.7　②　2.4 ③　－	①微砂　②良好　酸化焔 ③にぶい赤橙　④完形	体部は丸底から内彎し、口縁は短く内屈気味とする。口縁と体部の境は僅かな稜をなす。口縁横撫で。体部篦削り。
70	H－20 覆土	土師器 坏	①　10.2　②　3.1 ③　－	①微砂　②良好　酸化焔 ③にぶい橙　④ほぼ完形	丸底から緩やかに内彎し、口縁は短く直立する。口縁と体部の境は屈曲部をなす。口縁横撫で。体部篦削り。
71	H－20 覆土	土師器 坏	①　－　②　－ ③　－	①微砂　②良好　酸化焔 ③橙　④底部片	底部内面に線刻による絵画文？
72	H－22 1～10	土師器 甕	①　20.9　②　26.1 ③　4.4	①微砂　②良好　酸化焔 ③橙　④体部部分的に欠	口縁部は「く」の字状に外反し、最大径は胴部上半の強く張る部分とする。口縁部横撫で。胴部上位横方向の篦削り。中～下位縦方向の篦削り。内面横方向の撫で。
73	H－22 覆土	須恵器 高台付椀	①　16.1　②　7.3 ③　9.3	①微砂　②良好　還元焔 ③灰白　④体部1/3欠	「ハ」の字状の高台を付し、体部は直線的に上方に開く。轆轤整形で底部はへら起しの後立ち上がり部を回転篦削り調整。
74	H－22 覆土	土師器 坏	①　12.0　②　3.4 ③　－	①微砂　②良好　酸化焔 ③にぶい橙　④ほぼ完形	丸底から緩やかに内彎し、口縁は内彎気味に外傾する。口縁横撫で。体部篦削り。
77	H－25 16ほか	土師器 壺	①　24.0　②〔34.1〕 ③　－	①細粒　②良好　酸化焔 ③灰褐　④部分的に欠	丸底の底部は丸底とし、最大径を胴部中位とする。やや縦長の球形胴部から口縁部は外反して開く。口縁部横撫で。胴部斜め方向の篦削り後斜め方向の磨き。内面斜め縦方向の磨き。
78	H－25－8	土師器 甕	①　21.6　②〔31.8〕 ③　－	①細粒　②良好　酸化焔 ③にぶい橙　④胴下半欠	長胴甕で、口縁部は水平気味に開く。胴部は下位に連れて尻つぼみとなる。口縁部横撫で。胴部外面縦方向の篦削り。内面横方向の板撫で。
79	H－25－23	土師器 甕	①　20.0　②　34.3 ③　4.6	①細粒　②良好　酸化焔 ③にぶい橙　④部分的欠	長胴甕で、口縁部は外反して開く。胴部は砲弾状を呈する。口縁部横撫で。胴部外面上位縦方向の篦削り、下位斜め方向の篦削り。内面斜め横方向の板撫で。
80	H－25－33	土師器 甕	①　20.0　②　31.4 ③　4.3	①細粒　②良好　酸化焔 ③橙　④完形	長胴甕で、口縁部は外反して開く。胴部最大径は中位に有する。口縁部横撫で。胴部外面縦方向の篦削り、下位斜め篦削り。内面横方向撫で、中～下位斜め方向の篦削りと板撫で。
81	H－25－41	土師器 甕	①　18.0　②　19.7 ③　－	①細粒　②良好　酸化焔 ③にぶい赤褐　④完形	小型の長胴甕で、口縁部は水平気味に開く。最大径は口縁部。寸胴の胴部で底部は丸底とする。口縁部横撫で。胴部外面斜め方向の篦削り、内面横方向の板撫で。
82	H－25－6	土師器 高坏	①　15.7　②　14.6 ③　13.8	①細粒　②良好　酸化焔 ③にぶい赤褐　④坏部1/5欠	坏部は丸底から体部は緩やかに内彎し、口縁部は外反して開き、体部と口縁部の境は稜をなす。脚部は上半がやや細長い棒状気味とし、裾部が開く。脚部縦方向篦削り後指撫で。
83	H－25－12	土師器 甑	①（17.9）②　12.7 ③　3.1	①細粒　②良好　酸化焔 ③にぶい褐　④口縁部分欠	直線的に開く胴部から口縁部は外反する。口縁部横撫で。胴部斜め方向の篦削り。下位横方向の篦削り。内面横方向の板撫で。底部穿孔部指撫で。
84	H－25－32	土師器 短頸壺	①　9.6　②　11.3 ③　－	①細粒　②良好　酸化焔 ③橙　④完形	緩やかに内彎する丸底の底部で胴部とは稜をなす。胴部は球状で最大径は中位上にある。口縁と体部の境も稜をなし、内傾する。口縁部横撫で。外面胴部と底部篦削り。
85	H－25－30	土師器 短頸壺	①　11.8　②　12.1 ③　－	①細粒　②良好　酸化焔 ③橙　④ほぼ完形	形態は84に似るが、口縁部を直立気味とする。
86	H－25－2	土師器 坏	①　11.8　②　7.9 ③　－	①細粒　②良好　酸化焔 ③にぶい橙　④完形	尖り気味の丸底より強く直立気味に内彎し、口縁は短く直立気味とする。口縁と体部の境は屈曲する。口縁と内面櫛歯状工具による横撫で。体部篦削り。

番号	遺構番号 層位	器種名	①口径　②器高 ③底径	①胎土 ②焼成 ③色調 ④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術
87	H－25－1	土師器 坏	① 11.0 ② 5.2 ③ －	①細粒 ②良好 酸化焔 ③にぶい橙 ④完形	小さい丸底から強く内彎し、口縁は短く直立気味とする。口縁と体部の境は屈曲する。口縁と内面櫛歯状工具による横撫で。体部篦削り。
88	H－25－4	土師器 坏	① 11.1 ② 3.8 ③ －	①細粒 ②良好 酸化焔 ③橙 ④完形	浅めの丸底から緩やかに内彎し、口縁は外傾する。口縁と体部の境は緩やかな稜をなす。口唇部内面に沈線が巡る。口縁横撫で。体部篦削り。
89	H－25－5	土師器 坏	① 11.5 ② 3.7 ③ －	①微砂 ②良好 酸化焔 ③橙 ④完形	丸底の体部から口縁は短く外傾する。口縁と体部の境は緩やかな稜をなす。口縁横撫で。体部篦削り。
90	H－25－9	土師器 坏	① 11.8 ② 4.4 ③ －	①細粒 ②良好 酸化焔 ③にぶい橙 ④完形	やや浅めの丸底から口縁は外傾する。口縁と体部の境は緩やかな稜をなす。口縁横撫で。体部篦削り。
91	H－25－11	土師器 坏	① 11.0 ② 3.4 ③ －	①微砂 ②良好 酸化焔 ③橙 ④完形	浅めの丸底から緩やかに内彎し、口縁は短く直立する。口縁と体部の境は僅かな稜をなす。口縁横撫で。体部篦削り。
92	H－25－11	土師器 坏	① 11.9 ② 3.4 ③ －	①細粒 ②良好 酸化焔 ③にぶい橙 ④完形	平底気味の丸底から緩やかに内彎し、口縁は直立気味とする。口縁横撫で。体部篦削り。
93	H－25－13	土師器 坏	① 11.5 ② 5.5 ③ －	①細粒 ②良好 酸化焔 ③にぶい橙 ④ほぼ完形	平底気味の底部から内彎し、口縁は内屈する。口縁と体部の境は屈曲部とする。口縁横撫で。体部篦削り。
94	H－25－14	土師器 坏	① 13.9 ② 4.2 ③ －	①細粒 ②良好 酸化焔 ③にぶい黄橙 ④完形	浅めの丸底から口縁は直立気味に立ち上がる。口縁と体部の境は僅かな稜をなす。口縁横撫で。体部篦削り。
95	H－25－15	土師器 坏	① 11.2 ② 4.4 ③ －	①細粒 ②良好 酸化焔 ③橙 ④完形	丸底の体部から口縁は器肉を厚くしながら内彎気味に立ち上がる。口縁と体部の境は沈線が巡る。口縁横撫で。体部篦削り。
96	H－25 17～19	土師器 坏	① 12.1 ② 4.0 ③ －	①微砂 ②良好 酸化焔 ③にぶい橙 ④ほぼ完形	浅めの丸底から口縁は外反気味に開いて立ち上がる。口縁と体部の境は緩やかな稜をなす。口縁横撫で。体部篦削り。
97	H－25－20	土師器 坏	① 11.4 ② 3.4 ③ －	①細粒 ②良好 酸化焔 ③にぶい橙 ④ほぼ完形	浅めの丸底から口縁は外反して立ち上がる。口縁と体部の境は緩やかな稜をなす。口縁横撫で。体部篦削り。
98	H－25－27	土師器 坏	① 10.7 ② 3.5 ③ －	①微砂 ②良好 酸化焔 ③にぶい橙 ④完形	丸底の体部から口縁は短く直立に立ち上がる。口唇の一部に歪みがある。口縁と体部の境は僅かな稜をなす。口縁横撫で。体部篦削り。
99	H－25 24＋28	土師器 坏	① 12.1 ② 3.4 ③ －	①微砂 ②良好 酸化焔 ③にぶい橙 ④ほぼ完形	丸底の体部から口縁が外反して立ち上がる。口縁と体部の境は僅かな稜をなす。口縁横撫で。体部篦削り。
100	H－25－26	土師器 坏	① 10.1 ② 3.3 ③ －	①細粒 ②良好 酸化焔 ③にぶい橙 ④ほぼ完形	丸底の体部から口縁は短く外反気味に立ち上がる。口縁と体部の境は僅かな稜をなす。口縁横撫で。体部篦削り。
101	H－25－37	土師器 坏	① 14.2 ② 4.2 ③ －	①微砂 ②良好 酸化焔 ③にぶい橙 ④完形	浅めの丸底から口縁は直線的に外傾する。口縁と体部の境は緩やかな稜をなす。口唇部内面に沈線が巡る。口縁横撫で。体部篦削り。
102	H－26 1・2ほか	土師器 甕	① 19.1 ②〔35.8〕 ③ －	①細砂 ②良好 酸化焔 ③にぶい橙 ④底部欠	長胴甕で、口縁部は外反して開き、頸部で括れる。最大径は口縁部。口縁部横撫で。胴部外面縦方向の篦削り、内面横方向の板撫で。
103	H－26－3	土師器 坏	① 12.0 ② 4.2 ③ －	①細粒 ②良好 酸化焔 ③にぶい黄橙 ④1/2	浅めの丸底から口縁は直立気味に立ち上がる。口縁と体部の境は緩やかな稜をなす。口縁横撫で。体部篦削り。
104	H－27 3＋4	須恵器 坏	① 12.6 ② 3.6 ③ 7.5	①微砂 ②良好 還元焔 ③褐灰 ④ほぼ完形	体部は底部より直線的に開き、口縁部は僅かに外反する。轆轤整形で底部回転糸切り未調整。
105	H－27－7	須恵器	①（12.8）② 4.1 ③（7.2）	①細粒 ②良好 還元焔 ③暗青灰 ④1/2	底部より内彎し、口端部を外反する。轆轤整形で底部回転糸切り未調整。
106	H－27 覆土	須恵器 坏	①（12.4）② 3.6 ③（7.0）	①微砂 ②良好 還元焔 ③灰 ④1/2	やや上げ底の底部より体部は内彎し、口縁部を外反する。轆轤整形で底部回転糸切り未調整。
107	H－27－5	土師器 坏	①（11.5）② 3.0 ③（9.0）	①微砂 ②良好 酸化焔 ③にぶい橙 ④口縁1/2欠	平底から口縁部は直立気味に外傾し、口端部が僅かに内彎する。口縁部横撫で。体部外面立ち上がり部指頭圧痕。底部篦削り。
108	H－27 覆土	土師器 坏	①（13.1）② 3.2 ③（8.9）	①微砂 ②良好 酸化焔 ③にぶい橙 ④口縁2/3欠	平底から口縁部は直線的に外傾する。口縁部横撫で。体部調整不明。底部篦削り。
109	H－27 覆土	土師器 坏	①（13.2）② 3.7 ③（7.2）	①微砂 ②良好 酸化焔 ③橙 ④1/2弱	平底より体部は直線的に開き、口縁部を外反気味とする。内面底部に螺旋状、体部に放射状の暗文を施す。口縁ぶ横撫で。底部と立ち上がり部篦削り。
110	H－27 貯蔵穴	土師器 坏	① － ② － ③ －	①微砂 ②良好 酸化焔 ③橙 ④底部片	底部外面に「生」の墨書。
111	H－27	土師器 坏	① － ② － ③ －	①微砂 ②良好 酸化焔 ③にぶい橙 ④底部片	底部内面に墨書。
112	H－27	土師器 坏	① － ② － ③ －	①微砂 ②良好 酸化焔 ③橙 ④底部片	底部内面に「生」の墨書か。
113	H－27	土師器 坏	① － ② － ③ －	①微砂 ②良好 酸化焔 ③橙 ④底部片	底部外面に「生」の墨書か。
115	H－28 3＋4	土師器 甕	① 21.6 ②〔11.0〕 ③ －	①細粒 ②良好 酸化焔 ③にぶい橙 ④口～胴上半片	長胴甕で、口縁部は外反して開く。頸部でやや括れる。最大径は口縁部。口縁部横撫で。胴部外面縦方向の篦削り。
116	H－28	土師器 壺	① 19.2 ②〔10.7〕 ③ －	①細粒 ②良好 酸化焔 ③橙 ④口～胴上半	球形胴部を有する壺。口縁部は「く」の字状に開く。口縁部横撫で。外面胴部篦削り。
117	H－28－12	土師器 短頸壺	① 8.2 ②〔7.8〕 ③ －	①微砂 ②良好 酸化焔 ③橙 ④口～胴下位1/2残	やや下膨れ気味の球形体部から口縁は直立する。口縁と体部の境は僅かな段とする。内外面口縁横撫で、体部横位篦削り。内面撫で。
118	H－28 9～11	土師器 坏	① 15.1 ② 6.3 ③ －	①微砂 ②良好 酸化焔 ③にぶい橙 ④1/2	体部は丸底から内彎して深みがあり、口縁はやや外傾する。口縁と体部の境は稜とする。口縁横撫で、体部篦削り。
119	H－28 7ほか	土師器 坏	①（11.5）② 3.9 ③ －	①微砂 ②普通 酸化焔 ③にぶい橙 ④1/2	体部は浅めの丸底から内彎し、口縁は外傾する。口縁と体部の境は稜とする。口縁横撫で、体部篦削り。
120	H－28 5＋6	土師器 坏	① 12.5 ② 4.1 ③ －	①微砂 ②良好 酸化焔 ③橙 ④1/2	体部は浅めの丸底から内彎し、口縁は外傾する。口縁と体部の境は稜とする。口縁横撫で、体部篦削り。
121	H－29－1	土師器 壺	①（21.0）②〔14.5〕 ③ －	①微砂 ②良好 酸化焔 ③にぶい橙 ④口～胴中位	球形胴部から頸部を直立気味とし、口縁部は外反する。口縁部横撫で。外面胴部篦削り。
122	H－31	土師器 壺	① 22.8 ② 42.3 ③ 5.8	①細粒 ②良好 酸化焔 ③にぶい橙 ④部分的欠	長胴甕で、口縁部は水平気味に開く。最大径は口縁部で、胴部は砲弾状とする。口縁部横撫で。胴部外面縦方向の篦削り、下位横方向の篦削り。内面斜め横方向の板撫で。
123	H－31 29ほか	土師器 甕	① 23.0 ②〔11.9〕 ③ －	①細粒 ②良好 酸化焔 ③にぶい黄橙 ④口～胴上位	長胴甕で、口縁部は水平気味に開く。口縁部横撫で。胴部外面縦方向の篦削り。
124	H－31 覆土	土師器 脚台付甕	①（14.9）② 19.7 ③〔16.2〕	①細粒 ②酸化焔 ③にぶい橙 ④部分的欠	やや扁平な球形胴部に直立気味の口縁部とする小型甕に「ハ」の字状に開く脚部を付す。小型甕胴部横方向、脚部縦方向の篦削り。脚部内面横方向の篦削り。
125	H－31－11	須恵器 壺	①（21.5）②〔6.4〕 ③ －	①微砂 ②良好 還元焔 ③灰 ④口縁部片	外反する口縁部片で、外面に櫛歯状工具による波状文を施す。轆轤整形。
126	H－31 覆土	土師器 短頸壺	① 10.6 ②〔9.2〕 ③ －	①微砂 ②良好 酸化焔 ③にぶい橙 ④底部欠	底部から緩やかに内彎し、やや扁平な球形体部とする。口縁は直立し、口縁と体部の境は僅かな段をなす。内外面口縁横撫で、体部横位篦削り。内面撫で。
127	H－31－26	土師器 坏	① 7.4 ② 4.7 ③ －	①微砂 ②良好 酸化焔 ③橙 ④ほぼ完形	手のひらサイズの小振りな坏。体部は球状気味の丸底から口縁は直立する。口縁と体部の境は緩やかな稜とする。口縁横撫で、体部篦削り。

番号	遺構番号 層位	器種名	①口径　②器高 ③底径	①胎土　②焼成 ③色調　④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術
128	H－31－37	土師器 坏	①　8.0　②　4.6 ③　－	①微砂　②良好　酸化焔 ③橙　④完形	体部は丸底から内彎して深みがあり、口縁は短く直立する。口縁と体部の境は稜とする。口縁横撫で、体部篦削り。
129	H－31 23ほか	土師器 坏	①　12.7　②　5.7 ③4.2×3.9楕円形	①微砂　②良好　酸化焔 ③にぶい黄橙　④口縁1/4欠	小さい平底から内彎し、口縁は直立気味とする。口縁と体部の境は緩やかな稜とする。口縁横撫で、体部・底部篦削り。内面は篦磨きと黒色処理を施す。
130	H－31－20	土師器 坏	①　12.6　②　4.5 ③　－	①微砂　②良好　酸化焔 ③橙　④1/2	体部は丸底から内彎し、口縁は短く直立気味とする。口縁横撫で、体部篦削り。
131	H－31 覆土	土師器 坏	①　11.2　②　3.6 ③　－	①微砂　②良好　酸化焔 ③にぶい橙　④完形	体部は丸底から内彎し、口縁は短く直立気味とする。口縁横撫で、体部篦削り。
132	H－31 覆土	土師器 坏	①　10.9　②　3.5 ③　－	①細粒　②普通　酸化焔 ③橙　④口縁1/4欠	体部は浅めの丸底から内彎し、口縁は短く直立気味とする。口縁横撫で、体部篦削り。
133	H－31 2ほか	土師器 坏	①　10.5　②　4.1 ③　－	①微砂　②良好　酸化焔 ③にぶい橙　④底部の一部欠	体部は丸底から内彎してやや深みがあり、口縁は短く直立気味とする。口縁横撫で、体部篦削り。
134	H－31－28	土師器 坏	①　11.8　②　3.2 ③　－	①微砂　②良好　酸化焔 ③灰黄　④口唇の一部欠	体部は浅めの丸底から内彎し、口縁は大きく外反して開く。口縁と体部の境は稜とする。内面は黒色処理か？口縁横撫で、体部篦削り。
135	H－31－21	土師器 坏	①　12.2　②　3.0 ③　－	①微砂　②良好　酸化焔 ③褐灰　④1/5欠	134と同じ。
136	H－31 3ほか	土師器 坏	①　11.3　②　3.5 ③　－	①微砂　②良好　酸化焔 ③にぶい橙　④底部の一部欠	体部は丸底から内彎し、口縁は短く外反して開く。口縁と体部の境は緩やかな稜とする。器形が歪む。口縁横撫で、体部篦削り。
137	H－31 6＋7	土師器 坏	①　11.0　②〔3.6〕 ③　－	①微砂　②良好　酸化焔 ③にぶい橙　④底部の一部欠	体部は丸底から内彎し、口縁は直立気味とする。口縁と体部の境は緩やかな稜とする。口縁横撫で、体部篦削り。
138	H－31－12	土師器 坏	①　10.5　②　3.5 ③　－	①微砂　②良好　酸化焔 ③にぶい橙　④ほぼ完形	体部はやや浅めの丸底から内彎し、口縁は短く直立気味とする。口縁と体部の境は緩やかな稜とする。口縁横撫で、体部篦削り。
139	H－31－14	土師器 坏	①　12.0　②　3.8 ③　－	①細粒　②普通　酸化焔 ③にぶい橙　④口縁1/3欠	体部はやや浅めの丸底から内彎し、口縁は直立気味に外反する。口縁と体部の境は緩やかな稜とする。口縁横撫で、体部篦削り。
140	H－31－15	土師器 坏	①　12.0　②　3.1 ③　－	①微砂　②普通　酸化焔 ③橙　④口縁1/3欠	体部はやや浅めの丸底から内彎し、口縁は短く直立する。口縁と体部の境は緩やかな稜とする。口縁横撫で、体部篦削り。
141	H－31 17＋18	土師器 坏	①　11.8　②　3.3 ③　－	①微砂②良好　酸化焔 ③にぶい橙　④口縁僅かに欠	体部はやや浅めの丸底から内彎し、口縁は短く直立気味とする。口唇部は外反させる。口縁と体部の境は緩やかな稜とする。口縁横撫で、体部篦削り。
142	H－31－25	土師器 坏	①　11.0　②　3.6 ③　－	①微砂　②良好　酸化焔 ③にぶい橙　④完形	体部はやや浅めの丸底から内彎し、口縁は短く外反気味に直立する。口縁と体部の境は緩やかな稜とする。口縁横撫で、体部篦削り。
143	H－31 覆土	土師器 坏	①　10.8　②　3.5 ③　－	①微砂　②良好　酸化焔 ③橙　④1/2	体部はやや浅めの丸底から内彎し、口縁は短く直立気味とする。口縁と体部の境は緩やかな稜とする。口縁横撫で、体部篦削り。
144	H－31 覆土	土師器 坏	①　11.0　②　3.3 ③　－	①微砂　②良好　酸化焔 ③にぶい橙　④1/3欠	体部は丸底から内彎し、口縁は短く外反して開く。口縁と体部の境は僅かな稜とする。口縁横撫で、体部篦削り。
145	H－31－38	土師器 坏	①　12.4　②　4.0 ③　－	①微砂　②普通　酸化焔 ③橙　④完形	体部は丸底から内彎し、口縁は外反して開く。口縁と体部の境は緩やかな稜とする。口縁横撫で、体部篦削り。
148	H－32 2＋3	土師器 壺	①　21.6　②〔7.7〕 ③　－	①微砂　②良好　酸化焔 ③浅黄橙　④口～胴上半	頸部を直立気味とし、口縁部は外反して開く。口縁部横撫で。外面胴部篦削り。
149	H－32－11	土師器 甕	①　13.7　②　14.4 ③　－	①細粒　②良好　酸化焔 ③にぶい褐　④ほぼ完形	浅い丸底から胴部は球形状とし、胴部上半に最大径を有する。口縁部は直立気味の頸部より短く外反する。口縁部横撫で。外面底部から胴部篦削り。
150	H－32－13	須恵器 蓋	①　9.4　②　4.0 ③　－	①細粒　②良好　還元焔 ③灰　④ほぼ完形	平底気味の天上部から口縁は直立気味とする。口縁と体部の境は沈線によって区分される。轆轤整形で、外面天井部は回転篦削り。
151	H－32－12	土師器 坏	①（13.6）②　4.7 ③　－	①微砂　②良好　酸化焔 ③にぶい橙　④1/2	体部は丸底から内彎し深みがあり、口縁は短く直立気味とする。口縁横撫で、体部篦削り。
152	H－32－10	土師器 坏	①（12.6）②　4.2 ③　－	①微砂　②良好　酸化焔 ③にぶい橙　④1/2	体部は丸底から内彎し、口縁は短く直立する。口縁横撫で、体部篦削り。
153	H－32－14	土師器 坏	①　11.8　②　3.7 ③　－	①微砂　②良好　酸化焔 ③にぶい橙　④口縁1/3欠	体部は丸底から内彎し、口縁は短く直立気味とする。口唇部は尖り気味とする。器形が歪む。口縁横撫で、体部篦削り。
154	H－32 23＋26	土師器 坏	①　12.3　②　4.1 ③　－	①微砂　②良好　酸化焔 ③にぶい橙　④ほぼ完形	体部は丸底から内彎し、口縁は直立気味とし口唇部は外反して開く。口縁と体部の境は緩やかな稜とする。口縁横撫で、体部篦削り。
155	H－32－25	土師器 坏	①　10.7　②　3.4 ③　－	①細粒　②良好　酸化焔 ③にぶい橙　④口縁1/4欠	体部は丸底から内彎し、口縁は短く直立気味とする。口縁横撫で、体部篦削り。
157	H－33 2ほか	土師器 甕	①（20.6）②〔22.0〕 ③　－	①細粒　②良好　酸化焔 ③にぶい褐　④胴中位下欠	長胴甕で、口縁部は強く外反し、頸部はやや括れる。胴部最大径を上位に有する。口縁部横撫で。胴部外面斜め方向の篦削り。内面横方向の板撫で。
158	H－33－65	土師器 甕	①　22.6　②〔22.3〕 ③　－	①細粒　②良好　酸化焔 ③にぶい褐　④胴中位下欠	長胴甕で、口縁部は水平気味に外反する。最大径を口径とし、寸胴の胴部。口縁部横撫で。胴部外面縦方向の篦削り。内面横方向の板撫で。
159	H－33 24ほか	土師器 甕	①（13.8）②〔16.2〕 ③　－	①細粒　②良好　酸化焔 ③にぶい褐　④胴下位欠	口縁部は短く外反し、胴部はやや縦長の球形とする。最大径は胴部中位にある。口縁部は横撫で。胴部上位は横方向の篦削り、中～下位斜めの篦削り。内面斜め方向の板撫で。
160	H－33－15	土師器 坏	①　13.1　②　4.2 ③　－	①細粒　②普通　酸化焔 ③にぶい橙　④口縁1/5欠	体部は丸底から内彎し、口縁は外反して開く。口縁と体部の境は緩やかな稜とする。口縁横撫で、体部篦削り。
161	H－33 36ほか	土師器 坏	①　11.7　②　4.0 ③　－	①細砂　②普通　酸化焔 ③橙　④完形	体部は浅い丸底から内彎し、口縁は直立気味に開く。口縁と体部の境は緩やかな稜をなす。口縁横撫で、体部篦削り。
162	H－33－39	土師器 坏	①　11.7　②　4.6 ③　－	①微砂　②良好　酸化焔 ③浅黄橙　④口縁1/3欠	体部は丸底から内彎し、口縁は直立気味に開く。口縁と体部の境は緩やかな稜をなす。口縁横撫で、体部篦削り。
163	H－35 覆土	須恵器 蓋	①（13.7）②〔3.7〕 ③　－	①微砂　②良好　還元焔 ③灰　④摘みと1/2欠	緩やかに内彎する体部から口縁は直線的に開く。体部と口縁の境は緩やかな稜をなす。外面天井部は回転篦削り。
164	H－35－10	土師器 短頸壺	①　9.7　②　6.5 ③　－	①細粒　②良好　酸化焔 ③橙　④1/3欠	丸底から内彎し、扁平な球形体部とし、口縁は短く内傾する。口縁と体部の境は緩やかな稜をなす。口縁横撫で、体部篦削り。
165	H－35－5	土師器 坏	①（11.0）②　3.5 ③　－	①微砂　②普通　酸化焔 ③にぶい橙　④1/2	体部は丸底から内彎し、口縁は直立気味とする。口縁と体部の境は屈曲する。内外面口縁横撫で、体部横位篦削り。内面撫で。
166	H－35 11＋12	土師器 坏	①　11.8　②　4.0 ③　－	①微砂　②普通　酸化焔 ③にぶい橙　④口縁1/4欠	体部は丸底から内彎し、口縁は短く直立気味とする。口唇部は外反する。体部と口縁の境は緩やかな稜をなす。口縁横撫で、体部篦削り。
167	H－35 13＋14	土師器 坏	①　10.9　②　3.7 ③　－	①細粒　②良好　酸化焔 ③にぶい橙　④1/3欠	体部は丸底から内彎し、口縁は短く内傾する。口縁横撫で、体部篦削り。
168	H－35－15	土師器 坏	①　10.0　②　3.8 ③　－	①微砂　②良好　酸化焔 ③橙　④ほぼ完形	体部は浅い丸底から内彎し、口縁は長く直立気味に開く。口縁と体部の境は緩やかな稜をなす。口縁横撫で、体部篦削り。
169	H－36 竈内	土師器 坏	①　14.1　②　4.6 ③　－	①微砂　②普通　酸化焔 ③にぶい黄橙　④口縁2/3欠	体部は丸底から内彎し、口縁は短く内傾する。口縁と体部の境は緩やかな稜をなす。口縁横撫で、体部篦削り。
170	H－37 覆土	須恵器 蓋	①（12.2）②　2.8 ③　－	①微砂　②良好　還元焔 ③灰白　④1/3欠	宝珠状の摘みを付す。天上部は緩やかな丸みを呈し、かえりは断面三角形で直立する。轆轤整形で外面天井部は回転篦削り。

番号	遺構番号 層位	器種名	①口径　②器高 ③底径	①胎土　②焼成 ③色調　④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術
171	H－3 覆土	須恵器 坏	①　13.1　②　3.3 ③　7.3	①細粒　②普通　還元焔 ③灰黄　④1/3欠	注記のミスからH－3号住居跡の覆土からの出土と判明。内彎する体部から口縁は外反する。轆轤整形で底部回転糸切り未調整。
172	H－37－6	土師器 坏	①　16.4　②　5.7 ③　－	①微砂　②良好　酸化焔 ③にぶい橙　④口縁1/5欠	体部は丸底から内彎し深みがあり、口縁は直立気味とする。口縁と体部の境は僅かな稜をなす。口縁横撫で、体部篦削り。
173	H－37 1＋2	土師器 坏	①　12.4　②　3.7 ③　－	①微砂　②良好　酸化焔 ③淡橙　④口縁と底部に欠	体部は丸底から内彎し、口縁は短く直立気味とする。口縁横撫で、体部篦削り。
174	H－37－4	土師器 坏	①（12.8）②　3.8 ③　－	①微砂　②良好　酸化焔 ③橙　④1/2	体部は丸底から緩やかに内彎し、口縁はやや外傾する。口縁と体部の境は緩やかな稜をなす。口縁横撫で、体部篦削り。
176	H－38 竈内	土師器 甕	①（18.0）②〔14.4〕 ③　－	①細粒　②良好　酸化焔 ③にぶい褐　④口～胴中位片	長胴甕で、口縁部は外反し、最大径は口縁部とする。口縁部横撫で。胴部外面縦方向の篦削り。
177	H－38 23ほか	土師器 甕	①（21.8）②〔18.7〕 ③　－	①細粒　②良好　酸化焔 ③にぶい褐　④胴中位下欠	長胴甕で、口縁部は強く外反し、頸部はやや括れる。最大径は口縁部とする。口縁部横撫で。胴部外面横・斜め方向の篦削り。
178	H－38－4	土師器 坏	①（12.4）②　3.6 ③　－	①微砂　②良好　酸化焔 ③橙　④1/2	体部は丸底から緩やかに内彎し、口縁は短く外反気味とする。口縁と体部の境は僅かな稜をなす。口縁横撫で、体部篦削り。
179	H－38 12ほか	土師器 坏	①（10.8）②　3.3 ③　－	①細粒　②良好　酸化焔 ③にぶい橙　④1/2	体部は丸底から緩やかに内彎し、口縁は短く直立気味とする。口縁横撫で、体部篦削り。
180	H－38 覆土	土師器 坏	①　－　②　－ ③　－	①微砂　②良好　酸化焔 ③橙　④	体部内面に放射状の暗文。胎土・焼成から畿内産と考えられる。
185	H－39 覆土	須恵器 壺	①　－　②　－ ③　－	①細粒　②還元焔 ③青灰　④肩部片	沈線文の間に波状文や櫛歯状工具による刺突文を施す。
186	H－39 11＋12	土師器 坏	①　12.1　②　4.1 ③　－	①細粒　②良好　酸化焔 ③橙　④完形	体部は丸底から緩やかに内彎し、口縁はやや外反して開く。口縁と体部の境は緩やかな稜をなす。口縁横撫で、体部篦削り。
187	H－39 覆土	土師器 坏	①　11.8　②　3.9 ③　－	①微砂　②良好　酸化焔 ③橙　④ほぼ完形	平底気味の体部から口縁はやや直線的に開く。口縁部の器肉は薄い。口縁と体部の境は稜をなす。口縁横撫で、体部篦削り。
188	H－40 12ほか	土師器 甕	①（20.7）②〔18.5〕 ③　－	①細粒　②良好　酸化焔 ③にぶい赤褐　④胴下半欠	口縁部は「く」の字状に外反し、最大径は胴部上半の強く張る部分とする。口縁部横撫で。胴部上位斜め・横方向の篦削り。中位斜め方向の篦削り。内面横方向の板撫で。
189	H－40－9	須恵器 坏	①（12.0）②　3.1 ③（7.6）	①細粒　②良好　還元焔 ③青灰　④2/3欠	底部より内彎して開き、口唇部を外反する。器全体の器肉は薄い。轆轤整形で底部回転糸切り未調整。
194	H－41 覆土	須恵器 坏	①（13.4）②　3.6 ③（7.0）	①細粒　②還元焔 ③青灰　④2/3欠	底部より直線的に開き、口唇部を肥厚する。轆轤整形で底部回転糸切り未調整。
195	H－42 30＋31	須恵器 壺	①　－　②　－ ③　－	①細粒　②良好　還元焔 ③灰白　④胴中位～下位	丸底壺と考えられる。外面に平行叩き目文様。
196	H－42－9	須恵器 高坏	①　－　②〔12.0〕 ③　－	①微砂　②良好　還元焔 ③青灰　④坏部口縁と脚端部欠	浅い丸底の底部で、口縁との境に稜をなす。口縁部には波状文を施す可能性がある。長脚には透し窓を設ける。轆轤整形。
197	H－42 覆土	土師器 短頸壺	①　7.9　②〔7.7〕 ③　－	①微砂　②良好　酸化焔 ③にぶい橙　④底部欠	胴部はやや扁平気味とし、口縁は直立気味とする。口縁横撫で。胴部外面篦削り。
198	H－42 10他	土師器 短頸壺	①　11.5　②〔8.8〕 ③　－	①細粒　②良好　酸化焔 ③にぶい橙　④底部欠	胴部は丸底から内彎して直立気味に立ち上がり、口縁は直線的にやや内傾する。口縁と胴部の境は緩やかな稜をなす。口縁横撫で、体部篦削り。
199	H－42 1～9	土師器 坏	①　11.9　②　4.6 ③　－	①細粒　②良好　酸化焔 ③にぶい橙　④口縁若干欠	体部は丸底から内彎し、口縁はや直線的に開く。口縁と体部の境は稜をなす。口縁横撫で、体部篦削り。
200	H－42－13	土師器 坏	①　12.7　②　4.4 ③　－	①微砂　②良好　酸化焔 ③にぶい橙　④1/2	体部は丸底から緩やかに内彎し、口縁は直線的に開く。口縁と体部の境は稜をなす。口縁横撫で、体部篦削り。
201	H－43－1	須恵器 坏	①（11.4）②　3.5 ③（6.0）	①微砂　②普通　還元焔 ③灰白　④2/3欠	底部よりやや内彎し口縁は直線的に開く。轆轤整形で底部回転糸切り未調整。
202	H－44－2	土師器 坏	①　12.6　②　3.9 ③　－	①細粒　②良好　酸化焔 ③橙　④完形	浅めの丸底から口縁は直線的に開く。口縁と体部の境は稜をなす。体部外面は磨耗する。口縁横撫で、体部篦削り。
203	H－44 貯蔵穴	土師器 坏	①　12.0　②　4.2 ③　－	①細粒　②良好　酸化焔 ③にぶい橙　④ほぼ完形	体部は丸底から緩やかに内彎し、口縁はやや外反して開く。口縁と体部の境は稜をなす。口縁横撫で、体部篦削り。
204	H－45－12	土師器 小型甕	①　13.6　②　11.7 ③　6.0	①細粒　②普通　酸化焔 ③淡黄橙　④1/2	やや寸胴の球形胴部で、最大径を胴部中位のやや上方とし、口縁は頚部から短く外反して開く。胴部は斜位の篦削り。
205	H－46 竈内	土師器 甕	①　20.0　②〔24.0〕 ③　－	①細粒　②良好　酸化焔 ③にぶい褐　④胴中位下欠	長胴甕で、口縁部は短く外反する。寸胴の胴部。口縁部横撫で。胴部外面縦方向の篦削り。内面横・斜め方向の板撫で。
206	H－46	土師器 小型甕	①　15.5　②〔13.5〕 ③　－	①細粒　②良好　酸化焔 ③にぶい褐　④胴中位下欠	
207	H－46－9	土師器 短頸壺	①（8.6）②　10.7 ③（12.0）	①細粒　②酸化焔 ③にぶい褐　④口縁3/4と底部欠	やや扁平気味の球形胴部で、最大径を胴部中位のやや上方とし、口縁は頚部から短く外反して開く。器面全体が荒れている。
208	H－46－8	土師器 短頸壺	①　10.3　②〔4.4〕 ③　－	①細粒　②良好　酸化焔 ③褐　④口縁部片	直立する口縁部で、口唇をやや尖り気味とする。
209	H－46	土師器 高坏			
210	H－46－6	土師器 高坏	①　13.7　②　6.9 ③　7.6	①細粒　②良好　酸化焔 ③橙　④口縁部分欠	脚部は丈が短く、裾は「八」の字状に開く。坏体部は浅い丸底から緩やかに内彎し、口縁は大きく外反して開く。脚部との接合部は縦位の篦削り。
211	H－46－12	土師器 坏	①　11.5　②　4.2 ③　－	①微砂　②良好　酸化焔 ③橙　④完形	体部は丸底から緩やかに内彎し、口縁はやや外傾する。口縁と体部の境は稜をなす。口縁横撫で、体部篦削り。
212	H－46 5＋11	土師器 坏	①　13.1　②　4.0 ③　－	①細粒　②良好　酸化焔 ③橙　④完形	体部は丸底から緩やかに内彎し、口縁は直線的に外傾する。口縁と体部の境は稜をなす。口縁横撫で、体部篦削り。
213	H－46－5	土師器 坏	①　11.2　②　4.8 ③　－	①細粒　②良好　酸化焔 ③橙　④1/2	体部は扁平気味の丸底から口縁は外反気味に直立する。口縁と体部の境は稜をなす。口縁横撫で、体部篦削り。
214	H－46－1	土師器 坏	①　13.4　②　4.5 ③　－	①微砂　②良好　酸化焔 ③橙　④完形	体部は丸底から緩やかに内彎し、口縁は直線的に開く。口縁の一箇所を片口状とする。口縁と体部の境は稜をなす。口縁横撫で、体部篦削り。
215	H－46－10	土師器 坏	①　12.8　②　4.8 ③　－	①微砂　②良好　酸化焔 ③にぶい橙　④口縁1/3欠	体部は丸底から緩やかに内彎し、口縁は直線的に開く。口縁と体部の境は稜をなす。口縁横撫で、体部篦削り。
217	H－48	須恵器 坏	①　13.5　②　3.6 ③　5.8	①微砂　②良好　還元焔 ③灰白　④完形	直線的に開く体部から口縁は外反する。轆轤整形で、底部回転糸切り未調整。
218	H－48	須恵器 坏	①　12.6　②　4.1 ③　5.6	①微砂　②良好　還元焔 ③灰白　④ほぼ完形	やや小さめの底部から体部は内彎し、口縁部はやや外反する。轆轤整形で、底部回転糸切り未調整。
219	H－49 覆土	土師器 短頸壺	①（9.6）②　8.7 ③　－	①微砂　②良好　酸化焔 ③橙　④1/2	やや扁平気味の胴部より口縁は直立する。口縁と胴部の境は稜をなす。口縁部横撫で、胴部篦削り。
220	H－49	土師器 坏	①　13.2　②　4.0 ③　－	①微砂　②良好　酸化焔 ③にぶい黄橙　④1/2	体部は扁平の丸底とし、口縁は外傾して開く。口縁と体部の境は稜をなす。口縁横撫で、体部篦削り。
222	H－50	須恵器 坏	①（13.0）②　3.8 ③　6.0	①細粒　②還元焔 ③にぶい黄橙　④1/3	内彎して開く体部から口縁部は外反する。全体に薄い器肉である。轆轤整形で、底部回転糸切り未調整。

番号	遺構番号 層位	器種名	①口径　②器高 ③底径	①胎土　②焼成 ③色調　④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術
223	H－50 1＋4	土師器 坏	①　11.4　②　3.4 ③　8.8	①微砂　②良好　酸化焔 ③にぶい橙　④口縁1/5欠	底部は平底化し、口縁部は外傾し、口唇部分が僅かに直立気味とする。口縁部横撫で。体部外面立ち上がり部指頭圧痕。底部篦削り。
224	H－50－8	土師器 坏	①（11.8）②〔3.1〕 ③　－	①微砂　②良好　酸化焔 ③橙　④1/3	底部は平底化し、口縁部は外傾し、口唇部分を尖り気味とする。口縁部横撫で。体部外面立ち上がり部指頭圧痕。底部篦削り。
225	H－51－11	土師器 甕	①　19.4　②　36.2 ③　4.6	①細粒　②良好　酸化焔 ③橙　④ほぼ完形	長胴甕で口縁部は外反し、頸部でやや括れる。胴部中位で最大径となり、口径と大差ない。口縁部横撫で。胴部外面下半まで縦方向の篦削り、底部横方向の篦削り。内面横方向の板撫で。
226	H－51 竈内	土師器 甕	①　22.6　②　38.8 ③　5.4	①細粒　②良好　酸化焔 ③橙　④ほぼ完形	長胴甕で、口縁部はやや水平気味に開く。胴部最大径を上位に有する。口縁部横撫で。胴部縦方向の篦削り、下位斜め・横方向の篦削り。内面横方向の板撫で。
227	H－51－7	土師器 甕	①　22.7　②　35.7 ③　5.0	①細粒　②良好　酸化焔 ③橙　④ほぼ完形	長胴甕で、口縁部はやや水平気味に開く。胴部最大径を中位付近に有する。口縁部横撫で。胴部斜め方向の篦削り。内面斜め方向の板撫で。
228	H－51 竈内	土師器 甕	①　22.1　②〔36.5〕 ③　－	①細粒　②良好　酸化焔 ③橙　④胴下半欠	長胴甕で、口縁部はやや水平気味に開く。胴部最大径を中位付近に有する。口縁部横撫で。胴部縦方向の篦削り。内面横方向の板撫で。
229	H－51	土師器 甕	①（21.0）②〔36.2〕 ③　－	①細粒　②良好　酸化焔 ③橙　④底部欠	長胴甕で、口縁部はやや水平気味に開く。胴部最大径を中位付近に有する。口縁部横撫で。胴部縦方向の篦削り。下位横方向の篦削り。内面横方向の板撫で。
230	H－51－2	土師器 甕	①　22.0　②〔24.3〕 ③　－	①細粒　②良好　酸化焔 ③にぶい橙　④胴下半欠	長胴甕で、口縁部はやや水平気味に開く。胴部最大径を上位付近に有する。口縁部横撫で。頸部横方向の篦削り、胴部斜め・縦方向の篦削り。内面斜め方向の板撫で。
231	H－51 4＋6	土師器 甕	①　22.0　②〔26.8〕 ③　－	①細粒　②良好　酸化焔 ③にぶい橙　④胴下半欠	長胴甕で、口縁部は外反する。胴部最大径を中位付近に有する。口縁部横撫で。胴部外面下半まで縦方向の篦削り。内面斜め方向の板撫で。
232	H－51－8	土師器 小型甕	①　14.6　②　22.8 ③　－	①細粒　②良好　酸化焔 ③にぶい黄橙　④完形	長胴甕で、口縁部は外反する。胴部最大径を上位に有する。口縁部横撫で。胴部外面下半まで縦方向の篦削り、下半横方向の篦削り。内面横方向の撫で、底部近くが縦方向の板撫で。
233	H－51－5	土師器 甑	①　21.8　②　25.1 ③　8.7	①細粒　②良好　酸化焔 ③橙　④ほぼ完形	筒抜けの底部からやや丸みをもって立ち上がる長胴の形態、口縁部は「く」の字状開く。口縁部には輪積み痕が顕著に残る。体部縦方向の篦削り後縦方向の磨き。内面横撫で後縦方向の磨き。
234	H－52	須恵器 壺	①　－　②　－ ③　－	①細粒　②還元焔 ③灰白　④肩部片	外面掻き目文様と下半に叩き目文様。
235	H－52－1	土師器 坏	①　12.8　②　4.4 ③　－	①細粒　②良好　酸化焔 ③淡黄橙　④完形	体部は丸底から緩やかに内彎し、口縁はやや外反して開く。口縁と体部の境は緩やかな稜をなす。口縁横撫で、体部篦削り。
236	H－52－2	土師器 坏	①　12.8　②〔4.4〕 ③　－	①微砂　②良好　酸化焔 ③橙　④底部欠	口縁は直線的にやや外傾する。器形は歪む。口縁と体部の境は稜をなす。口縁横撫で、体部篦削り。
237	H－53	土師器 甕	①　－　②〔16.7〕 ③　5.2	①細粒　②良好　酸化焔 ③橙　④底～胴中位	外面縦方向の篦削り。内面横方向の板撫で。底部指撫で。
238	H－53－2	須恵器 坏	①　13.0　②　3.7 ③　7.3	①細粒　②良好　還元焔 ③青灰　④口縁僅かに欠	底部より内彎気味に立ち上がる。轆轤整形で底部回転糸切り後、周縁部を回転篦削り調整。底部～体部外面に火襷痕。
239	H－53－1	須恵器 坏	①（12.8）②　3.9 ③（7.0）	①微砂　②良好　還元焔 ③青灰　④1/2	底部より内彎気味に立ち上がる。轆轤整形で底部回転糸切り後、周縁部を回転篦削り調整。
240	H－53－6	須恵器 坏	①　－　②〔2.1〕 ③　8.0	①微砂　②良好　還元焔 ③灰白　④底部	轆轤整形で底部回転ヘラ起し。
241	H－54	土師器 甕	①（21.0）②〔8.4〕 ③　－	①細粒　②良好　酸化焔 ③橙　④口～胴上位片	口縁部は「く」の字状に外反する。口縁部横撫で。
242	H－54－2	須恵器 台付椀	①　－　②〔2.7〕 ③　8.5	①微砂　②良好　還元焔 ③灰白　④底部	直立気味の高台を付す。轆轤整形で底部回転糸切り未調整。
243	H－54 9＋10	須恵器 坏	①　13.1　②　3.5 ③　7.6	①微砂　②良好　還元焔 ③灰白　④ほぼ完形	底部よりやや内彎して直線的に開く。轆轤整形で底部回転糸切り未調整。
244	H－54－5	須恵器 坏	①　12.8　②　3.3 ③　7.3	①微砂　②良好　還元焔 ③灰　④1/2	やや上げ底の底部より体部は内彎し、口縁部を外反させる。轆轤整形で底部回転糸切り未調整。
245	H－54－6	須恵器 坏	①　13.2　②　3.2 ③　7.7	①微砂　②良好　還元焔 ③灰白　④口縁部分的欠	底部より直線的立ち上がり、口縁部は外反する。轆轤整形で底部回転糸切り未調整。底部には二度の糸切り痕が残る。
246	H－54－4	須恵器 坏	①（13.2）②　3.1 ③（7.8）	①微砂　②良好　還元焔 ③灰白　④1/2	底部より直線的に立ち上がり、口縁部を外反させる。轆轤整形で底部回転糸切り未調整。
247	H－54 覆土	須恵器 坏	①（13.4）②　3.4 ③（7.2）	①微砂　②普通　還元焔 ③灰黄　④1/3	底部より直線的に立ち上がり、口縁部は外反する。轆轤整形で底部回転糸切り未調整。体部外面に火襷痕。
248	H－54－7	須恵器 蓋	①（16.0）②　3.9 ③摘径3.0	①細粒　②良好　還元焔 ③灰黄　④1/2	中央がやや突起するボタン状摘み。天井部より直線的に開き、端部を垂直に屈曲する。轆轤整形で、天井部回転篦削り。
249	H－54－1	須恵器 蓋	①（16.0）②　3.0 ③摘径2.6	①粗粒　②良好　還元焔 ③暗青灰　④1/3	中央が突起するボタン状摘み。やや高い天井部から直線的に開き、端部を垂直に屈曲する。轆轤整形で、天井部回転篦削り。内面に径8.2cm の重ね痕。
250	H－55 覆土	土師器 坏	①（11.0）②　4.6 ③　－	①細粒　②良好　酸化焔 ③橙　④1/2	体部は丸底から緩やかに内彎し、口縁は直線的にやや外傾斜する。口縁と体部の境は稜をなす。口縁横撫で、体部篦削り。
251	H－56－1	土師器 坏	①　11.6　②　3.5 ③　－	①微砂　②良好　酸化焔 ③にぶい橙　④完形	浅めの丸底から口縁は直線的に立ち上がる。口縁と体部の境は稜をなす。口縁横撫で、体部篦削り。
252	H－57－1 床面	土師器 壺	①　17.4　②〔24.6〕 ③　－	①細粒　②良好　酸化焔 ③にぶい黄橙　④胴下半から欠	胴部中位に最大径を有する。口縁は頸部よりやや水平気味に開く。口縁部横撫で。胴部斜め縦方向の磨き。内面横方向の板撫で。
253	H－57－2	土師器 高坏坏部			
254	H－57－3	土師器 坏	①（17.0）②　6.0 ③　－	①微砂　②良好　酸化焔 ③にぶい黄橙　④1/2	体部は丸底から内彎し、口縁は内彎気味とする。口縁と体部の境と口縁の中位に稜をなす。口縁横撫で、体部篦削り。
255	O－1－1	土師器 坏	①（11.4）②　4.5 ③　－	①細砂　②普通　酸化焔 ③橙　④1/2	体部は丸底から緩やかに内彎し、口縁は直立気味とする。口唇部を内彎気味とする。口縁と体部の境は稜をなす。口縁横撫で、体部篦削り。
256	W－8	内耳土鍋	①　－　②　－ ③　－		
257	W－8	内耳土鍋	①　－　②　－ ③　－		
258	W－8	内耳土鍋	①　－　②　－ ③　－		
259	W－8	軟質陶器 こね鉢	①　－　②　－ ③　－		
260	W－8	須恵質 こね鉢	①　－　②　－ ③　－		
261	W－8	須恵質 こね鉢	①　－　②　－ ③　－		

番号	遺構番号 層位	器種名	①口径　②器高 ③底径	①胎土　②焼成 ③色調　④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術
262	W －8	軟質陶器 火鉢	①　－　②　－ ③　－		
263	W －8	須恵質 茶釜	①　－　②　－ ③　－		
264	W －7	須恵質 茶釜	①　－　②　－ ③　－		
265	W －8	カワラケ	①（12.4）②　3.1 ③　（8.0）		
266	W －5	カワラケ	①　7.6　②　1.9 ③　4.9		
267	W －8	カワラケ	①　（7.2）②　1.7 ③　－		

土製品観察表

番号	出土遺構 ／層位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重さ		遺存度	備考
147	H －31　覆土	土錘	6			10.0		完形	
156	H －32　覆土	土錘				4.1		半分	
193	H －40　覆土	土錘	5.15	1.9		14.8		完形	
269	X20Y28 グリット	土錘	3.7	0.9		2.6		完形	

石製品観察表

番号	出土遺構 ／層位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重さ	石材	遺存度	備考
23	H －4	砥石	6.7	5.4	2	99.0	砂岩	完形	
42	H －17 覆土	紡錘車	口径 3.6	高さ 1.8	底径 3.0	32.2		完形	
43	H －17	砥石	8.0	5.2	2.5				刃傷有り
114	H －27 覆土	砥石	〔6.7〕	〔6.8〕	1.6	67.5	砂岩		
146	H －31 覆土	紡錘車	口径 3.6	高さ 1.6	底径 2.5	33.4	滑石	完形	
175	H －37 覆土	軽石加工 製品	5.2	2.7	2.1	12.2	軽石	完形	
183	H －38 覆土	軽石加工 製品	3.9	1.4	0.9	2.9	軽石	完形	
184	H －38 覆土	軽石加工 製品	3.2	2.7	0.8	3.6	軽石	完形	
192	H －40 上層	勾玉	3.6	1.7	0.8	4.8	滑石	ほぼ完形	
221	H －49 覆土	紡錘車	口径 4.1	高さ 2.15	底径 2.4	52	滑石	完形	
268	X19Y19 グリット	臼玉	φ1.5		1.25	4	蝋石	完形	
270	集石土坑	砥石	15.6	11.7	9.3		安山岩	ほぼ完形	
271	W －5	板碑					緑泥片岩		蓮座

鉄製品観察表

番号	出土遺構 ／層位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重さ	遺存度	備考
22	H －4	不明				24.4		
40	H －17	鎌	16.5			66.5	完形	
41	H －17	鎌	14.5			62.5	完形	
75	H －24	鎌	23.8				完形	
76	H －24	刀子	15.7			19.8	完形	
181	H －38	鉄鏃	9.7			8.2		
182	H －38	鉄鏃	6.2			3.2		
190	H －40	鎌	22.2				完形	
191	H －40	突鑿	23			98.5	完形	
216	H －46	刀子	〔13.6〕			37.4		

南橘東原遺跡の土層とテフラ

株式会社　古環境研究所

１．はじめに

関東地方北西部、広瀬川低地帯上に赤城山斜面から広がる小規模扇状地上に位置する南橘東原遺跡において、地質調査を行って土層の層序について記載するとともに、テフラ（いわゆる火山灰，火山砕屑物）の分析に供する試料の採取を行った。そして、室内においてテフラ検出分析を実施し、すでに層位や年代が明らかにされている指標テフラの層位に関する資料の収集を行った。

調査分析の対象となった地点は、調査区南東部（事務所建物裏）、調査区南壁（X15－ Y21杭南約2.5m）、調査区東壁（X21－ Y16杭北約2.5m）、調査区北東部（H －20）、調査区北壁の５地点である。

２．土層の層序

（１）調査区南東部（事務所建物裏）

調査区南東部（事務所建物裏）では、下位より褐色砂層（層厚６cm以上）、黄白色軽石を多く含む褐色砂層（層厚９cm，軽石の最大径12mm）、黄白色軽石を多く含む灰褐色砂質土（層厚13cm，軽石の最大径12mm）、黄白色軽石を少量含む黄灰色砂層（層厚13cm，軽石の最大径４mm）、白色粗粒軽石や砂を含む暗灰褐色土（層厚33cm，軽石の最大径51mm）、灰色がかった黄色砂層（層厚９cm）、亜円礫を多く含む黄灰色砂層（層厚21cm，礫の最大径11mm，下位とほぼ一連）、砂混じり黒灰褐色土（層厚14cm）、砂を多く含む暗灰褐色土（層厚10cm）、炭化物混じり灰褐色砂質土（層厚32cm）、整地層（砂利層，層厚11cm）が認められる。

（２）調査区南壁（X15－ Y21杭南約2.5m）

調査区南壁（X15－ Y21杭南約2.5m）では、下位より黄白色軽石を多く含む灰褐色土（層厚７cm以上，軽石の最大径８mm）、黄白色軽石混じり暗灰褐色土（層厚10cm，軽石の最大径17mm）、黄白色軽石混じり灰褐色土（層厚８cm，軽石の最大径16mm）、黄灰褐色砂質土（層厚８cm）、灰褐色土（層厚７cm）、暗灰褐色土（層厚23cm）、灰褐色砂質土（層厚５cm）、礫を含む灰褐色砂層（層厚10cm）、若干色調が暗い灰褐色土（層厚７cm）、亜円礫を含む灰色砂層（層厚10cm，礫の最大径18mm）、灰褐色砂質土（表土，層厚18cm）が認められる。

（３）調査区東壁（X21－ Y16杭北約2.5m）

調査区東壁（X21－ Y16杭北約2.5m）では、下位より若干黄色がかった灰色砂質土（層厚10cm以上）、灰褐色土（層厚９cm）、黄色がかった灰色土（層厚７cm）、黄褐色土（層厚22cm）、若干色調の暗い灰色土（層厚９cm）、とくに淘汰の良い灰白色砂層（層厚19cm）、灰色砂礫層（層厚10cm以上，礫の最大径62mm）が認められる。その上面には凹凸が認められ、それは礫混じり灰色砂層（層厚14cm，礫の最大径５mm）により埋没している。最上部には、灰色砂質土（層厚23cm）が認められる。

（４）調査区北東部（H －20）

調査区北東部では、下位より暗灰褐色土（層厚22cm以上，H －20覆土）、黄灰色粗粒火山灰混じり暗灰褐色土（層厚５cm）、黄灰褐色砂礫層（層厚４cm，礫の最大径８mm）、黄褐色土（層厚８cm）、白色砂層（層厚0.4cm）、灰色腐植質シルト層（層厚12cm）が認められる。その上位には凹凸が認められ、層厚17cm程度で淘汰の良い灰色砂層（層厚17cm）により埋められている。その上位には、砂混じり灰褐色土（表土，層厚33cm）が形成されている。

（５）調査区北壁

調査区北壁では、下位より亜円礫混じり灰褐色砂層（層厚11cm以上，礫の最大径77㎜）、暗灰褐色砂質土（層厚11cm）、黒灰褐色土（層厚16cm）、砂混じり黒灰褐色土（層厚９cm）、淘汰の良い灰色砂層（層厚９cm）、灰褐色砂質土（表土，層厚22cm）が認められる。

３．南橘東原遺跡のテフラ

（１）分析試料と分析方法

南橘東原遺跡における土層の層位や形成年代に関する資料を収集するために、土層断面から採取された試料についてテフラ検出分析を行った。分析対象となった試料は、上述５地点から採取された試料のうちの18点である。テフラ検出分析の方法は次のとおりである。

１）試料６ｇを秤量。

２）超音波洗浄装置による泥分を除去。

３）80℃で恒温乾燥。

４）実体顕微鏡下でテフラ粒子の量や特徴を観察。

（２）分析結果

テフラ検出分析の結果を表１に示す。いずれの試料からも、軽石やその細粒物である火山ガラスが検出された。検出された軽石と火山ガラスのほとんどは、次の３種類に分類される。

１）タイプ１：スポンジ状に良く発泡した灰白色軽石（最大径19.1㎜）や、その細粒物である軽石型ガラス。斑晶に斜方輝石や単斜輝石が認められる。

２）タイプ２：発泡があまり良くない白色の軽石（最大径7.2mm．ただし土層断面では51㎜）や、その細粒物である軽石型ガラス。斑晶に角閃石や斜方輝石が認められる。

３）タイプ３：発泡が比較的良い淡褐色や褐色の軽石（最大径3.6㎜）や、その細粒物である軽石型ガラス．斑晶に斜方輝石や単斜輝石が認められる。

調査区南東部（事務所建物裏）では、タイプ１の軽石や軽石型ガラスが、試料28から試料９にかけて含まれている。軽石は、とくに試料27や試料25に多く含まれており、試料27で最大粒径のもの（最大径19.1㎜）が認められる。試料23では、白色の軽石型ガラスがごく少量含まれている。このような火山ガラスは、それより上位の試料からも検出される。一方、タイプ２の軽石（最大径7.2㎜）は、試料21より試料９にかけて比較的多く含まれている。試料５や試料３は、タイプ３の軽石（最大径3.1㎜）や火山ガラスが含まれている。これらはとくに試料３に多い。

調査区南壁（X15－ Y21杭南約2.5m）では、いずれの試料からもタイプ１の軽石（最大径7.1㎜）や軽石型ガラスが比較的多く検出された。さらに、これらの試料には、タイプ２の軽石型ガラスも少量含まれている。

調査区東壁（X21－ Y16杭北約2.5m）の試料１には、タイプ３の軽石（最大径2.0㎜）や軽石型ガラスが比較的多く含まれている。火山ガラスとしては、ほかにタイプ２の軽石型ガラスも少量認められる。調査区北東部（H－20）や、調査区北壁の試料２でも、同じようにタイプ３の軽石や軽石型ガラスが含まれている。とくに調査区北東部（H －20）の試料２や、調査区北壁の試料２には、多くのタイプ３の軽石型ガラスが含まれている。

４．屈折率測定

（１）測定試料と測定方法

テフラ検出分析の対象試料のうち、タイプ３のテフラ粒子が多く検出された調査区南東部（事務所建物裏）の試料３に含まれる淡褐色の軽石のガラス部について、屈折率（n）の測定を実施した。測定には、温度変化型屈

折率測定装置（古澤地質社製 MAIOT）を使用した。

（２）測定結果

屈折率測定の結果を表２に示す。調査区南東部（事務所建物裏）の試料３に含まれる火山ガラス（31粒子）の屈折率（n）は、1.526－1.533である。

５．まとめ

テフラ検出分析で認められた３種類のテフラ粒子のうち、タイプ１については、その特徴から４世紀初頭に浅間火山から噴出したと推定されている浅間Ｃ軽石（As － C，荒牧，1968，新井，1979，友廣，1988，若狭，2000）に由来すると考えられる。タイプ２については、その岩相から、古墳時代に榛名火山から噴出したテフラに由来すると考えられる。可能性があるテフラとしては、５世紀の榛名有馬テフラ（Hr － AA，町田ほか，1984)、６世紀初頭の榛名二ツ岳渋川テフラ（Hr － FA，新井，1979，坂口，1986，早田，1989，町田・新井，1992)、６世紀中葉の榛名二ツ岳伊香保テフラ（Hr － FP，新井，1962，坂口，1986，早田，1989，町田・新井，1992）がある。タイプ３については、その岩相や火山ガラスの屈折率から、1108（天仁元）年に浅間火山から噴出した浅間Ｂテフラ（As － B，荒牧，1968，新井，1979）に由来すると考えられる。

次に、これらテフラと土層や遺構との関係を考えてみる。調査区南東部（事務所建物裏）では、最下位の褐色砂層の最上部（試料27）付近に As － C の降灰層準があると考えられよう。試料21が採取された黄灰色砂層については、古墳時代の榛名火山起源の比較的粗粒の軽石が含まれていること、その下位の試料23に榛名火山起源らしい細粒の白色軽石型ガラスが含まれていることから、少なくとも Hr － AA より上位にあり、Hr － FA 降灰後に堆積した可能性が高いらしい。

この断面で目立つ、その上位の比較的厚い砂礫層の層位については、その下位の土層に粗粒の白色軽石が含まれていること、そして上位の土層中とくに試料３付近に As － B の降灰層準があるようにみえることから、Hr － FA より上位で、As － B より下位にあると考えられる。発掘調査担当者により、本堆積物について818（弘仁９）年地震に伴う斜面崩壊に起因する洪水堆積物（能登ほか，1991）の可能性が考えられているようであるが、層位的には矛盾しない。

調査区南壁（X15－ Y21杭南約2.5m）では、調査区南東部（事務所建物裏）の褐色砂層の上位にあると考えられる堆積物中に As － C 起源のテフラ粒子が比較的多く含まれており、その下位の褐色砂層中に As － C の降灰層準があることを示唆している。ここでも、Hr － AA 起源と思われる細粒の白色軽石型ガラスを含む土層のすぐ上位に、洪水（あるいは泥流など）に関係すると考えられる黄褐色砂質土が形成されている。

調査区東壁（X21－ Y16杭北約2.5m）では、試料１に As － B に由来するテフラ粒子が比較的多く含まれている。したがって、淘汰の良い灰白色砂層や、その上位の凹凸は、As － B より上位にあると推定される。実際の As － B の降灰層準については、次の調査区北東部（H －20）での資料が参考になる。

調査区北東部（H －20）では、土層の層相を合わせて考慮すると、試料２付近に As － B の降灰層準があるらしい。このことは、その上位に板碑が検出されて中世と考えられている溝のあること、さらに上位に中世と推定されている黄褐色土が形成されていることと矛盾しない。なお、試料２が採取された土層が最終的に硬化した時期については、As － B の一次堆積層が認められないことなども合わせると、As － B 降灰後と考えられよう。また、畑作あるいは洪水後の復旧痕の可能性が考えられる凹凸の層位についても As － B より上位で、遺構との関係から中世以降と推定される。

調査区北壁では、少なくとも試料２に As － B が含まれており、ここも As － B 降灰後に洪水で覆われたことが示されている。

６．まとめ

地質調査による土層観察とテフラ検出分析さらに屈折率測定の結果を総合すると、浅間Ｃ軽石（As － C，４世紀初頭）のほか、榛名有馬テフラ（Hr － AA，５世紀）、榛名二ツ岳渋川テフラ（Hr － FA，６世紀初頭）、榛名二ツ岳伊香保テフラ（Hr － FP，６世紀中葉）の古墳時代の榛名火山起源のテフラ、浅間Ｂテフラ（As － B，1108年）などに由来するテフラ粒子が検出された。本遺跡では、As － Ｃの下位、Hr － AA と As － Ｂの間で２層準、As － Ｂの上位の少なくとも２層準の合計５層準以上で洪水堆積物が認められる。間欠的にではあるが、比較的最近まで洪水堆積物が本遺跡で認められることは、遺跡の立地や形成過程のみならず、防災上の観点からも興味深い。地形地質学の立場からは、今後、本遺跡の扇状地のおもな形成時期や、すでに検出されている洪水堆積物（とくに As － Ｂより上位）の層位や年代に関する調査分析を期待したい。

文献

新井房夫（1962）関東盆地北西部地域の第四紀編年．群馬大学紀要自然科学編，10，p. 1 －79.

新井房夫（1979）関東地方北西部の縄文時代以降の示標テフラ層．考古学ジャーナル，no.157，p.41－52.

荒牧重雄（1968）浅間火山の地質．地団研専報，no.45，65p.

町田　洋・新井房夫（1992）火山灰アトラス．東京大学出版会，276p.

町田　洋・新井房夫（2003）新編火山灰アトラス．東京大学出版会，336p.

町田　洋・新井房夫・小田静夫・遠藤邦彦・杉原重夫（1984）テフラと日本考古学－考古学研究に関係するテフラのカタログ－．古文化財編集委員会編「古文化財に関する保存化学と人文・自然科学」，p.865－928.

能登　健・内田憲治・早田　勉（1990）赤城火山南麓の歴史地震－弘仁九年の地震に伴い地形変化の調査と分析．信濃，42，p.755－772.

坂口　一（1986）榛名二ツ岳起源 FA・FP 層下の土師器と須恵器．群馬県教育委員会編「荒砥北原遺跡・今井神社古墳群・荒砥青柳遺跡」，p.103－119.

早田　勉（1989）６世紀における榛名火山の２回の噴火とその災害．第四紀研究，27，p.297－312.

友廣哲也（1988）古式土師器出現期の様相と浅間山Ｃ軽石．群馬県埋蔵文化財調査事業団編「群馬の考古学」，p.325－336.

若狭　徹（2000）群馬の弥生土器が終わるとき．かみつけの里博物館編「人が動く・土器も動く－古墳が成立する頃の土器の交流」，p.41－43.

表１　テフラ検出分析結果

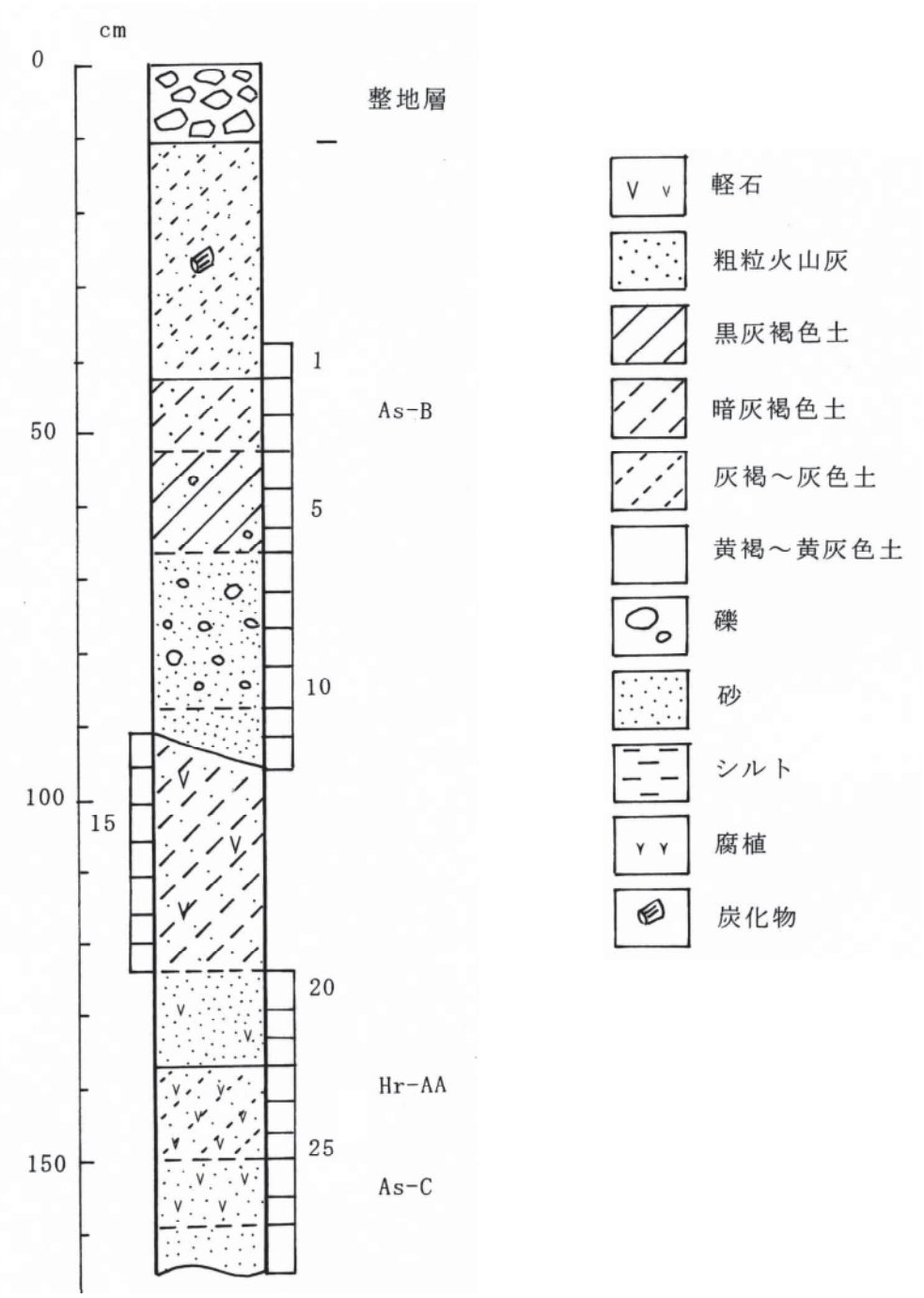
分析地点	試料	軽石・スコリア			火山ガラス		
		量	色調	最大径	量	形態	色調
調査区南東部（事務所建物裏）	3	++	淡褐	2.4	+++	pm	淡褐 > 白
	5	+	淡褐	3.1	++	pm	淡褐 > 白
	9	++	白	4.1	++	pm	白 , 灰白
	11	++	白 , 灰白	7.2, 3.9	++	pm	白 , 灰白
	13	++	灰白 > 白	4.8, 5.2	++	pm	灰白 , 白
	17	++	灰白 > 白	4.6, 2.9	++	pm	灰白 , 白
	21	++	灰白 > 白	5.3, 6.1	++	pm	灰白 , 白
	23	++	灰白	5.8	++	pm	灰白 > 白
	25	+++	灰白	9.7	++	pm	灰白
	27	+++	灰白	19.1	++	pm	灰白
	28	+	灰白	3.1	++	pm	灰白
調査区南壁（X15－ Y21杭南約2.5m）	1	++	灰白	5.9	++	pm	灰白 , 白
	3	++	灰白	7.1	++	pm	灰白 , 白
	5	++	灰白	9.3	++	pm	灰白 > 白
調査区東壁（X21－ Y16杭北約2.5m）	1	++	淡褐	2.0	++	pm	淡褐 , 白
調査区北東部（H －20）	1	+	淡褐	2.6	++	pm	淡褐 , 白
	2	++	淡褐	3.6	+++	pm	淡褐 , 白
調査区北壁	2	++	淡褐	3.7	+++	pm	淡褐

++++：とくに多い，+++：多い，++：中程度，+：少ない，－：認められない．最大径の単位は，mm.

表２　屈折率測定結果

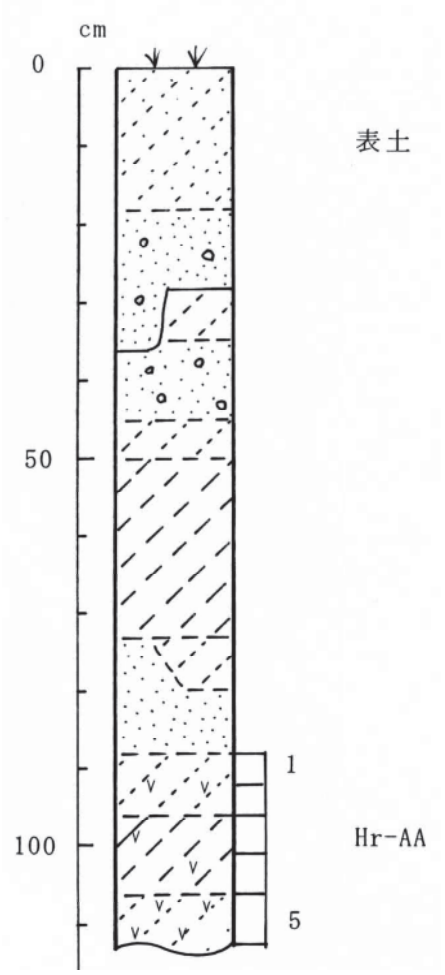
分析地点	試料	火山ガラスの屈折率（n）	測定粒子数
調査区南東部（事務所建物裏）	3	1.526－1.533	31

屈折率の測定は，温度変化型屈折率測定装置（MAIOT）による．

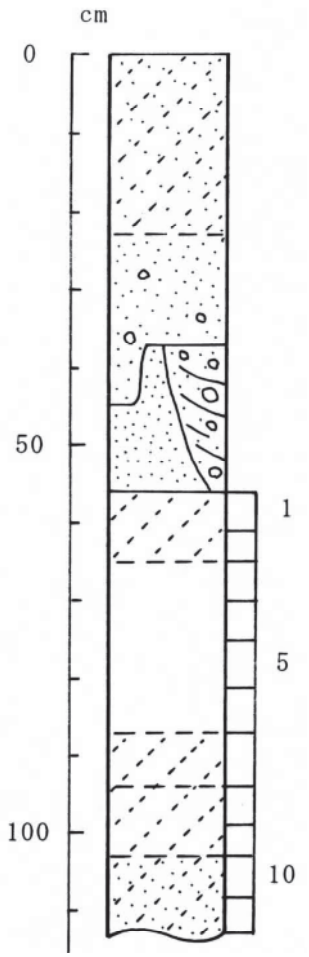


調査区南東部（事務所建物裏）

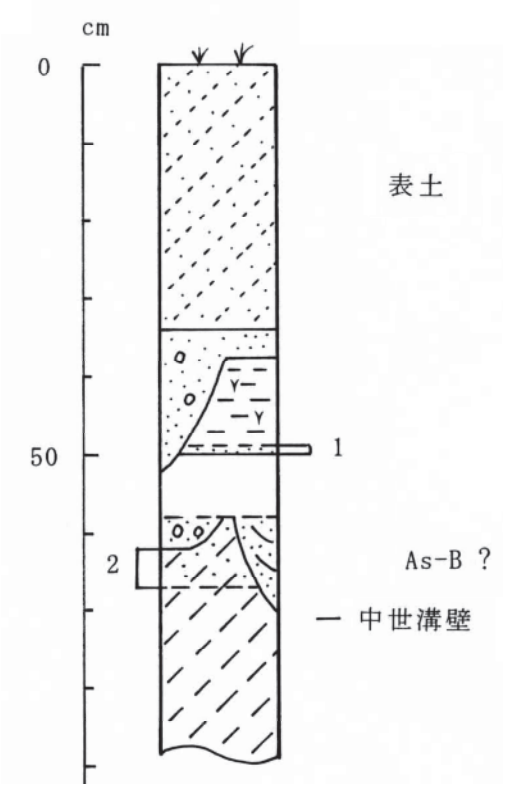
図１　南橘東原遺跡の土層柱状図（数字はテフラ分析の試料番号）



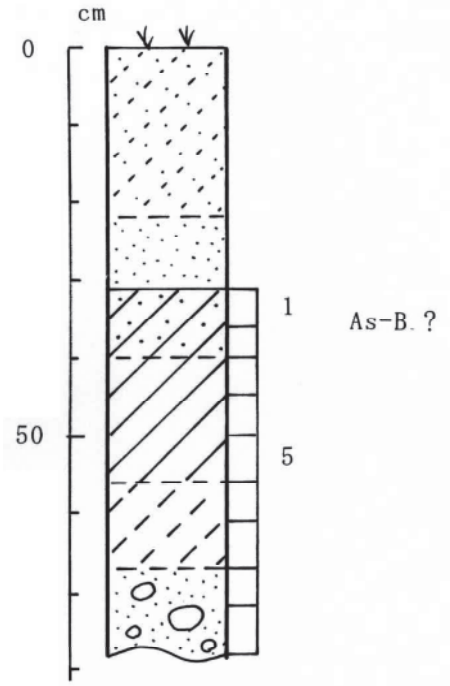
調査区南壁（X15-Y21杭南約2.5m）



調査区東壁（X21-Y16杭北約2.5m）



調査区北東部（H-20）



調査区北壁

Ⅵ まとめ

本遺跡の調査時に、隣接するお宅に挨拶回りで「こんな場所で遺跡があるわけがない。深く掘っても砂と石しか出てこなし、作物もろくなものできない土地だよ。」と言われたが、地味魍魎とした砂地の大地下に刻まれた先人の足跡が検出された。

遺跡のある広瀬川低地帯について、『南橘村誌』（注１）では、「白川（注２）が山麓面から低地へ続く日輪寺・青柳・竜蔵寺の地域においては河岸段丘の傾斜がゆるく、～ 従来、白川は氾濫が多くその流路も広範囲にわたっており、上流から運んだ土砂は山麓末端の低地、西は川端から東は上細井新田に到る地域に堆積して布状洪水の名残を止める山麓扇状地を形成している」としている。また、遺跡の分布から「旧利根川に相当する部分においては、当時の生活には不適当であり、直接人間の生活の舞台にならなかった。または、直接生活していたが、利根川が数々変流し、その痕跡を流失してしまった」と記している。これらからも、本遺跡のある地域は、赤城白川と庚申川（日輪寺川）に挟まれ、幾度となく繰り返された洪水地帯とされ、人間の営みがあっても希薄な場所と考えられていた。さらに、広瀬川低地帯は旧利根川の流路域とされ、その編流は、赤城山麓の崖から前橋台地の崖下に移動し、桃ノ木川→広瀬川→現河川と流路を変えたと考えられ、広瀬川の河道は、中世の洪水によって現流に移ったとされることからも遺跡の存在は希薄な場所と考えられていた。

しかし、広瀬川低地帯にも発掘調査や確認されている遺跡がある。縄文時代の遺跡としては上沖町に所在する西新井遺跡（注３）がある。天地返しの際に後期から晩期の土器片等が表面採集された。古墳時代には、広瀬川低地帯にも古墳が造営され、桃ノ木川右岸の三俣、上沖・下沖・西片貝・東片貝地区の低地帯に分布した記載があり、現在でも東片貝町の片貝神社には前方後円墳の大塚古墳が現存する。

発掘調査された遺跡では、昭和58年に実施された青柳寄居遺跡（注４）で、FA 降下後かなりの時を経た後作田され、余り時を経ずに洪水のために耕作を放棄したとされる水田跡と10世紀後半から11世紀前葉の集落が検出された。昭和59年に調査された茶木田遺跡（注５）では、８世紀前半ら11世紀前後の集落跡と中世の遺構を検出している。さらに、本遺跡の西方で桃ノ木川を挟んで直線距離500m に所在する宇敷木材遺跡では、平安時代の土器が出土している。また、若宮町の群馬大学付属小学校校舎改築の際に土師器、三俣町の上毛電気鉄道三俣駅付近の畑地から土師器、東片貝町の片貝神社北東地帯の土地改良の際に粘土層の下部からも土師器が出土したとされ、広瀬川低地帯でも遺跡の存在することが裏付けされていた。

近年では、平成17年から発掘調査が行われている田口下田尻・田口上田尻遺跡（注６）も、従来利根川の氾濫下と考えられていたため、古代の遺跡が発見されるとは予想されていない場所であったが、古墳時代～平安時代の竪穴住居跡，天明３年の浅間山噴火に伴い発生した泥流の復旧痕などが検出されている。これらの事例から、旧利根川によって形成された微高地や自然堤防上に居住空間、後背湿地に生産域が存在した可能性を示唆していると考えられる。

今回の調査で本遺跡からは52軒の竪穴住居跡が検出され、６世紀中葉から９世紀後葉の300年間以上継続した集落跡であることが解明されたが、試掘調査結果からも更に集落の広がりが想定される。

竪穴住居跡の中でも６世紀後半に位置付けされるＨ－31号住居跡で検出された石組の竈が注目される。大量の川原石によって煙道部が構築され、その基部は扁平な円礫を使用して恰も古墳時代の竪穴式古墳に見られる石棺墓の形状に類似している。さらに、住居跡の規模からも際立つ存在であり、村の首長の家とも考えられる。さらに中世から近世に到る遺跡であることが判明したが、土層とテフラの分析結果からも洪水堆積物が認められることから、本遺跡での災害を遡ってみたい。

本遺跡の東方500mを南北に流下する赤城白川は、富士見村を流下し南橘町地内に至り、上細井町と青柳町の

境界に沿って南東方向に流れ、北代田町で桃ノ木川と合流する。現在は枯渇した川底をさらし、天井川となっていますが、暴れ川の代名詞となったのは、戦災の復興が進まず混沌とした頃の昭和22年９月15日に関東一円を襲ったカスリーン台風（注７）です。県下の死亡行方不明者は592名に及び、特に赤城山で日雨量440ミリを超える集中豪雨に見舞われ、赤城白川の富士見村、荒砥川の旧大胡町などで176名の犠牲者を出し、土石流の恐怖を伝えている。この台風により、当地区も日輪寺・川端を流下する庚申川、赤城白川等の堤防決壊で田畑が埋没し、稲作などの埋没被害は甚大なるものとなった。この台風のほかにも、近年の水害史に庚申川・利根川・赤城白川等による氾濫の惨状が記され、当地域が洪水地帯であったことが伺われる。

調査区で確認された江戸時代の洪水の痕跡は、遺跡南方で検出された流水路が該当する。北東方向から南西方向に白砂が枝状気味に検出され、白砂を取り除くと円礫が充填された甌穴や波板状の痕跡が見られ、激しい水の流れを連想された。この流路方向から赤城白川の氾濫によるものと推察され、砂礫に混じって出土した煙管の雁首、京焼系と考えられる茶碗から18世紀代に起こったと考えられる。

さらに、江戸時代の天明３年（1783）に起こった浅間山の噴火は「浅間焼け」と呼ばれ、この噴火によって生じた土石流は吾妻川に入り泥流と化し、利根川に流入した。利根川を流下する際には、両岸に甚大な被害を及ぼしながら、その一部は旧利根川の流路であった広瀬川低地帯に流れ込んだ。現在の田口・荒牧・下小出・上小出・川原地区はいずれも田畑泥入となり、桃ノ木川も広瀬川も焼石泥で埋まり、干川（注８）になったとしている。この田畑を埋め尽くした状況から農耕を再興するために行われたのが田口下田尻遺跡・田口上田尻遺跡で検出された泥流復旧痕である。泥流復旧痕は堆積した泥流を集め、耕作面に溝を掘ってその中に泥砂を入れ耕作土を上に戻すための掘り込みで、本遺跡でも同様の復旧痕が調査区南壁面で確認されたことから、桃ノ木川から溢れた泥流で田畑が埋没した可能性が考えられる。復旧痕は、幅40cm 前後の溝を15～30cm の間隔で幾筋も並走させて掘り込んでいる。掘り込み内には直径５cm 程度の円礫を含む黄灰色の泥砂が充填させられていた。生きる糧としての農耕を再興するために必死で泥流と葛藤する姿が彷彿される。

平安時代では、天仁元年（1108）の浅間山噴火に伴う軽石の堆積が認められた。この噴火によって堆積した火山噴出物（軽石・テフラ）は前橋で10～20cm に及び、当時はこの三倍の厚さで堆積（注９）したとされている。この結果、田畑や用水路は埋没し、北関東一帯の収穫は皆無になったと想定され、当然、本地域の被害も甚大であったと推察される。

さらに、弘仁九年（818）七月に関東地方一帯に発生した地震により、山崩れが発生し、その土砂が泥流となって水田や用水路を埋没されたと「類聚国史」（注10）に記載されている。この事例は赤城南麓（注11）で多く検出され、泥流で埋没した水田跡や水路、地震に伴う地割れ、噴砂等がある。本遺跡でもＢ軽石とＦＡの間にそれらしき砂礫層を確認したが、本堆積物についての分析結果では、層位的には矛盾しないとし、弘仁九年の地震に起因する泥流と明言はされなかった。この泥流層のほかにＨ－39号住居跡の南西方向で地割れが確認されたが、同時期のものかは今後の事例の増加に期待したい。この泥流の堆積後に、Ｗ－10号溝やＨ－10号住居跡が構築されていることから、さほど時が経過せずに、災害から立ち上がる姿が見られる。

古墳時代には５世紀に発生した榛名山噴火に伴う堆積物である「榛名有馬火山灰（Hr － AA）」の堆積物、６世紀初頭の「榛名二ツ岳渋川テフラ（Hr － FA）」、６世紀中葉の「榛名二ツ岳伊香保テフラ（Hr － FP）」の三回の噴火を起こしている。本遺跡で確認された集落の始まりは、6世紀中葉以降と考えられるので、三度目の噴火後と考えられる。さらに、６世紀後葉には、新天地を求め多くの人々が生活の拠点とした開拓集落の可能性が考えられるが、その生産基盤は判明していない。水稲農耕であれば青柳寄居遺跡で検出された水田の様に広瀬川低地帯に堆積した粘質土地帯、さらに赤城山麓に樹枝状に伸びる開析谷にその地を求め、水田漁労の場を桃ノ木・広瀬川や利根川に求めたと推察される。時代的には黒井峯遺跡（注12）で考えられている稲作と畠の複合農業も推察される。

遺跡での土層とテフラの分析結果からは、As－Cの下位、Hr－AAとAs－B間で２層、As－Bの上位で少なくとも２層の合計５層以上で洪水堆積物を認められるとし、間欠的にではあるが、比較的最近の洪水堆積物が本遺跡で認められるとしている。

本遺跡は、検出された竪穴住居跡から６世紀中葉から９世紀中葉の300年に続く継続した集落跡であり、その後の中世から近世に至るまでの生活の営みの一部を垣間見ることができたが、繰り返された災害との遭遇し、そして復興への足跡の一部を読み取ることができたが、詳細は、今後の課題として資料の増加に判断を委ねたい。

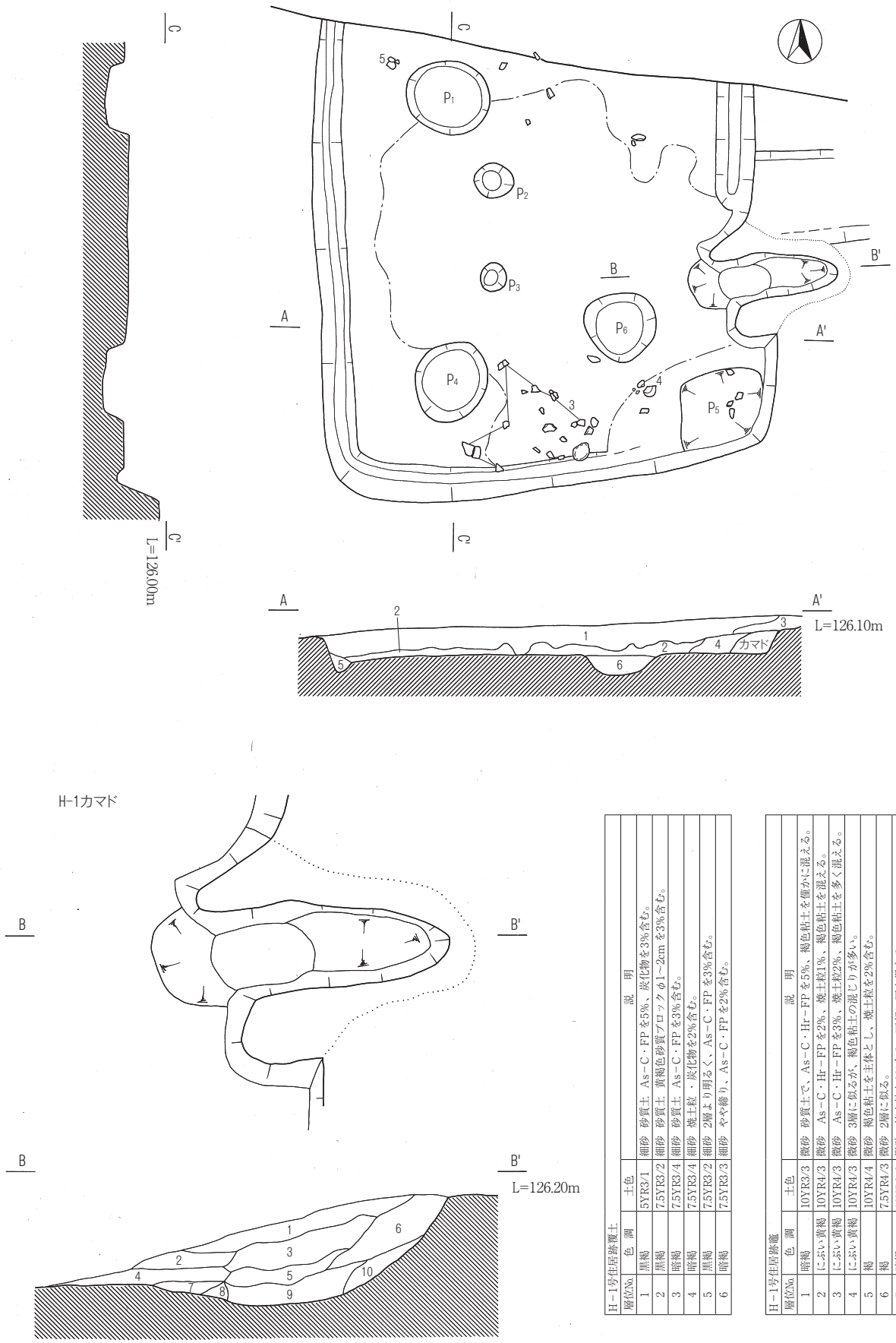
参考文献

注１）　南橘村誌 昭和30年 群馬県勢多郡南橘村役場
注２）　白川は、赤城白川のことで、榛名にも白川があるため、山名を付して榛名白川･赤城白川と呼称している。
注３）　前橋市上沖町西新井遺跡の表面採集資料（上）設楽博巳 群馬考古通信 第９号 1984年
注４）　青柳寄居遺跡発掘調査報告書 昭和58年度 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
注５）　茶木田遺跡―桂萱公民館移転・新築に伴う埋蔵文化財確認調査－1985 前橋市教育委員会
注６）　田口下田尻遺跡・田口上田尻遺跡現地説明会資料 平成18年 群馬県埋蔵文化財調査事業団
注７）　カスリーン台風から50年 忘れられぬあの日 1998年 群馬県
注８）『前橋市史』第三巻 天明三年浅間山噴火災害「前橋藩日記」九月二十五日の条
注９）　火山考古学 新井房夫編 古今書院
注10）『類聚国史』巻百七十一、災異部に記載されている弘仁九年七月の地震がある。
注11）　赤城山麓の歴史地震―弘仁九年に派生した地震とその災害－平成３年 新里村教育委員会
注12）　日本の古代遺跡を探る 4 黒井峯遺跡　1994　読売新聞社

S=1:250

南橘東原遺跡　全体図

第４図　南橘東原遺跡全体図



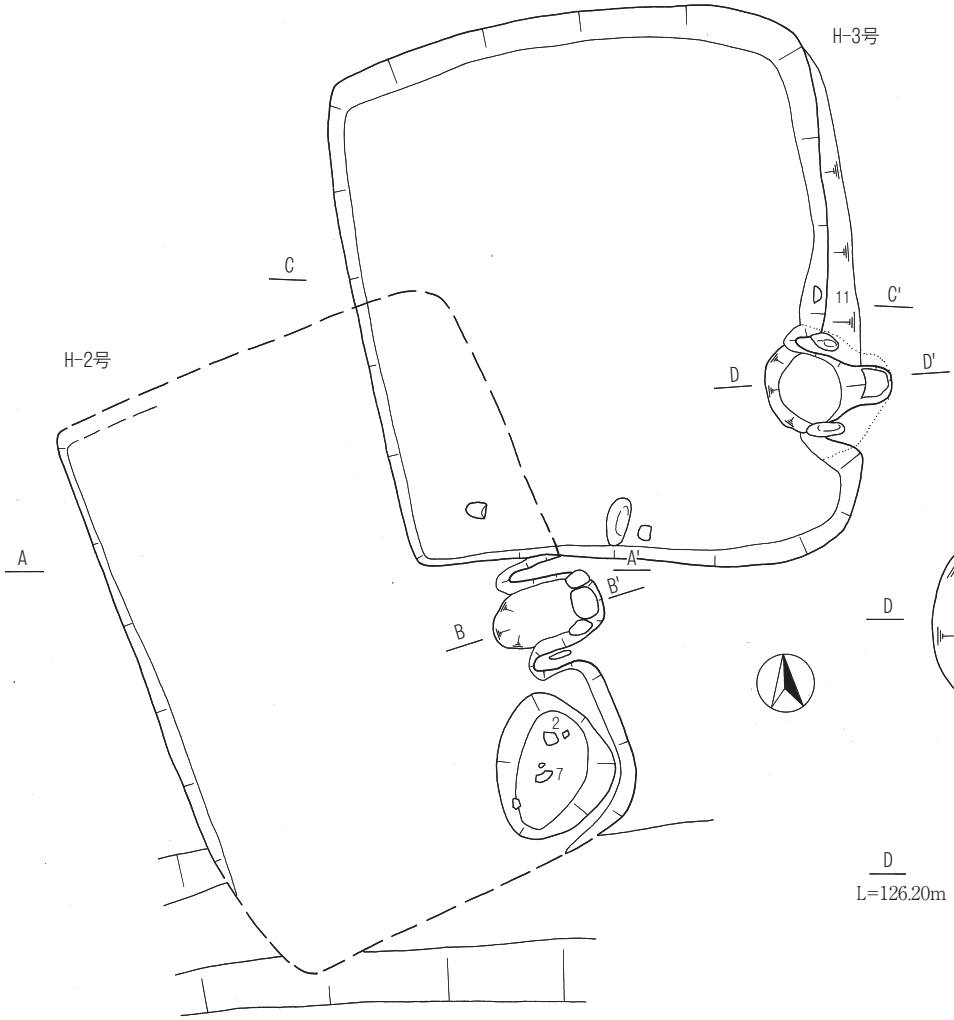
H－1号住居跡覆土

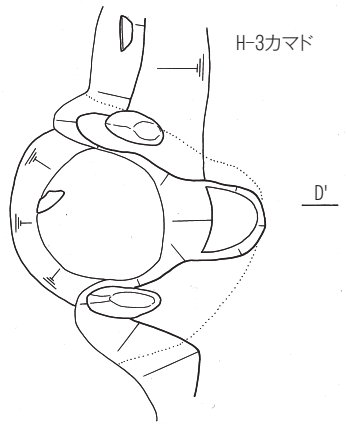
層位No.	色調	土色	説明
1	黒褐	5YR3/1	細砂 砂質土 As－C・FP を5%、炭化物を3%含む。
2	黒褐	7.5YR3/2	細砂 砂質土 黄褐色砂質ブロック φ1～2cm を3%含む。
3	暗褐	7.5YR3/4	細砂 砂質土 As－C・FP を3%含む。
4	暗褐	7.5YR3/4	細砂 焼土粒・炭化物を2%含む。
5	黒褐	7.5YR3/2	細砂 2層より明るく、As－C・FP を3%含む。
6	暗褐	7.5YR3/3	細砂 やや締り、As－C・FP を2%含む。

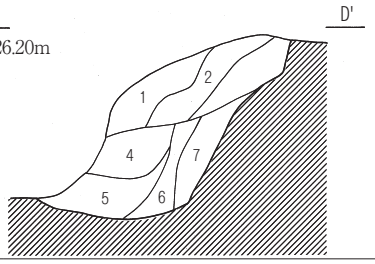
H－1号住居跡竈

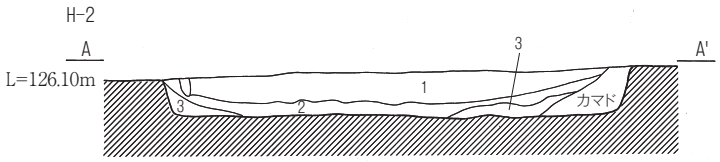
層位No.	色調	土色	説明
1	暗褐	10YR3/3	微砂 砂質土で、As－C・Hr－FP を5%、褐色粘土を僅かに混える。
2	にぶい黄褐	10YR4/3	微砂 As－C・Hr－FP を2%、焼土粒1%、褐色粘土を混える。
3	にぶい黄褐	10YR4/3	微砂 As－C・Hr－FP を3%、焼土粒2%、褐色粘土を多く混える。
4	にぶい黄褐	10YR4/3	微砂 3層に似るが、褐色粘土の混じりが多い。
5	褐	10YR4/4	微砂 褐色粘土を主体とし、焼土粒を2%含む。
6	褐	7.5YR4/3	微砂 2層に似る。
7	暗褐	10YR3/3	微砂 焼土粒を2%含み、下部に灰を混える。
8	暗褐	10YR3/3	微砂 砂質土で、褐色粘土を混える。
9	褐	7.5YR3/4	微砂 褐色粘土を混える。
10	にぶい黄褐	10YR4/3	微砂 褐色粘土と砂質土の混合土で、焼土粒を3%含む。

第５図　１号住居跡

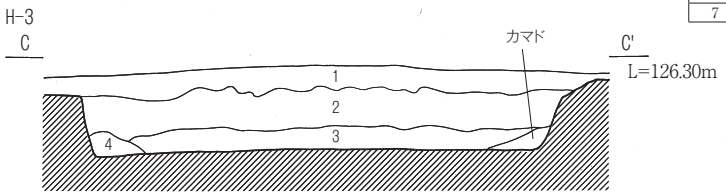


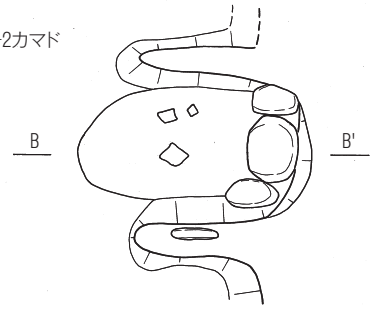






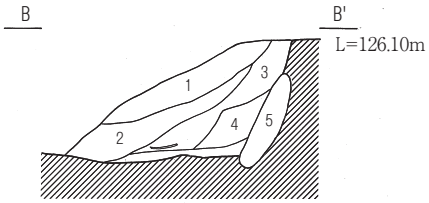
H－3号住居跡竈			
層位No.	色　調	土色	説　明
1	にぶい黄褐	10YR4/3	微砂　砂質土　As－C・Hr－FP を3%、焼土粒を1%含む。
2	にぶい黄褐	10YR4/3	微砂　褐色粘土混じる。焼土粒を3%含む。
3	褐	7.5YR4/3	微砂　褐色粘土を主体とし、焼土粒・ブロックを5%含む。
4	暗褐	10YR3/3	微砂　砂質土　As－C・Hr－FP を5%、焼土粒を1%含む。
5	暗褐	7.5YR3/3	微砂　砂質土と褐色粘土の混合土で、焼土粒を2%含む。
6	褐	7.5YR4/3	微砂　褐色粘土混じる。焼土粒を5%含む。
7	褐	7.5YR4/3	微砂　褐色粘土混じる。焼土粒・ブロックφ5mm を10%含む。





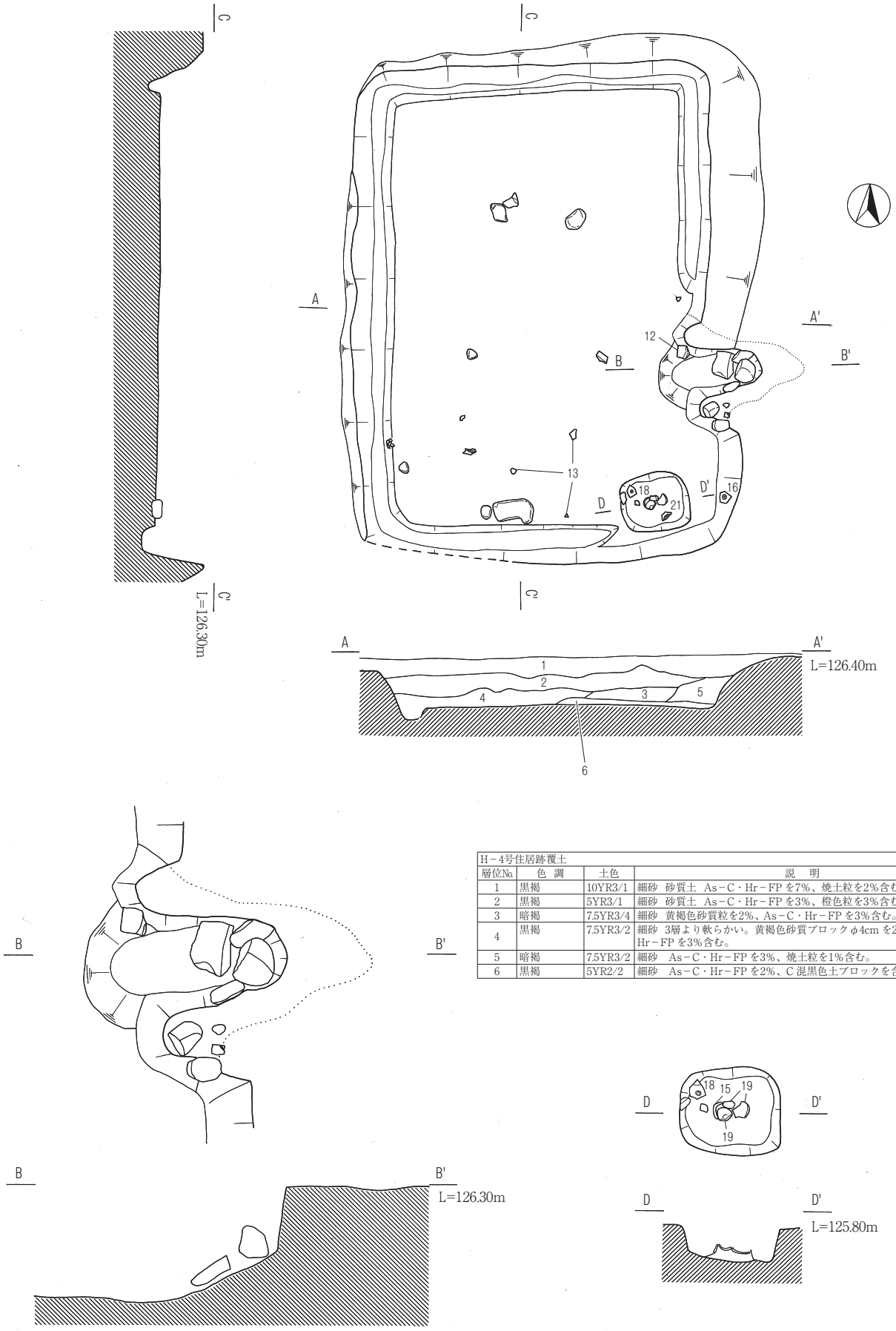
H－2号住居跡覆土			
層位No.	色　調	土色	説　明
1	黒褐	5YR3/1	細砂　砂質土　As－C・FP を5%、焼土粒・炭化物を3%含む。
2	暗褐	10YR3/3	細砂　砂質土　黄褐色砂質ブロックφ2～4cm を3%含む。
3	暗褐	7.5YR3/4	細砂　As－C・FP を5%、焼土粒を2%含む。
4	褐	10YR4/4	細砂　砂質土　As－C･FP を2%､黄褐色砂質ブロックφ3cm を2%含む。

H－2号住居跡竈			
層位No.	色　調	土色	説　明
1	にぶい褐	10YR4/3	微砂　砂質土　褐色粘土僅かに混じる。As－C・Hr－FP を5%、焼土粒を1%含む。
2	褐	7.5YR4/3	微砂　褐色粘土混じる。As－C・Hr－FP を3%、焼土粒を3%含む。
3	褐	7.5YR4/4	微砂　褐色粘土混じる。焼土粒・ブロックφ5～10mm を5%含む。
4	にぶい褐	5YR4/4	微砂　褐色粘土混じる。焼土粒・ブロックφ5～10mm を20%含む。
5	暗褐	7.5YR3/4	微砂　灰混じる。焼土ブロックφ5mm を2%含む。



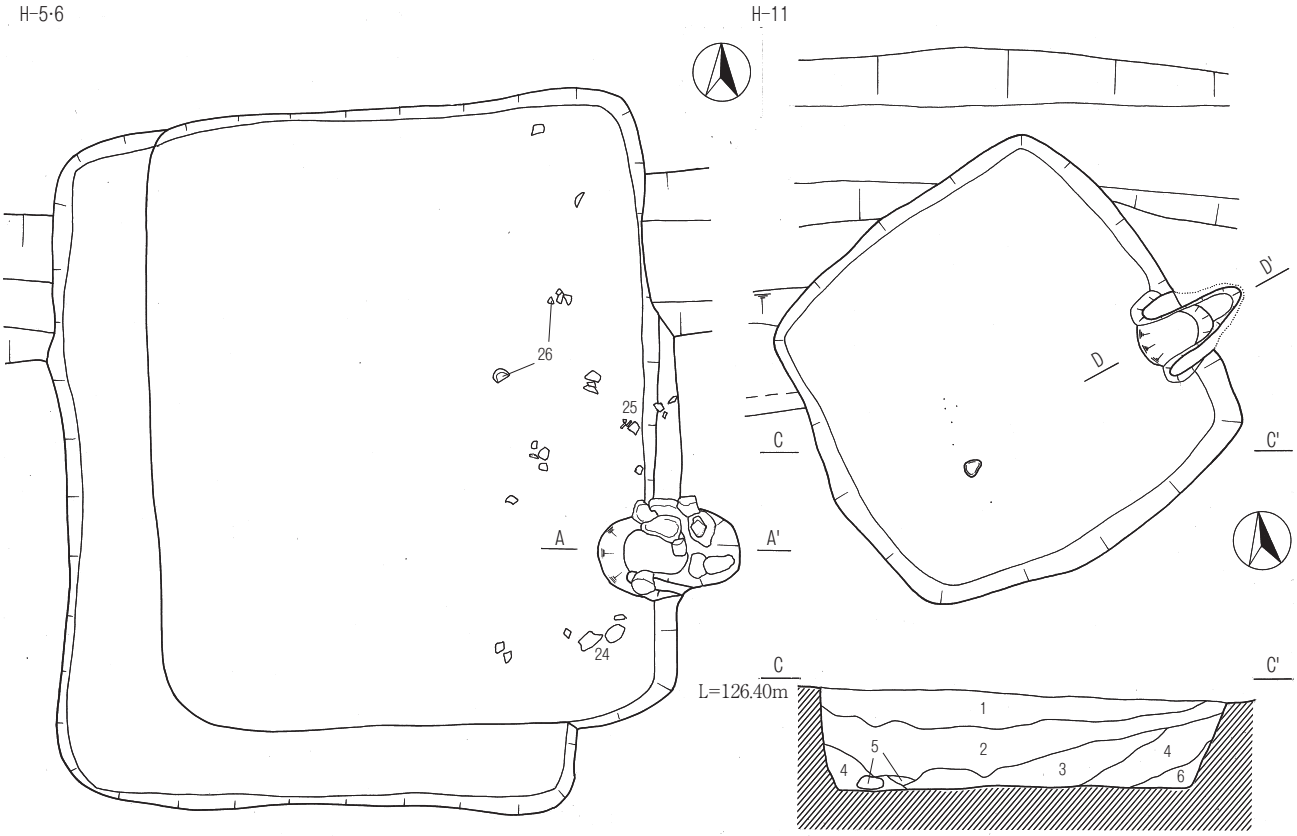
H-3号住居跡覆土			
層位No.	色　調	土色	説　明
1	黒褐	10YR3/1	細砂　砂質土　As－C・Hr－FP を5%、焼土粒を2%含む。
2	黒褐	5YR3/1	細砂　黄褐色砂質ブロックφ2cm を3%、As－C・Hr－FP を7%、焼土粒を3%含む。
3	黒褐	7.5YR3/2	細砂　黄褐色砂質ブロックφ2cm を2%、As－C･Hr－FP を2%を含む。
4	暗褐	10YR3/3	細砂　砂質土　As－C・Hr－FP を3%含む。

第６図　２・３号住居跡

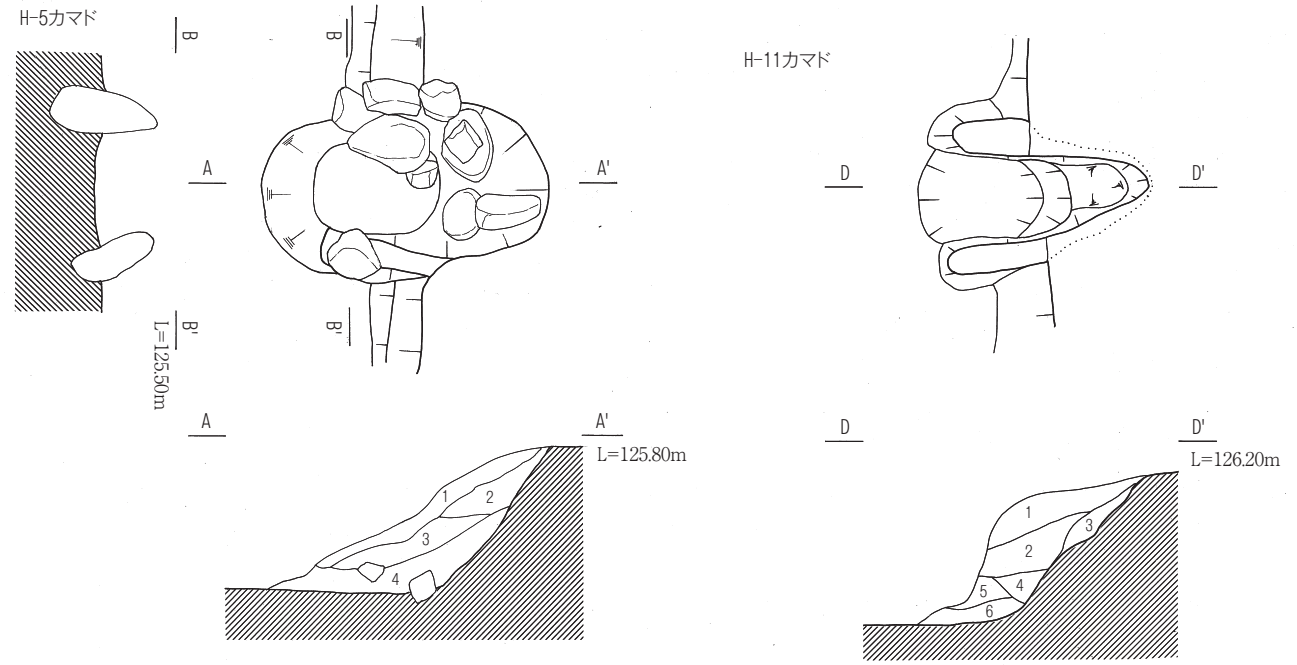


H－4号住居跡覆土			
層位No.	色　調	土色	説　明
1	黒褐	10YR3/1	細砂　砂質土　As－C・Hr－FP を7%、焼土粒を2%含む。
2	黒褐	5YR3/1	細砂　砂質土　As－C・Hr－FP を3%、橙色粒を3%含む。
3	暗褐	7.5YR3/4	細砂　黄褐色砂質粒を2%、As－C・Hr－FP を3%含む。
4	黒褐	7.5YR3/2	細砂　3層より軟らかい。黄褐色砂質ブロックφ4cm を2%、As－C・Hr－FP を3%含む。
5	暗褐	7.5YR3/2	細砂　As－C・Hr－FP を3%、焼土粒を1%含む。
6	黒褐	5YR2/2	細砂　As－C・Hr－FP を2%、C 混黒色土ブロックを含む。

第７図　４号住居跡



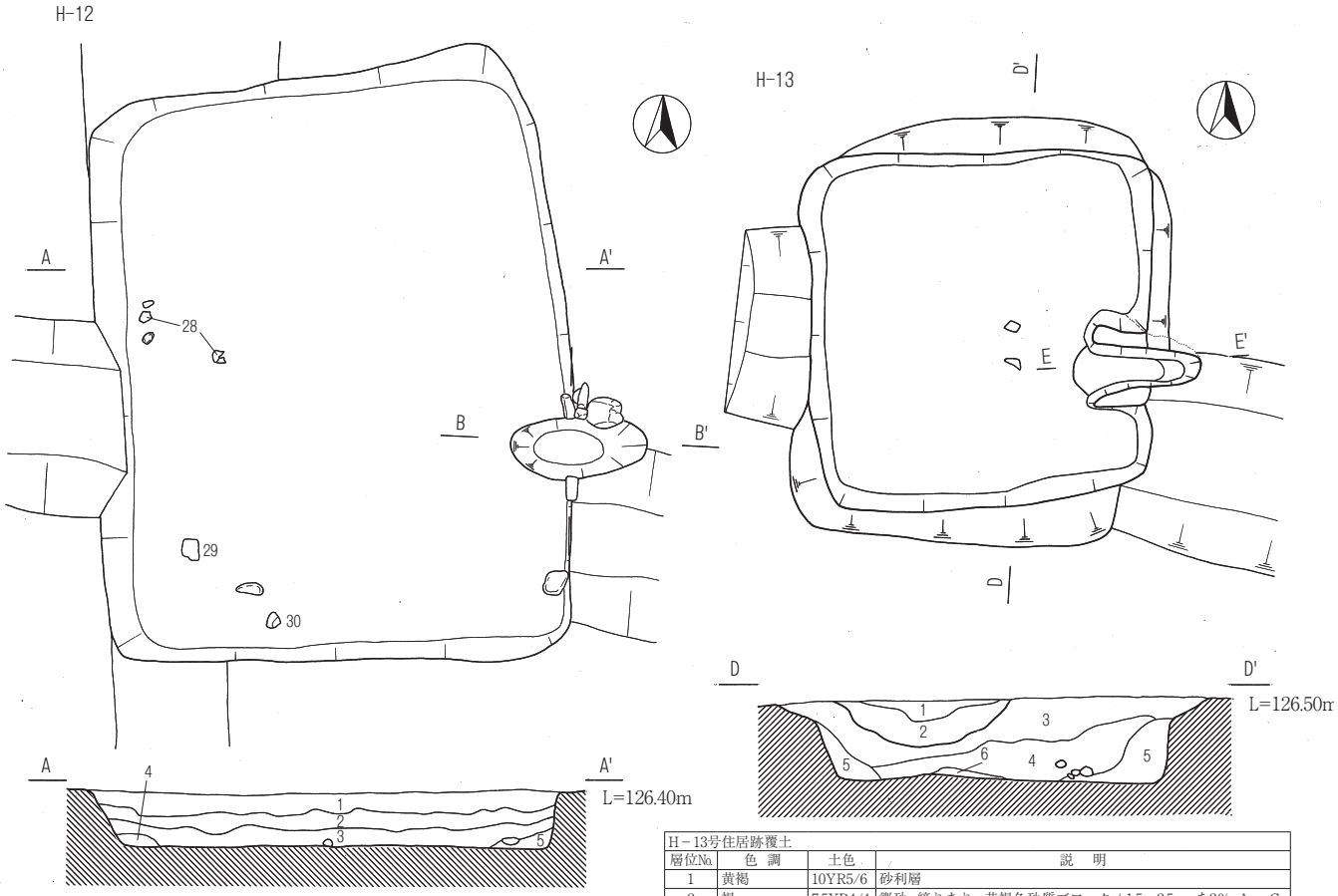
H－11号住居跡覆土			
層位No.	色　調	土色	説　明
1	黒褐	10YR3/1	細砂　砂質土　As－C・Hr－FP を7%含む。
2	黒褐	7.5YR3/1	細砂　As－C・Hr－FP を3%、炭化物φ0.5cm を1%含む。
3	黒褐	7.5YR3/2	細砂　黄褐色砂質ブロックφ1.5～4cm を2%含む。
4	暗褐	10YR3/3	細砂　サラサラした砂質土　As－C・Hr－FP を1%含む。
5	黒褐	10YR3/2	細砂　3層より明るい。焼土粒を2%含む。
6	暗褐	10YR3/3	細砂　黄褐色砂質ブロックφ2～4cm を2%含む。



H－5号住居跡竈			
層位No.	色　調	土色	説　明
1	にぶい褐	7.5YR5/4	微砂　砂質土　褐色粘土をブロック状に混える。As－C・Hr－FP を2%含む。
2	褐	7.5YR4/3	微砂　褐色粘土を混える。焼土粒を3%含む。
3	褐	7.5YR4/3	微砂　褐色粘土を混える。As－C・Hr－FP を3%、焼土粒を5%含む。
4	暗褐	7.5YR3/3	微砂　地山砂質土と褐色粘土の混合土。焼土ブロックφ10mm を2%含む。
5	暗褐	7.5YR3/4	微砂　褐色粘土を混える。焼土粒・ブロックφ5～20mm を15%含む。
6	暗褐	7.5YR3/4	微砂　褐色粘土を混える。焼土粒を5%、下部に僅かに灰を混える。

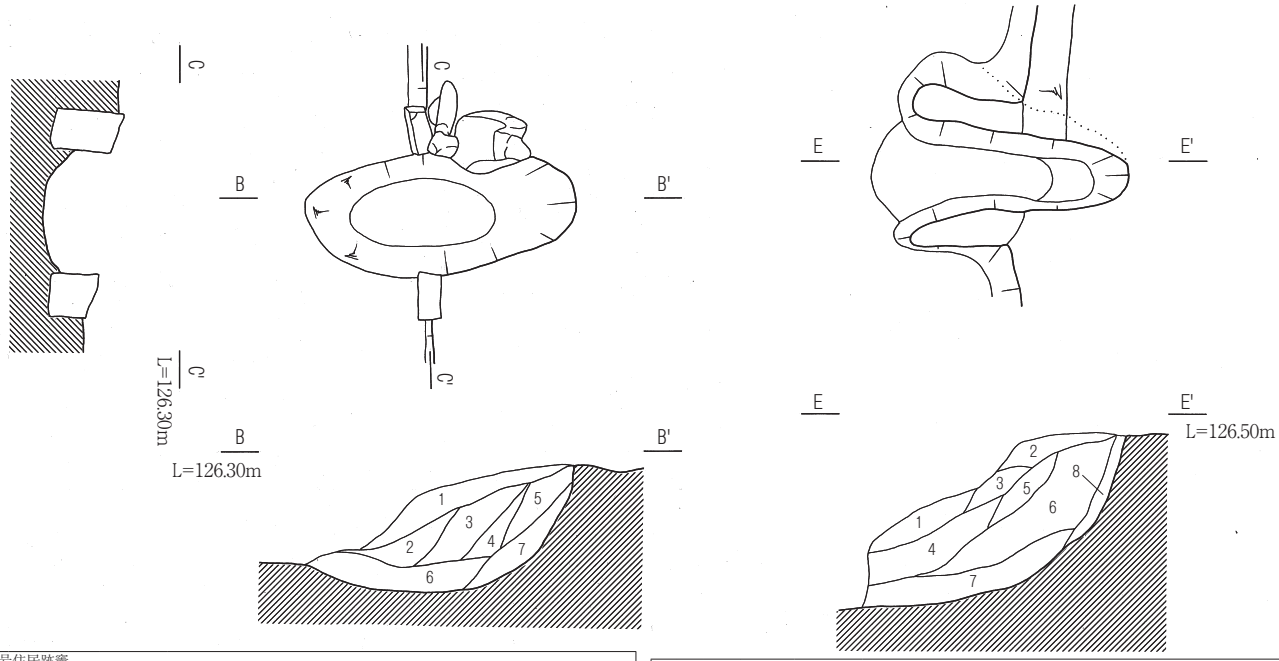
H－11号住居跡竈			
層位No.	色　調	土色	説　明
1	にぶい黄褐	10YR4/3	微砂　褐色粘土を少量含む。As－C・Hr－FP を3%含む。
2	褐	7.5YR4/3	微砂　褐色粘土を混える。焼土粒を3%含む。
3	褐	10YR4/4	微砂　褐色粘土を少量含む。
4	褐	7.5YR4/3	微砂　褐色粘土を混える。焼土ブロックφ5～10mm を15%含む。
5	黒褐	10YR3/4	微砂　褐色粘土を少量含む。焼土粒を2%含む。
6	黒褐	10YR3/2	微砂　焼土粒を2%含み、僅かに灰を混える。

第８図　５・６・11号住居跡



H－12号住居跡覆土			
層位No.	色　調	土色	説　明
1	黒褐	10YR3/1	細砂　As－C・Hr－FP を5%、φ0.3～0.8cm の砂利3%含む。
2	黒褐	5YR3/1	細砂　As－C・Hr－FP を5%、φ0.3～0.8cm の砂利2%含む。
3	暗褐	7.5YR3/3	細砂　炭化物粒を2%、φ2～5cm の小石1%含む。
4	黒色	10YR2/1	細砂　黒褐色ブロックを混え、As－C・Hr－FP を2%含む。
5	暗褐	10YR3/3	微砂　As－C・Hr－FP を2%含む。

H－13号住居跡覆土			
層位No.	色　調	土色	説　明
1	黄褐	10YR5/6	砂利層
2	褐	7.5YR4/4	微砂　締りあり。黄褐色砂質ブロックφ1.5～2.5cm を2%、As－C・Hr－FP を3%含む。
3	黒褐	10YR3/1	細砂　砂質土　As－C・Hr－FP を2%含む。
4	暗褐	10YR3/3	細砂　砂質土　As－C・Hr－FP を2%含む。
5	暗褐	10YR3/3	細砂　サラサラした砂質土　As－C・Hr－FP を2%含む。
6	暗褐	7.5YR3/4	微砂　締りあり。焼土ブロックφ25cm を2%、As－C・Hr－FP を3%含む。

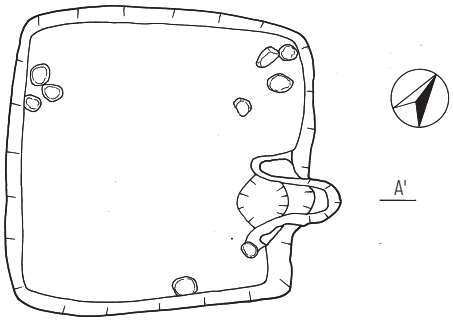


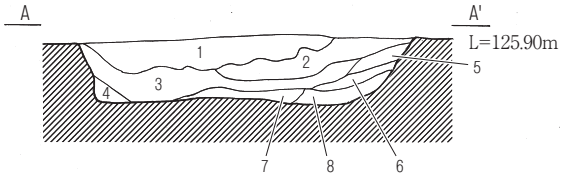
H－12号住居跡竈			
層位No.	色　調	土色	説　明
1	灰黄褐	10YR4/2	微砂　砂質土　As－C・Hr－FP を3%、焼土粒を1%含む。
2	にぶい黄褐	10YR4/3	微砂　褐色粘土を少量混える。 As－C・Hr－FP を2%、焼土粒を2%含む。
3	にぶい黄褐	10YR4/3	微砂　褐色粘土を混える。焼土ブロックφ5～10mm を5%含む。
4	にぶい黄褐	10YR4/3	微砂　褐色粘土を少量混える。　焼土粒を1%含む。
5	にぶい黄褐	10YR4/3	微砂　褐色粘土を少量混える。焼土ブロックφ10mm を2%含む。
6	暗褐	10YR3/3	細砂　灰を僅かに混える。 As－C・Hr－FP を5%、焼土粒を5%含む。
7	にぶい黄褐	10YR4/3	微砂　砂質土　焼土粒を3%含む。

H－13号住居跡竈			
層位No.	色　調	土色	説　明
1	にぶい黄褐	10YR4/3	微砂　褐色粘土を少量混える。As－C・Hr－FP を3%含む。
2	暗褐	10YR3/4	細砂　砂質土　As－C・Hr－FP を2%、焼土粒を1%含む。
3	褐	7.5YR4/4	微砂　褐色粘土を少量混える。焼土粒を1%含む。
4	褐	10YR4/4	微砂　褐色粘土を少量混える。　As－C・Hr－FP を5%、焼土粒を5%含む。
5	褐	7.5YR4/4	微砂　褐色粘土を少量混える。　焼土粒を10%含む。
6	にぶい赤褐	5YR4/4	微砂　褐色粘土を少量混える。　焼土粒・ブロックφ5～20mm を20%含む。
7	黒褐	7.5YR3/4	微砂　灰層　焼土粒・ブロックφ5mm を5%含む。
8	褐	10YR4/6	微砂　地山砂質土との混合土で、褐色粘土を少量混える。

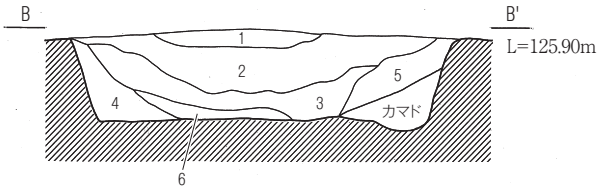
第９図　12・13号住居跡

H-14



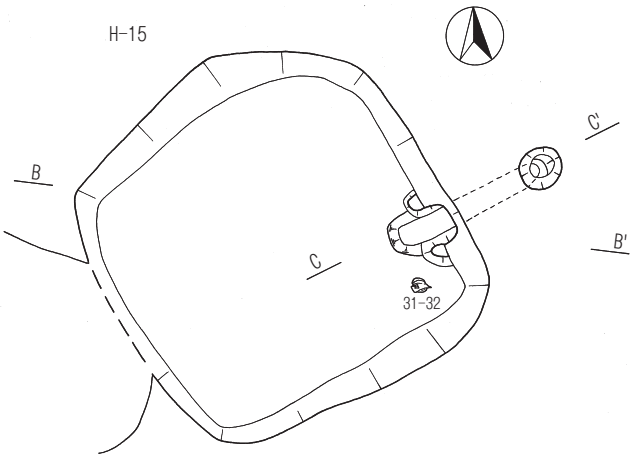


H－14号住居跡覆土			
層位No.	色　調	土色	説　明
1	暗褐	10YR3/3	細砂　黄褐色砂質ブロックφ1～1.5cm を2%、As－C･Hr－FP を5%含む。
2	褐	10YR4/4	細砂　黄褐色砂質ブロックφ1.5～2cm を7%、As－C･Hr－FP を3%含む。
3	黒褐	10YR3/2	細砂　黄褐色砂質ブロックφ1.5～2cm を2%、As－C･Hr－FP を3%含む。
4	にぶい黄褐	10YR4/3	細砂　黒褐色砂質土をブロック状に混える。
5	暗褐	7.5YR3/3	細砂　As－C・Hr－FP を3%、焼土粒を3%含む。
6	褐	7.5YR4/3	微砂　やや粘性有り。As－C・Hr－FP を2%含む。（竈覆土）
7	褐	7.5YR4/4	微砂　粘質土。（竈覆土）
8	暗赤褐	5YR3/4	微砂　粘質土。（竈覆土）

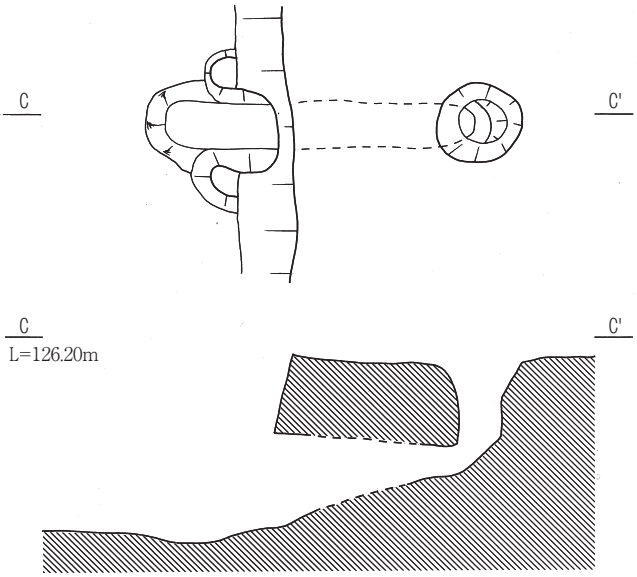


H－15号住居跡覆土			
層位No.	色　調	土色	説　明
1	黒褐	7.5YR3/1	細砂　焼土粒・カーボン粒を5%含む。
2	黒	10YR2/1	細砂　粘質有り。φ1.5～3cm の砂利、As－C・Hr－FP を7%、炭化物φ0.5～1.5cm を5%含む。
3	黒褐	10YR3/2	細砂　砂質土　As－C・Hr－FP を3%含む。
4	灰黄褐	10YR4/2	細砂　砂質土　As－C・Hr－FP を1%含む。
5	暗褐	7.5YR3/3	細砂　砂質土　As－C・Hr－FP を3%含む。
6	黒褐	10YR2/3	細砂　黄褐色砂質ブロックφ2～3cm を5%含む。

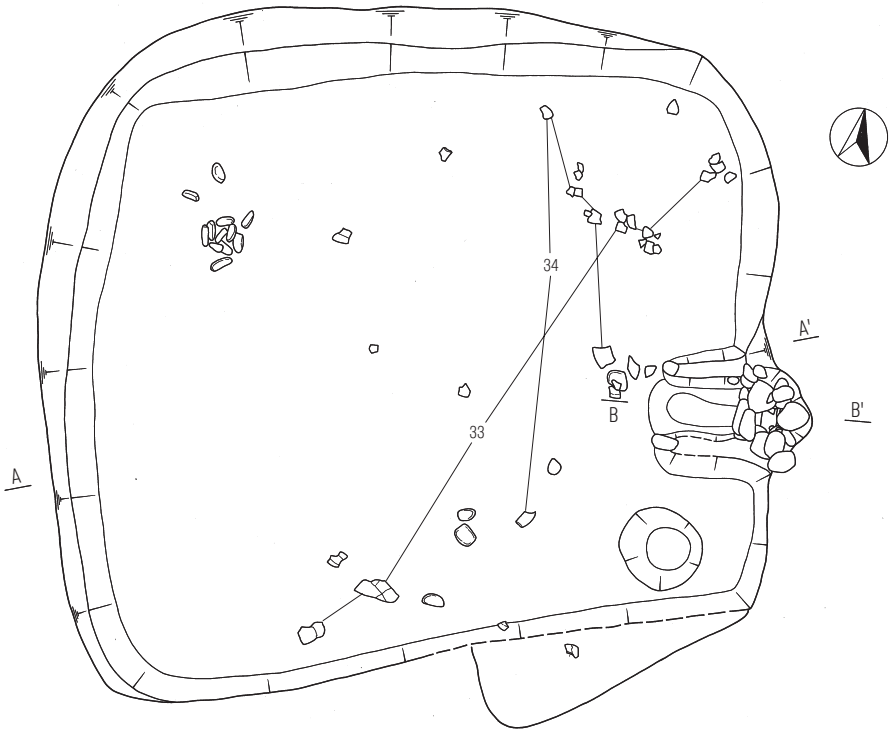
H-15



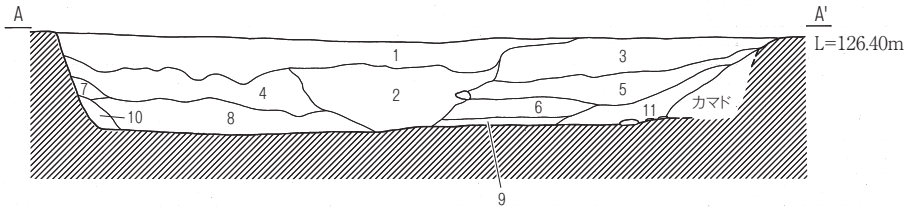
H-15カマド



H-16

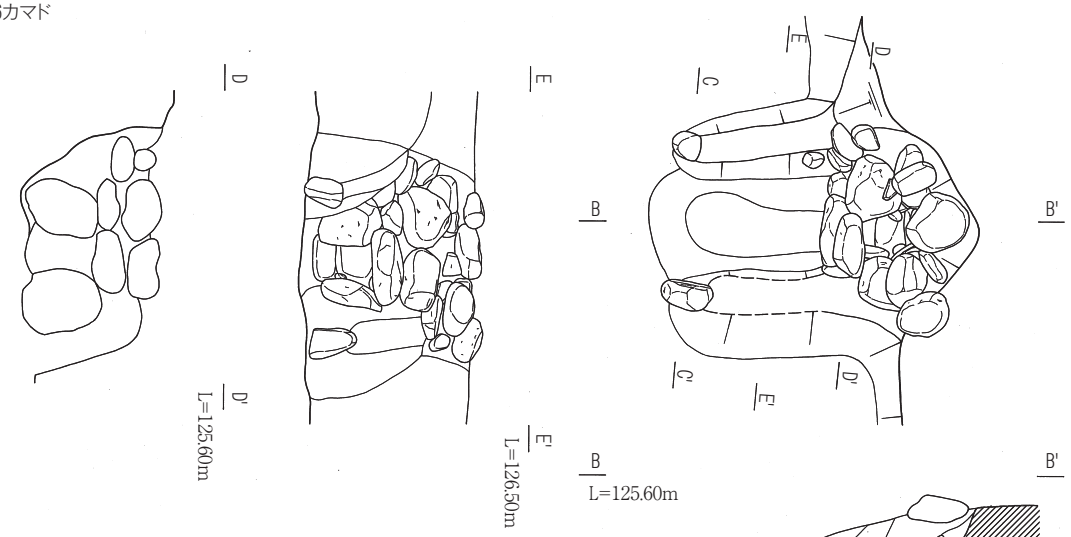


第10図　14・15・16号住居跡



H－16号住居跡覆土			
層位No.	色　調	土色	説　明
1	黒褐	10YR3/2	細　砂質土　ザラザラした土質　As－C・Hr－FP を3%含む。
2	黒褐	10YR3/3	細　砂質土　As－C・Hr－FP を5%含む。
3	暗褐	7.5YR3/4	細砂　砂質土　ザラザラした土質　As－C・Hr－FP を5%、焼土粒を2%含む。
4	黒褐	10YR3/3	細　砂質土　ザラザラした土質　As－C・Hr－FP を3%含む。
5	暗褐	7.5YR3/3	細　砂質土　黄褐色砂質ブロックφ1～1.5cm を2%含む。
6	暗褐	7.5YR3/3	細砂　黄褐色砂質ブロックφ1～1.5cm を2%、As－C・Hr－FP を3%含む。
7	黒褐	7.5YR3/1	細砂　As－C・Hr－FP を5%含む。
8	黒褐	10YR3/2	細砂　砂質土　黄褐色砂質ブロックφ2～3cm を2%含む。
9	褐	7.5YR4/4	細砂 砂質土　焼土粒を3%含む。
10	灰黄褐	10YR4/2	細砂 砂質土　ザラザラした土質
11	褐	7.5YR4/3	微砂　焼土粒φ0.5～1cm を3%含む。

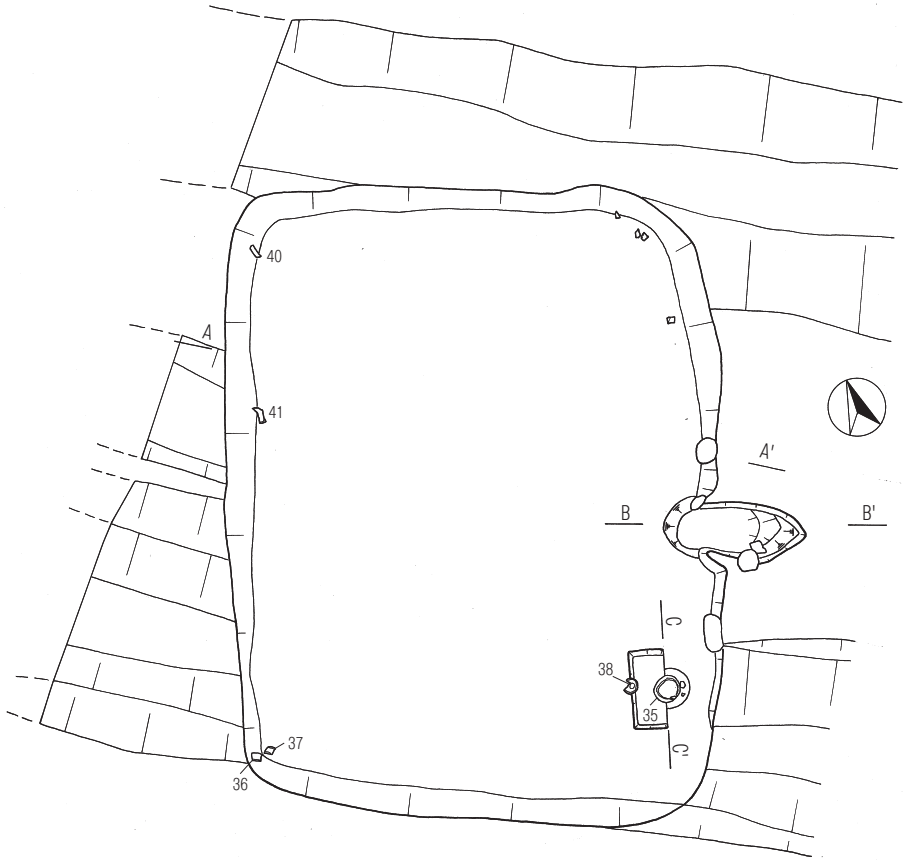
H-16カマド

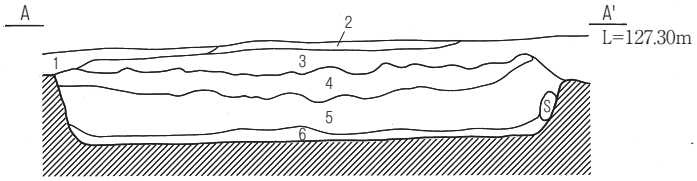


H－16号住居跡竈			
層位No.	色　調	土色	説　明
1	にぶい褐	7.5YR5/4	微砂　褐色粘土混える。As－C·Hr－FP を3%、焼土·炭化物を1%含む。
2	褐	7.5YR4/3	微砂　褐色粘土混える。As－C·Hr－FP を1%、焼土·炭化物を1%含む。
3	にぶい赤褐	5YR4/4	微砂　褐色粘土混える。As－C・Hr－FP を1%、焼土粒を3%含む。
4	褐	7.5YR4/3	微砂　褐色粘土混える。焼土ブロックを5%含む。
5	褐	7.5YR4/4	微砂　褐色粘土混える。焼土粒・ブロックを3%含む。
6	にぶい黄褐	10YR4/3	微砂　褐色粘土少量混える。焼土粒を1%含む。
7	褐	7.5YR4/3	微砂 灰若干混じる。焼土粒を2%含む。

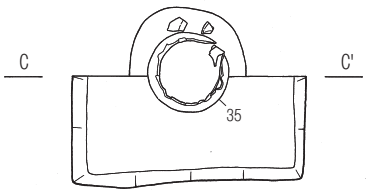
第11図　16号住居跡

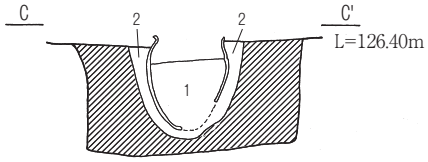
H-17



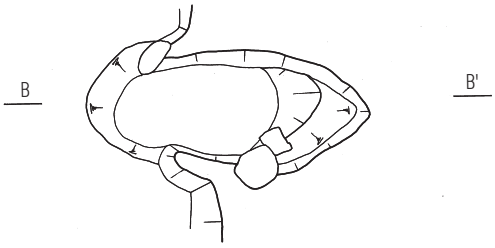


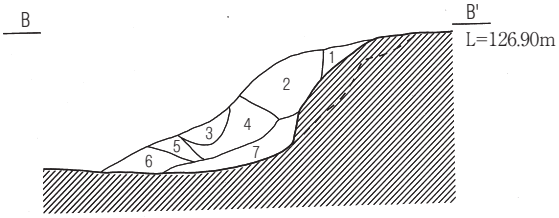
H-17埋設土器





H-17カマド



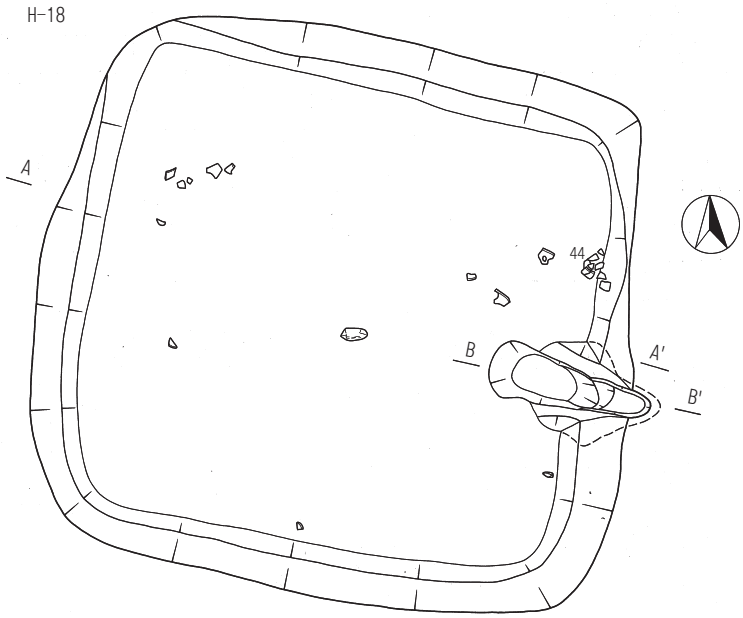


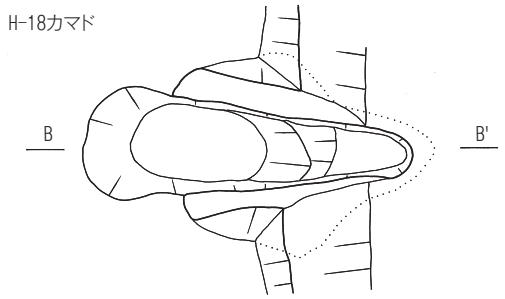
H－17号住居跡覆土			
層位No.	色　調	土色	説　明
1	褐	10YR4/6	細砂　ザラザラした砂質土　黄褐色砂質ブロックφ3cmを3%含む。(W－5覆土)
2	黒褐	10YR3/2	細砂　1の土質に似る。(W－5の覆土)
3	黒褐	7.5YR3/2	微砂　黄褐色砂質ブロックφ1.5～3cmを2%、As－C・Hr－FPを5%含む。
4	にぶい黄褐	10YR5/4	微砂　シルト質　黄褐色砂質ブロックφ0.5～1cmを2%、As－C・Hr－FPを3%含む。
5	暗褐	10YR3/3	細砂　ザラザラした砂質土　黄褐色砂質ブロックφ1cmを2%、As－C・
6	暗褐	10YR3/4	細砂　砂質土　黄褐色砂質ブロックφ1.5～2cmを2%、As－C・FPを3%、焼土粒・炭化物を2%含む。

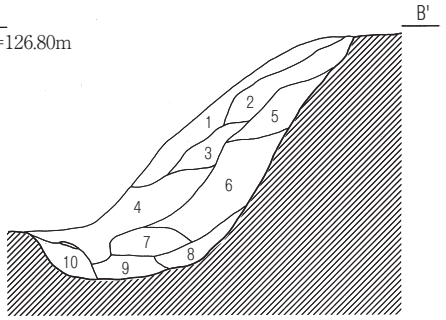
H－17号住居跡竈			
層位No.	色　調	土色	説　明
1	褐	7.5YR4/4	微砂　褐色粘土混える。As－C・Hr－FPを5%含む。
2	赤褐	5YR4/6	微砂　褐色粘土混える。焼土ブロックφ1cmを20%、を5%含む。
3	暗褐	7.5YR3/3	微砂　褐色粘土混える。焼土粒を5%、黒色ブロックを5%、As－C・Hr－FPを3%含む。
4	にぶい赤褐	5YR4/4	微砂　褐色粘土混える。焼土粒を10%、As－C・Hr－FPを3%含む。
5	暗赤褐	5RY3/3	微砂　褐色粘土混える。焼土粒を3%、As－C・Hr－FPを2%含む。
6	暗褐	7.5YR3/3	微砂　焼土粒を2%、As－C・Hr－FPを2%含む。
7	黄褐		焼土粒を若干含む。

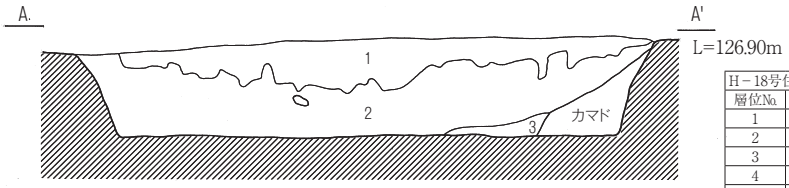
埋設土器覆土			
層位No.	色　調	土色	説　明
1	暗褐	10YR3/4	微砂　砂質土　As－C・Hr－FPと炭化物を1%、黄褐色砂質土粒を5%含む。
2	にぶい黄褐	10YR4/3	微砂　砂質土　黄褐色砂質土と暗褐色土の混合土。

第12図　17号住居跡



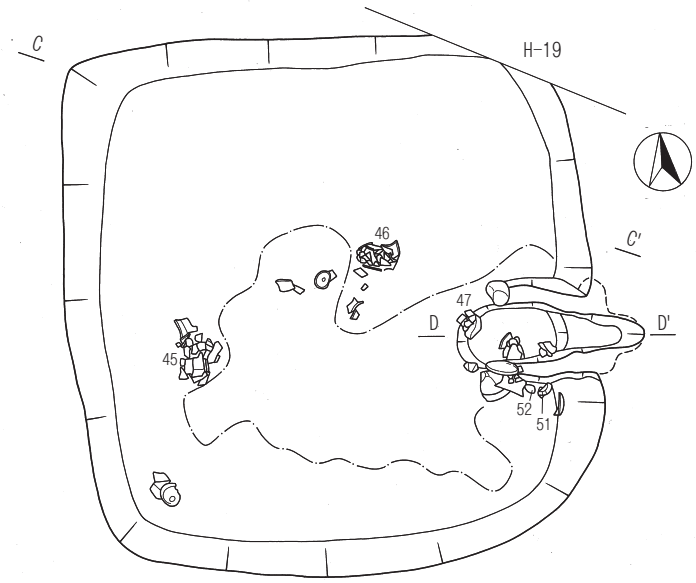


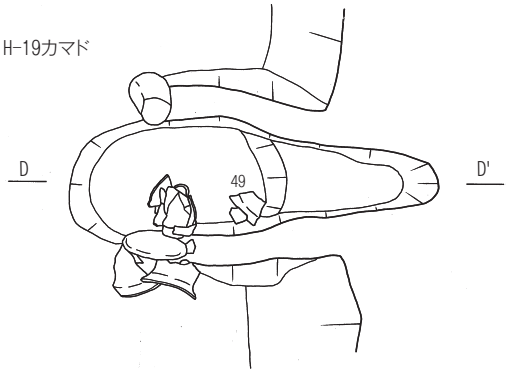


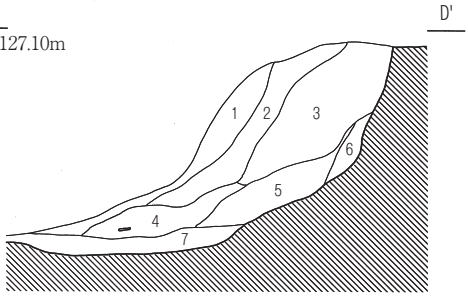


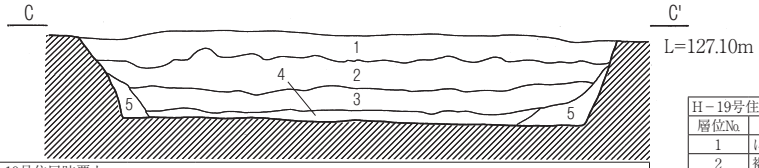
H－18号住居跡覆土			
層位No.	色　調	土色	説　明
1	黒褐	10YR3/2	細砂　若干砂質。As－C・Hr－FP を7%、焼土を2%含む。
2	にぶい黄褐	10YR4/3	細砂　黄褐色砂質ブロックφ1.5～2cm を密40%以上混え、を10%、同ブロックφ1～10cm で、大5%を含む。
3	暗褐	7.5YR3/4	細砂　粘性を帯び、締りもよい。黄褐色砂質ブロックφ1cm を20%、As－C・Hr－FP を3%含む。

H－18号住居跡竈			
層位No.	色　調	土色	説　明
1	灰褐	7.5YR4/2	微砂　粘土
2	明赤褐	5YR5/6	微砂　焼土ブロック10%を含む。
3	褐	7.5YR4/3	微砂　焼土粒 ・ブロック5%を含む。
4	褐	7.5YR4/3	微砂　焼土粒を2%含む。
5	明赤褐	5YR5/6	微砂　焼土ブロックを2%含む。
6	にぶい赤褐	5YR4/4	微砂　粘性を帯び、焼土ブロックを5%含む。
7	にぶい赤褐	5YR4/4	微砂　粘性を帯び、焼土ブロックを30%含む。
8	褐	7.5YR4/4	微砂　焼土を2%、灰を混える。
9	黒褐	7.5YR3/2	微砂　灰層。
10	暗褐	7.5YR3/3	微砂　灰褐色粘土を混える。





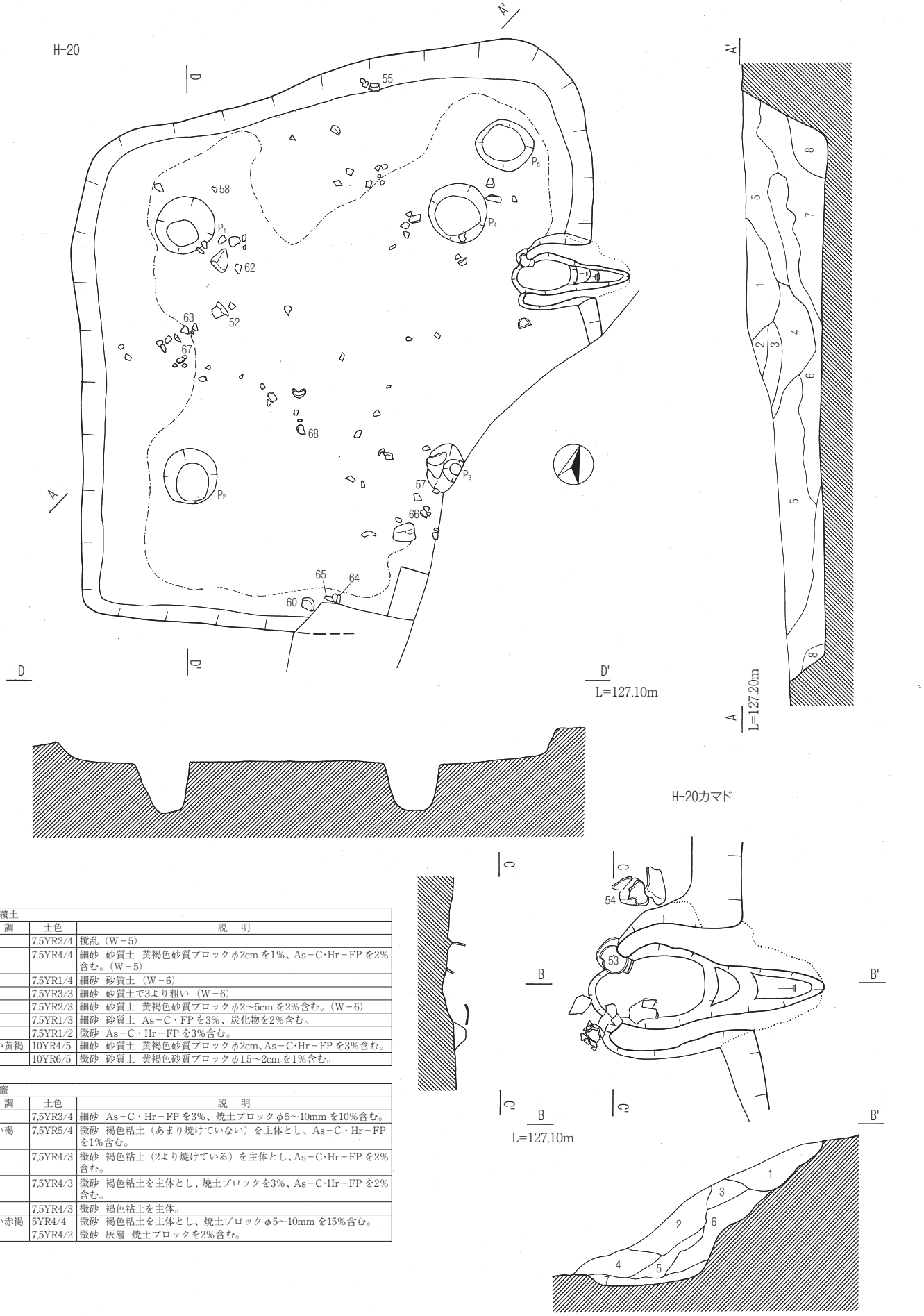




H－19号住居跡覆土			
層位No.	色　調	土色	説　明
1	暗褐	10YR3/3	細砂　砂質土　As－C・Hr－FP を3%、φ0.5～0.8cm を含む。
2	暗褐	10YR3/4	細砂　砂質土　土質は1層に似るが、褐色気味。 カーボン粒を2%含む。
3	黒褐	10YR3/2	細砂　砂質土　As－C・Hr－FP を2%含む。
4	灰黄褐	10YR4/2	微砂　砂質土　As－C・Hr－FP を1%含む。
5	にぶい黄褐	10YR4/3	細砂　さらさらした細かい砂質土

H－19号住居跡竈			
層位No.	色　調	土色	説　明
1	にぶい黄褐	10YR5/4	細砂　As－C・HR－FP を2%、焼土粒を1%含む。
2	褐	7.5YR4/3	微砂　As－C・Hr－FP を2%、褐色粘土ブロックを10%含む。
3	にぶい赤褐	5YR4/4	微砂　褐色粘土主体（焼土化）。
4	褐.	7.5YR4/4	微砂　褐色粘土主体で、焼土ブロックφ5～10mm を10%含む。
5	褐	7.5YR4/4	微砂　褐色粘土10%、黄褐色砂質土を10%含む。
6	褐	10YR4/4	微砂　褐色粘土10%、C 軽石を含む黒色土を5%含む。
7	灰褐	7.5YR4/2	微砂　灰層で、焼土粒を5%含む。

第13図　18・19号住居跡

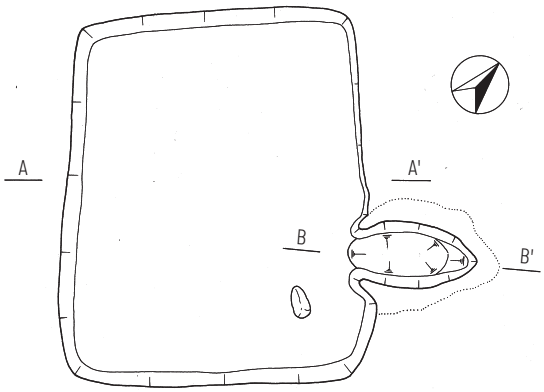


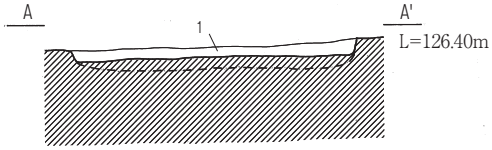
H－20号住居跡覆土			
層位No.	色　調	土色	説　明
1	灰褐	7.5YR2/4	撹乱（W－5）
2	褐	7.5YR4/4	細砂　砂質土　黄褐色砂質ブロックφ2cm を1%、As－C・Hr－FP を2%含む。（W－5）
3	褐灰	7.5YR1/4	細砂　砂質土（W－6）
4	黒褐	7.5YR3/3	細砂　砂質土で3より粗い（W－6）
5	黒褐	7.5YR2/3	細砂　砂質土　黄褐色砂質ブロックφ2～5cm を2%含む。（W－6）
6	黒褐	7.5YR1/3	細砂　砂質土　As－C・FP を3%、炭化物を2%含む。
7	黒	7.5YR1/2	微砂　As－C・Hr－FP を3%含む。
8	にぶい黄褐	10YR4/5	細砂　砂質土　黄褐色砂質ブロックφ2cm、As－C・Hr－FP を3%含む。
9	黄褐	10YR6/5	微砂　砂質土　黄褐色砂質ブロックφ15～2cm を1%含む。

H－20号住居跡竈			
層位No.	色　調	土色	説　明
1	暗褐	7.5YR3/4	細砂　As－C・Hr－FP を3%、焼土ブロックφ5～10mm を10%含む。
2	にぶい褐	7.5YR5/4	微砂　褐色粘土（あまり焼けていない）を主体とし、As－C・Hr－FP を1%含む。
3	褐	7.5YR4/3	微砂　褐色粘土（2より焼けている）を主体とし、As－C・Hr－FP を2%含む。
4	褐	7.5YR4/3	微砂　褐色粘土を主体とし、焼土ブロックを3%、As－C・Hr－FP を2%含む。
5	褐	7.5YR4/3	微砂　褐色粘土を主体。
6	にぶい赤褐	5YR4/4	微砂　褐色粘土を主体とし、焼土ブロックφ5～10mm を15%含む。
7	灰褐	7.5YR4/2	微砂　灰層　焼土ブロックを2%含む。

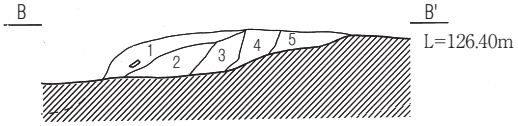
第14図　20号住居跡

H-21



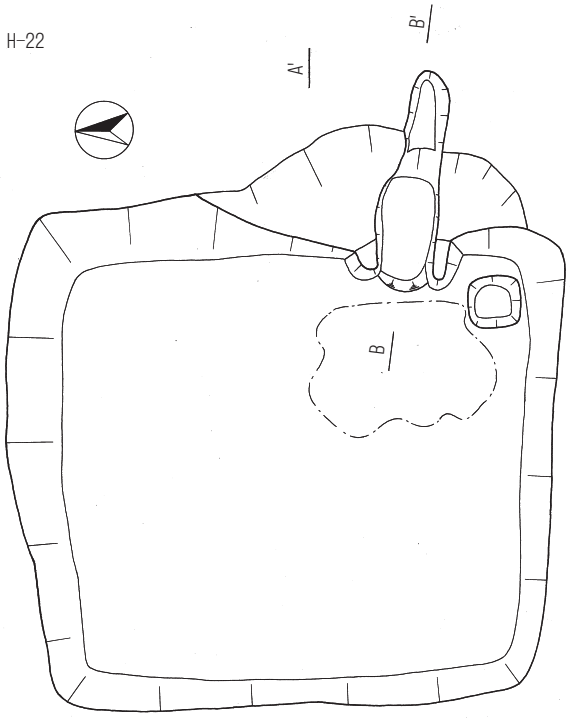


H－21号住居跡覆土			
層位No.	色　調	土色	説　明
1	暗褐	10RY3/3	細砂　ザラザラした砂質土　As－C・Hr－FP を3%含む。

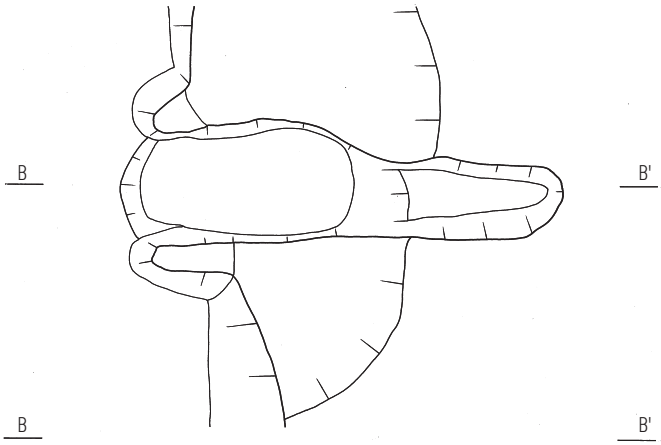


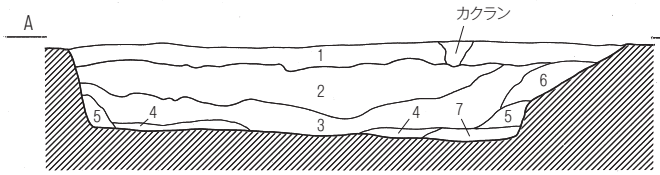
H－21号住居跡竈			
層位No.	色　調	土色	説　明
1	褐	7.5YR4/4	微砂　褐色粘土を混える。焼土ブロックφ5mm を3%含む。
2	にぶい赤褐	5YR4/4	微砂　褐色粘土を混える。焼土ブロックφ5～10mm を20%、炭化物を1%含む。
3	褐	7.5YR4/3	微砂　砂質土　焼土粒を3%含む。
4	にぶい赤褐	5YR4/4	微砂　褐色粘土を多く混える。焼土粒を5%含む。
5	赤褐	5YR4/6	微砂　褐色粘土を混える。焼土ブロックφ10mm を10%含む。

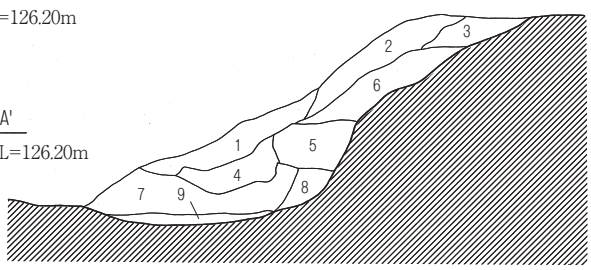
H-22



H-22カマド



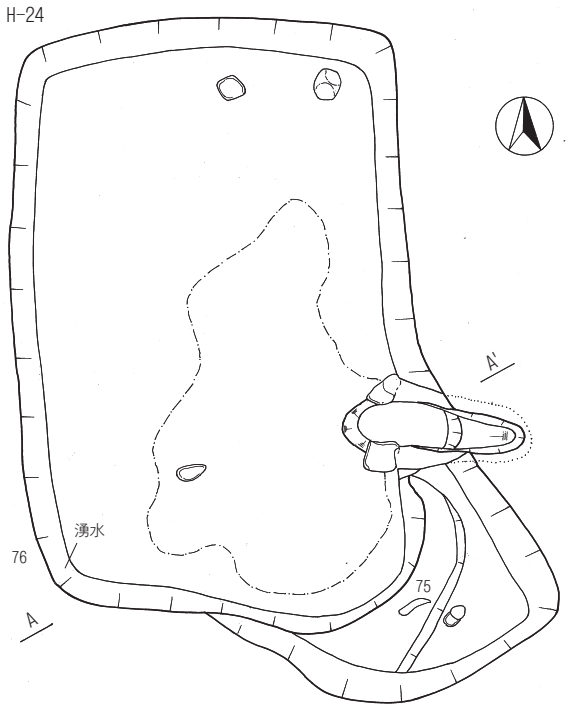


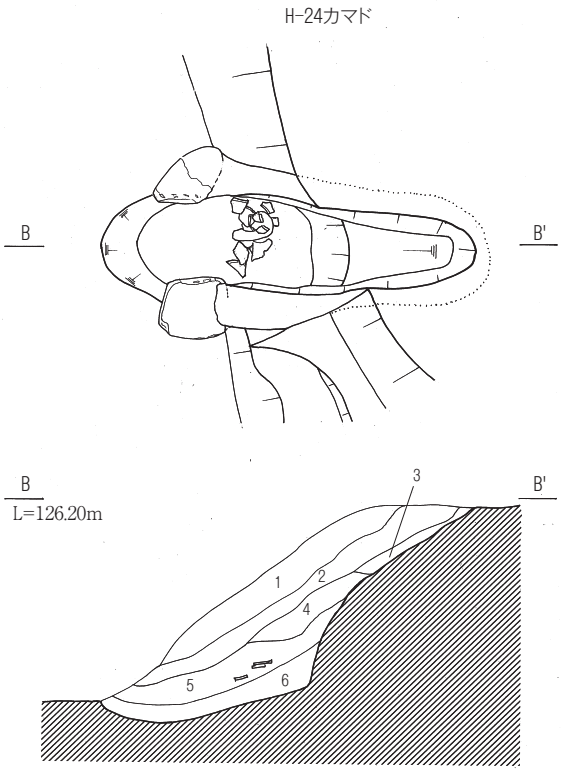


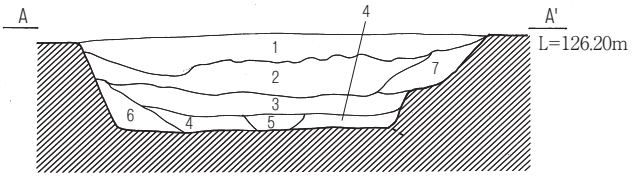
H－22号住居跡覆土			
層位No.	色　調	土色	説　明
1	黒褐	7.5YR3/2	細砂　砂質土　As－C・Hr－FP を3%含む。
2	暗褐	7.5YR3/3	細砂　1層より細かい砂質土で緻密　黄褐色砂質ブロックφ0.8～1.5cm を1%、As－C・Hr－FP を3%含む。
3	黒褐	10YR3/2	細砂　2層より細かい砂質土　As－C・Hr－FP を3%含む。
4	褐	7.5YR4/1	微砂　さらさらした土質　灰褐色砂質土をブロック状に混える。
5	にぶい黄褐	10YR4/3	微砂　砂質土
6	暗褐	10YR3/4	細砂　黄褐色砂質ブロックφ1.5～2cm を3%、As－C・Hr－FP を3%含む。
7	褐	7.5YR4/4	細砂　焼土粒を多量に含み、炭化物を1%、一部に灰の堆積有り。

H－22号住居跡竈			
層位No.	色　調	土色	説　明
1	にぶい黄褐	10YR4/3	微砂　砂質土　As－C・Hr－FP を3%含む。
2	褐	10YR4/4	微砂　砂質土　褐色粘土を少量混える。
3	褐	7.5YR4/3	微砂　褐色粘土を混える。
4	暗褐	7.5YR3/4	微砂　褐色粘土を多く混える。 焼土粒を5%含む。
5	褐	7.5YR4/3	微砂　サラサラした砂質土　褐色粘土を少量含む。
6	褐	7.5YR4/4	微砂　褐色粘土を混える。焼土粒を3%、As－C・Hr－FP を3%含む。
7	にぶい赤褐	5RY4/4	微砂　褐色粘土を混える。焼土ブロックφ5～20mm を20%含む。
8	褐	7.5YR4/3	微砂　砂質土
9	灰黄褐	10YR4/2	微砂　灰層　炭化物を1%、焼土粒を3%含む。

第15図　21・22号住居跡

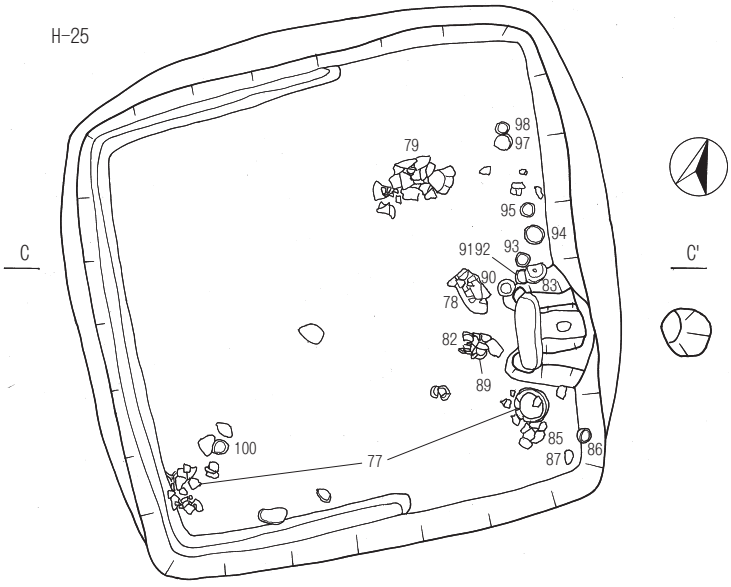


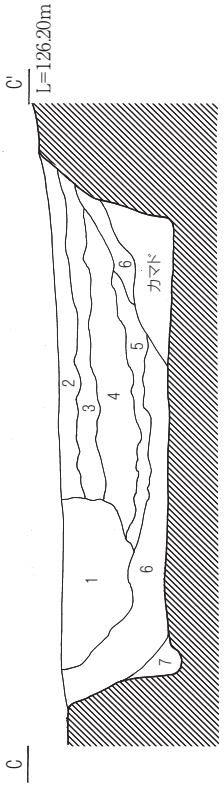




H－24号住居跡覆土			
層位No.	色　調	土色	説　明
1	黒褐	10YR3/2	細砂　ザラザラした砂質土 As－C・Hr－FP を5%含む。
2	暗褐	10YR3/3	細砂　砂質土　黄褐色砂質ブロックφ1.5～2cm を3%、As－C・Hr－FP を3%含む。
3	暗褐	10YR3/4	細砂　2層より細かい砂質土　As－C・Hr－FP を3%含む。
4	灰黄褐	10YR4/2	微砂　砂質土　炭化物φ0.3～0.5cm を2%、As－C・Hr－FP を2%含む。
5	黒褐色土		微砂　砂質土
6	褐	10YR4/4	微砂　砂質土
7	暗褐	7.5YR3/4	細砂　As－C・Hr－FP を3%、焼土粒を2%、炭化物粒を2%含む。

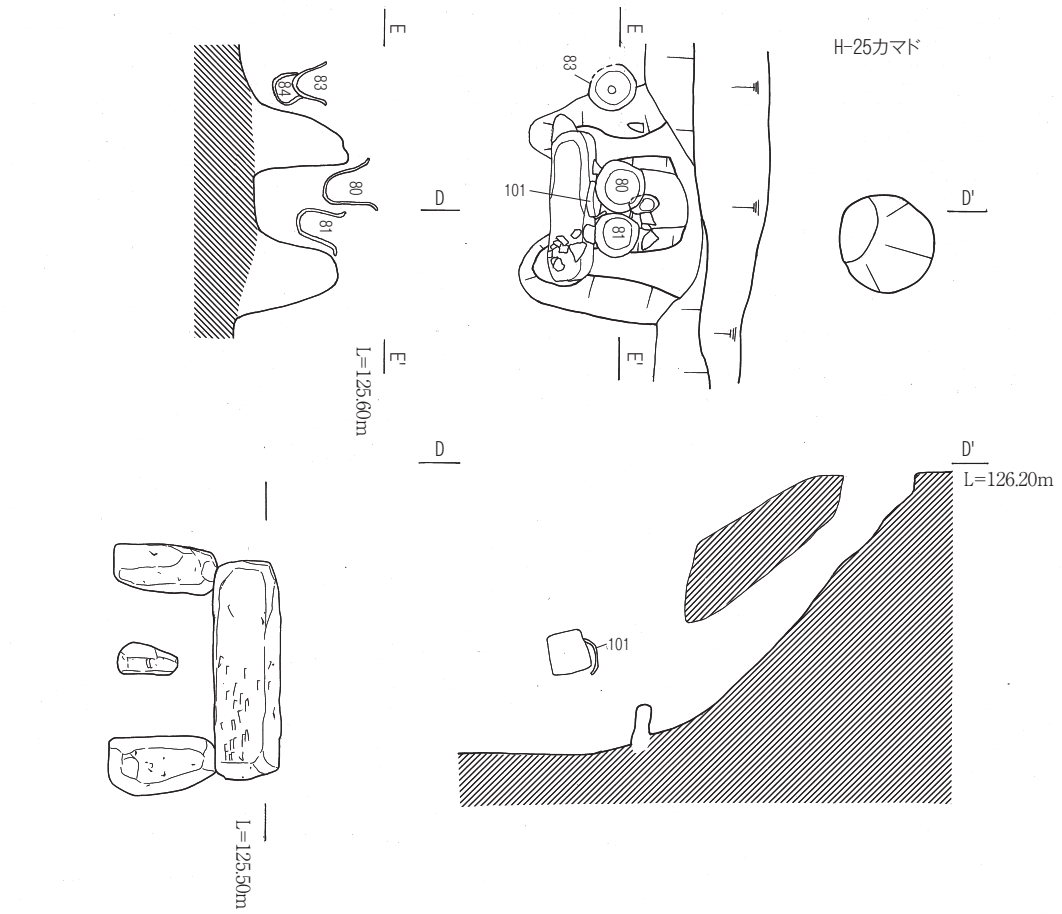
H－24号住居跡竈			
層位No.	色　調	土色	説　明
1	にぶい黄褐	10YR4/3	細砂　砂質土　As－C・Hr－FP を5%、焼土粒を1%、炭化物粒を1%含む。
2	褐	7.5YR4/3	微砂　砂質土　As－C・Hr－FP を5%、焼土粒を3%、炭化物粒を1%含む。
3	褐	7.5YR4/3	細砂　砂質土　As－C・Hr－FP を10%、焼土粒を2%含む。
4	明赤褐	5YR3/4	微砂　As－C・Hr－FP を1%、焼土粒・ブロックを10%、黄褐色砂質ブロックを10%含む。
5	にぶい赤褐	5YR4/3	微砂　As－C・Hr－FP を1%、焼土粒・ブロック（φ1～3cm）を10%含む。
6	にぶい黄褐	7.5YR4/3	微砂　砂質土 灰を含む。

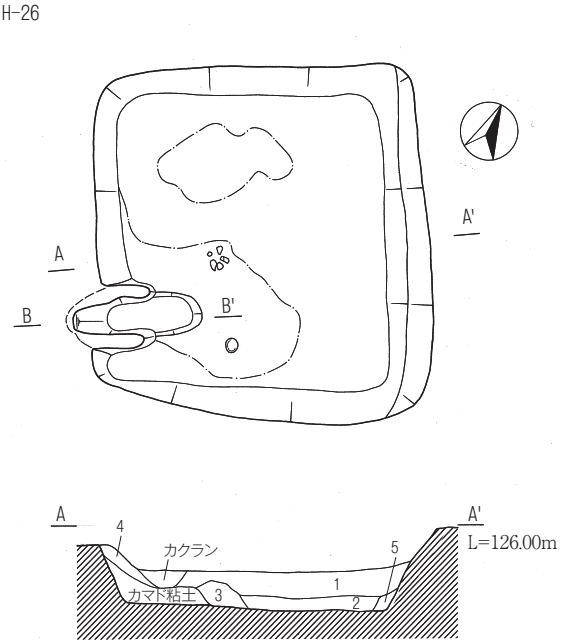


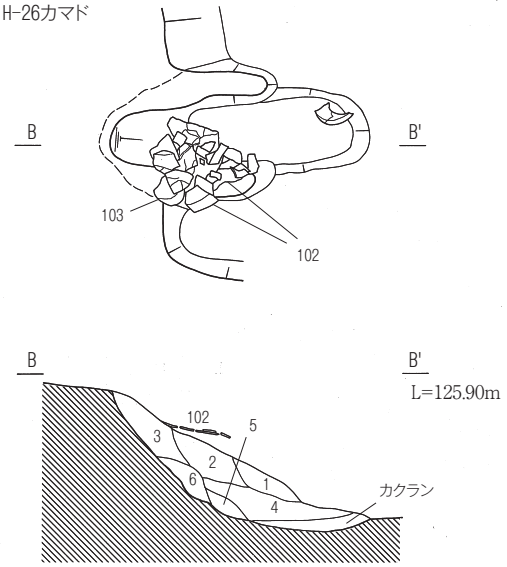


H－25号住居跡覆土			
層位No.	色　調	土色	説　明
1	黒褐	7.5YR3/2	細砂　ざらざらした粗い土質。As－C・Hr－FP を3%、焼土粒2%を含む。
2	黒褐	7.5YR3/1	細砂　As－C・Hr－FP を3%含む。
3	黒	7.5YR2/1	細砂　As－C・Hr－FP を3%含む。
4	黒	10YR2/1	微砂　3層より黒味有り。As－C・Hr－FP を2%含む。
5	黒褐	10YR2/2	微砂　As－C・Hr－FP を2%含む。
6	にぶい黄褐	10YR4/3	細砂　砂質土　As－C・Hr－FP を1%、黄褐色砂質ブロックφ2～5cm を2%含む。
7	灰黄褐	10YR5/2	細砂　砂質土

第16図　24・25号住居跡



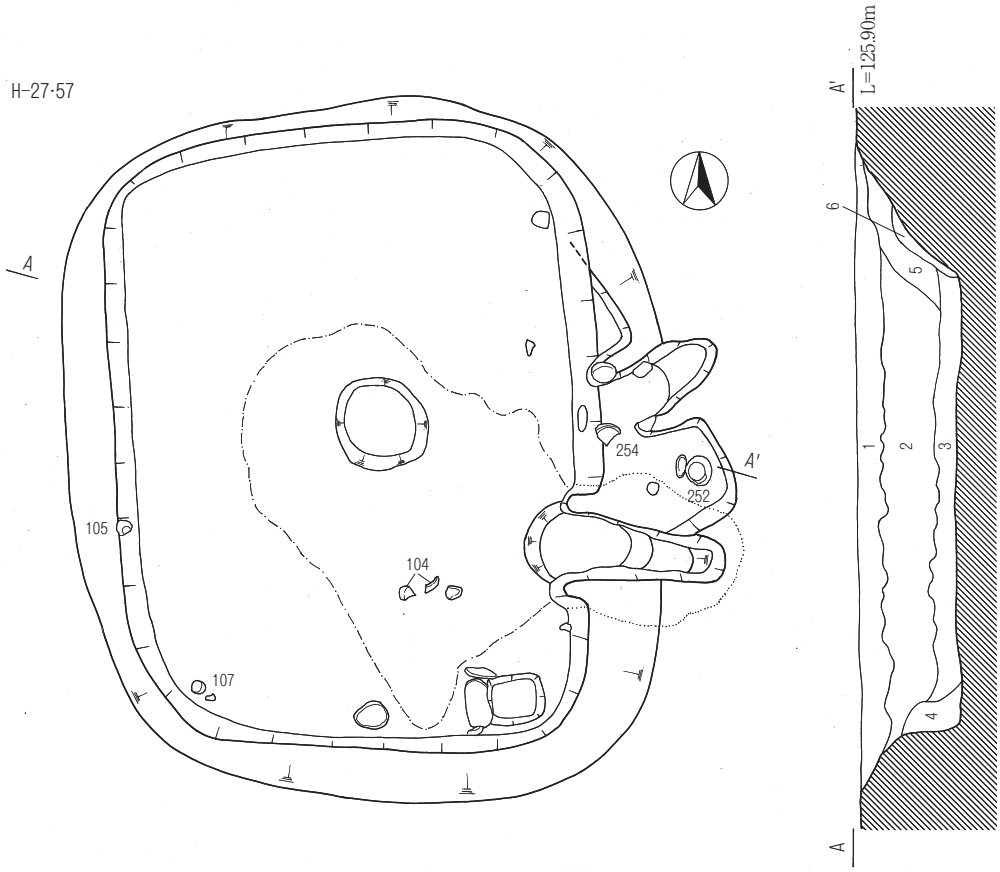




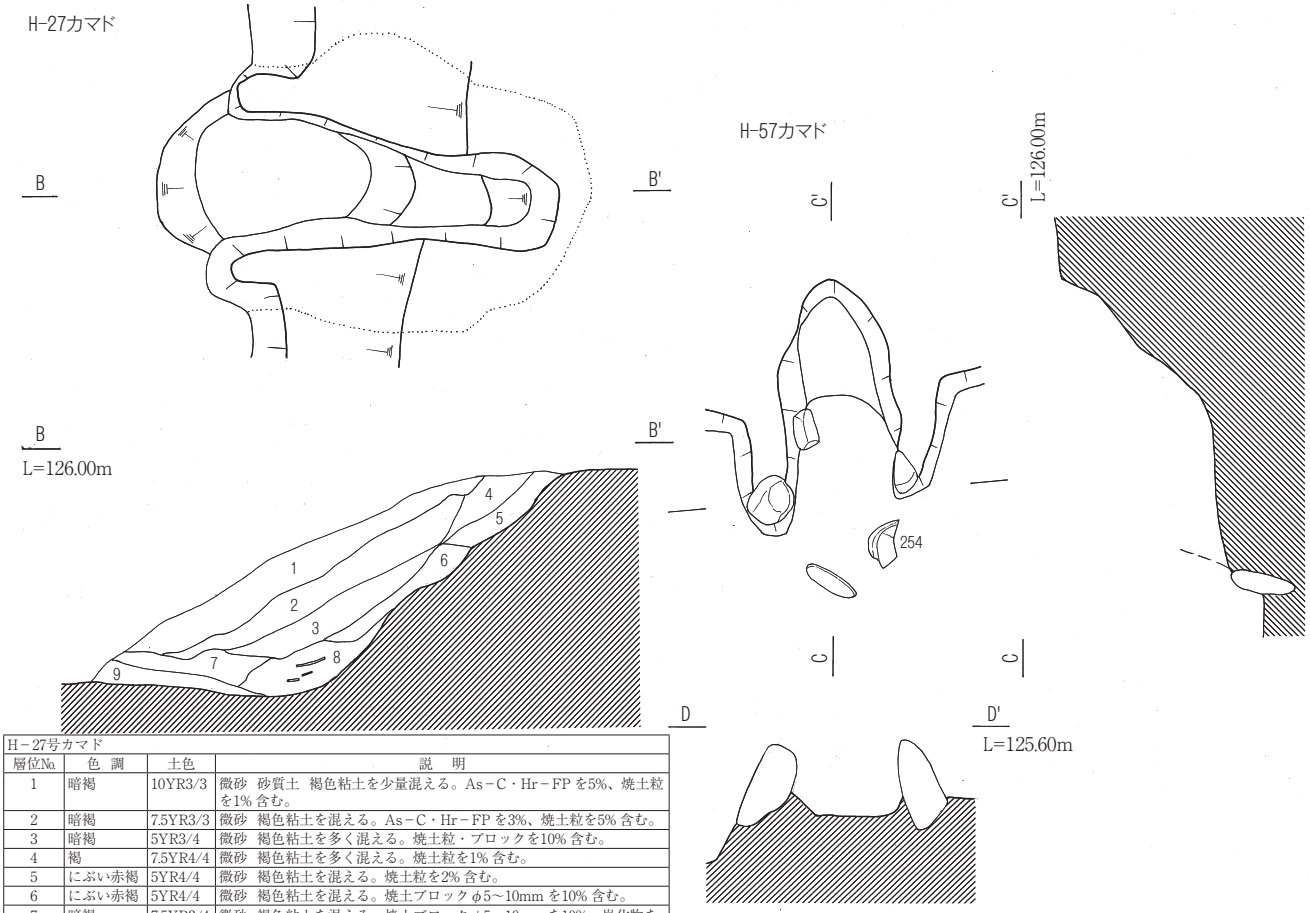
H－26号住居跡覆土			
層位No.	色　調	土色	説　明
1	黒褐	10YR2/2	細砂　砂質土　As－C・Hr－FP を3%含む。
2	暗褐	10YR3/3	微砂　砂質土　As－C・Hr－FP を3%、黄褐色砂質ブロック φ1～2cm を3%含む。
3	褐	10YR4/6	微砂
4	褐	10YR4/4	細砂　砂質土　As－C・Hr－FP を3%、黄褐色砂質ブロック φ2～3cm を3%含む。

H－26号住居跡竈			
層位No.	色　調	土色	説　明
1	褐	7.5YR4/3	微砂　褐色粘土主体
2	褐	7.5YR4/3	微砂　褐色粘土を混える。
3	褐	7.5YR4/3	微砂　褐色粘土を混える。 焼土ブロック φ10mm を2%含む。
4	暗褐	7.5YR3/3	微砂　褐色粘土を少量混える。 焼土ブロック φ5mm を10%含む。
5	黒褐	7.5YR3/2	微砂　褐色粘土を少量混える。C混の黒色土ブロックを20%含む。
6	にぶい黄褐	10YR4/3	微砂　褐色粘土と砂質土の混合土

第17図　25・26号住居跡

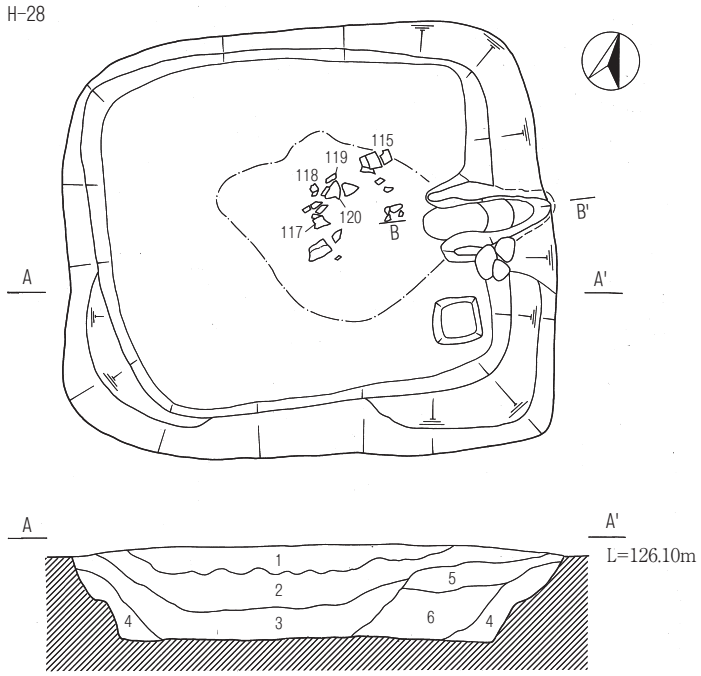


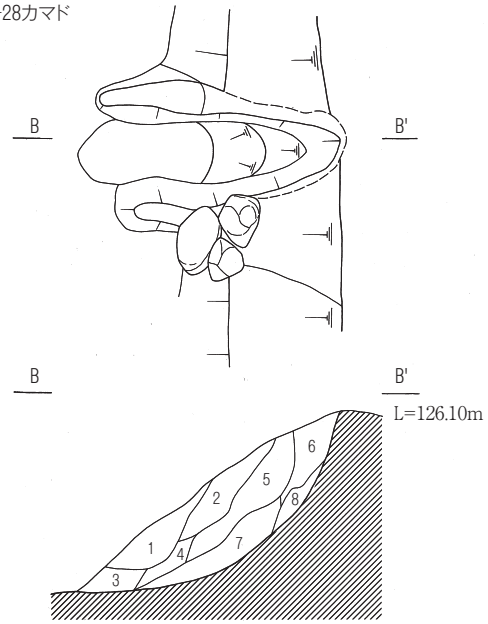
H－27号住居跡覆土			
層位No.	色　調	土色	説　明
1	黒褐	7.5YR3/2	細砂　ざらざした砂質土。As－C・Hr－FP を5%、橙色粒1%を含む。
2	黒褐	7.5YR3/1	細砂　黄褐色砂質ブロックφ1.5～2cmを2%、As－C・Hr－FP を3%含む。
3	暗褐	7.5YR3/3	細砂　砂質土　黄褐色砂質ブロックφ1.5～2cmを5%、焼土粒を1%含む。
4	にぶい黄褐	10YR4/3	微砂　サラサラした砂質土
5	暗褐	7.5YR3/4	細砂　黄褐色砂質ブロックφ2cmを1%、焼土粒・ブロックを3%含む。
6	褐	7.5YR4/3	細砂　粘性有り　As－C・Hr－FP を2%、焼土粒を1%含む。



H－27号カマド			
層位No.	色　調	土色	説　明
1	暗褐	10YR3/3	微砂　砂質土　褐色粘土を少量混える。As－C・Hr－FP を5%、焼土粒を1%含む。
2	暗褐	7.5YR3/3	微砂　褐色粘土を混える。As－C・Hr－FP を3%、焼土粒を5%含む。
3	暗褐	5YR3/4	微砂　褐色粘土を多く混える。焼土粒・ブロックを10%含む。
4	褐	7.5YR4/4	微砂　褐色粘土を多く混える。焼土粒を1%含む。
5	にぶい赤褐	5YR4/4	微砂　褐色粘土を混える。焼土粒を2%含む。
6	にぶい赤褐	5YR4/4	微砂　褐色粘土を混える。焼土ブロックφ5～10mmを10%含む。
7	暗褐	7.5YR3/4	微砂　褐色粘土を混える。焼土ブロックφ5～10mmを10%、炭化物を1%含む。
8	にぶい赤褐	5YR4/4	微砂　褐色粘土を混える。焼土ブロックφ5～20mmを15%、下部に灰混える。
9	暗褐	10RY3/3	微砂　砂質土　褐色粘土を少量混える。焼土粒を1%、下部に灰混える。

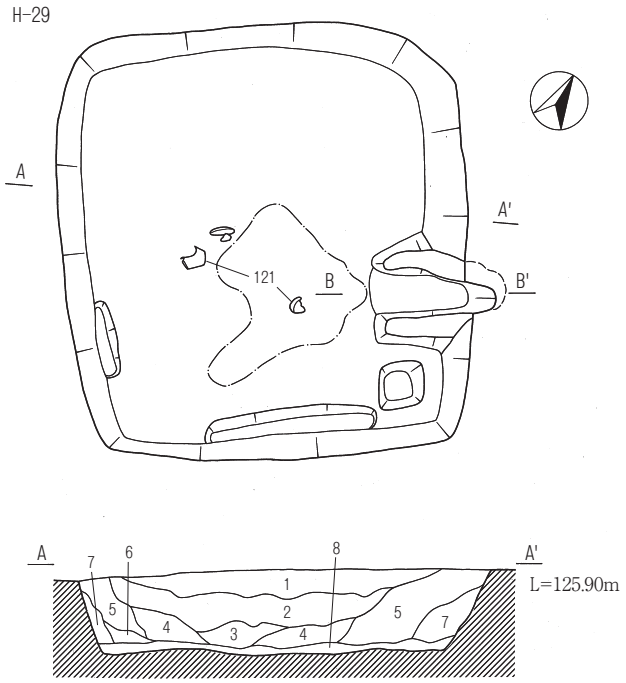
第18図　27・57号住居跡

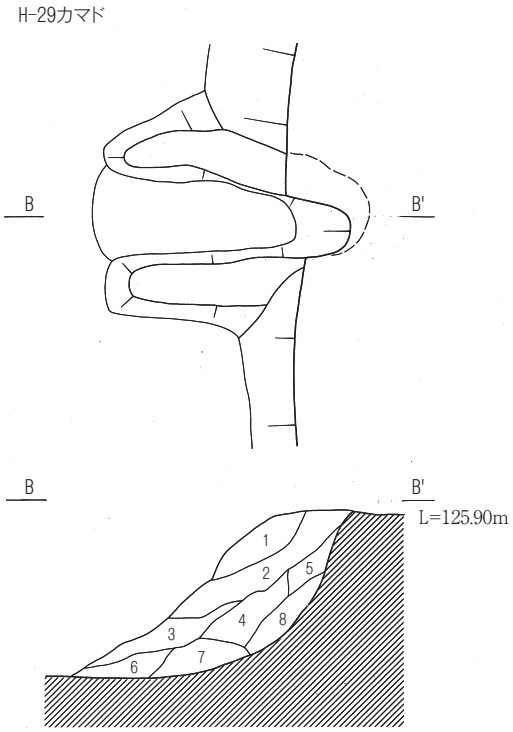




H－28号住居跡覆土			
層位No.	色　調	土色	説　明
1	黒褐	10RY3/1	細砂　ザラザラした砂質土　As－C・Hr－FP を3% 含む。
2	暗褐	10RY3/2	細砂　1層に似る土質
3	暗褐	10RY3/4	細砂　黄褐色砂質ブロックφ1.5～3cm を7% 含む。
4	にぶい黄褐	10RY4/3	細砂　黄褐色砂質ブロックを密に含む。
5	暗褐	10RY3/2	細砂　砂質土　As－C・Hr－FP を3% 含む。
6	暗褐	10RY3/4	細砂　黄褐色砂質ブロックφ2～3cm を5%、As－C・HR－FP を3% 含む。

H－28号住居跡竈			
層位No.	色　調	土色	説　明
1	褐	7.5YR4/4	微砂　褐色粘土を混える。焼土粒を5% 含む。
2	褐	7.5YR4/6	微砂　褐色粘土を混える。焼土ブロックφ5～10mm を10% 含む。
3	にぶい赤褐	5RY4/4	微砂　褐色粘土を混える。焼土ブロックφ5～10mm を10% 含む。
4	にぶい赤褐	5RY4/4	微砂　褐色粘土を混える。焼土ブロックφ5mm を15% 含む。
5	にぶい赤褐	5RY4/4	微砂　褐色粘土を混える。焼土ブロックφ5～20mm を20% 含む。
6	褐	7.5YR4/4	微砂　褐色粘土を混える。焼土ブロックφ5～20mm を5% 含む。
7	暗褐	7.5YR3/4	微砂　褐色粘土を少量、下部に僅かに灰を混える。焼土ブロックφ10mm を5% 含む。
8	褐	7.5YR4/4	微砂　褐色粘土と地山の砂質土の混合土。焼土粒を2% 含む。

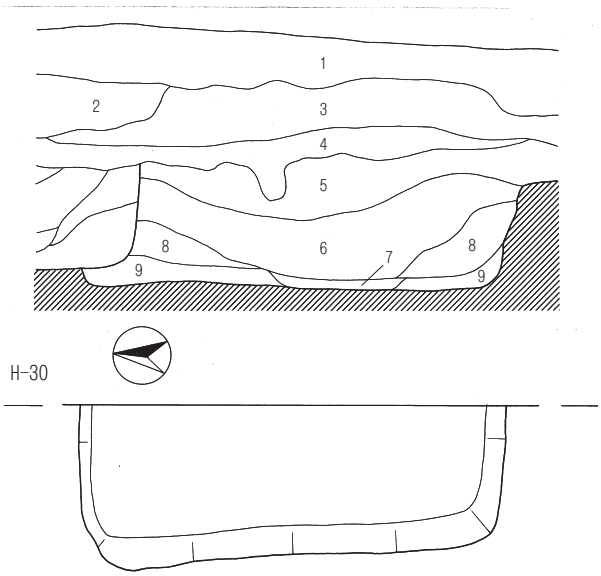




H－29号住居跡覆土			
層位No.	色　調	土色	説　明
1	黒褐	7.5TR3/1	細砂　砂質土　As－C・Hr－FP を2%、焼土粒を1%含む。
2	黒褐	7.5TR3/2	細砂　砂質土　As－C・Hr－FP を3%、黄褐色砂質ブロックφ1.5～2cm を2%含む。
3	にぶい黄褐	10YR4/3	細砂　砂質土　As－C・Hr－FP を3%、黄褐色砂質ブロックを密に含む。
4	暗褐色	10YR3/3	細砂　2層の土質に似る。
5	暗褐色	7.5TR3/3	細砂　2層より細かい砂質土　As－C・Hr－FP を3% 含む。
6	灰黄褐	10YR4/2	細砂　砂質土　黄褐色砂質ブロックφ2cm を若干含む。
7	褐	10YR4/4	微砂　砂質土
8	にぶい黄褐	10YR4/2	細砂　黄褐色砂質ブロックφ2～4cm を5% 含む。

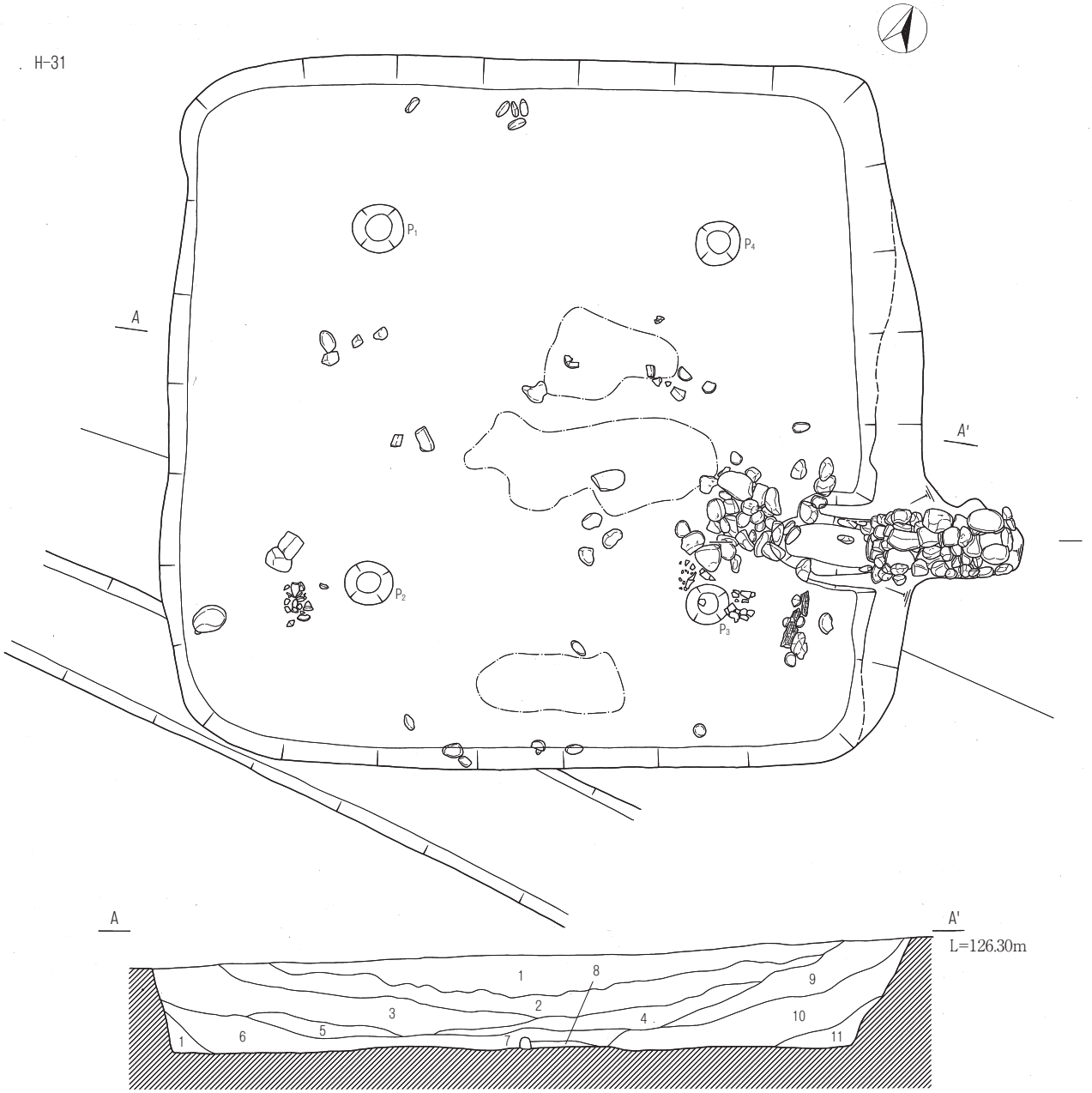
H－29号住居跡竈			
層位No.	色　調	土色	説　明
1	暗褐	10YR3/4	微砂　褐色粘土少量混える。焼土粒を1% 含む。
2	褐	7.5YR4/4	微砂　褐色粘土混える。焼土粒・ブロックを5% 含む。
3	褐	10Ry4/4	微砂　褐色粘土混える。焼土粒を10%、炭化物を1% 含む。
4	にぶい赤褐	5YR4/4	微砂　褐色粘土混える　焼土粒・ブロックφ5～10mm を20% 含む。
5	にぶい赤褐	5YR4/4	微砂　褐色粘土混える。焼土粒を3% 含む。
6	褐	10YR4/4	微砂　褐色粘土僅かに混える。焼土粒を2% 含む。
7	暗褐	10YR3/3	微砂　灰僅かに混える。焼土粒を5% 含む。

第19図　28・29号住居跡

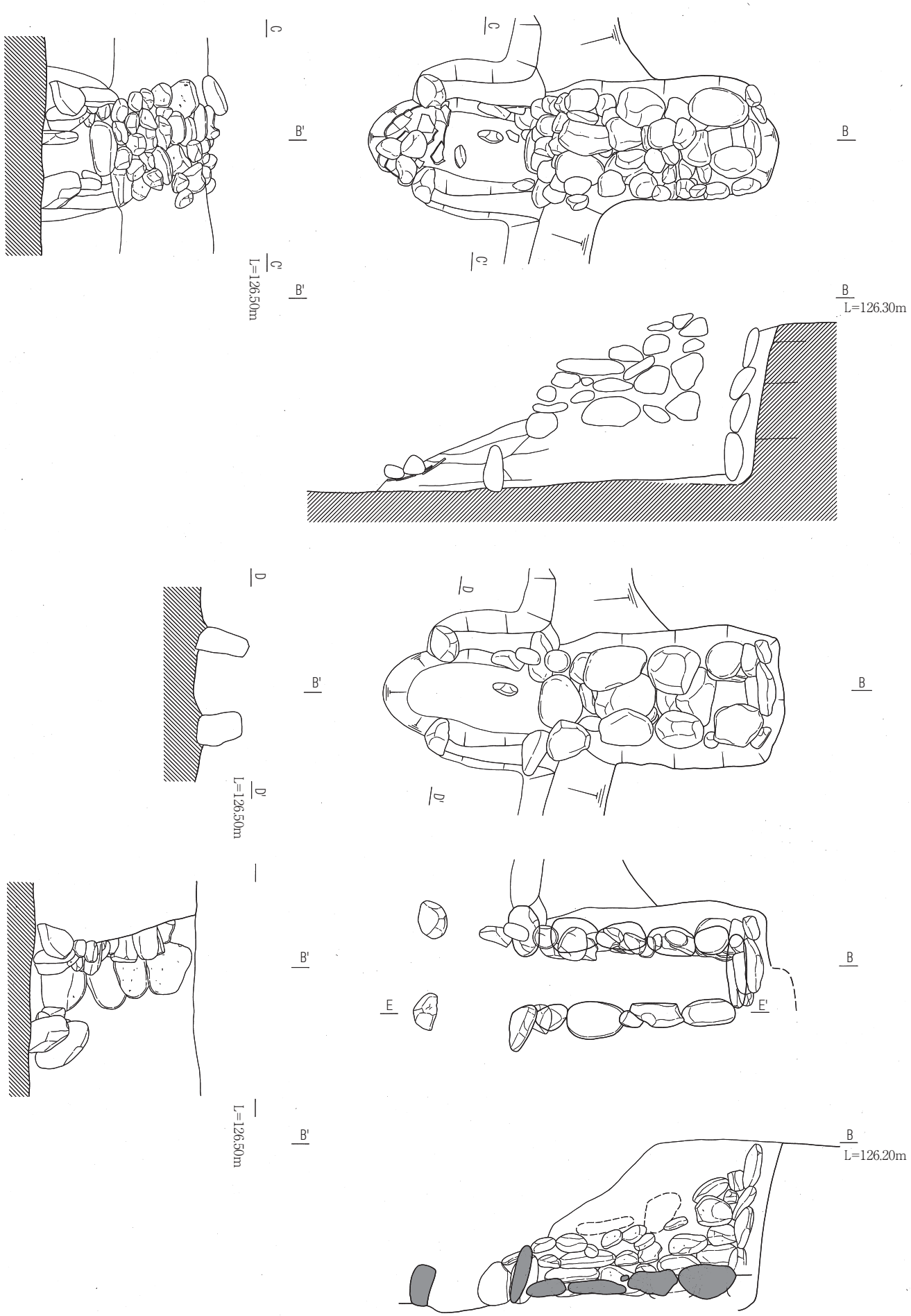


H－30号住居跡覆土			
層位No.	色　調	土色	説　明
1			表土
2	褐	10YR4/4	微砂　シルト質土と砂質土の混合土
3	灰黄褐	10YR4/2	細砂　白色軽石を1% 含む。
4	灰黄褐	10YR4/2	細砂　黄褐色砂質ブロックを3%、白色軽石を2% 含む。
5	暗褐	10YR3/3	細砂　焼土粒・炭化部を1%、As－C・Hr－FP を10% 含む。
6	にぶい黄褐	10YR4/3	微砂　黄褐色砂質ブロックφ5～30mm を10%、炭化部を1%、As－C・Hr－FP を15% 含む。(H－30覆土)
7	にぶい黄褐	10YR5/4	微砂　黄褐色砂質土との混合土で、As－C・Hr－FP を5% 含む。(H－
8	にぶい黄褐	10YR4/3	微砂　黄褐色砂質ブロックφ20mm を2%、As－C・Hr－FP を10% 含む。
9	暗褐	10YR3/3	微砂　地山砂質土を多く混え、As－C・Hr－FP を5% 含む。(H－30覆土)

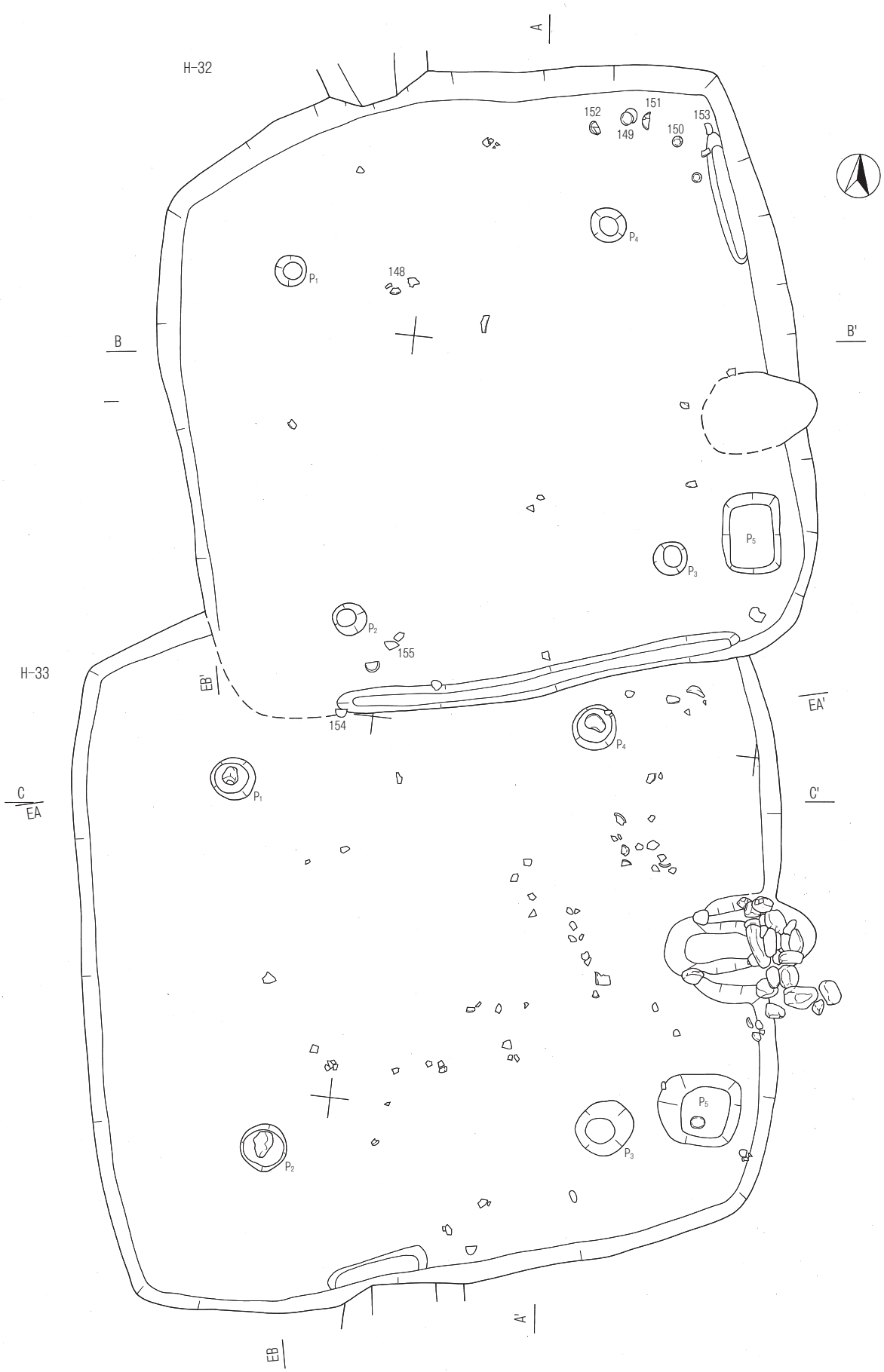
H－31号住居跡覆土			
層位No.	色　調	土色	説　明
1	黒	10YR2/1	細粒　炭化物粒を2%、As－C・Hr－FP を10% 含む。
2	黒褐	10YR2/3	細粒　炭化物粒を2%、焼土粒を2%、As－C・Hr－FP を3% 含む。
3	暗褐	10YR3/3	細粒　炭化物粒を2%、焼土粒を2%、As－C・Hr－FP を3% 含む。
4	暗褐	10YR3/4	微粒　焼土粒を2%、As－C・Hr－FP を3% 含む。
5	黒褐	7.5YR3/1	細砂　As－C・Hr－FP を3% 含む。
6	黒褐	7.5YR3/2	細砂　炭化物粒を2%、As－C・Hr－FP を3% 含む。
7	暗褐	7.5YR3/3	微砂　黄褐色砂質ブロックφ3～4cm を3%、As－C・Hr－FP を2% 含む。
8	暗褐	7.5YR3/2	微砂　7層より暗い 硬化面を形成。白色軽石粒を若干含む。
9	褐	10YR4/4	細砂　炭化物粒を2%、焼土粒を3%、As－C・Hr－FP を10% 含む。
10	黒褐	7.5YR3/2	細砂　炭化物粒を2%、焼土粒を2%、As－C・Hr－FP を5% 含む。
11	灰黄褐	10YR4/2	細砂　被熱粘土ブロックφ4cm を若干、焼土粒を2%、As－C・Hr－FP を僅かに含む。



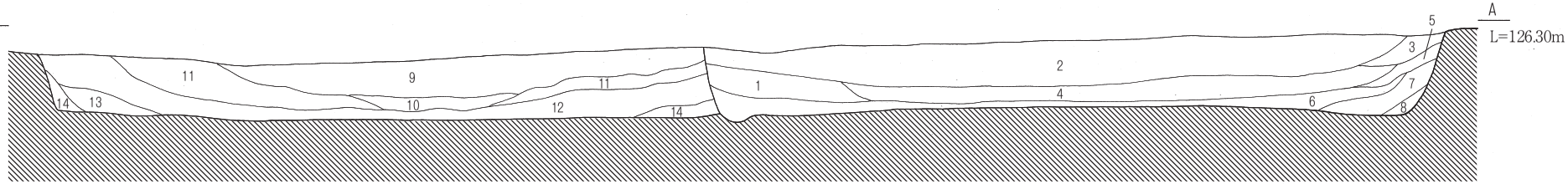
第20図　30・31号住居跡

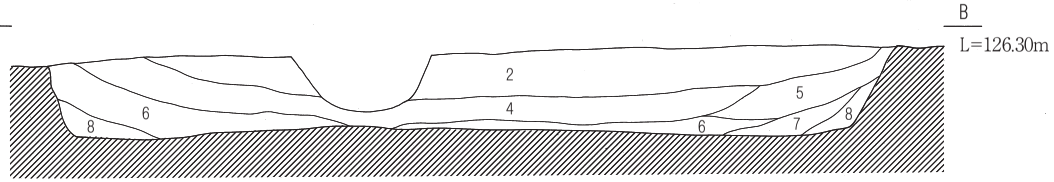


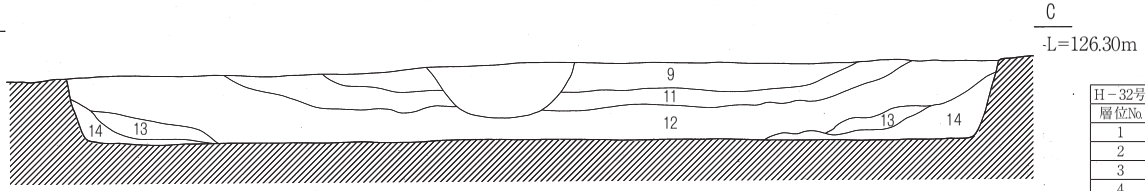
第21図　31号住居跡カマド



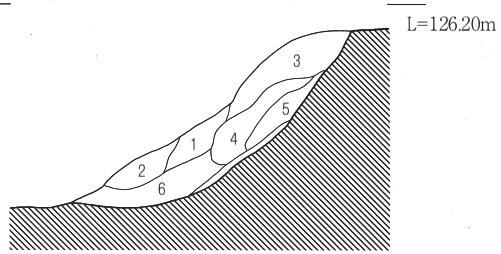
第22図　32・33号住居跡①





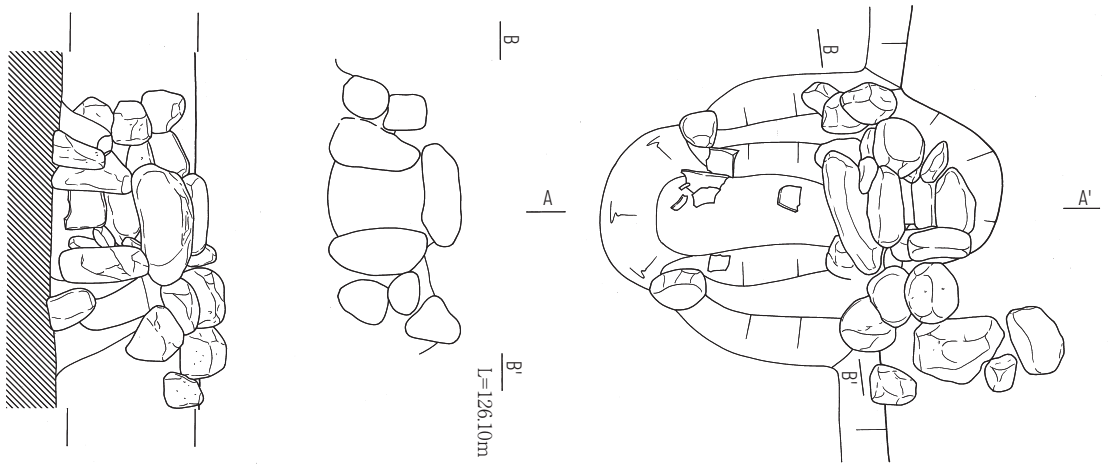


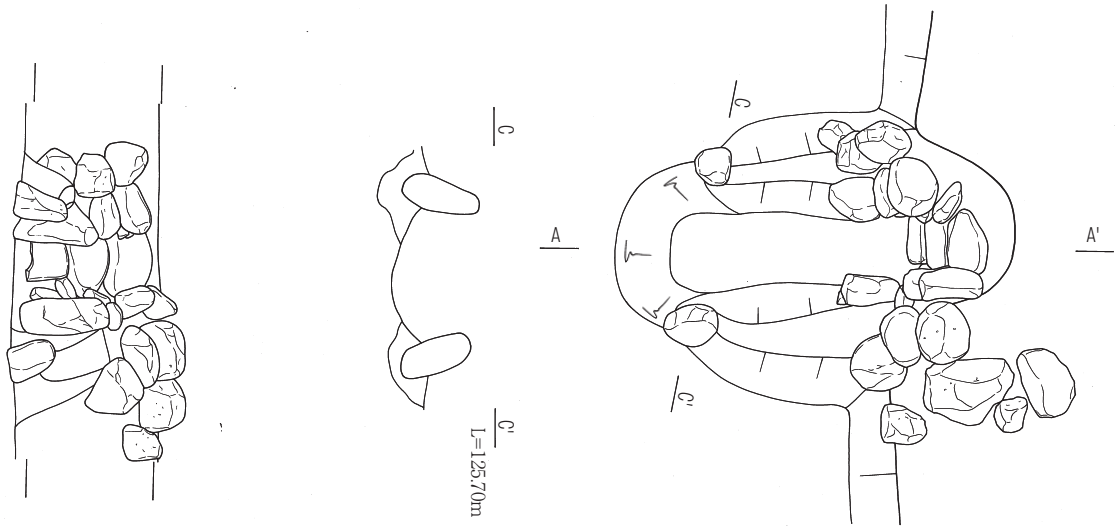
H－32・33号住居跡覆土			
層位No.	色　調	土色	説　明
1			未注記
2	暗褐	10YR3/4	As－C を1%、黄橙色ブロックを2% 含む。
3	暗褐	10YR3/3	黄橙色ブロックを1% 含む。
4	黒褐	10YR2/2	As－C を2%、焼土粒を1% 含む。
5	黒褐	10YR3/2	As－C・Hr－FP を1% 含む。
6	にぶい黄褐	10YR4/3	焼土粒を2% 含む。
7	褐	10YR4/4	As－C・Hr－FP を2%、焼土粒を1% 含む。
8	黄褐	10YR5/6	
9	黄褐	10YR5/6	As－C・Hr－FP を10%、焼土粒を1% 含む。
10	褐	10YR4/6	As－C を1%、焼土粒を1% 含む。
11	にぶい黄褐	10YR3/3	As－C を10% 含む。
12	にぶい黄褐	10YR4/3	As－C を2% 含む。
13	黒褐	10YR3/2	As－C を1% 含む。
14	褐	10YR4/4	

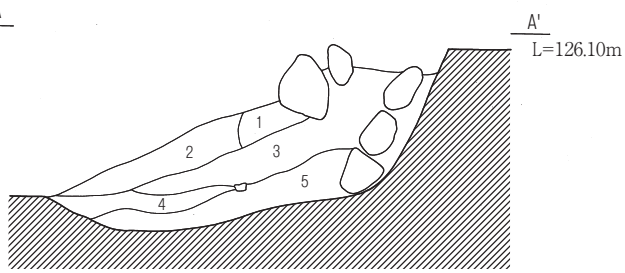


H－32号住居跡竈土			
層位No.	色　調	土色	説　明
1	褐	7.5YR4/3	微砂　褐色粘土を混え、As－C・Hr－FP を2%、焼土粒2% を含む。
2	褐	10YR4/4	微砂　褐色粘土を１層より多く混え、As－C・Hr－FP を3% 含む。
3	にぶい黄褐	10YR4/3	微砂　褐色粘土を混え、As－C・Hr－FP を5%、焼土粒1% を含む。
4	褐	7.5YR4/4	微砂　褐色粘土を多く混え、As－C・Hr－FP を2%、焼土粒5% を含む。
5	暗褐	7.5YR3/4	微砂　褐色粘土を多く混え、As－C・Hr－FP を3%、焼土ブロック2% を含む。
6	にぶい黄褐	10YR4/3	微砂　As－C・Hr－FP を2%、焼土粒3% を、地山砂質土3% 含む。
7	褐	10YR4/4	微砂　地山砂質土混じる。

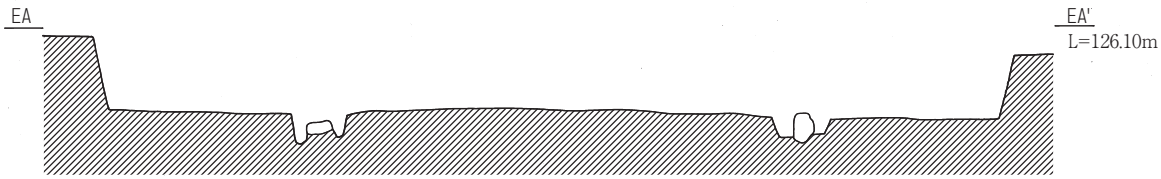
第23図　32・33号住居跡②

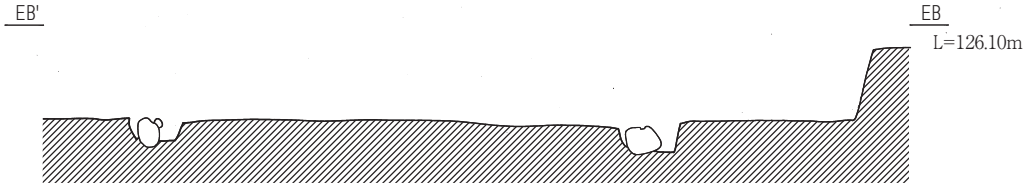






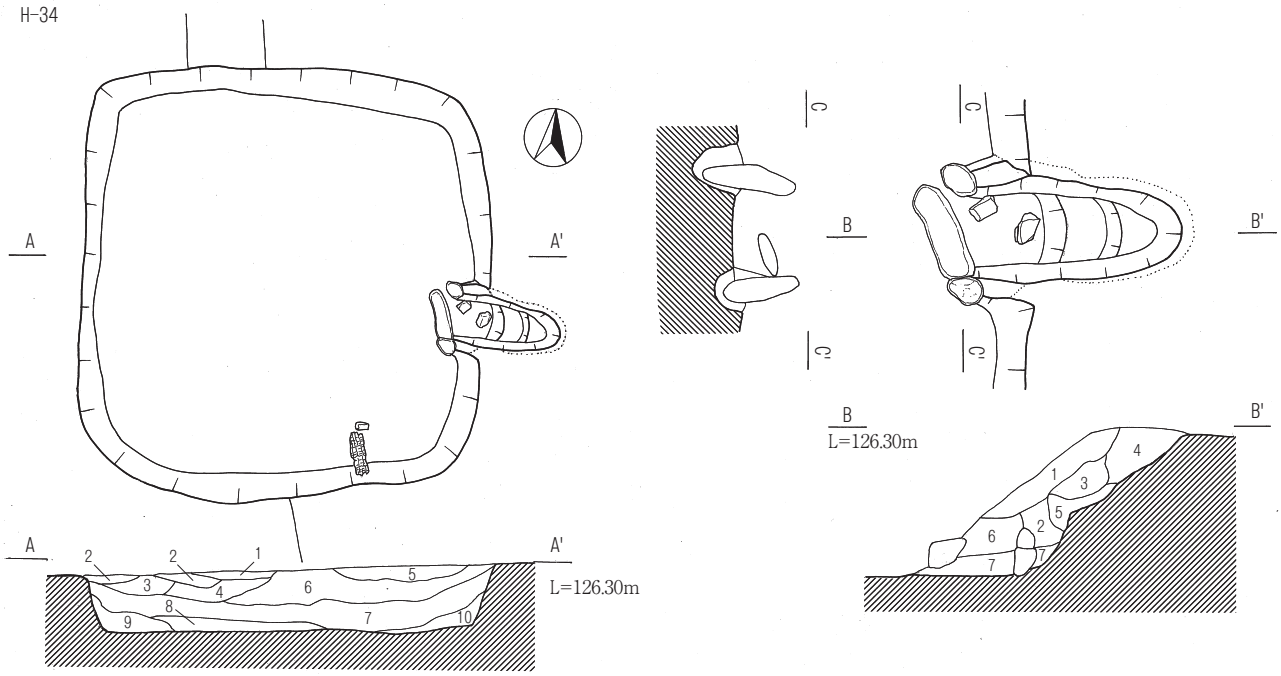
H－33号住居跡竈土			
層位No.	色　調	土色	説　明
1	にぶい褐	7.5YR5/43	微砂　褐色粘土を混える
2	にぶい黄褐	10YR5/4	微砂　褐色粘土を混え、As－C・Hr－FP を3%、焼土粒を2% 含む。
3	褐	7.5YR4/3	微砂　褐色粘土を混え、焼土粒・ブロックを3% を含む。
4	暗褐	7.5YR3/4	微砂　褐色粘土を混え、焼土粒・ブロックを5% を含む。
5	褐	7.5YR4/3	微砂　褐色粘土を多く混え、焼土粒・ブロック2% を含み、下部に灰混じる。





第24図　32・33号住居跡

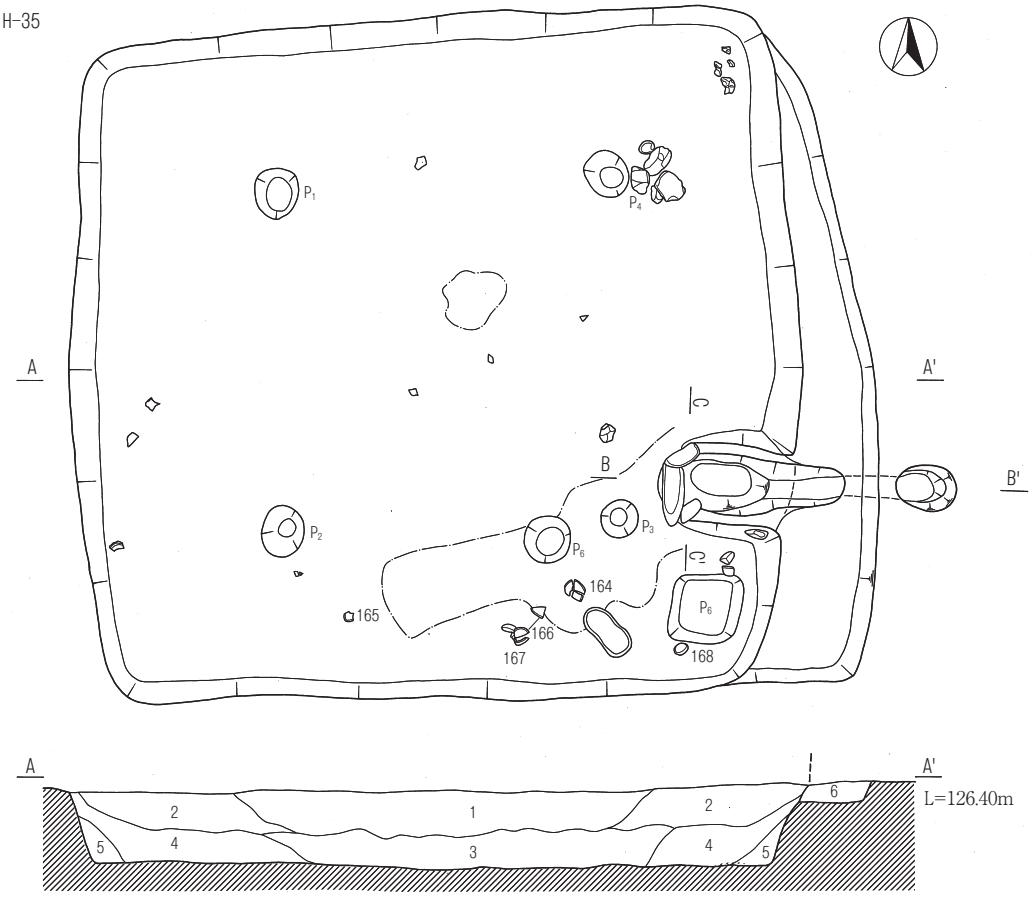
H-34



H－34号住居跡覆土			
層位No.	色　調	土色	説　明
1	にぶい黄褐	10YR4/3	砂質土　As－C・Hr－FP を1% 含み、底面に酸化鉄（W－8）
2	暗褐	10YR3/3	（W－8）
3	褐	10YR4/4	硬化面　As－C・Hr－FP を10% 含み、黄橙色粒を2% 含む。（W－8）
4	黒褐	10YR3/1	砂質土 黄橙色ブロックφ5mm を5%、焼土粒を1%、As－C・Hr－FP を15% 含む。（W－8）
5	褐	10YR4/6	黄橙色粒を1%、As－C・Hr－FP を15% 含む。
6	暗褐	10YR3/3	黄橙色ブロックφ2mm を2%、As－C・Hr－FP を2% 含む。
7	灰黄褐	10YR4/2	黄橙色ブロックφ5mm を5%、As－C・Hr－FP を5% 含む。
8	暗褐	10YR3/3	As－C・Hr－FP を2% 含む。
9	褐	10YR4/4	As－C・Hr－FP を1% 含む。
10	褐	10YR4/4	9層に似る。

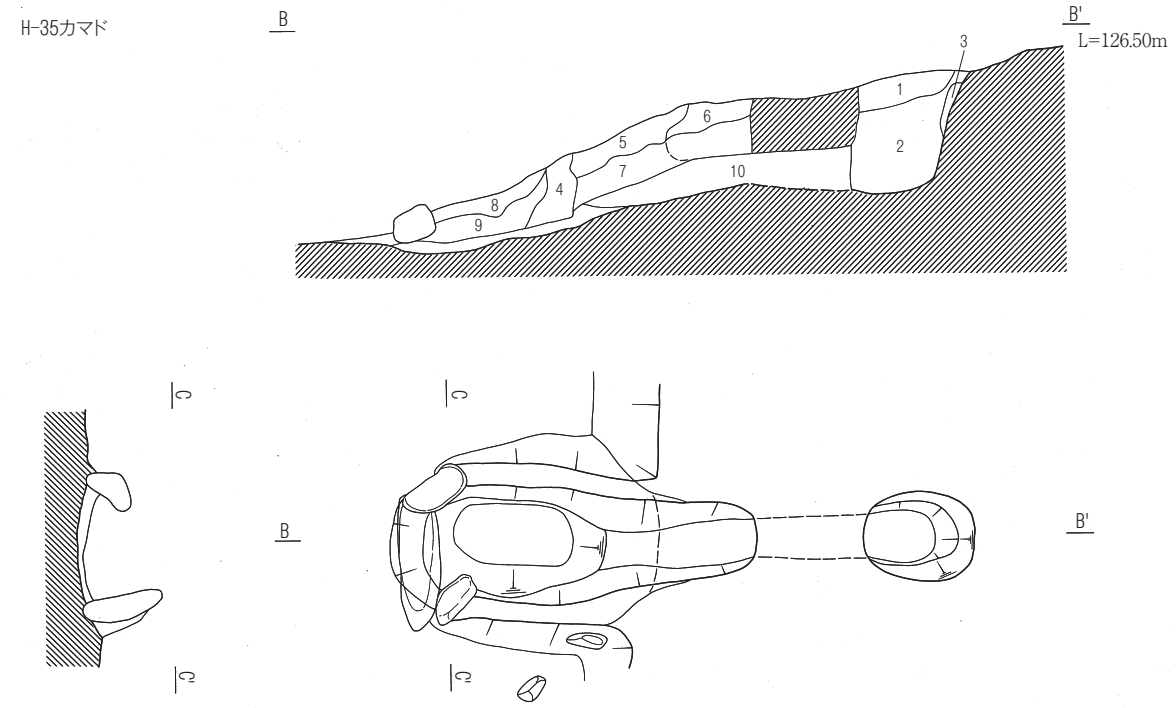
H－34号住居跡竈			
層位No.	色　調	土色	説　明
1	にぶい黄褐	10YR4/3	微砂　焼土粒を2%、As－C・Hr－FP を3% 含む。
2	褐	7.5YR4/3	微砂　褐色粘土を混え、焼土粒を1% 含む。
3	褐	7.5YR4/4	微砂　褐色粘土を混え、焼土ブロックφ5mm を10% 含む。
4	褐	7.5YR4/3	微砂　褐色粘土を混え、焼土ブロックφ5～20mm を10% 含む。
5	暗褐	7.5YR4/3	微砂　褐色粘土を混え、焼土ブロックφ5～15mm を15% 含む。
6	暗褐	7.5YR3/3	微砂　褐色粘土を混え、焼土粒・焼土ブロックφ10mm を3% 含む。
7	黒褐	7.5YR3/4	微砂　灰層で焼土粒を2% 含む。

H-35

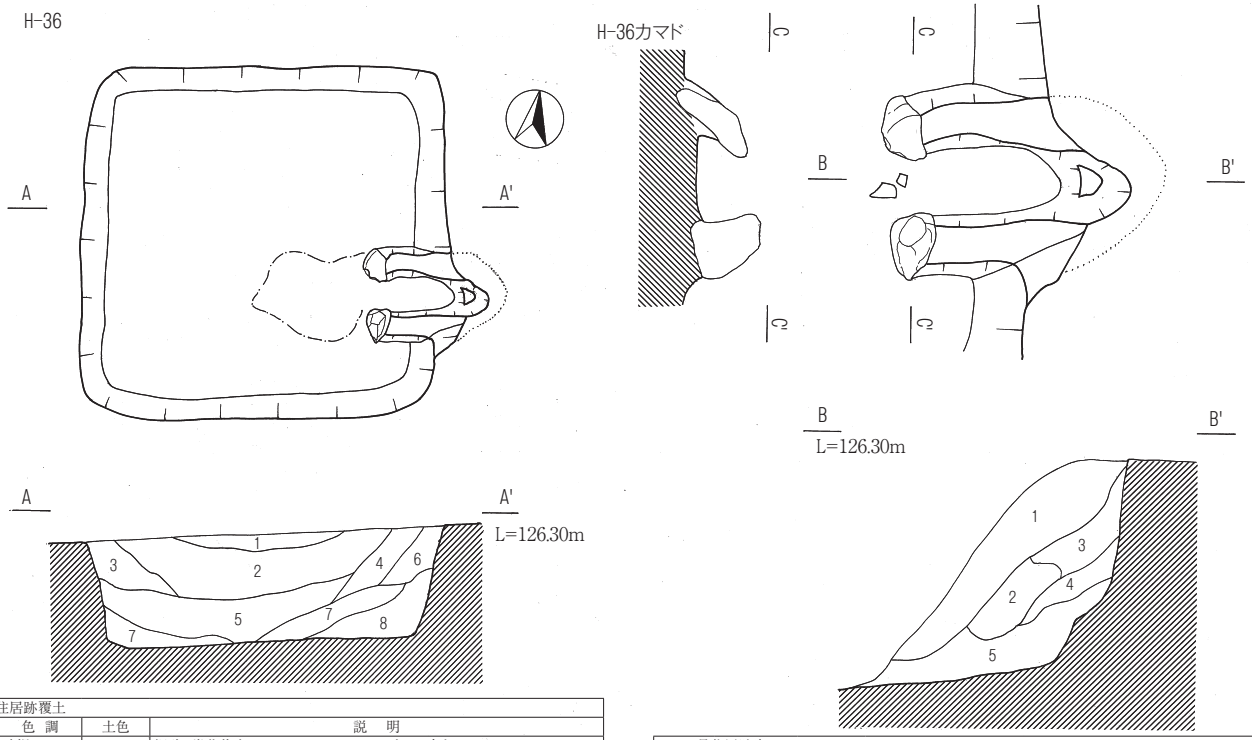


H－35号住居跡覆土			
層位No.	色　調	土色	説　明
1	黒褐	10YR3/2	細砂　黄褐色砂質土粒を2%、As－C・Hr－FP を10% 含む。
2	暗褐	10YR3/3	細砂　黄褐色砂質土ブロックφ5～10mm を5%、As－C・Hr－FP を15% 含む。
3	にぶい黄褐	10YR4/3	微砂　黄褐色砂質土ブロックφ5～10mm を5%、炭化物を1%、As－C・Hr－FP を3% 含む。
4	にぶい黄褐	10YR4/3	微砂　黄褐色砂質土ブロックφ5～20mm を10%、As－C・Hr－FP を7% 含む。
5	褐	10YR4/4	微砂　黄褐色砂質土を主体とし、C軽石を含む黒色土ブロックを10% 含む。

第25図　34・35号住居跡



H－35号住居跡竈			
層位No.	色　調	土色	説　明
1	褐	7.5YR4/6	微砂　褐色粘土を多く混える。As－C・Hr－FP を3% 含む。
2	にぶい黄褐	10YR4/3	微砂　焼土ブロックを2%、As－C・Hr－FP を1% 含む。
3	暗褐	10YR3/3	細砂　C 軽石を含む黒色土を混える。
4	褐	7.5YR4/4	微砂　焼土粒・ブロックを20%、As－C・Hr－FP を2% 含む。
5	にぶい黄褐	10YR4/3	微砂　焼土粒を5%、As－C・Hr－FP を4% 含む。
6	暗褐	10YR4/3	細砂　焼土粒を1%、As－C・Hr－FP を10% 含む。
7	にぶい赤褐	5YR4/4	微砂　焼土粒・ブロックを10%、As－C・Hr－FP を5% 含む。
8	にぶい黄褐	10YR5/4	微砂　砂質土　焼土粒を2%、As－C・Hr－FP を3% 含む。
9	褐	7.5YR4/4	微砂　褐色粘土を多く混える。焼土粒を3%、AS－C・Hr－FP を3% 含む。
10	暗褐	7.5YR3/3	細砂　焼土粒を5%、As－C・Hr－FP を10% 含む。
11	灰褐	7.5YR4/2	微砂　灰層　焼土粒・ブロックを5% 含む。

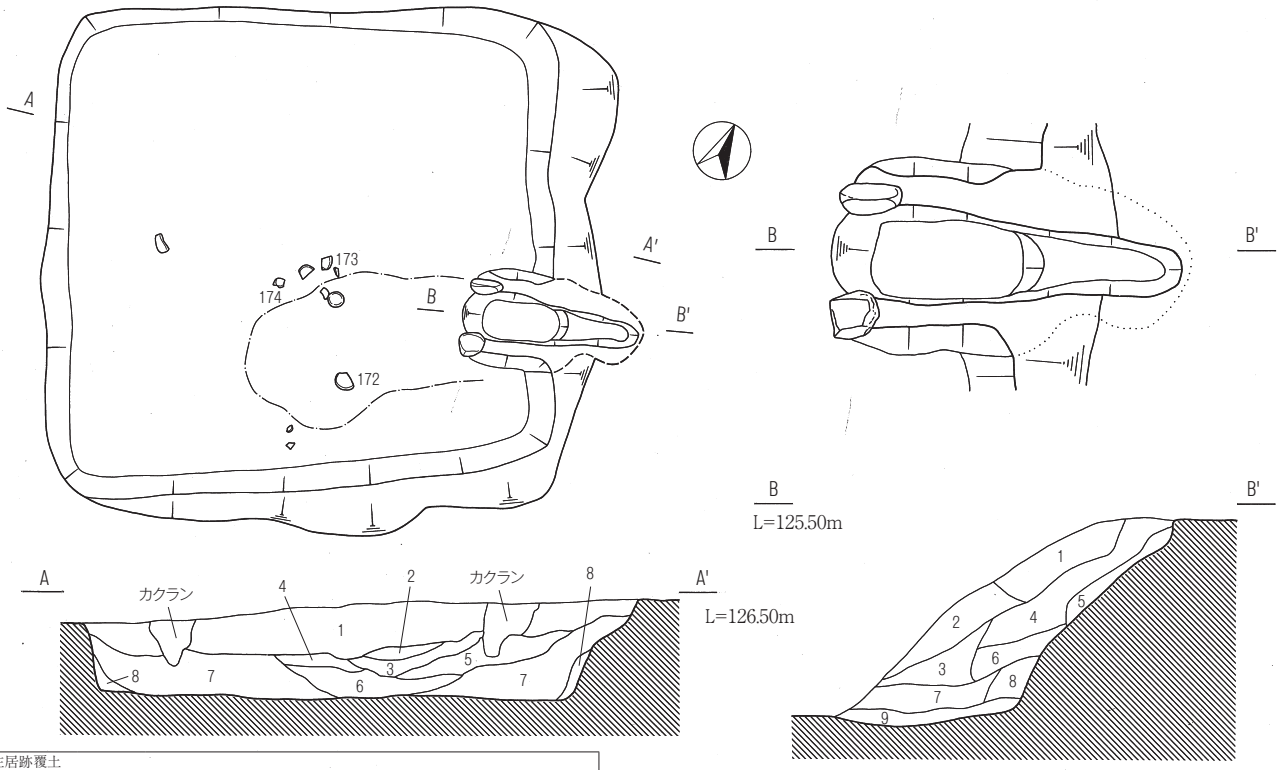


H－36号住居跡覆土			
層位No.	色　調	土色	説　明
1	暗褐	10YR3/4	細砂　炭化物を1%、As－C・Hr－FP を2% 含む。
2	にぶい黄褐	10YR4/3	細砂　As－C・Hr－FP を2% 含む。
3	にぶい黄褐	10YR4/3	細砂　As－C・Hr－FP を10% 含む。
4	暗褐	10YR3/3	細砂　As－C・Hr－FP を3% 含む。
5	にぶい黄褐	10YR4/3	微砂　炭化物を2%、As－C・Hr－FP を3% 含む。
6	にぶい黄褐	10YR4/3	微砂　褐色粘土ブロックを10%、As－C・Hr－FP を2% 含む。
7	褐	10YR4/4	微砂　黄褐色砂質土粒を多く混え、As－C・Hr－FP を2% 含む。
8	暗褐	10YR3/3	微砂　黄褐色砂質ブロックを10%、As－C を含む黒色土を2% 含む。

H－36号住居跡竈			
層位No.	色　調	土色	説　明
1	にぶい黄褐	10YR5/4	細砂　褐色粘土を少量混える。As-C・Hr-FP を5% 含む。
2	褐	7.5YR4/3	微砂　褐色粘土主体。
3	褐	7.5YR4/3	微砂　褐色粘土を混える。As-C・Hr-FP を3% 含む。
4	暗褐	7.5YR3/4	微砂　3層より褐色粘土を多く混える。As-C・Hr-FP を1% 含む。
5	暗褐	10YR3/3	微砂　砂質土　灰を混え、焼土粒・ブロックを3%、As-C・Hr-FP を2% 含む。

第26図　35・36号住居跡

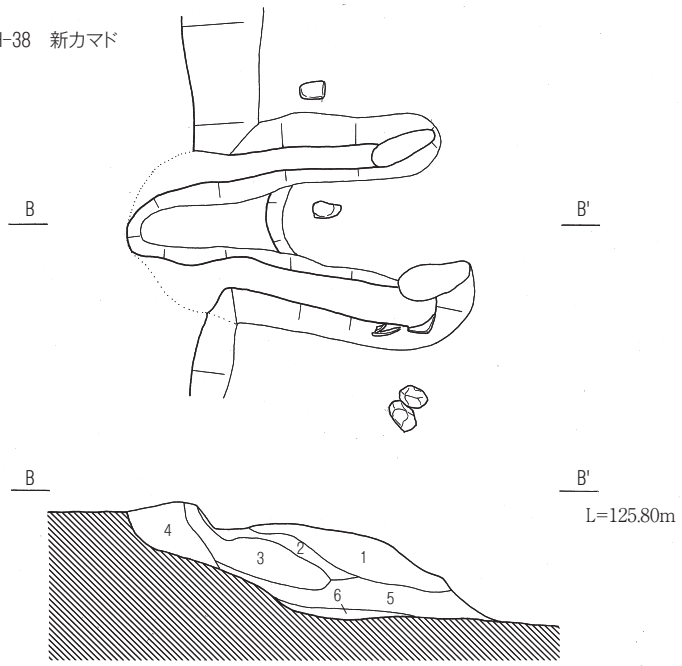
H-37



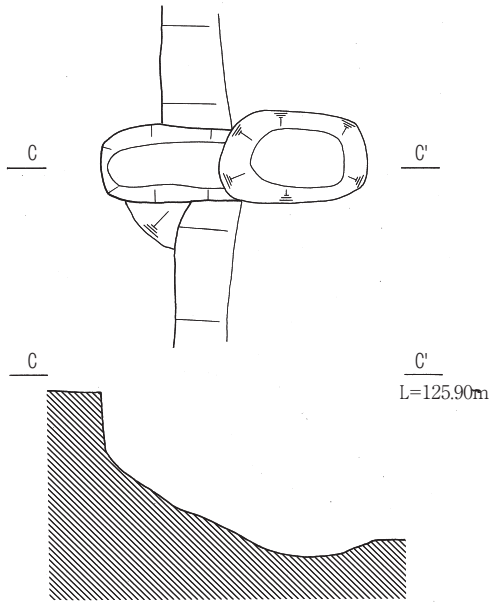
H－37号住居跡覆土			
層位№	色　調	土色	説　明
1	黒褐	7.5YR3/2	細砂　ざらざらした砂質土。 炭化物1.5～2cm を1%、As－C・Hr－FP を7% 含む。
2	灰褐	7.5YR4/2	微砂　炭化物粒を2%、As－C・Hr－FP を2% 含む。
3	黒褐	7.5YR3/1	微砂　炭化物粒を3%、焼土粒を2%、As－C・Hr－FP を5% 含む。
4	黒褐	5YR3/1	細砂　炭化物粒・ブロックを2%、As－C・Hr－FP を3% 含む。
5	褐	7.5YR4/3	微砂　焼土粒を5%、As－C・Hr－FP を3% 含む。
6	暗褐	10YR3/3	微砂　さらさらした土質　炭化物粒を2%、焼土粒を2% 含む。
7	灰黄褐	10YR4/2	細砂　灰黄褐色砂質ブロックφ1.5cm を2%、炭化物・焼土粒を2%、As－C・Hr－FP を2% 含む。
8	にぶい黄褐	10YR5/3	細砂　砂質土（壁崩落土）

H－37号住居跡竈			
層位№	色　調	土色	説　明
1	明褐	7.5YR5/6	微砂　褐色粘土で、よく締まる。
2	褐	7.5YR4/4	微砂　褐色粘土を混える。 焼土粒を2%、As－C・Hr－FP を2% 含む。
3	暗褐	10YR3/4	微砂　焼土粒を2%、As－C・Hr－FP を2% 含む。
4	にぶい赤褐	5YR4/4	微砂　褐色粘土で、1層より焼けている。
5	暗褐	7.5YR3/4	細砂　焼土粒を5%、As－C・Hr－FP を10% 含む。
6	褐	7.5YR4/3	微砂　褐色粘土を多く混える。 焼土粒を3% を含む。
7	暗褐	7.5YR3/4	微砂　褐色粘土を多く混える。 焼土ブロック5～20mm を10% を含む。
8	褐	7.5YR4/3	微砂　地山砂質土を多く混える。 焼土粒を10% を含む。
9	灰褐	5YR4/2	微砂　灰層で焼土ブロックを5% 含む。

H-38　新カマド

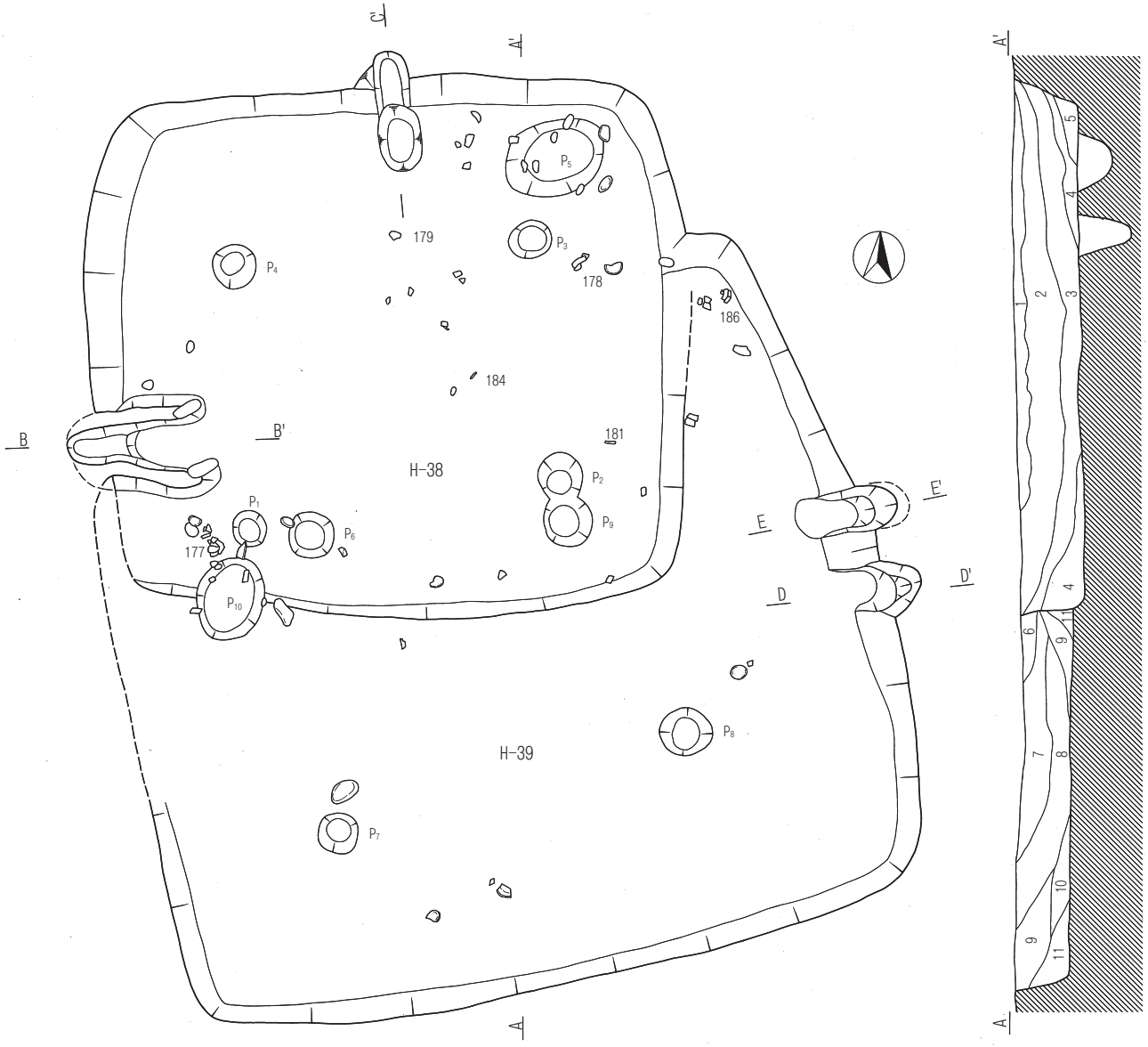


H-38　旧カマド



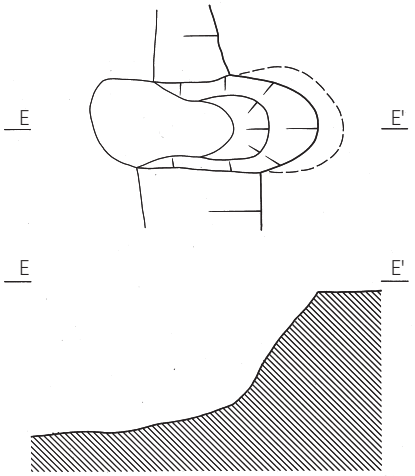
H－38号住居跡竈			
層位№	色　調	土色	説　明
1	褐	7.5YR4/4	微砂　褐色粘土を混える。焼土粒を5%、As－C・Hr－FP を3% 含む。
2	にぶい赤褐	5YR4/4	微砂　褐色粘土主体。
3	赤褐	2.5YR4/6	微砂　被熱粘土主体。
4	にぶい赤褐	5YR4/4	微砂　褐色粘土を混える。焼土ブロックを5%、As－C・Hr－FP を2% 含む。
5	暗褐	5YR3/3	微砂　焼土粒・ブロックを10%、As－C・Hr－FP を3% 含む。
6	暗褐	7.5YR3/2	細砂　灰層で焼土ブロックを3% 含む。

第27図　37・38号住居跡

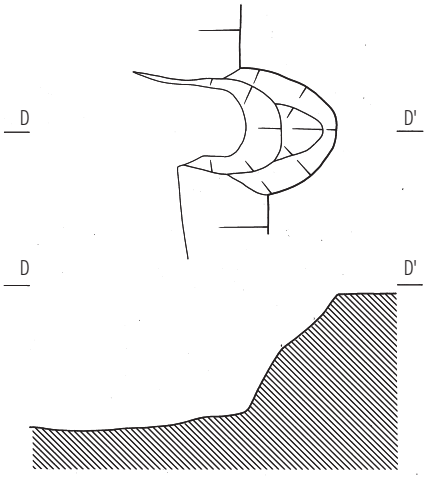


H－38・39号住居跡覆土			
層位No.	色　調	土色	説　明
1	暗褐	10YR3/3	黄橙色ブロックφ5mmを2%、As－C・Hr－FPを5%含む。(H38)
2	灰黄褐	10YR4/2	よく締まる。As－C・Hr－FPを2%含む。(H38)
3	にぶい黄褐	10YR4/3	As－C・Hr－FPを2%含む。(H38)
4	褐	10YR4/6	炭化物を1%含む。(H38)
5	褐	10YR4/4	黄橙色ブロックφ2mmを2%、炭化物を1%含む。(H38)
6	黒褐	10YR2/3	黄橙色粒を1%、As－C・Hr－FPを1%含む。(H39)
7	暗褐	10YR3/3	As－C・Hr－FPを2%含む。(H39)
8	にぶい黄褐	10YR4/3	焼土粒を1%、As－C・Hr－FPを1%含む。(H39)
9	灰黄褐	10YR4/2	As－C・Hr－FPを5%含む。(H39)
10	にぶい黄褐	10YR5/4	黄橙色ブロックφ5mmを10%、焼土粒を1%含む。(H39)
11	にぶい黄褐	10YR5/3	黄橙色ブロックをまだらに混える。(H39)

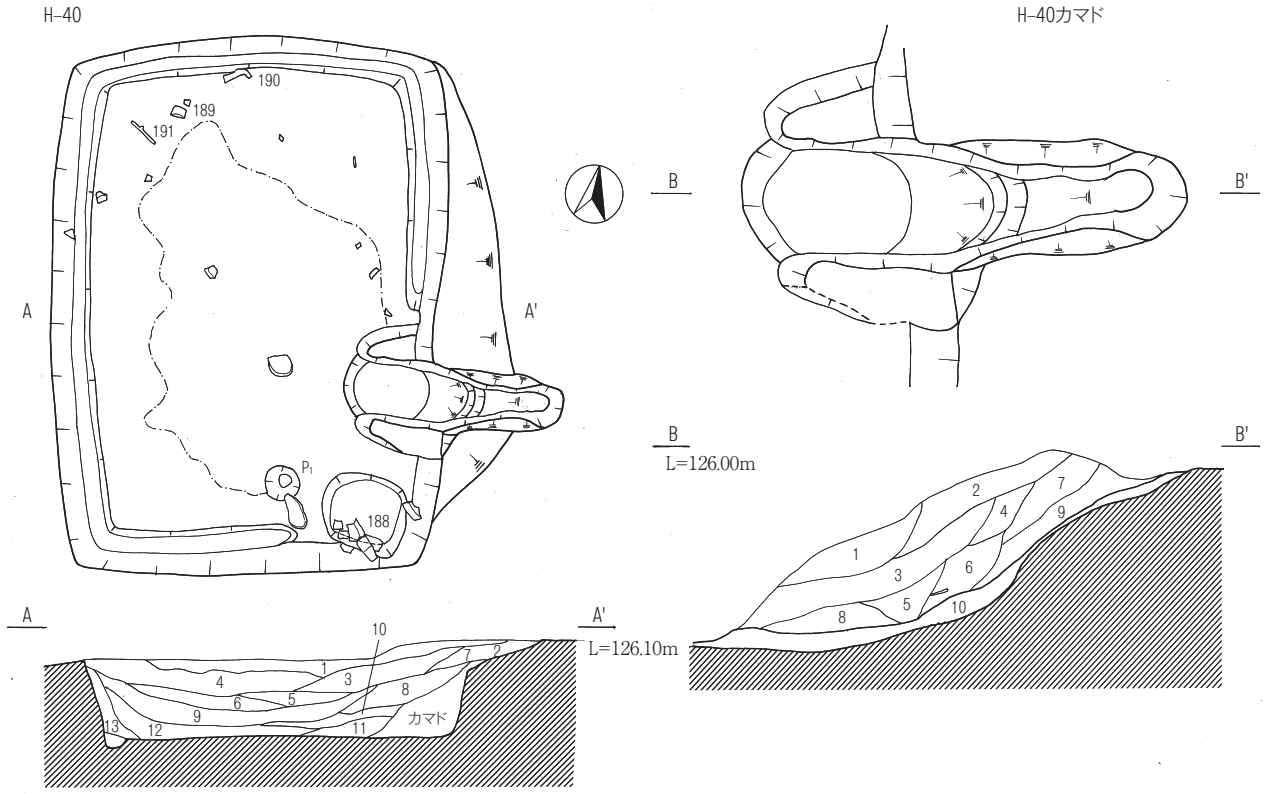
1号カマド



2号カマド

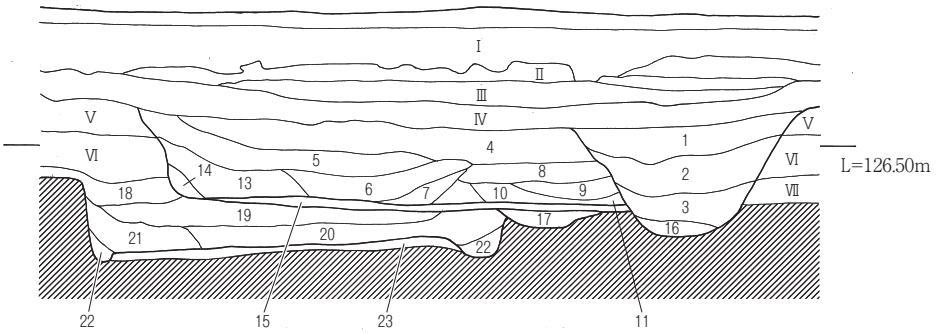


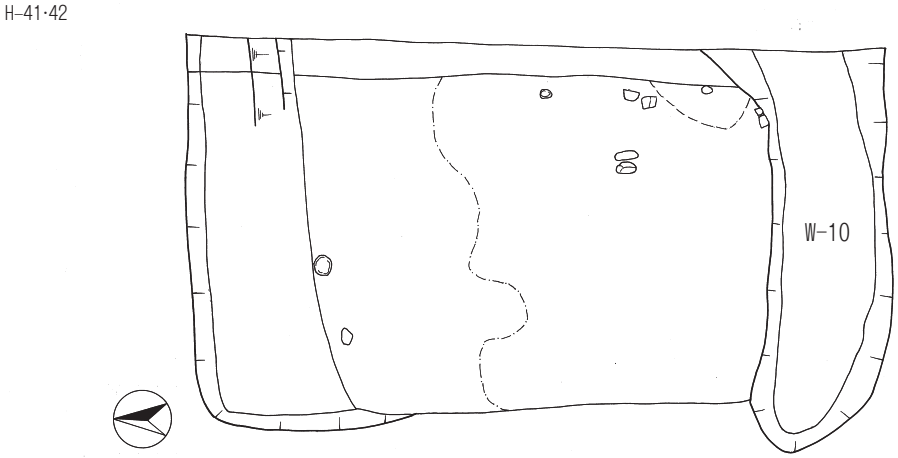
第28図　38・39号住居跡



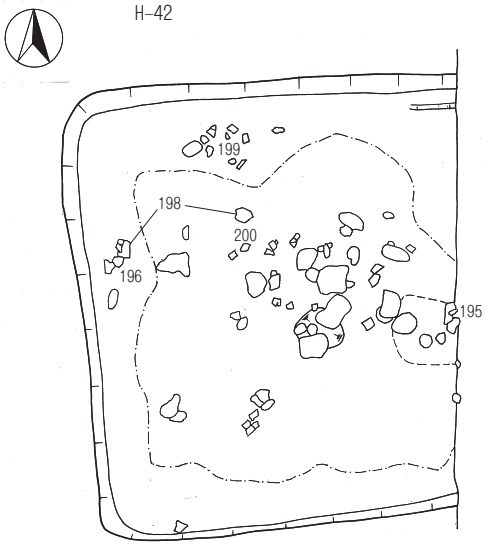
H－40号住居跡覆土			
層位№	色　調	土色	説　明
1	にぶい黄褐	10YR4/3	As－C・Hr－FP を20% 含む。
2	灰黄褐	10YR4/2	焼土粒を1%、As－C・Hr－FP を10% 含む。
3	褐	7.5YR4/3	焼土粒を1%、As－C・Hr－FP を10%、黄橙色粒を含む。
4	暗褐	10YR3/4	As－C・Hr－FP を5%、黄橙色粒を5% 含む。
5	暗褐	10YR3/3	焼土粒を2%、As－C・Hr－FP を2% 含む。
6	褐	10YR4/6	焼土粒を1%、As－C・Hr－FP を1% 含む。
7	褐	10YR4/4	焼土粒を5%、As－C・Hr－FP を1% 含む。
8	褐	10YR4/6	焼土粒を2%、As－C・Hr－FP を5%、黄橙色粒を5% 含む。
9	にぶい黄褐	10YR4/3	炭化物を2%、As－C・Hr－FP を1% 含む。
10	暗褐	10YR3/4	焼土粒を5%、As－C・Hr－FP を5% 含む。
11	灰黄褐	10YR4/2	As－C・Hr－FP を2% 含む。
12	にぶい黄褐	10YR4/3	As－C・Hr－FP を1% 含む。
13	にぶい黄褐	10YR5/4	黄橙色粒φ5mm を2% 含む。

H－40号住居跡竈			
層位№	色　調	土色	説　明
1	にぶい黄褐	10YR4/3	微砂　褐色粘土を混える。焼土粒を3%、炭化物を1%、As－C・Hr－FP を5% 含む。
2	褐	10YR4/4	微砂　焼土粒を1%、As－C・Hr－FP を1% 含む。
3	暗褐	10YR3/4	微砂　砂質土　焼土粒を2%、As－C・Hr－FP を2% 含む。
4	褐	7.5TR4/3	微砂　褐色粘土を混える。As－C・Hr－FP を1% 含む。
5	暗褐	10YR3/3	微砂　焼土粒を2%、As－C・Hr－FP を1% 含む。
6	にぶい赤褐	5YR4/4	褐色粘土主体
7	暗赤褐	5YR3/6	褐色粘土主体　焼土ブロックφ5～20mm を10% 含む。
8	灰褐	7.5TR4/2	微砂　灰を混える。焼土ブロックφ5mm を5%、炭化物を1% 含む。
9	にぶい赤褐	5YR4/4	褐色粘土主体　焼土ブロックφ5mm を5% 含む。
10	注記漏れ		

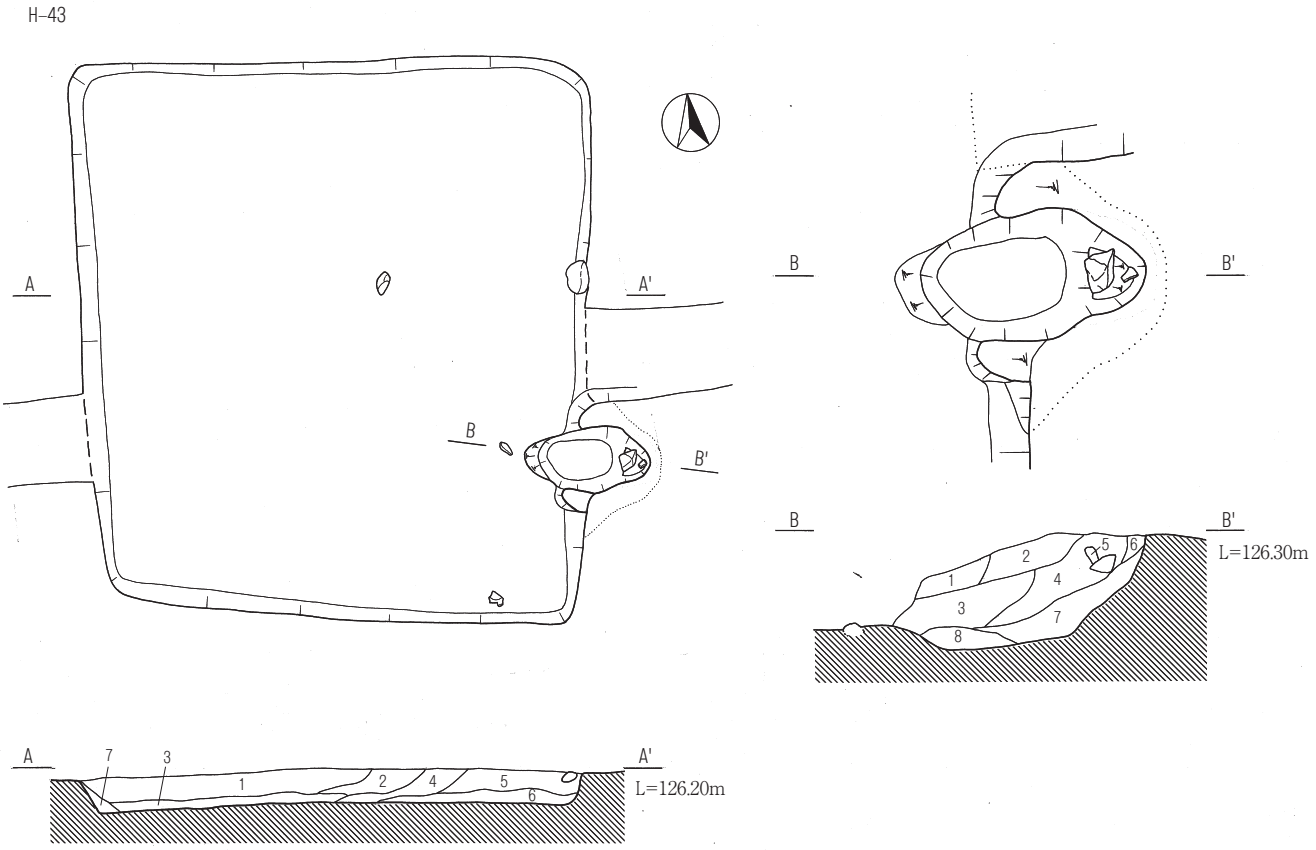




第29図　40・41・42号住居跡



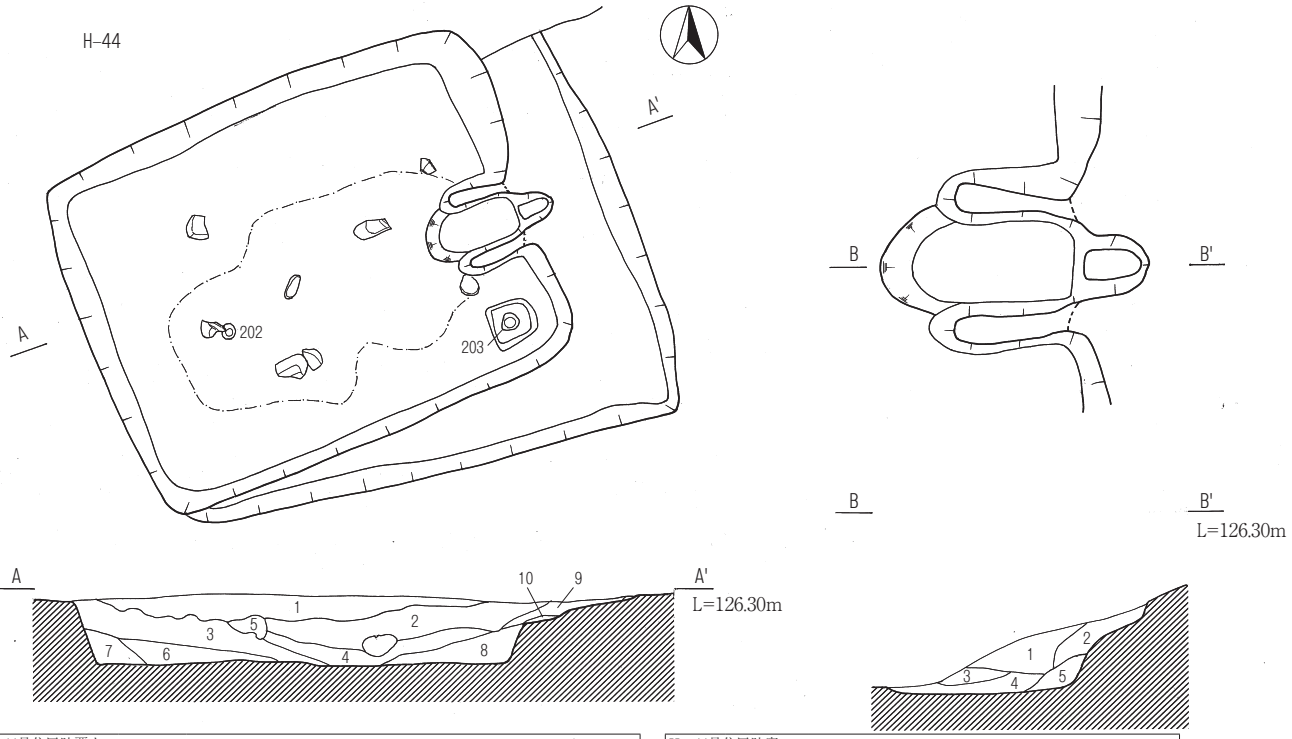
H－41・42号住居跡、W－10覆土			
層位No.	色　調	土色	説　明
Ⅰ			表土
Ⅱ	黒褐	5YR1/2	粗砂　ザラザラした砂質土（自然堆積）
Ⅲ	黒褐	5YR2/2	細砂（自然堆積）
Ⅳ	黒褐	5YR2/2	細砂（自然堆積）
Ⅴ			818年関連の泥流層（自然堆積）
Ⅵ	黒褐	7.5YR2/3	細砂　砂質土　As－C・Hr－FP を5% 含む。（自然堆積）
Ⅶ			As－C を含む黒色土（自然堆積）
1	暗褐	7.5YR3/3	粗い砂質　砂利質　焼土粒を2%、As－C・Hr－FP を2% 含む。（W10）
2	暗褐	7.5YR4/3	粗い砂質　橙色粒を5%、As－C・Hr－FP を3% 含む。（W10）
3	黒褐	7.5YR3/2	粗い砂質　橙色粘土ブロックφ1.5～2.0cm を2%、焼土粒を5%、As－C・Hr－FP を3% 含む。（W10）
4	黒褐	7.5YR2/3	細砂　3層より若干粗　焼土粒を2%、橙色粒を5%、As－C・Hr－FP を5% 含む。
5	暗褐	7.5YR3/3	細砂　炭化物粒を2%、橙色粒を2%、As－C・Hr－FP を5% 含む。
6	暗褐	7.5YR4/3	細砂　粗い砂質土　炭化物粒を3%、焼土粒を3%、As－C・Hr－FP を3% 含む。
7	暗褐	7.5YR4/3	細砂　橙色ブロックφ0.6cm を2%、小石φ0.8～1cm を2%、As－C・Hr－FP を3% 含む。
8	暗赤褐	5YR3/3	細砂　焼土粒・炭化物を5%、As－C・Hr－FP を3% 含む。
9	赤褐	5YR6/4	微砂　粘質あり　焼土ブロックφ0.8～1.2cm を5%、炭化物を7% 含む。
10	にぶい赤褐	5YR4/4	微砂　粘質あり　焼土ブロックφ0.8～1cm を2%、炭化物を5%、As－C・Hr－FP を2% 含む。
11	暗赤褐	2.5YR3/3	微砂　焼土ブロックφ0.6cm を2%、焼土粒を3%、炭化物を2%、As－C・Hr－FP を3% 含む。
12	暗褐	7.5YR3/3	微砂　焼土粒・炭化物粒を5%、As－C・Hr－FP を3% 含む。
13	黒褐	7.5YR2/3	細砂　炭化物粒を2%、橙色粒を3%、As－C・Hr－FP を3% 含む。
14	暗褐	10YR4/3	細砂　橙色粒を2%、As－C・Hr－FP を2% 含む。
15	暗赤褐	5YR3/3	微砂　閉まり有り、貼り床を形成　橙色ブロックφ1～2cm を3%、炭化物を3%、As－C・Hr－FP を3% 含む。
16	褐	7.5YR4/4	微砂　焼土ブロックφ0.8cm を2%、焼土粒を3%、炭化物を2%、As－C・Hr－FP を2% 含む、若干灰を混える。（貯蔵穴）
17	暗赤褐	5YR2/3	微砂　焼土ブロックφ1～2cm を7%、焼土粒を5%、炭化物を2%、As－C・Hr－FP を3% 含む。
18	黒褐	7.5YR2/3	細砂　As－C・Hr－FP を5% 含む。（H42）
19	暗褐	7.5YR3/3	細砂　橙色粒を3%、As－C・Hr－FP を7% 含む。（H42）
20	暗褐	10YR4/3	細砂　焼土粒を5%、炭化物を3%、As－C・Hr－FP を5% 含む。（H42）
21	暗褐	10YR4/3	細砂　橙色粒を2%、As－C・Hr－FP を3% 含む。（H42）
22	灰褐	7.5YR2/4	微砂　ザラザラした土質　As－C・Hr－FP を1% 含む。（H42）
23	注記漏れ		掘り方覆土（H42）



H－43号住居跡覆土			
層位No.	色　調	土色	説　明
1	にぶい黄褐	10YR4/3	細砂　砂質土　As－C・Hr－FP を2% 含む。
2	灰黄褐	10YR4/2	細砂　1層より細かい砂質土　As－C・Hr－FP を5% 含む。
3	にぶい黄褐	10YR4/3	細砂　1層より粗い砂質土　As－C・Hr－FP を2% 含む。
4	褐	7.5YR4/3	微砂　褐色粘土ブロックを10%、As－C・Hr－FP を3% 含む。
5	にぶい黄褐	10YR4/3	細砂　砂質土　As－C・Hr－FP を5% 含む。
6	灰黄褐	10YR4/2	微砂　砂質土　As－C・Hr－FP を2% 含む。
7	褐	10YR4/4	微砂　砂質土　As－C・Hr－FP を2% 含む。

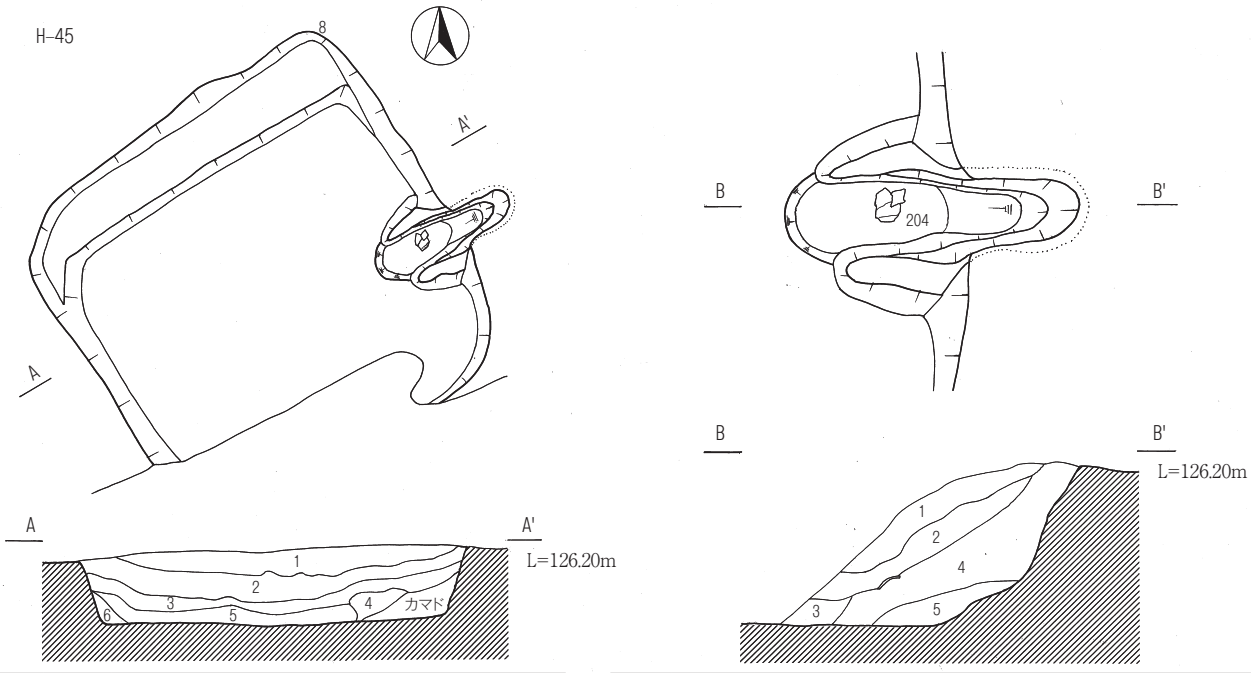
H－43号住居跡竈			
層位No.	色　調	土色	説　明
1	褐	7.5YR4/4	微砂　褐色粘土ブロックを5%、As－C・Hr－FP を2% 含む。
2	にぶい褐	7.5YR5/4	微砂　褐色粘土ブロックを5%、As－C・Hr－FP を5% 含む。
3	にぶい黄褐	10YR4/3	微砂　炭化物　・焼土粒を1%、As－C・Hr－FP を3% 含む。
4	褐	7.5YR4/3	微砂　褐色粘土を多く混える。
5	赤褐	5YR4/8	被熱を受けた褐色粘土ブロック主体
6	赤褐	5YR4/8	被熱を受けた褐色粘土ブロック主体
7	暗褐	7.5YR3/4	微砂　被熱を受けた褐色粘土ブロックφ3cm を10% 含む。
8	褐	7.5YR4/3	微砂　焼土を10%、灰を混える。

第30図　42・43号住居跡



H－44号住居跡覆土			
層位No.	色　調	土色	説　明
1	暗褐	7.5YR3/2	粗砂　砂質土　As－C・Hr－FP を3% 含む。
2	暗褐	7.5YR3/4	細砂　黄褐色砂質ブロックφ1.5～2cm を2%、As－C・Hr－FP を3% 含む。
3	黒	7.5YR3/3	細砂　As－C・Hr－FP を5% 含む。
4	暗褐	10YR3/3	細砂　橙色粒を若干混え、As－C・Hr－FP を2% 含む。
5	黒	10YR3/2	細砂　炭化物粒を多く混え、As－C・Hr－FP を3% 含む。
6	灰褐	7.5YR4/2	細砂　As－C・Hr－FP を3% 含む。
7	暗褐	7.5YR3/3	細砂　As－C・Hr－FP を3% 含む。
8	灰褐	7.5YR4/2	細砂　As－C・Hr－FP を2% 含む。
9	褐	7.5YR4/6	細砂　砂質土　As－C・Hr－FP を1% 含む。
10	黒		As－C を含む。

H－44号住居跡竈			
層位No.	色　調	土色	説　明
1	褐	7.5YR4/3	微砂
2	褐	7.5YR4/3	微砂　焼土ブロックを2% 含む。
3	褐	7.5YR4/4	微砂　焼土ブロックを10% 含む。
4	黒褐	7.5YR3/1	微砂　灰を多く混え、焼土粒を5% 含む。
5	暗褐	7.5YR3/3	微砂　灰を混え、焼土粒を10% 含む。

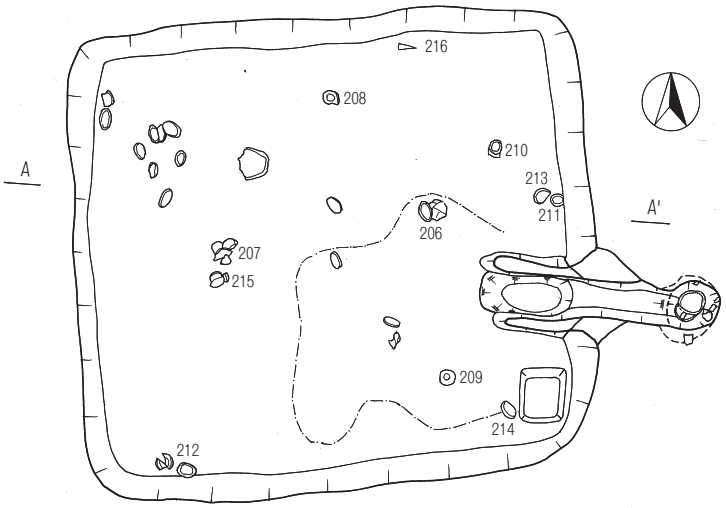


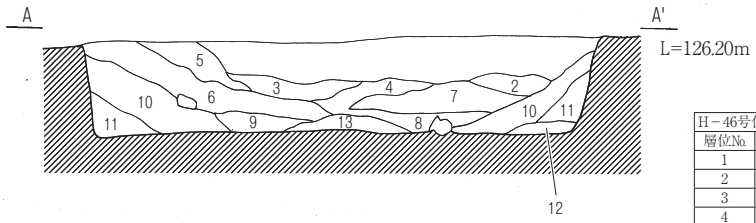
H－45号住居跡覆土			
層位No.	色　調	土色	説　明
1	暗褐	10YR3/4	黄橙色粒を2%、As－C・Hr－FP を20% 含む。
2	にぶい黄褐	10YR4/3	黄橙色粒を1%、As－C・Hr－FP を10% 含む。
3	灰黄褐	10YR4/2	As－C・Hr－FP を2% 含む。
4	褐	7.5YR4/3	粘性を帯びる。焼土ブロックを20%、炭化物を2%、焼土粒を2% 含む。
5	褐	10YR4/6	黄橙色粒を1%、As－C・Hr－FP を5% 含む。
6	褐	10YR4/6	砂質土

H－45号住居跡竈			
層位No.	色　調	土色	説　明
1	にぶい黄褐	10YR4/3	微砂　砂質土　焼土ブロックφ5mm を1%、As－C・Hr－FP を3% 含む。
2	褐	10YR4/4	微砂　砂質土　焼土ブロックφ5～20mm を10%、As－C・Hr－FP を3% 含む。
3	褐	10YR4/4	細砂　砂質土　焼土粒を2% 含む。
4	にぶい赤褐	5YR4/3	微砂　褐色粘土を混える。焼土粒・ブロックを20% 含む。
5	暗褐	7.5YR3/4	微砂　灰を混える。焼土粒・ブロックを5% 含む。

第31図　44・45号住居跡

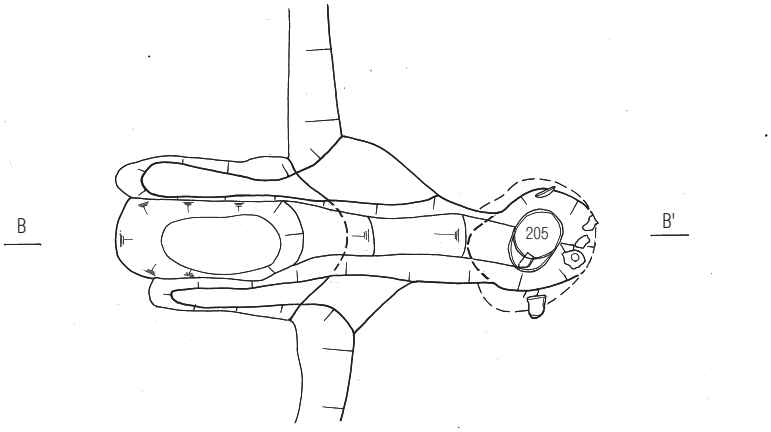
H-46

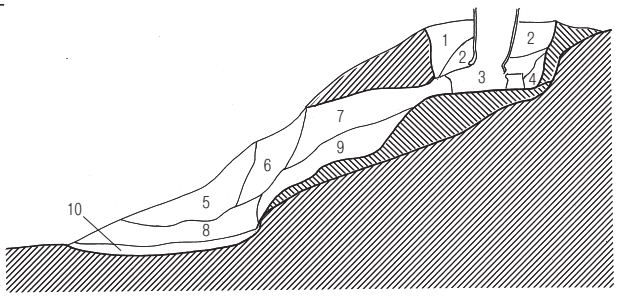




H－46号住居跡覆土			
層位No.	色　調	土色	説　明
1	褐	10YR4/4	細砂　砂質土　As－C・Hr－FP を10% 含む。
2	にぶい黄褐	10YR5/3	微砂　砂質土　As－C・Hr－FP を2% 含む。
3	にぶい黄褐	10YR4/3	細砂　砂質土　黄褐色砂質ブロックを5%、As－C・Hr－FP を5% 含む。
4	暗褐	10YR3/4	微砂　砂質土　黄褐色砂質ブロックを3%、As－C・Hr－FP を3% 含む。
5	にぶい黄褐	10YR4/3	細砂　砂質土　As－C・Hr－FP を5% 含む。
6	黒褐	10YR3/2	微砂　砂質土　黄褐色砂質ブロックを5%、炭化物を1%、As－C・Hr－FP を5% 含む。
7	にぶい黄褐	10YR4/3	微砂　砂質土　As－C・Hr－FP を5% 含む。
8	暗褐	10YR3/4	微砂　砂質土　黄褐色砂質ブロックを5%、As－C・Hr－FP を5% 含む。
9	暗褐	10YR3/4	微砂　砂質土　As－C・Hr－FP を5% 含む。
10	褐	10YR4/4	微砂　砂質土　As－C・Hr－FP を5% 含む。
11	にぶい黄褐	10YR5/3	微砂　砂質土　黄褐色砂質ブロックを主体とし、As－C・Hr－FP を2% 含む。
12	褐	7.5YR4/3	微砂　砂質土　褐色粘土を混え、As－C・Hr－FP を3% 含む。
13	褐	10YR4/4	微砂　砂質土　As－C・Hr－FP を2% 含む。

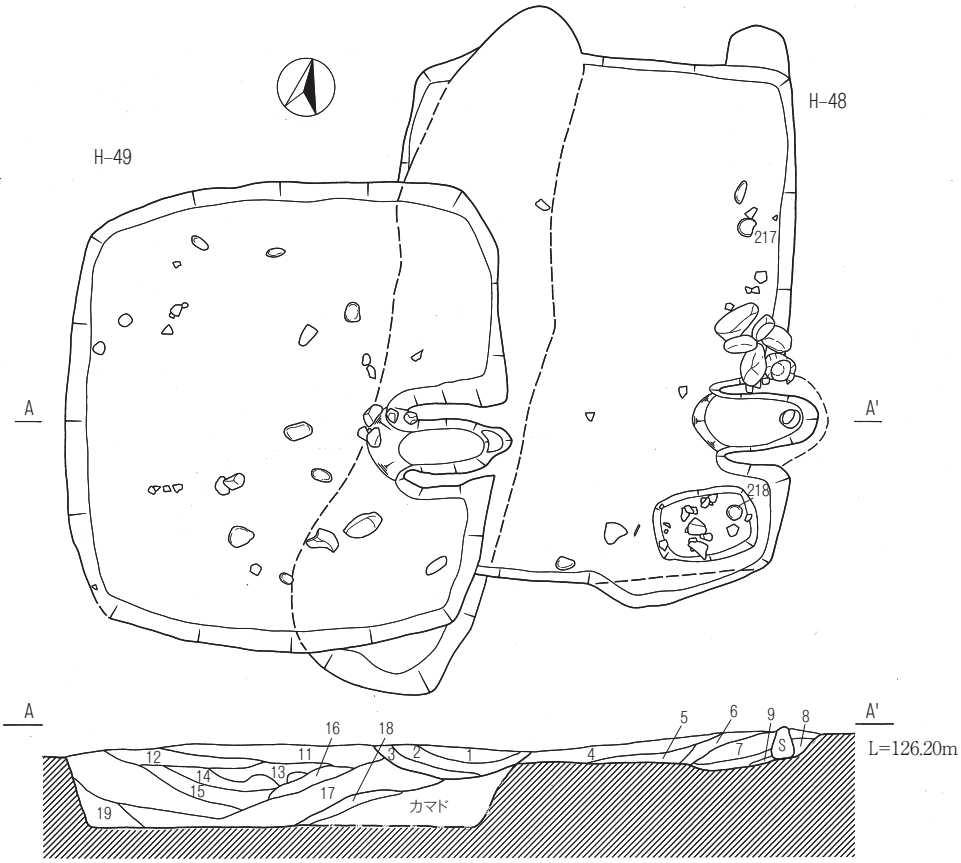
H-46カマド



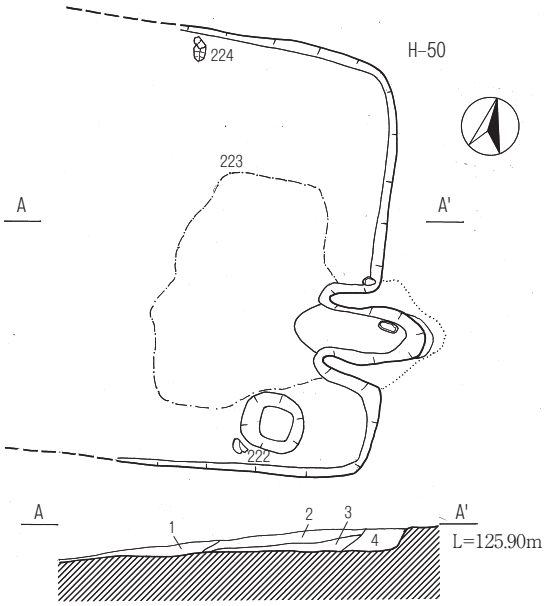


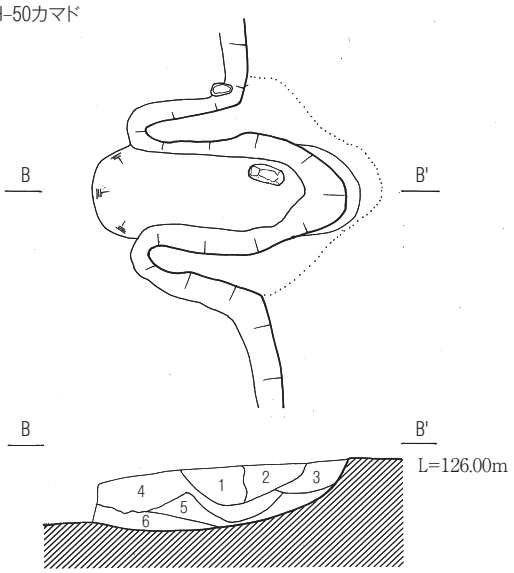
H－46号住居跡竈			
層位No.	色　調	土色	説　明
1	にぶい黄褐	10YR4/3	微砂　焼土粒を2%、As－C・Hr－FP を3% 含む。
2	にぶい黄褐	10YR5/4	微砂　褐色粘土を混え、As－C・Hr－FP を1% 含む。
3	褐	7.5YR4/3	微砂　褐色粘土を主体とする。
4	褐	7.5YR4/4	微砂　地山砂質土の崩れ
5	にぶい黄褐	10YR4/3	細砂　焼土粒を1%、As－C・Hr－FP を3% 含む。
6	褐	7.5YR4/4	細砂　焼土ブロックを10%、As－C・Hr－FP を3% 含む。
7	暗褐	10YR4/3	細砂　焼土粒を1%、As－C・Hr－FP を5% 含む。
8	にぶい赤褐	5YR4/4	細砂　焼土ブロックφ5～30mm を20%、As－C・Hr－FP を2% 含む。
9	にぶい黄褐	10YR4/3	微砂　焼土粒を2%、As－C・Hr－FP を2% 含む。
10	灰黄褐	10YR4/2	微砂　灰層で焼土粒を2% 含む。

第32図　46号住居跡



H－48・49号住居、W－15覆土			
層位No.	色調	土色	説　明
1	にぶい黄褐	10YR4/3	W－15覆土
2	褐	10YR4/4	W－15覆土
3	灰黄褐	10YR4/2	W－15覆土
4	にぶい黄褐	10YR5/4	焼土粒を2%、As－C・Hr－FP を10% 含む。(H48覆土)
5	にぶい黄褐	10YR4/3	(H48覆土)
6	褐	7.5YR4/3	焼土粒を20% 含む。(H48覆土)
7	にぶい黄褐	10YR5/4	細砂　砂質土　焼土粒を5%、As－C・Hr－FP を5% 含む。(H48竈)
8	褐	7.5YR4/3	微砂　褐色粘土を混える。焼土粒を3%、As－C・Hr－FP を3% 含む。(H48竈)
9	暗褐	7.5YR3/3	微砂　焼土粒・ブロックを5%、As－C・Hr－FP を5% 含む。(H48竈)
10	暗褐	7.5YR3/4	微砂　焼土粒を1%、As－C・Hr－FP を5% 含む。(H48竈)
11	暗褐	10YR3/3	細砂　砂質土主体　焼土粒を5%、炭化物を1%、As－C・Hr－FP を3% 含む。(H49覆土)
12	暗褐	10YR3/4	細砂　焼土粒・炭化物を1%、As－C・Hr－FP を5% 含む。(H49覆土)
13	黒褐	10YR3/2	微砂　焼土粒・炭化物を1%、As－C・Hr－FP を3% 含む。(H49覆土)
14	にぶい黄褐	10YR4/3	細砂　炭化物を1%、As－C・Hr－FP を2% 含む。(H49覆土)
15	暗褐	10YR3/3	微砂　黄褐色砂質ブロックを10%、As－C・Hr－FP を5% 含む。(H49覆土)
16	褐	10YR4/4	細砂　黄褐色砂質ブロックを5%、As－C・Hr－FP を10% 含む。(H49覆土)
17	にぶい黄褐	10YR4/3	微砂　焼土粒を1%、As－C・Hr－FP を3% 含む。(H48覆土)
18	灰黄褐	10YR4/2	微砂　焼土粒を1%、As－C・Hr－FP を2% 含む。(H49覆土)
19	にぶい黄褐	10YR4/3	細砂　黄褐色砂質ブロックを10%、As－C・Hr－FP を5% 含む。(H49覆土)

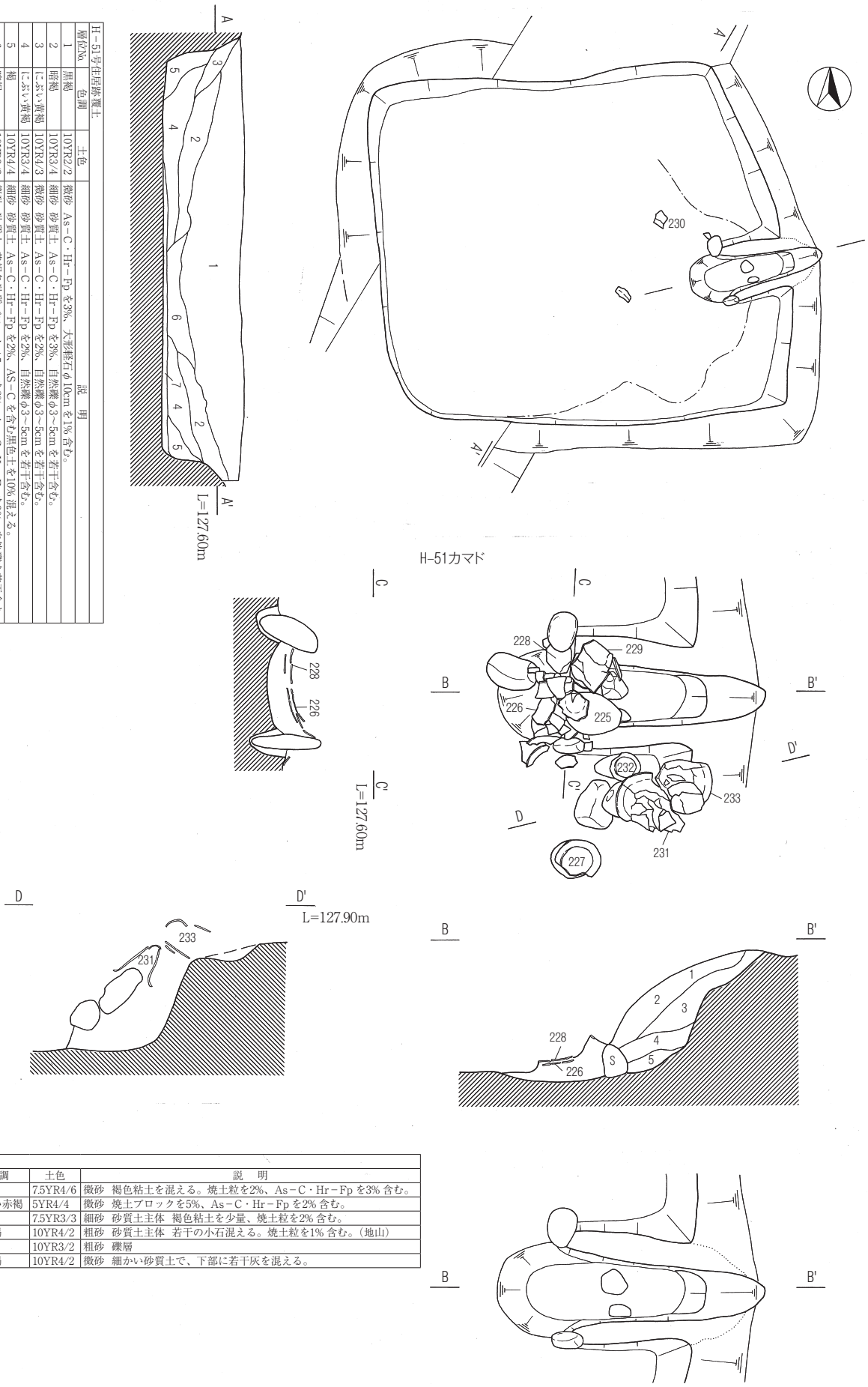




H－50号住居跡覆土			
層位No.	色調	土色	説　明
1	灰黄褐	10YR4/2	As－C・Hr－FP を1% 含む。
2	にぶい黄褐	10YR4/3	As－C・Hr－FP を5% 含む。
3	褐	10YR4/4	As－C・Hr－FP を2% 含む。
4	褐	10YR4/6	As－C・Hr－FP を5% 含む。

H－50号住居跡竈			
層位No.	色調	土色	説　明
1	にぶい黄褐	10YR5/4	As－C・Hr－FP を2%、黄橙色粒を2%、灰白色粒を2% 含む。
2	にぶい黄褐	10YR5/3	As－C・Hr－FP を5%、焼土粒を5%、黄橙色粒を1% 含む。
3	褐	7.5YR4/3	焼土ブロック30%、焼土粒を2% 含む。
4	明黄褐	10YR7/6	焼土ブロック50%、黄色粒を2%、焼土粒を1% 含む。
5	暗褐	7.5YR3/4	焼土粒を2% 含む。
6	黒褐	7.5YR3/2	白橙色ブロックφ5mm を2%、焼土粒を1% 含む。

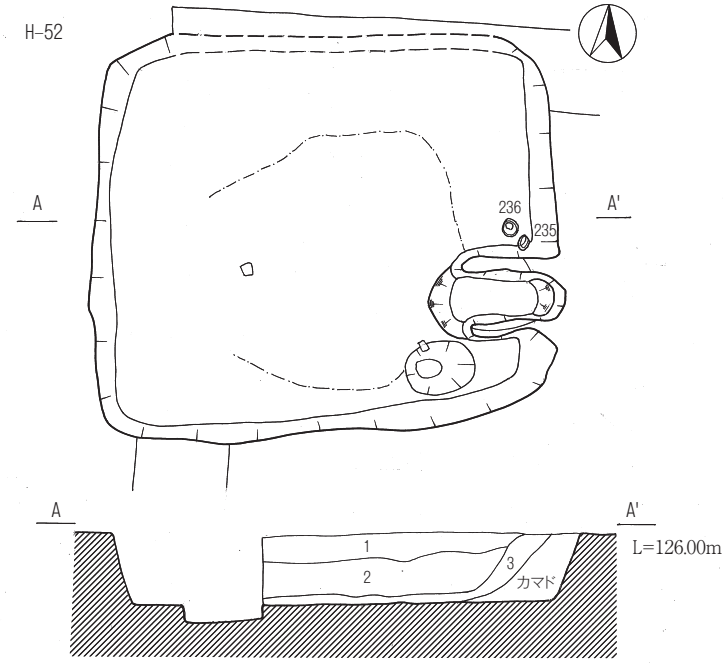
第33図　48・49・50号住居跡

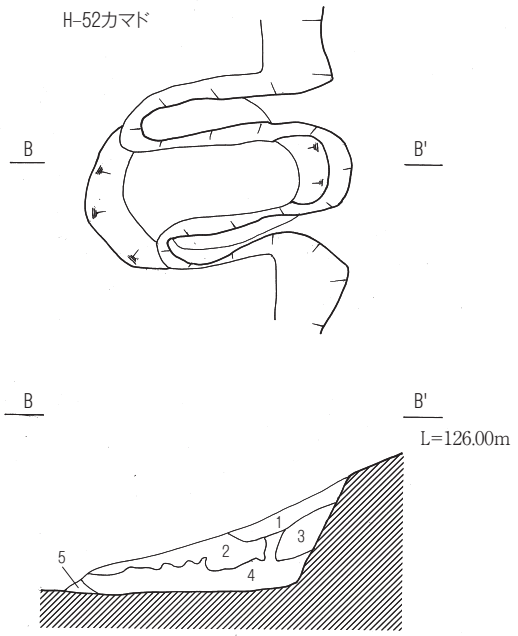


H－51号住居跡 覆土			
層位No.	色調	土色	説　明
1	黒褐	10YR2/2	微砂　As－C・Hr－Fpを3%、大形軽石φ10cmを1%含む。
2	暗褐	10YR3/4	細砂　砂質土　As－C・Hr－Fpを3%、自然礫φ3～5cmを若干含む。
3	にぶい黄褐	10YR4/3	微砂　砂質土　As－C・Hr－Fpを2%、自然礫φ3～5cmを若干含む。
4	にぶい黄褐	10YR3/4	細砂　砂質土　As－C・Hr－Fpを2%、自然礫φ3～5cmを若干含む。
5	褐	10YR4/4	細砂　砂質土　As－C・Hr－Fpを2%、AS－Cを含む黒色土を10%混える。
6	暗褐	10YR3/3	微砂　砂質土　黄褐色砂質ブロックφ5cmを2%、As－C・Hr－Fpを3%、自然礫を若干含む。
7	にぶい黄褐	10YR5/3	微砂　床面　黄褐色砂質ブロックφ5cmを2%、As－C・Hr－Fpを3%含む。

H－51号住居竈			
層位No.	色調	土色	説　明
1	褐	7.5YR4/6	微砂　褐色粘土を混える。焼土粒を2%、As－C・Hr－Fpを3%含む。
2	にぶい赤褐	5YR4/4	微砂　焼土ブロックを5%、As－C・Hr－Fpを2%含む。
3	暗褐	7.5YR3/3	細砂　砂質土主体　褐色粘土を少量、焼土粒を2%含む。
4	灰黄褐	10YR4/2	粗砂　砂質土主体　若干の小石混える。焼土粒を1%含む。（地山）
5	黒褐	10YR3/2	粗砂　礫層
6	灰黄褐	10YR4/2	微砂　細かい砂質土で、下部に若干灰を混える。

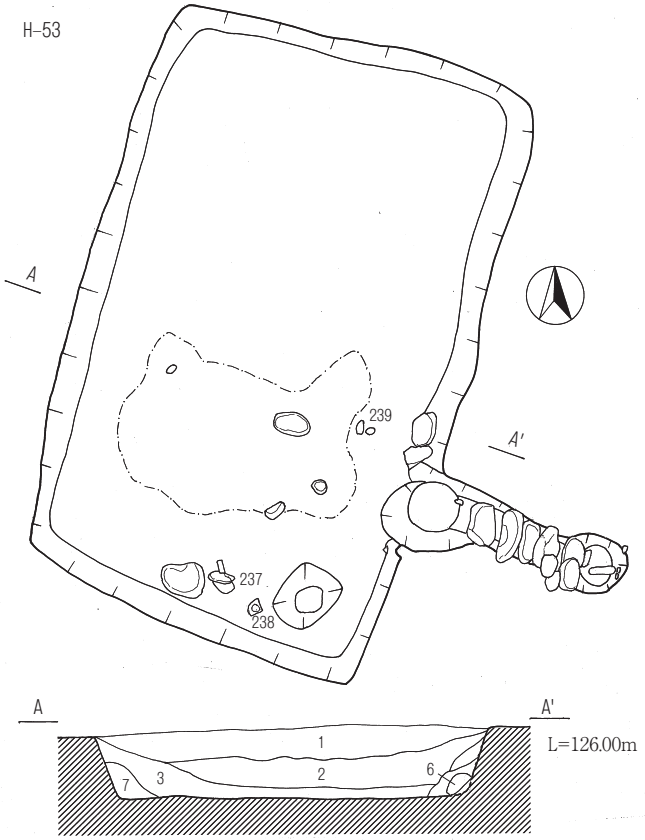
第34図　51号住居跡

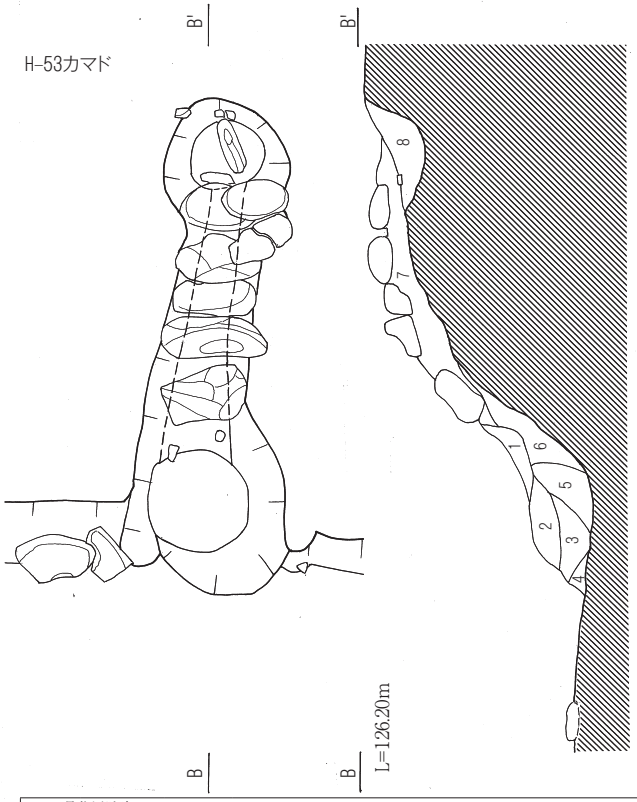




H－52号住居跡覆土			
層位No.	色調	土色	説　明
1	暗褐	10YR3/3	細砂　As－C・Hr－Fp を3% 含む。
2	暗褐	10YR3/4	微砂　黄褐色砂質ブロックφ5～20mm を3%、焼土粒・炭化物を3%、As－C・Hr－Fp を10% 含む。
3	褐	10YR4/4	微砂　橙色粘質土ブロックφ5～6cm を2%、焼土粒・炭化物を3%、As－C・Hr－Fp を3% 含む。
4	にぶい黄褐	10YR4/3	微砂　黄褐色砂質ブロックφ2～3cm を2%、As－C・Hr－Fp を2% 含む。

H－52号住居跡竈			
層位No.	色調	土色	説　明
1	褐	7.5YR4/3	微砂 焼土粒を2%、As－C・Hr－Fp を3% 含む。
2	褐	7.5YR4/6	微砂 焼土粒を10%、炭化物を5%、As－C・Hr－Fp を3% 含む。
3	褐	10YR4/6	細砂　黄褐色砂質ブロックφ2～3cm を若干含む。
4	黒褐	7.5YR3/1	微砂　黒色灰を主体とし、焼土ブロックを7%、As－C・Hr－Fp を3% 含む。
5	にぶい黄褐	10YR4/3	微砂　黒色灰と黄褐色砂質土ブロックφ2cm を若干含む。

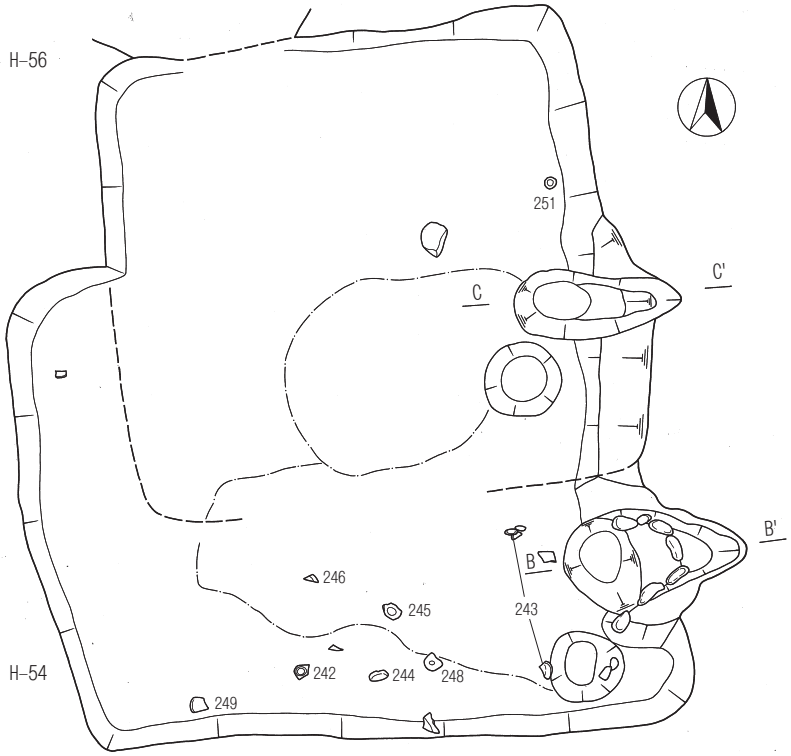




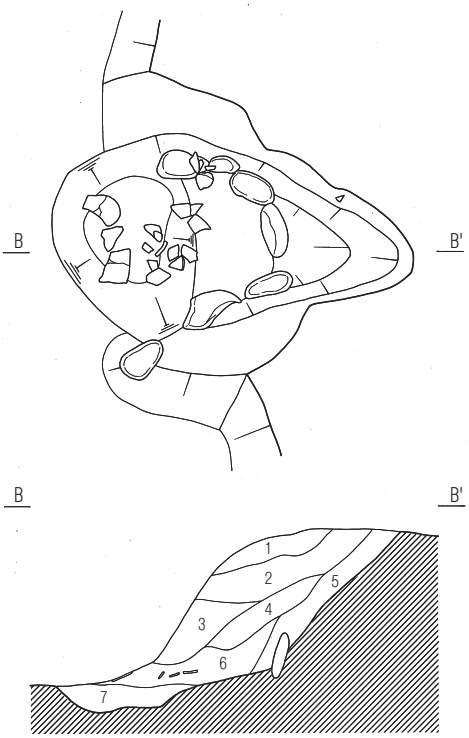
H－53号住居跡覆土			
層位No.	色調	土色	説　明
1	暗褐	7.5YR3/3	細砂　灰黄褐色砂質ブロックφ2～4cm を5%、As－C・Hr－Fp を7% 含む。
2	黒褐	7.5YR3/2	細砂　As－C・Hr－Fp を5% 含む。
3	にぶい黄褐	10YR4/2	微砂　黄褐色砂質ブロックφ2～4cm を7%、As－C・Hr－Fp を5% 含む。
4	にぶい黄褐	10YR4/2	微砂 黒色ブロックφ2～3cm を3%、焼土粒を若干含む。
5	灰黄褐	10YR4/2	微砂　砂質土　As－C・Hr－Fp を2% 含む。
6	褐	10YR4/4	微砂　焼土ブロックφ2cm を2%、As－C・Hr－Fp を2% 含む。
7	褐	10YR4/4	微砂　As－C・Hr－Fp を1% 含む。

H－53号住居跡竈			
層位No.	色調	土色	説　明
1	暗褐	7YR3/4	微砂　橙色粘質土ブロックφ2～4cm を3%、As－C・Hr－Fp を3% 含む。
2	黒褐	7.5YR3/2	微砂　黄褐色砂質ブロックを若干、焼土粒を5%、As－C・Hr－Fp を3% 含む。
3	暗褐	7.5YR3/3	微砂　焼土粒を7%、炭化物を5%、As－C・Hr－Fp を3% 含む。
4	黒褐	7.5YR3/1	微砂　黒色灰を主体とし、焼土粒を3%、As－C・Hr－Fp を2% 含む。
5	暗赤褐	5YR3/3	微砂　黄褐色砂質ブロックφ2cm を3%、焼土粒を3% を3% 含む。
6	にぶい赤褐	5YR4/4	微砂　橙色粘質土ブロックφ2～4cm を7% 含む。
7	暗褐	7.5YR3/3	微砂　黄褐色砂質ブロックφ2cm を10%、焼土粒を3%、炭化物を2%、As－C・Hr－Fp を3% 含む。
8	暗褐	7.5YR3/4	微砂　焼土粒を5%、As－C・Hr－Fp を3% 含む。

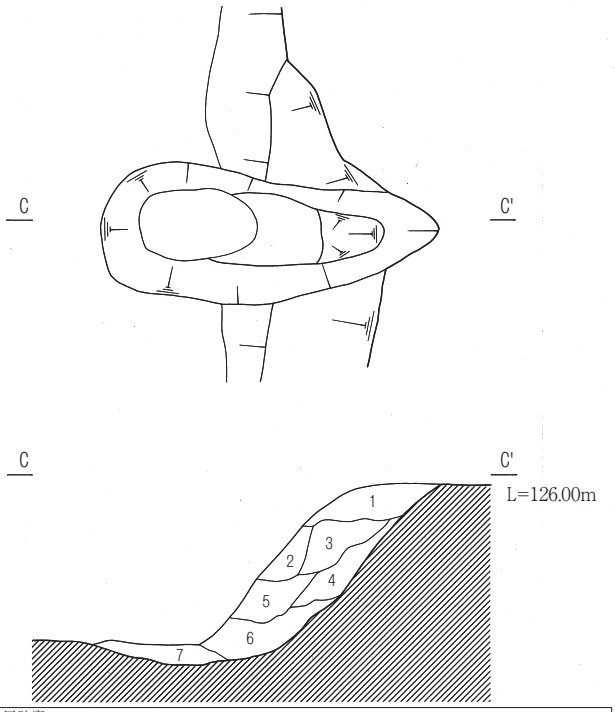
第35図　52・53号住居跡



H-54カマド



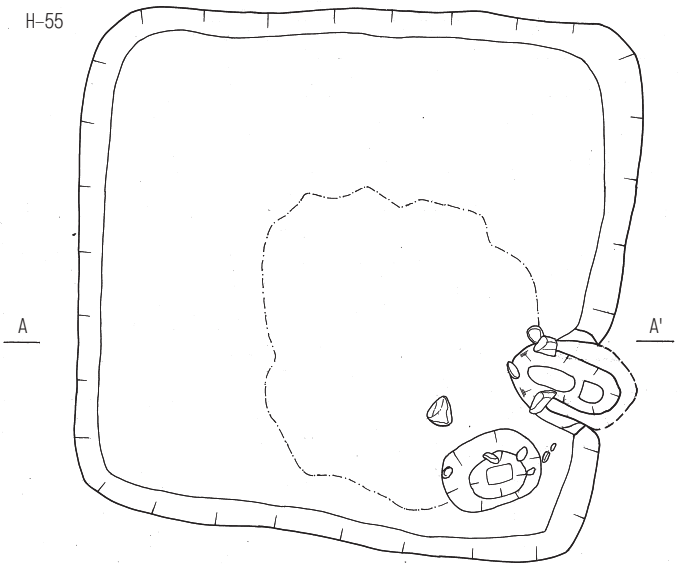
H-56カマド

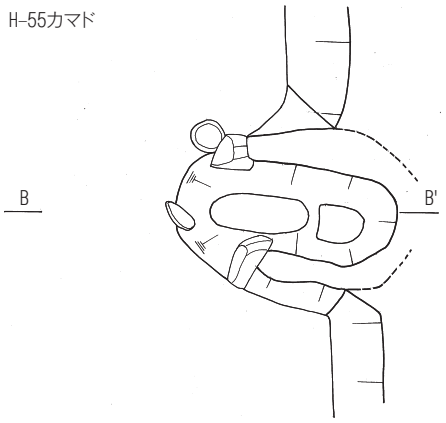


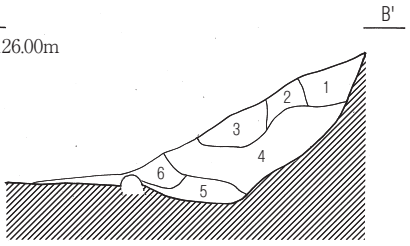
H－54住居			
層位No.	色調	土色	説　明
1	灰褐	7.5YR4/2	微砂　灰褐色粘土ブロックφ1cmを5%、炭化物φ3cmを2%、焼土粒を3%、As－C・Hr－Fpを3%含む。
2	灰褐	7.5YR5/2	微砂　灰褐色粘土ブロックφ1～10cmを20%、炭化物を7%、焼土粒を10%含む。
3	灰褐	7.5YR4/2	微砂　黄褐色砂質ブロックφ2～5cmを3%、灰褐色粘土ブロックを2%、焼土粒を3%含む。
4	赤褐	2.5YR4/6	微砂 橙色被熱粘土φ5cmを主体。 炭化物を3%含む。
5	赤褐	2.5YR3/4	微砂　橙色被熱粘質土粒を3%、焼土粒を5%含む。
6	灰褐	5YR4/2	微砂　灰褐色粘土ブロックφ2～3cmを5%、橙色被熱粘質土ブロックφ2cmを5%、炭化物・焼土粒を10%含む。
7	暗赤褐	5YR4/3	微砂　被熱焼土ブロックφ0.5～1.5cmを20%、炭化物を10%含む。

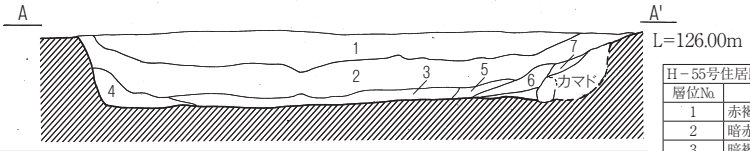
H－56住居跡竈			
層位No.	色調	土色	説　明
1	にぶい赤褐	5YR4/3	微砂　ざらざらした土質　炭化物を3%、As－C・Hr－Fpを10%含む。
2	暗褐	7.5YR3/3	微砂　炭化物を3%、As－C・Hr－Fpを10%含む。
3	赤褐	5YR4/6	微砂　粘性があり、締まる。炭化物・焼土粒を3%、As－C・Hr－Fpを5%含む。
4	にぶい赤褐	5YR4/4	微砂　さらさらした砂土質　炭化物を3%、As－C・Hr－Fpを2%含む。
5	暗褐	7.5YR3/3	微砂　炭化物を3%、焼土ブロック2～3cmを10%、As－C・Hr－Fpを10%含む。
6	暗褐	5YR3/6	微砂　粘質土ブロックφ5～10cmを5%、炭化物を3%、焼土粒を5%含む。
7	にぶい黄褐	10YR4/3	微砂　地山砂質土ブロックφ2cmを5%、炭化物を5%含む。

第36図　54・56号住居跡



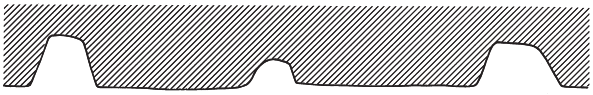


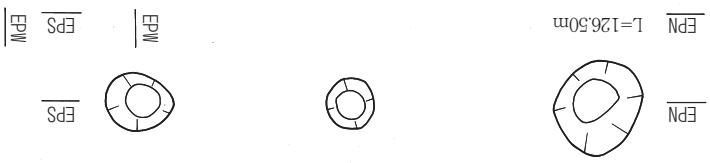




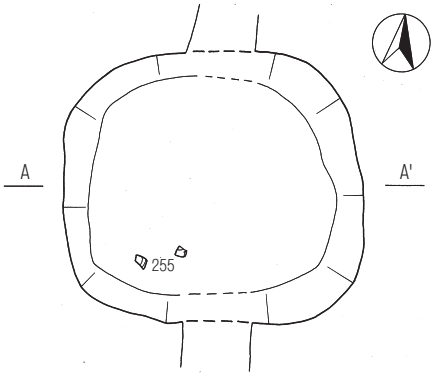
H－55住居跡覆土			
層位No.	色調	土色	説　明
1	暗褐	10YR3/3	微砂　地山砂質土ブロックφ5～20mmを5%、焼土粒・炭化物を1%、As－C・Hr－Fpを10%含む。
2	にぶい黄褐	10YR3/4	微砂　地山砂質土ブロックφ5～20mmを15%、焼土粒を5%、As－C・Hr－Fpを7%含む。
3	黒褐	10YR3/3	微砂　地山砂質土ブロックφ5～20mmを10%、焼土粒を1%、As－C・Hr－Fpを3%含む。
4	黒褐	10YR2/3	微砂　地山砂質土とAs－Cを含む黒色土の混合土
5	黒褐	10YR2/3	微砂　褐色粘土を混える。As－C・Hr－Fpを3%含む。
6	暗褐	7.5YR3/3	微砂　褐色粘土を混える。焼土ブロックφ5～10mmを3%、As－C・Hr－Fpを3%含む。
7	褐	10YR4/4	微砂　褐色粘土を混える。As－C・Hr－Fpを3%含む。

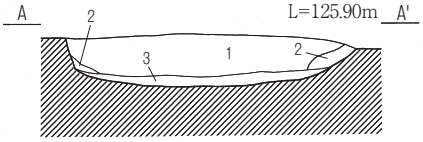
H－55号住居跡竈			
層位No.	色調	土色	説　明
1	赤褐	2.5YR4/6	微砂　黒色粘質土主体　As－C・Hr－Fpを2%含む。
2	暗赤褐	5YR3/6	微砂　焼土ブロックφ2cmを7%、黒色土ブロックφ2～10cmを3%、As－C・
3	暗褐	7.5YR3/3	微砂　焼土粒を3%、黒色土ブロックφ2～10cmを5%、As－C・Hr－Fpを5%含む。
4	暗赤褐	5YR3/6	微砂　焼土ブロックφ2～3cmを20%、黒色土ブロックφ2cmを5%、As－C・Hr－Fpを5%含む。
5	黒褐	5YR3/1	微砂　灰を主体とし、焼土ブロックφ2cmを3%、As－C・Hr－Fpを2%含む。
6	暗褐	7.5YR3/3	微砂　焼土粒を5%、黒色土ブロックφ2～10cmを5%、As－C・Hr－Fpを10%含む。

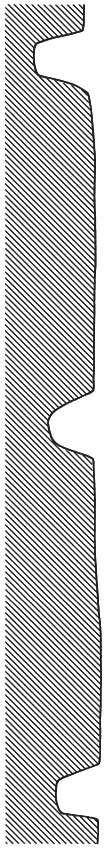


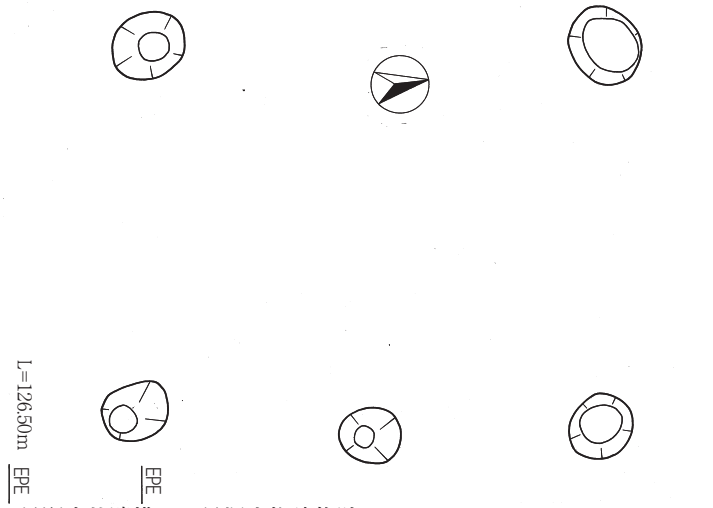


1号　竪穴状遺構



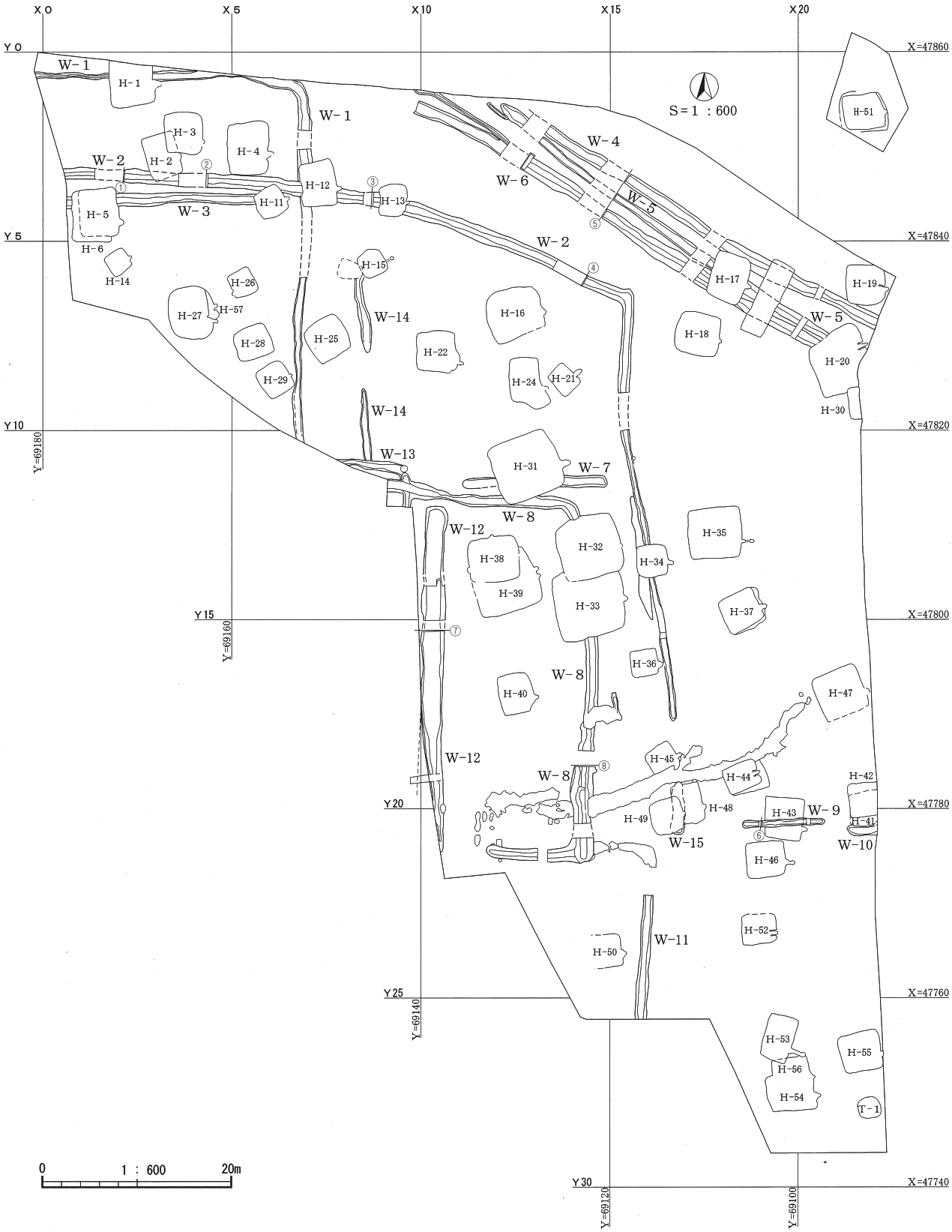




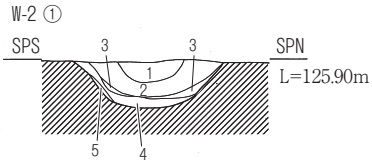


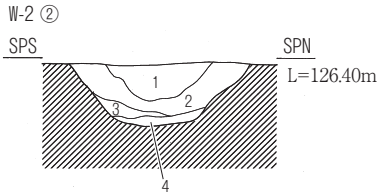
竪穴状遺構（T－1）			
層位No.	色調	土色	説　明
1	暗褐	10YR4/3	微砂　地山砂質土ブロックを20%、黒色ブロックを5%、焼土粒を7%、As－C・Hr－Fpを10%含む。
2	褐	10YR4/4	微砂　地山砂質土ブロックを7%、焼土粒を2%、As－C・Hr－Fpを若干含む。
3	黄褐	10YR6/5	微砂　砂質土ブロックを3%、黒色ブロックを5%、As－C・Hr－Fpを5%含む。

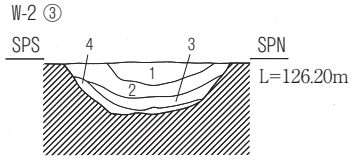
第37図　55号住居跡、1号竪穴状遺構、1号堀立柱建物跡

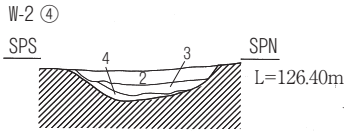

X0
X5
X10
X15
X20
Y0
Y5
Y10
Y15
Y20
Y25
Y30
X=47860
X=47840
X=47820
X=47800
X=47780
X=47760
X=47740
Y=69180
Y=69160
Y=69140
Y=69120
Y=69100
S=1 : 600
W-1
W-2
W-3
W-4
W-5
W-6
W-7
W-8
W-9
W-10
W-11
W-12
W-13
W-14
W-15
H-1
H-2
H-3
H-4
H-5
H-6
H-11
H-12
H-13
H-14
H-15
H-16
H-17
H-18
H-19
H-20
H-21
H-22
H-24
H-25
H-26
H-27
H-28
H-29
H-30
H-31
H-32
H-33
H-34
H-35
H-36
H-37
H-38
H-39
H-40
H-41
H-42
H-43
H-44
H-45
H-46
H-47
H-48
H-49
H-50
H-51
H-52
H-53
H-54
H-55
H-56
H-57
T-1
0
1 : 600
20m

第38図　溝等全体図

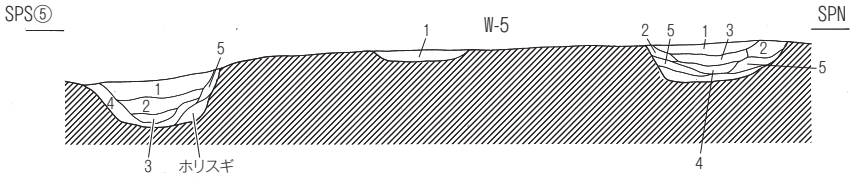


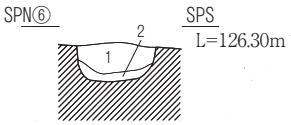






2号溝（W－2）			
層位No.	色調	土色	説　明
1	褐	10YR4/4	粗砂　暗褐色砂質土を混える。
2	黄褐	10YR5/6	細砂　粘性が強く、底面に鉄分の沈積あり。
3	褐	10YR4/6	細砂
4	にぶい黄褐	10YR4/3	細砂 黄褐色ブロックを5% 含む。
5	にぶい黄褐	10YR5/4	微砂　鉄分凝固層が一部混じる。

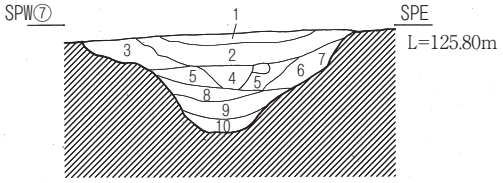




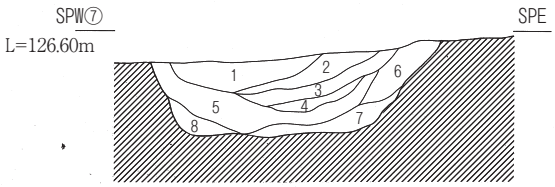
4号溝（W－4）			
層位No.	色調	土色	説　明
1	赤褐色		やや粘性があり、酸化気味。
2	暗褐		褐色土ブロックを含む。
3	灰褐色		砂質
4	黒褐色		砂質
5	暗褐		
6	灰褐色		砂質

5号溝（W－5）			
層位No.	色調	土色	説　明
1	赤褐色		やや粘性があり、酸化気味。

6号溝（W－6）			
層位No.	色調	土色	説　明
1	暗褐		砂質
2	褐		砂質　灰褐色砂質土を多く含む。
3	褐		２層より明るい。
4	褐		砂質　にぶい黄褐色砂質土を含む。
5	注記漏れ		

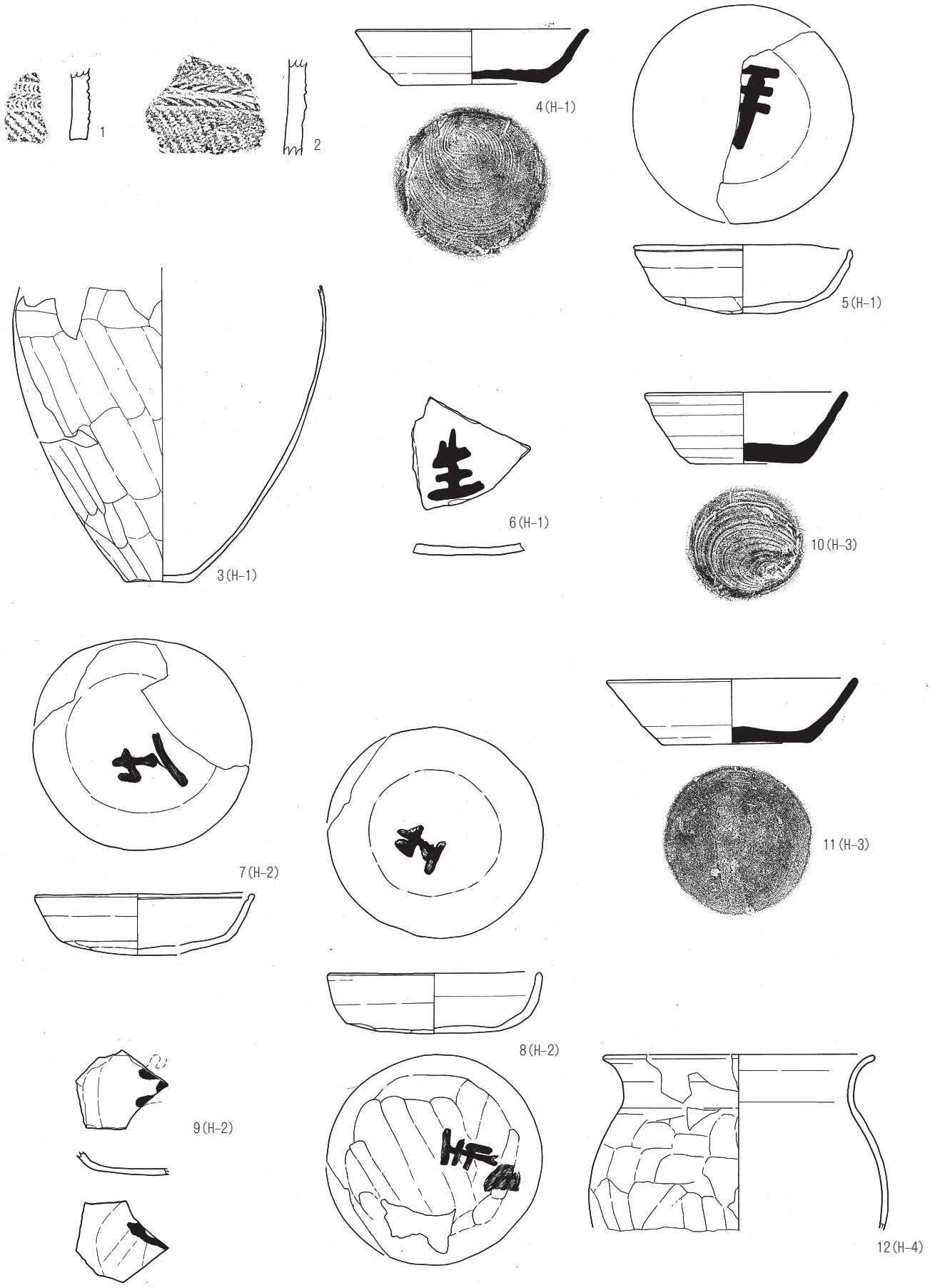


8号溝（W－8）			
層位No.	色調	土色	説　明
1	にぶい黄褐	10YR4/3	微砂　白色軽石を5% 含む。
2	暗褐	10YR3/4	微砂　シルト質　白色軽石を5%、黄褐色シルト質ブロックφ5～10mm を3% 含む。
3	にぶい黄褐	10YR4/3	細砂　白色軽石を2% 含む。
4	暗褐	10YR3/4	細砂　白色軽石を10% 含む。
5	褐	10YR4/4	微砂　白色軽石を10%、黄褐色砂質ブロックを5% 含む。
6	にぶい黄褐	10YR4/3	細砂　白色軽石を5% 含む。
7	暗褐	10YR3/4	微砂　地山砂質土
8	暗褐	10YR3/3	微砂　白色・黄色軽石を5% 含む。
9	暗褐	10YR3/4	細砂　白色軽石を5% 含む。
10	にぶい黄褐	10YR4/3	微砂　シルト質土　白色軽石を3% 含む。

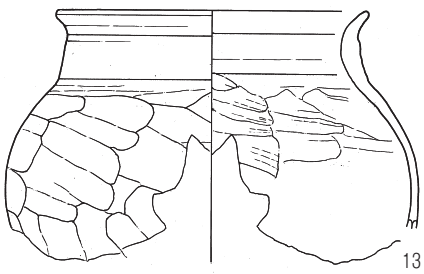


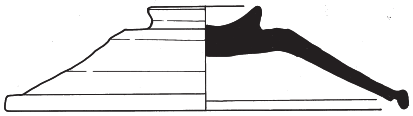
12号溝（W－12）			
層位No.	色調	土色	説　明
1	褐	10YR4/4	微砂　ややシルト質　白色軽石を5%、黄褐色砂質ブロックを10% 含む。
2	にぶい黄褐	10YR4/3	細砂　白色軽石を3%、黄褐色シルト質ブロックを3%、炭化物を1% 含む。
3	暗褐	10YR3/3	細砂　白色軽石を3%、黄褐色シルト質ブロックを20% 含む。
4	にぶい黄褐	10YR4/4	微砂　白色軽石を2%、黄褐色砂質ブロックを2% 含む。
5	褐	10YR4/4	微砂　白色軽石を3%、黄褐色砂質ブロックを20% 含む。
6	にぶい黄褐	10YR4/3	微砂　ややシルト質　白色軽石を3%、黄褐色砂質ブロックを10% 含む。
7	暗褐	10YR3/3	細砂　白色軽石を5%、砂利を混える。
8	にぶい黄褐	10YR4/3	微砂　ややシルト質　白色軽石を2% 含む。

第39図　溝土層図

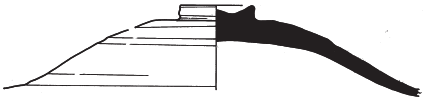


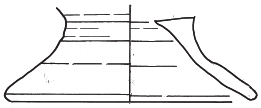
第40図　縄文土器、１－４号住居跡出土遺物

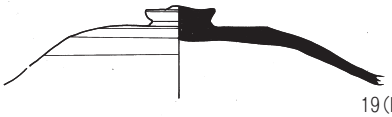

13(H-4)

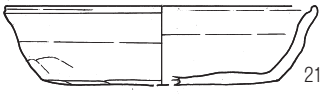

16(H-4)

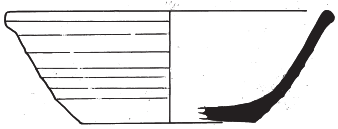
17(H-4)

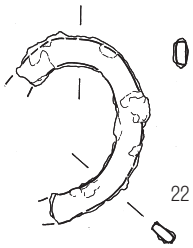

18(H-4)

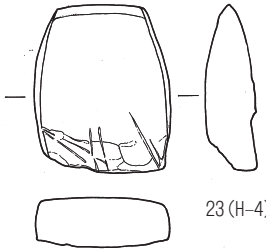

14(H-4)

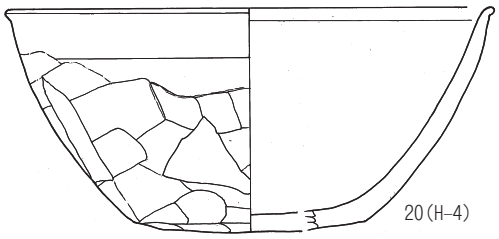

19(H-4)

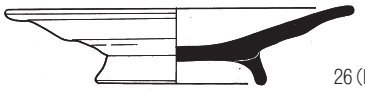

21(H-4)

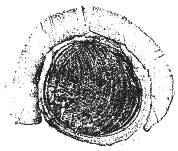

15(H-4)

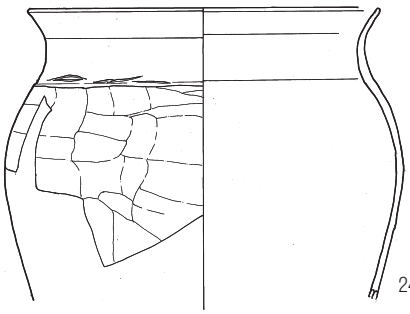

22(H-4)

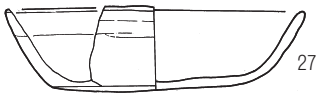

23(H-4)

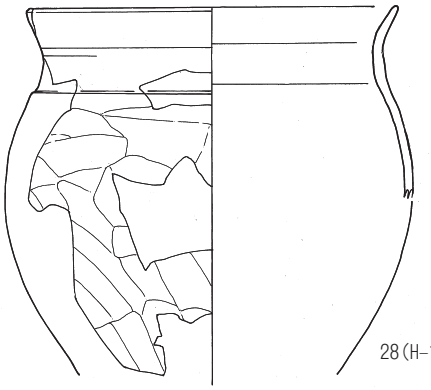

20(H-4)

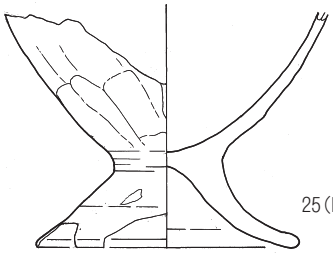

26(H-5)



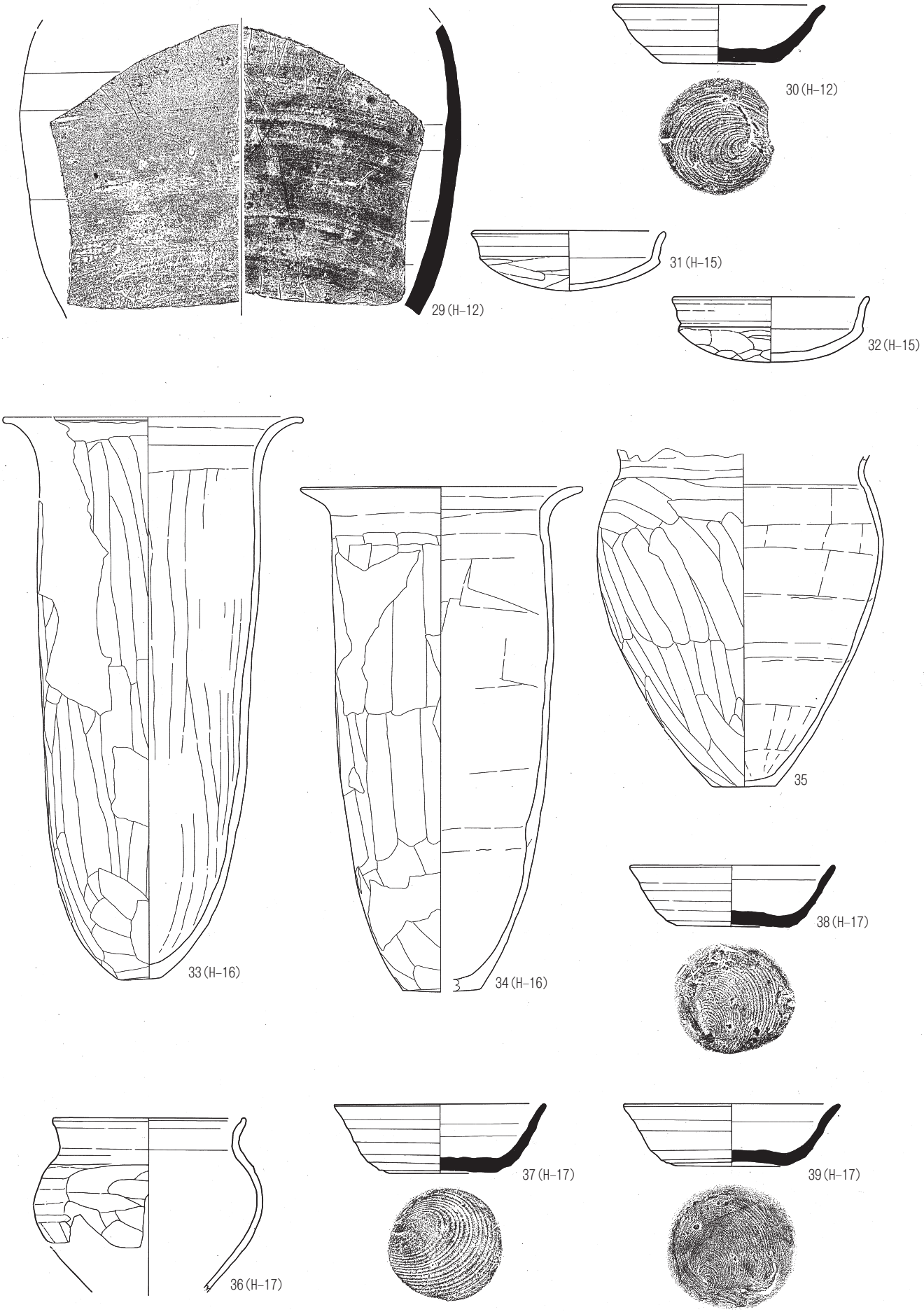

24(H-5)


27(H-5)

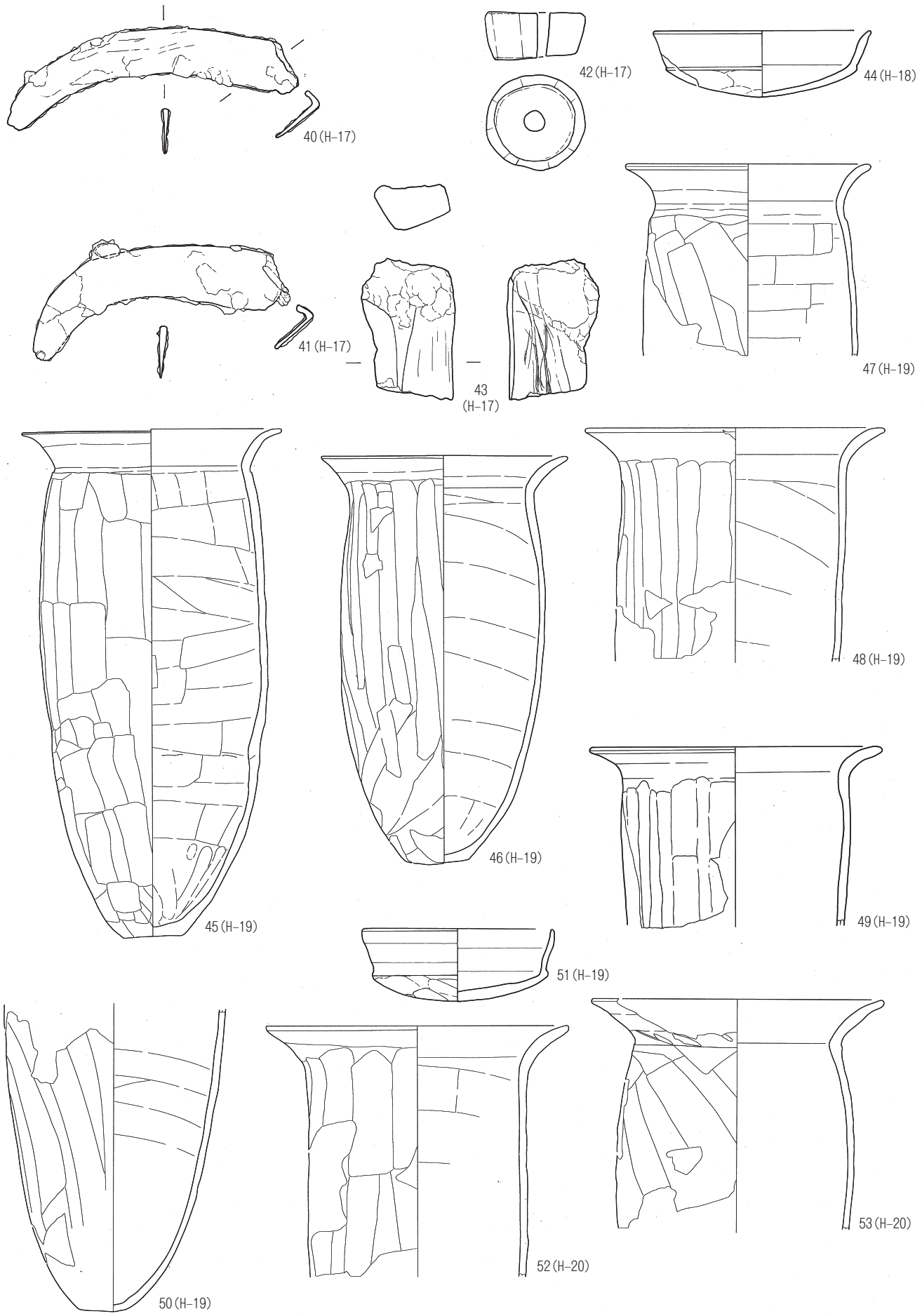

28(H-12)


25(H-5)

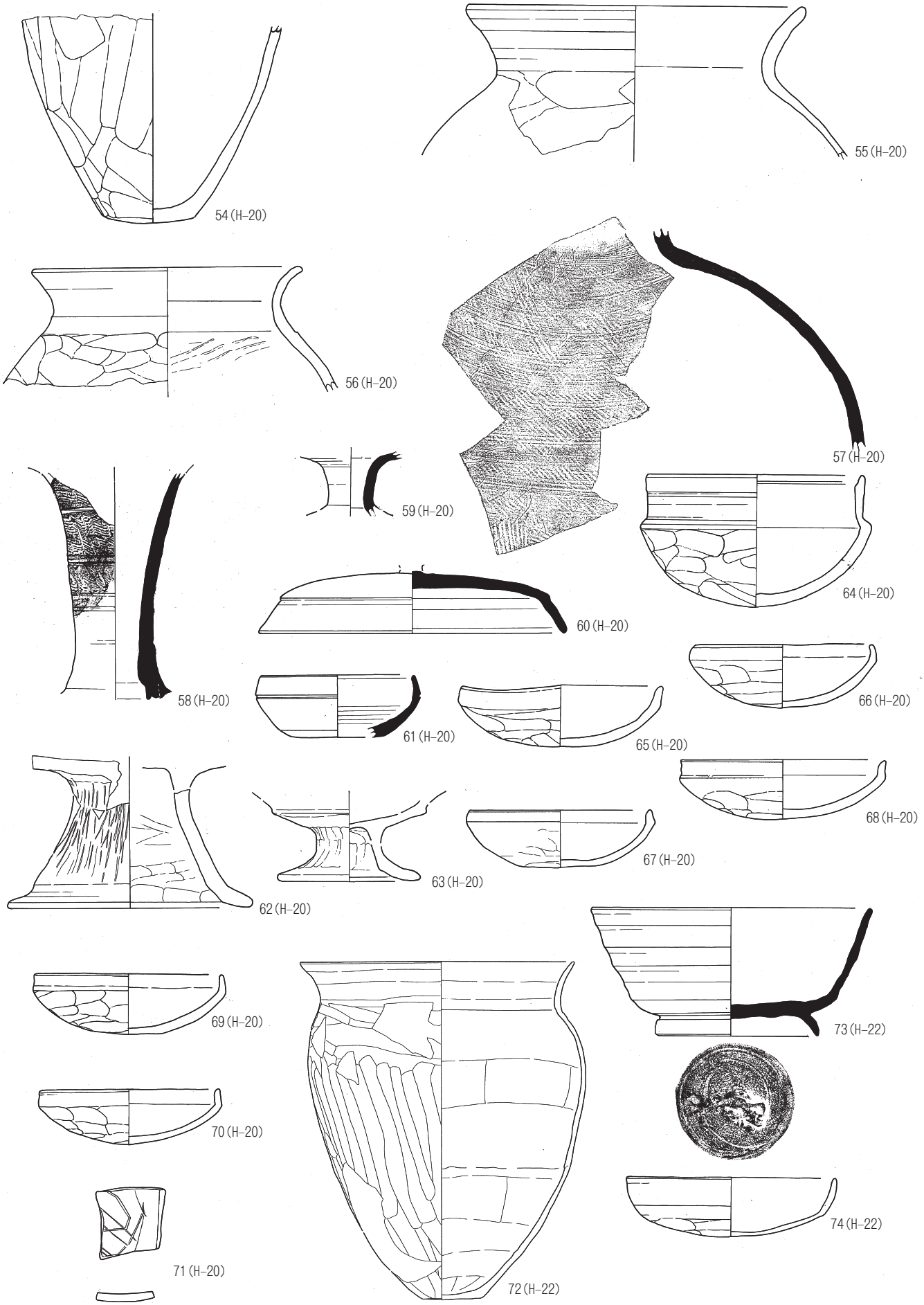
第41図　4～12号住居跡出土遺物



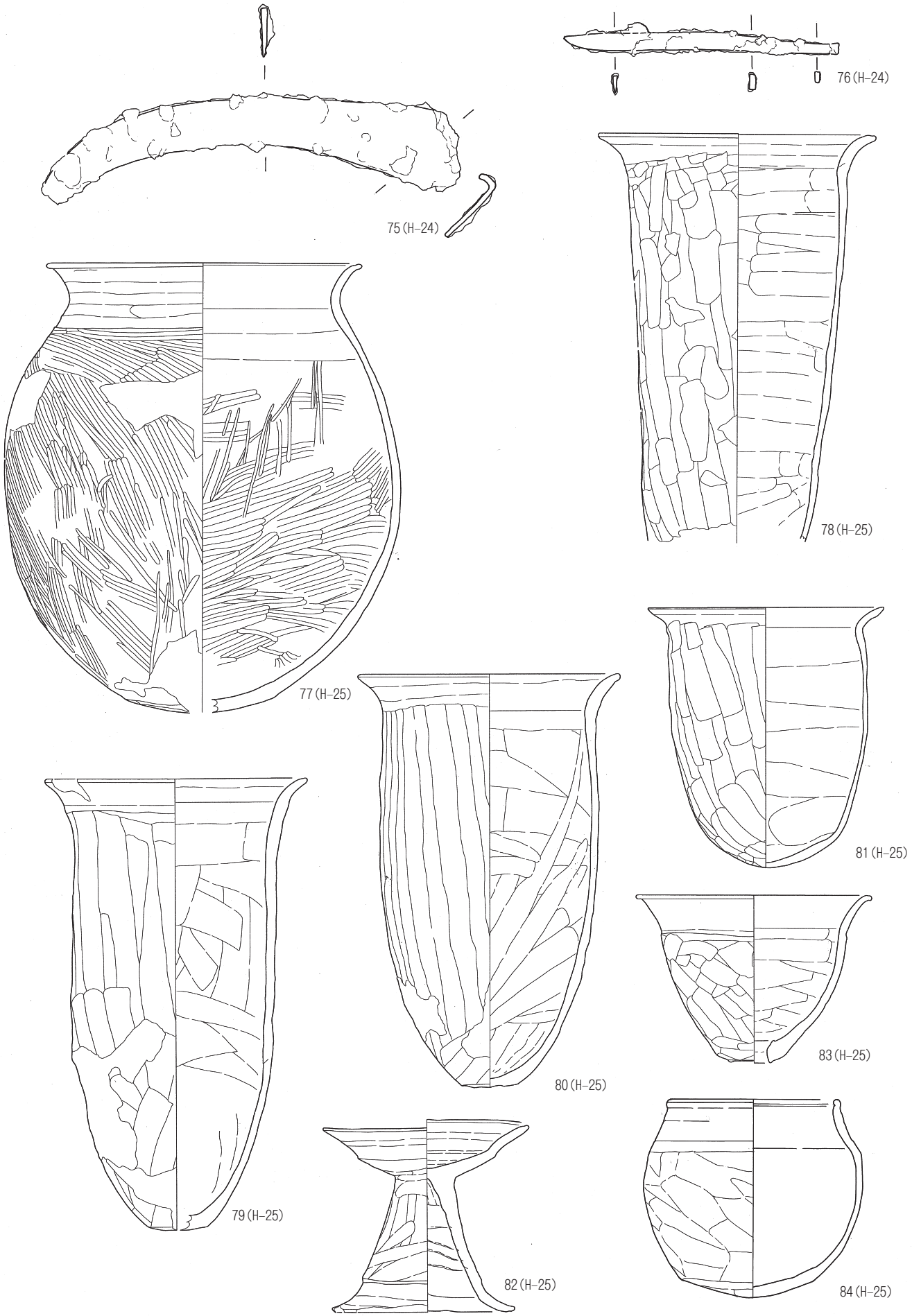
第42図　12～17号住居跡出土遺物



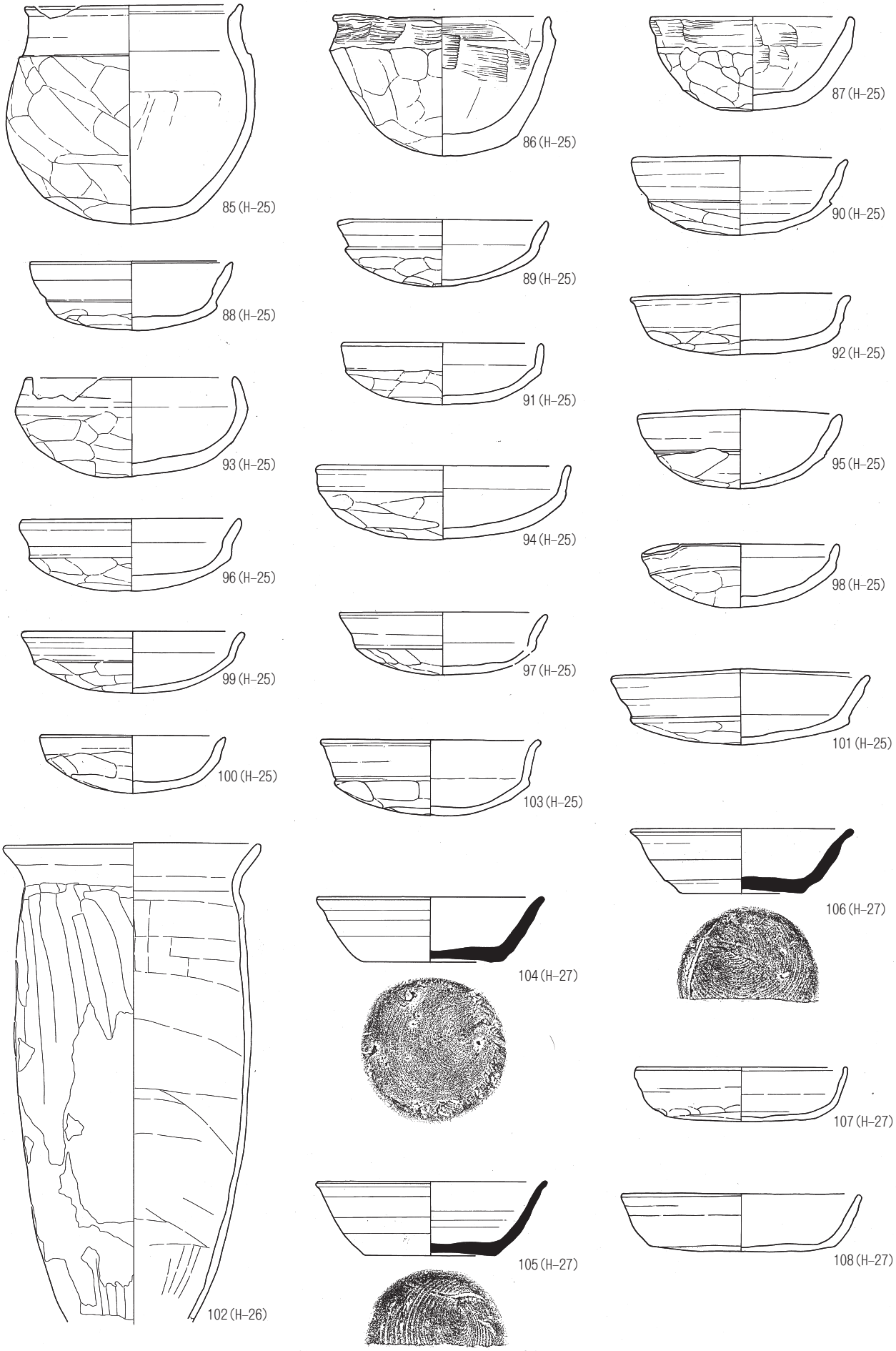
第43図　17～20号住居跡出土遺物



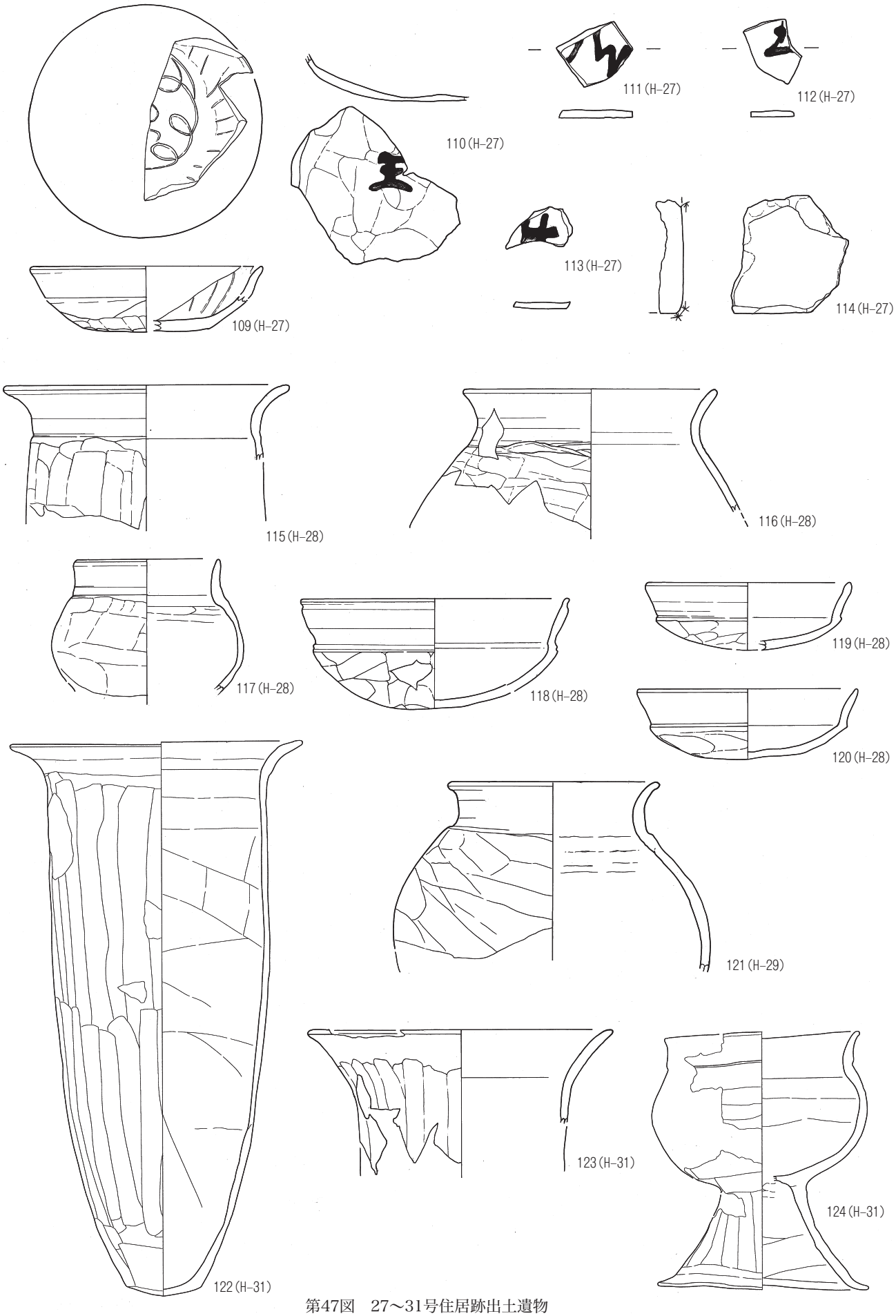
第44図　20～22号住居跡出土遺物



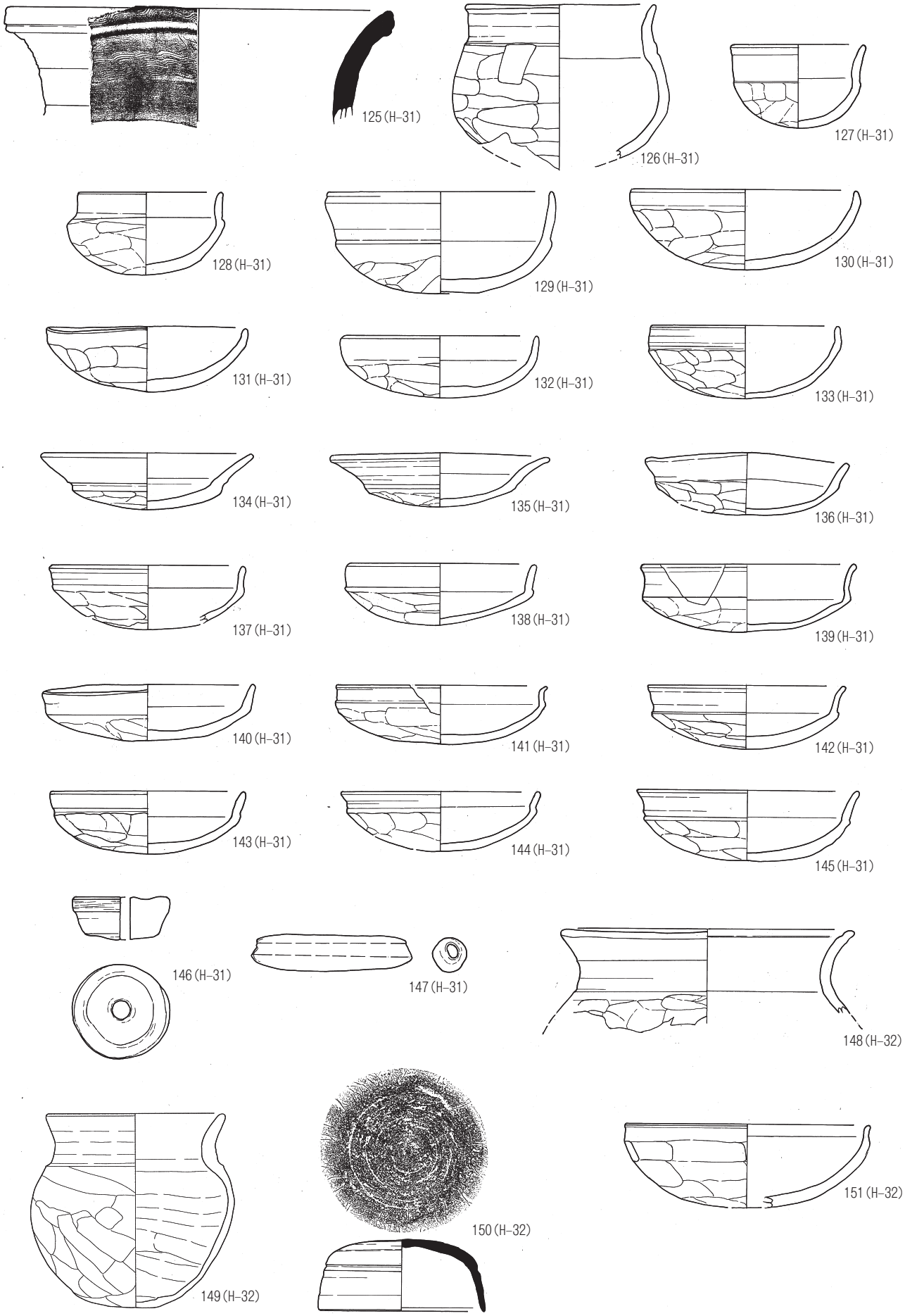
第45図　24～25号住居跡出土遺物



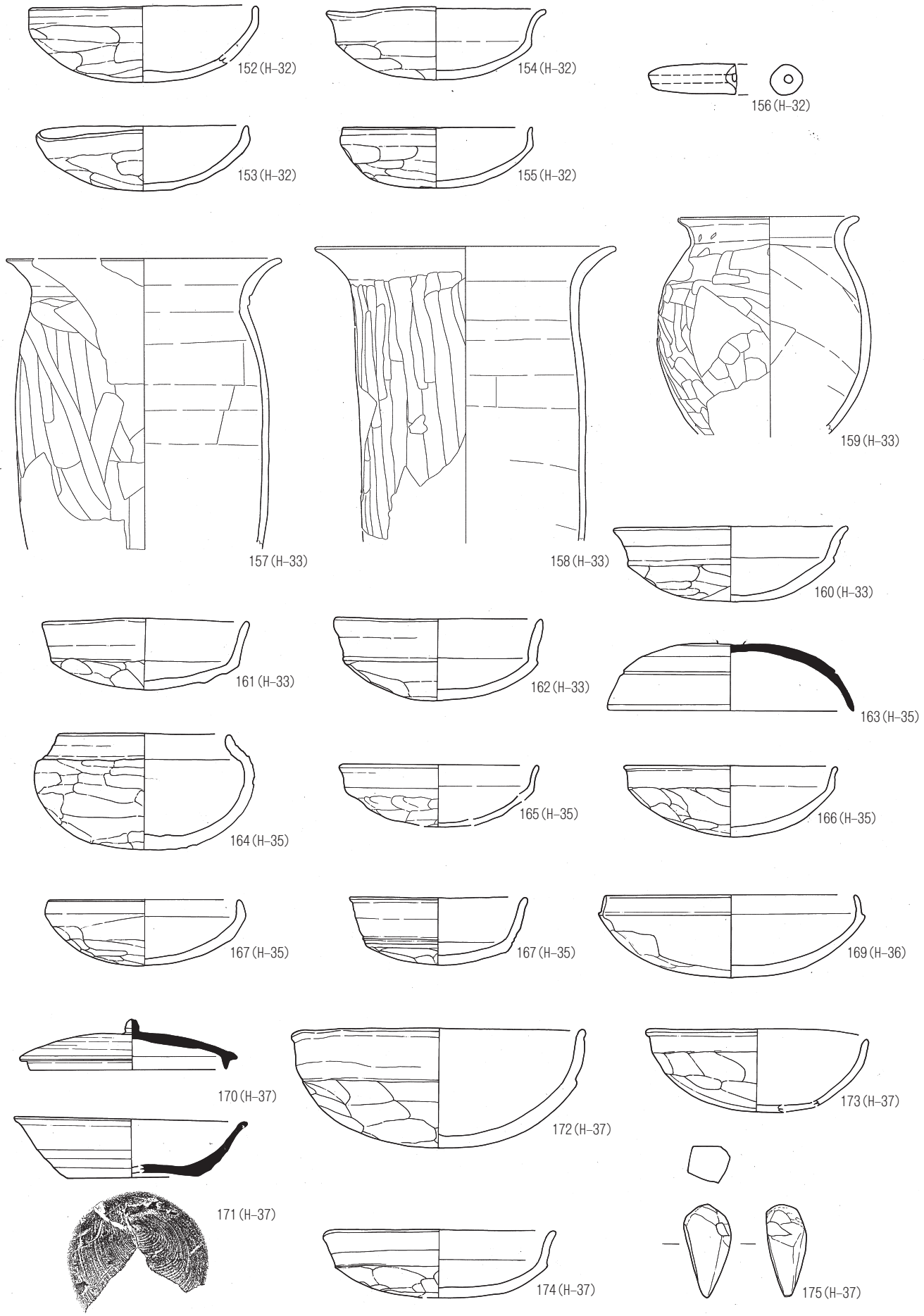
第46図　25～27号住居跡出土遺物



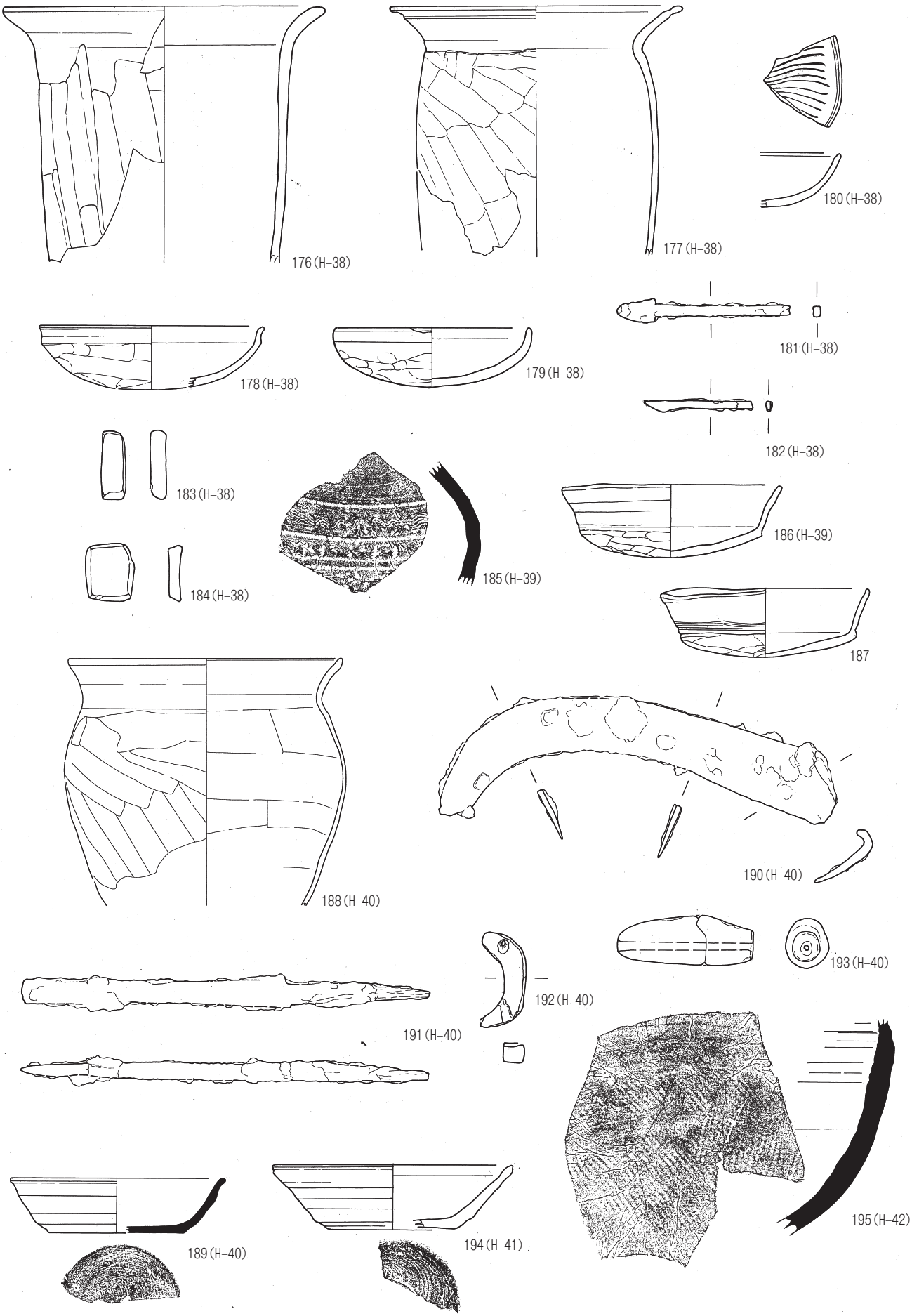
第47図　27～31号住居跡出土遺物



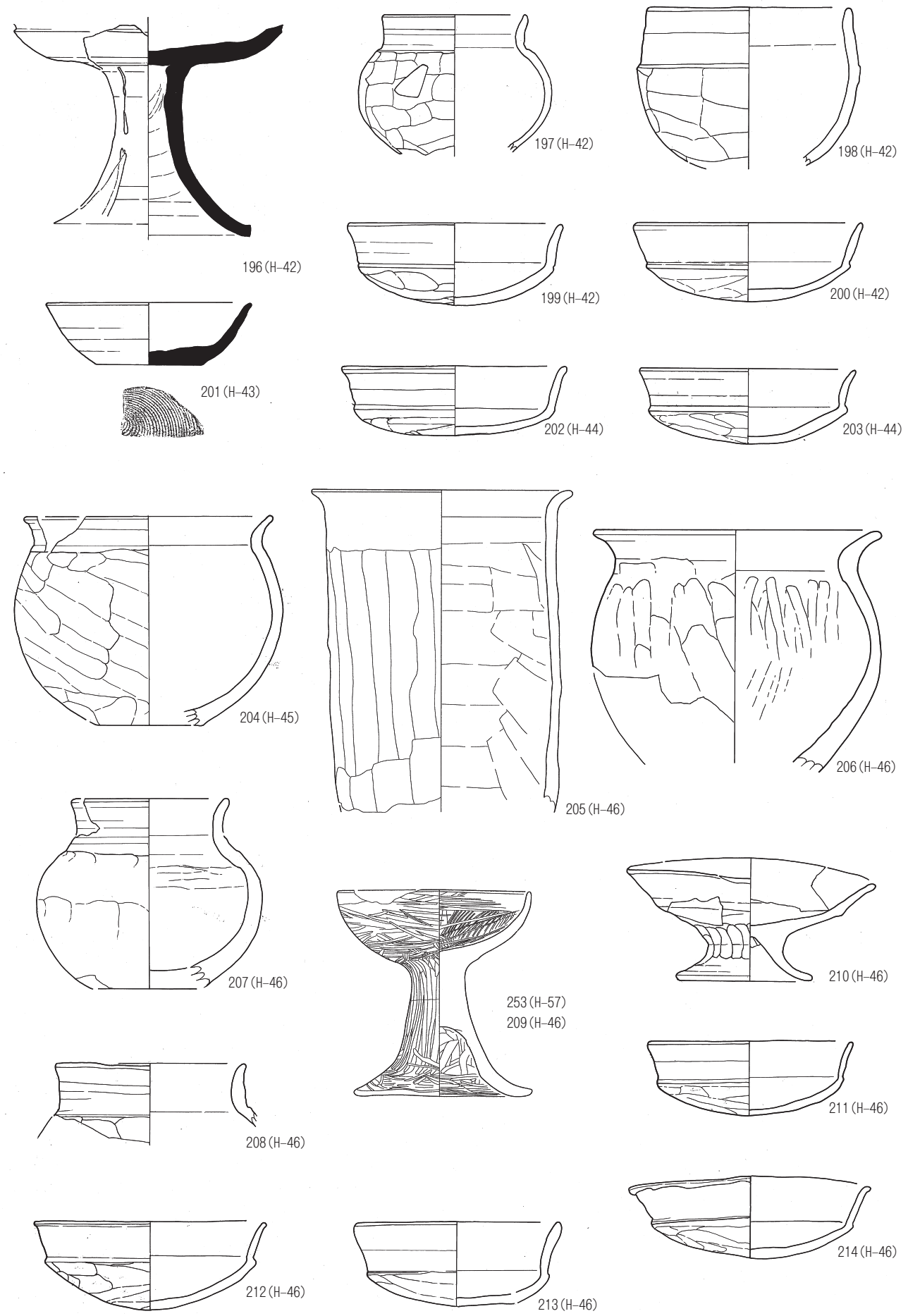
第48図　31～32号住居跡出土遺物



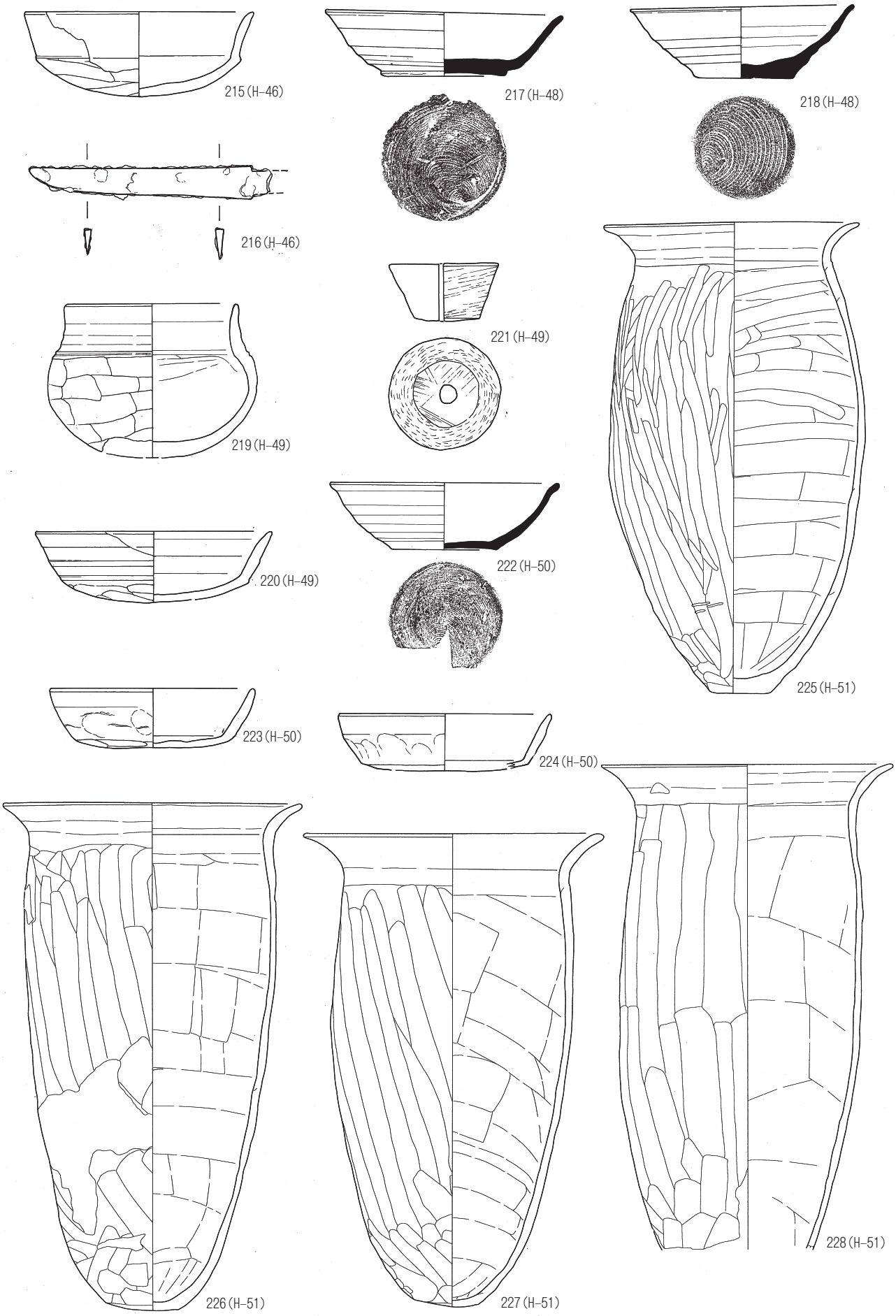
第49図　32～37号住居跡出土遺物



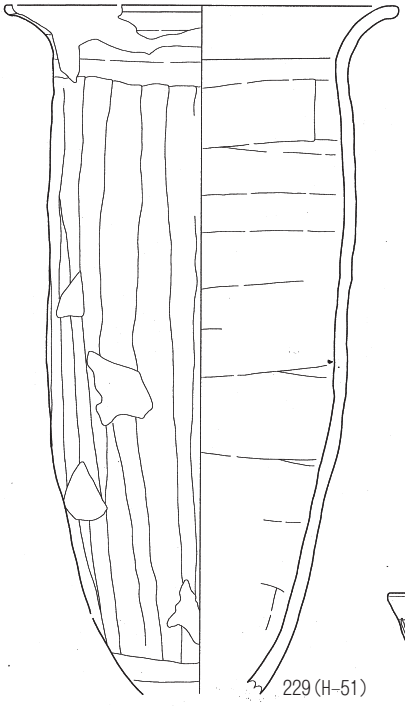
第50図　38～42号住居跡出土遺物

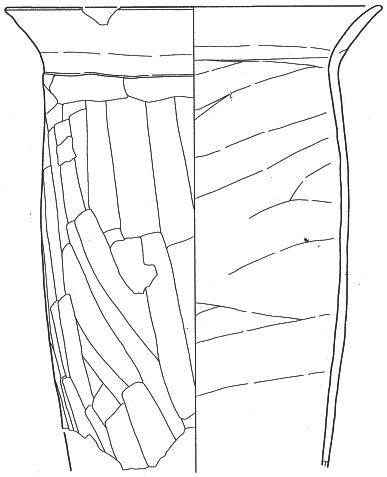


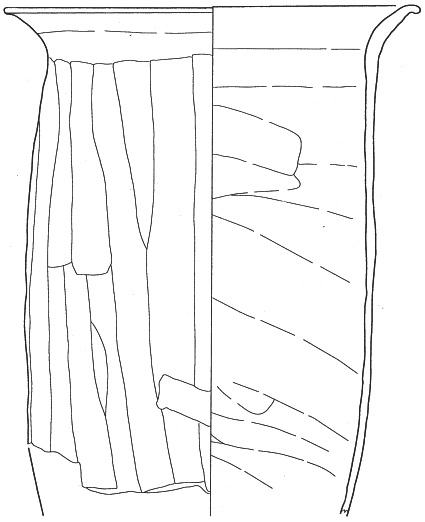
第51図　42～46号住居跡出土遺物

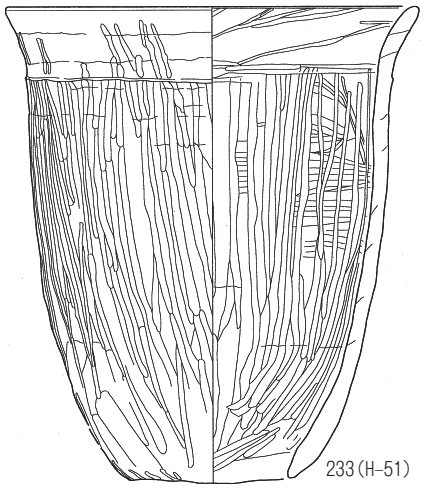


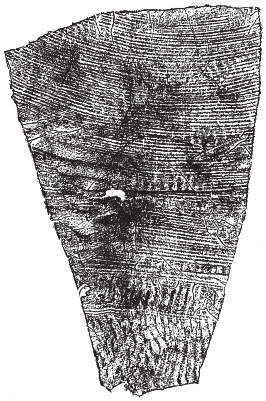
第52図　46～51号住居跡出土遺物


229 (H-51)

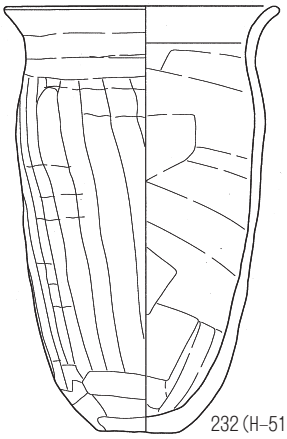

230 (H-51)

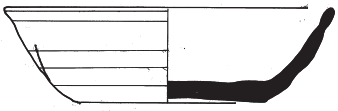

231 (H-51)

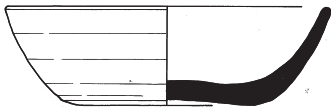

233 (H-51)

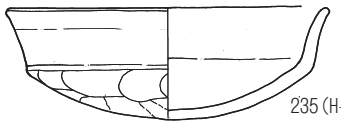


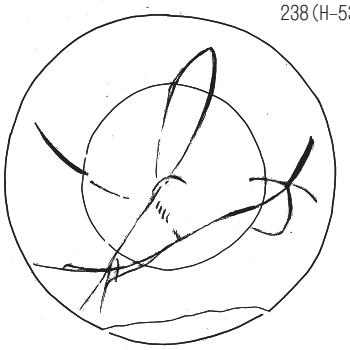
234 (H-52)


232 (H-51)

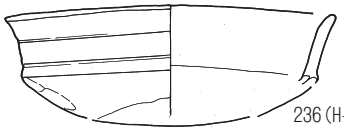

238 (H-53)



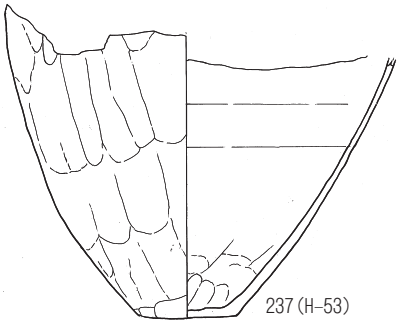

235 (H-52)



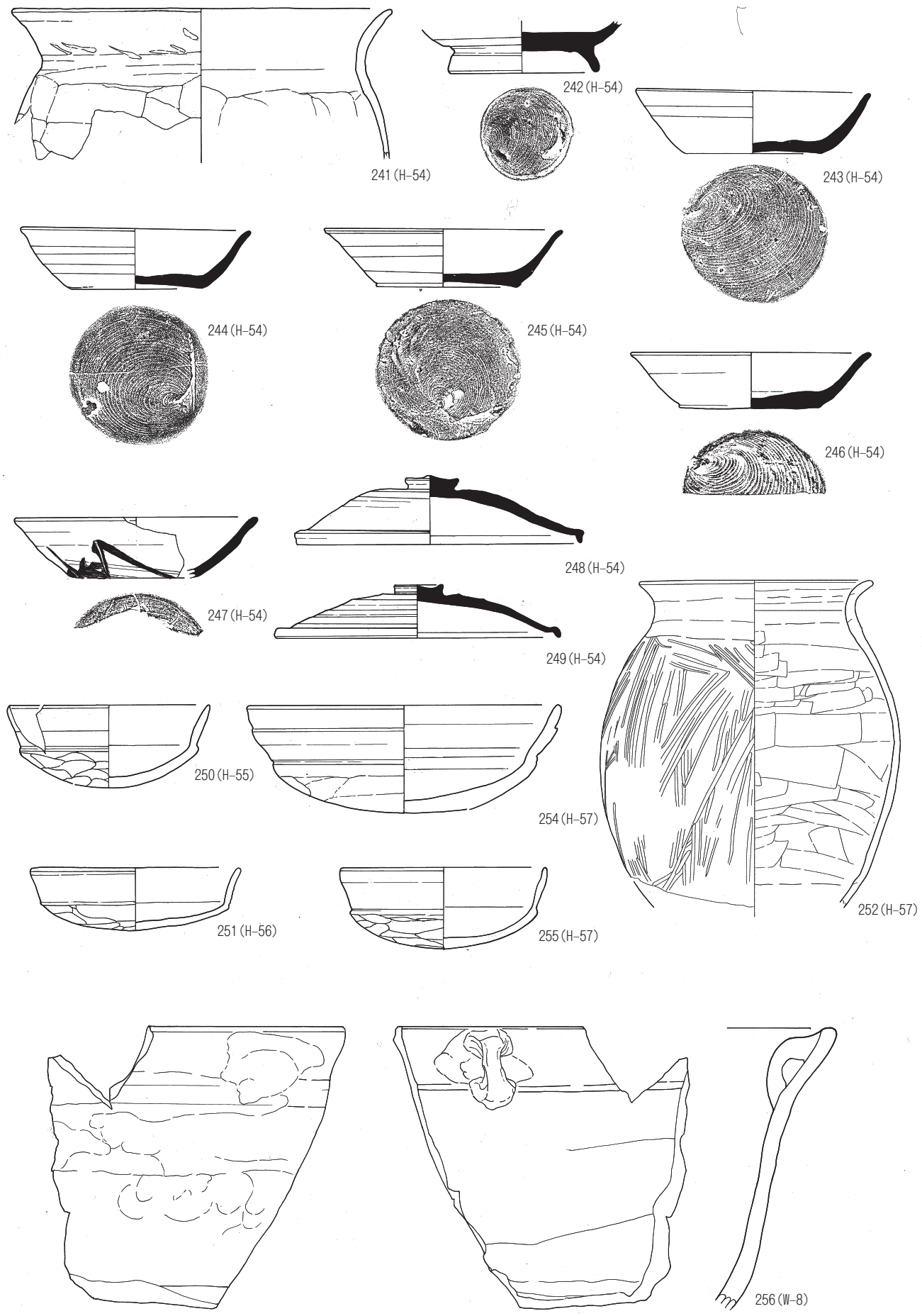
239 (H-53)


236 (H-52)

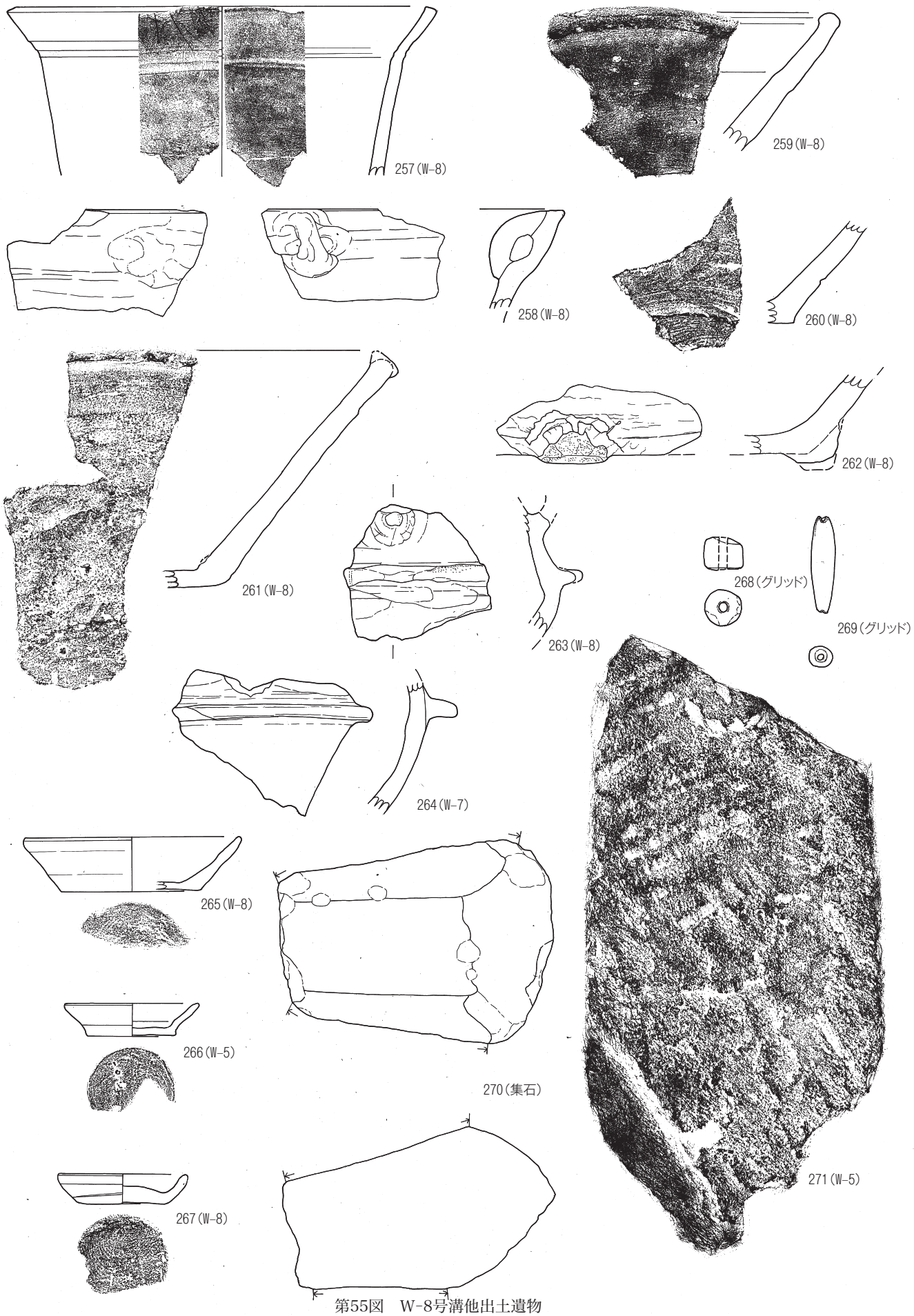
240 (H-53)


237 (H-53)

第53図　51～53号住居跡出土遺物



第54図　54～57号住居跡出土遺物、W-8号溝出土遺物



第55図　W-8号溝他出土遺物

写真図版

Ｈ－１号住居跡遺物出土状況（西から）

Ｈ－１号住居跡全景（西から）

Ｈ－２・３号住居跡全景（西から）

Ｈ－２号住居跡竈全景（西から）

Ｈ－３号住居跡全景（西から）

Ｈ－３号住居跡竈全景（西から）

Ｈ－４号住居跡遺物出土状況（西から）

Ｈ－４号住居跡貯蔵穴全景（西から）

Ｈ－４号住居跡全景（西から）

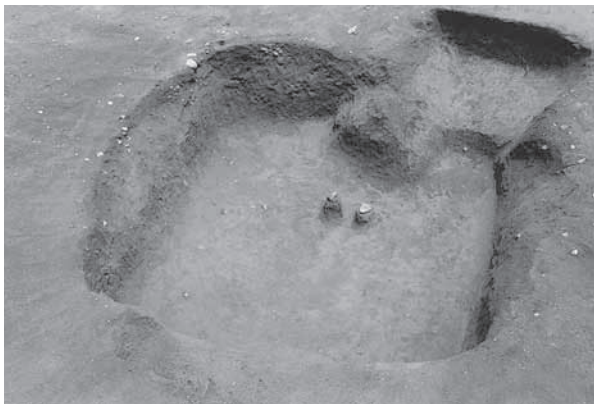
Ｈ－５・６号住居跡遺物出土状況（西から）

Ｈ－５号住居跡竈全景（西から）

Ｈ－11号住居跡全景（西から）

Ｈ－12号住居跡遺物出土状況（西から）

Ｈ－12号住居跡全景（南西から）



Ｈ－13号住居跡遺物出土状況（西から）

Ｈ－13号住居跡全景（西から）

Ｈ－14号住居跡全景（西から）

Ｈ－15号住居跡遺物出土状況（西から）

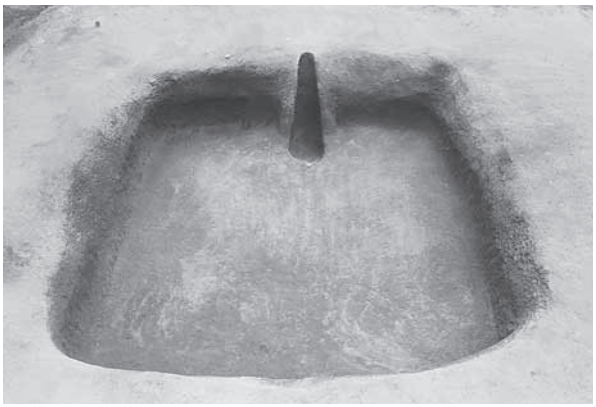
Ｈ－15号住居跡全景（西から）

Ｈ－16号住居跡遺物出土状況（西から）

Ｈ－17号住居跡全景（西から）

Ｈ－17号住居跡竈全景（西から）

Ｈ－17号住居跡埋設土器（西から）



Ｈ－18号住居跡全景（西から）

Ｈ－19号住居跡遺物出土状況（西から）

Ｈ－19号住居跡竈全景（西から）

Ｈ－20号住居遺物出土状況（西から）

Ｈ－20号住居跡竈全景（西から）

Ｈ－20号住居跡全景（西から）

Ｈ－21号住居跡全景（西から）

Ｈ－22号住居跡全景（西から）

Ｈ－24号住居跡遺物出土状況（西から）

Ｈ－24号住居跡鎌出土状況（西から）

Ｈ－24号住居跡竈全景（西から）

Ｈ－25号住居跡遺物出土状況（西から）

Ｈ－25号住居跡竈周辺遺物出土状況（西から）

Ｈ－25号住居跡甑出土状況（西から）

Ｈ－25号住居跡竈内遺物出土状況（南から）

Ｈ－25号住居跡竈内遺物出土状況（真上から）

Ｈ－25号住居跡全景（西から）

Ｈ－26号住居跡遺物出土状況（東から）

Ｈ－26号住居跡竈遺物出土状況（東から）

Ｈ－27号住居跡遺物出土状況（西から）

Ｈ－27号住居跡遺物出土状況近影（西から）

Ｈ－27・57号住居跡全景（西から）

Ｈ－28号住居跡全景（西から）

Ｈ－29号住居跡遺物出土状況（西から）

Ｈ－30号住居跡全景（西から）

Ｈ－31号住居跡遺物出土状況（西から）

Ｈ－31号住居跡遺物出土状況近影（西から）

同住居跡竈検出状況（真上から）

同住居跡竈検出状況（西から）

同住居跡竈燃焼部状況（西から）

H－31号住居跡竈燃焼部状況（西から）

同住居跡竈燃焼部状況（南から）

同住居跡竈煙道部石積状況（南から）

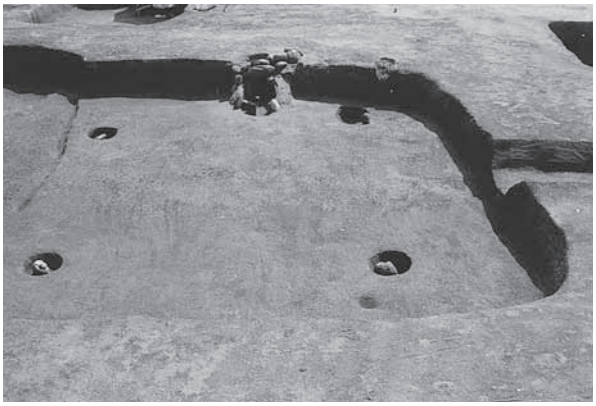
同住居跡竈煙道部石積状況（西から）

同住居跡竈煙道部基部石積状況（西から）

Ｈ－32・33号住居跡遺物出土状況（南から）

Ｈ－32号住居跡全景（西から）

Ｈ－32号住居跡竈全景（西から）



Ｈ－33号住居跡全景（西から）

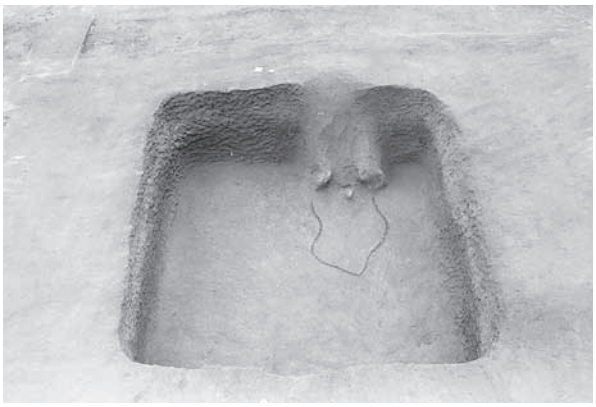
Ｈ－33号住居跡竈全景（西から）

Ｈ－33号住居跡竈状況（西から）

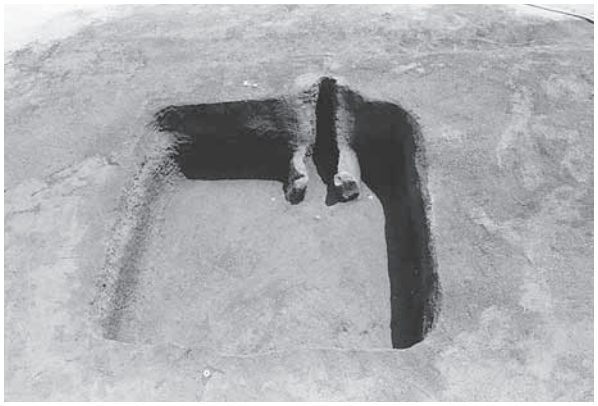
Ｈ－34号住居跡検出状況（西から）

Ｈ－34号住居跡竈全景（西から）

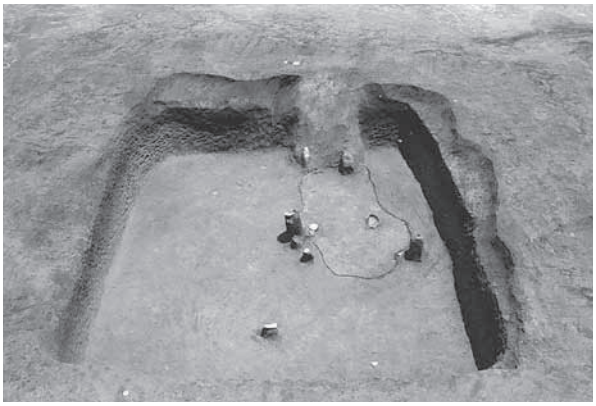
H－35号住居跡全景（西から）



H－36号住居跡検出状況（西から）

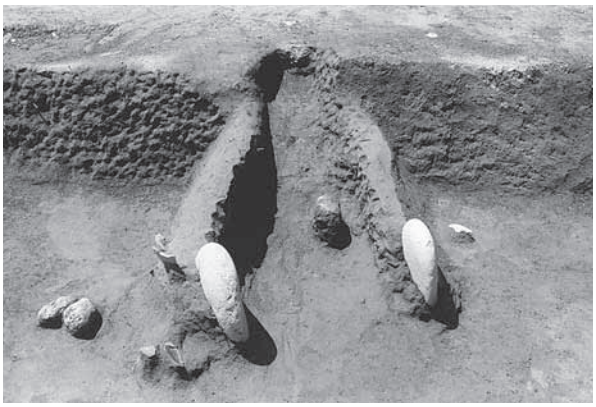


H－36号住居跡全景（西から）



H－37号住居跡遺物出土状況（西から）

H－37号住居跡全景（西から）



H－38号住居跡竈検出状況（東から）

H－39号住居跡新旧竈（西から）

H－40号住居跡遺物出土状況（西から）

H－40号住居跡勾玉出土状況（真上から）

H－40号住居跡遺物出土状況近影（西から）

H－40号住居跡全景（西から）

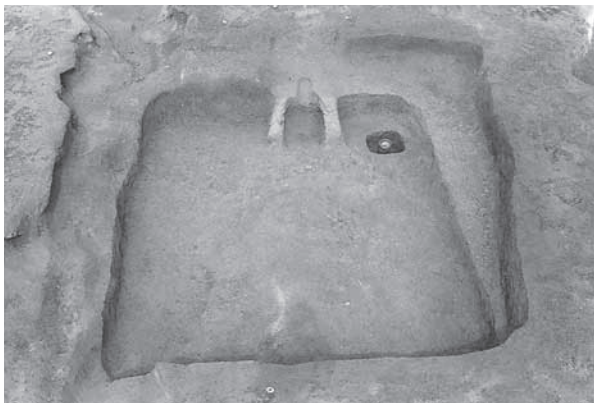
H－41号住居跡全景（西から）

H－42号住居跡遺物出土状況（西から）

H－41・42号住居跡土層堆積状況（西から）

H－43号住居跡全景（西から）

H－44号住居跡遺物出土状況（西から）



Ｈ－44号住居跡全景（西から）

Ｈ－45号住居跡遺物出土状況（西から）

Ｈ－45号住居跡全景（西から）

Ｈ－46号住居跡全景（西から）

Ｈ－46号住居跡竈全景（西から）

Ｈ－46号住居跡煙り出し口（西から）

Ｈ－48号住居跡遺物出土状況（南から）

Ｈ－49号住居跡遺物出土状況（西から）

H－48・49号住居跡全景（西から）

H－50号住居跡全景（西から）

H－50号住居跡遺物出土状況（南西から）

H－51号住居跡遺物出土状況（西から）

同住居跡遺物出土状況近影（西から）

同住居跡遺物出土状況近影（北から）

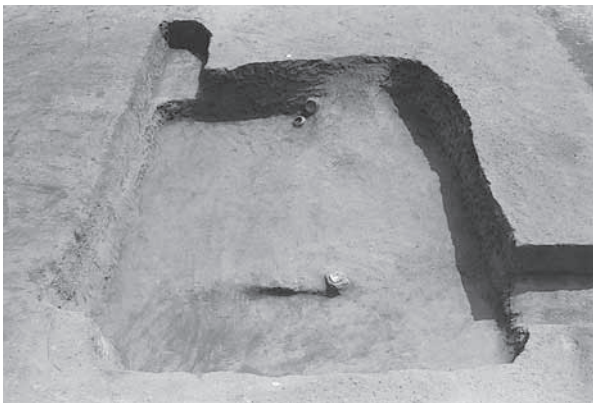
同住居跡遺物出土状況近影（西から）

同住居跡竈内遺物出土状況近影（西から）

Ｈ－51号住居跡遺物出土状況（南から）

Ｈ－51号住居跡遺物出土状況（真上から）

H－51号住居跡全景（西から）


H－52号住居跡遺物出土状況（西から）

H－52号住居跡遺物出土状況近影（西から）

H－53号住居跡遺物出土状況（西から）

H－53号住居跡全景（北西から）

H－53号住居跡竈全景（西から）

H－54・56号住居跡遺物出土状況（西から）

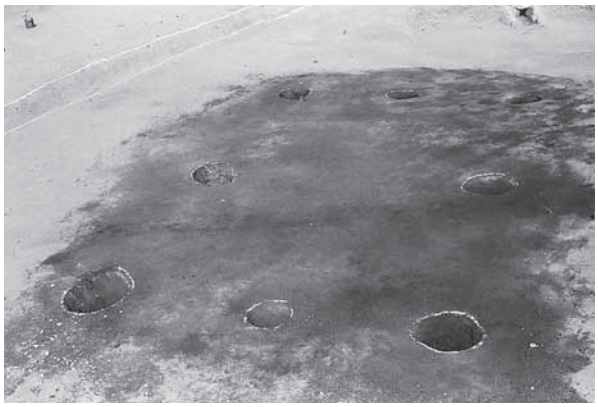
H－54・56号住居跡全景（西から）

Ｈ－54号住居跡竈全景（西から）

Ｈ－55号住居跡全景（西から）

Ｈ－57号住居跡全景（西から）

Ｔ－１全景



Ｂ－１全景

流水路に堆積した白砂（東から）

流水路に堆積した白砂（西から）

流水路全景（東から）

流水路全景（西から）

Ｗ４～６（東から）

Ｗ－５板碑出土状況

Ｗ－８集石

Ｗ－８土鍋出土状況

Ｗ－８集石完掘状況

Ｗ－12（南から）

作業風景

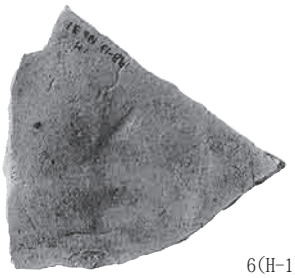
1

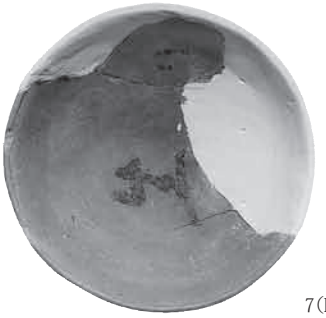
2

4(H-1)

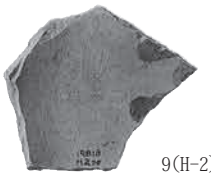
3(H-1)

5(H-1)


6(H-1)


7(H-2)

8(H-2)


9(H-2)

10(H-3)

11(H-3)

12(H-4)

13(H-4)

14(H-4)

15(H-4)

16(H-4)

17(H-4)

18(H-4)

19(H-4)

20(H-4)

21(H-4)

26(H-5)

27(H-5)

24(H-5)

25(H-5)

28(H-12)

29(H-12)

30(H-12)

31(H-15)

32(H-15)

37(H-17)

38(H-17)

33(H-16)

34(H-16)

35(H-17)

36(H-17)

39(H-17)

44(H-18)

45(H-19)

46(H-19)

47(H-19)

48(H-19)

49(H-19)

50(H-19)

51(H-19)

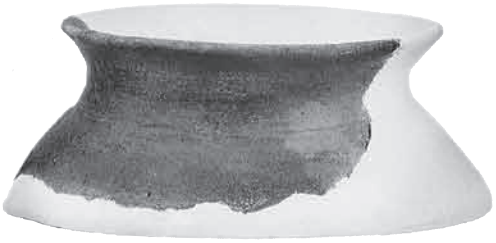
54(H-20)

52(H-20)

53(H-20)

57(H-20)

55(H-20)


56(H-20)

58(H-20)

59(H-20)

60(H-20)

61(H-20)

63(H-20)

62(H-20)

64(H-20)

65(H-20)

66(H-20)

67(H-20)

68(H-20)

69(H-20)

70(H-20)

71(H-20)

72(H-22)

73(H-22)

74(H-22)

77(H-25)

78(H-25)

79(H-25)

80(H-25)

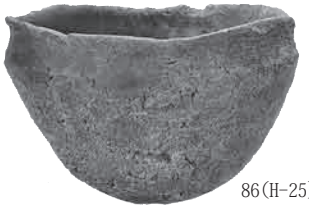
82(H-25)

81(H-25)

83(H-25)

84(H-25)

85(H-25)


86(H-25)

87(H-25)

88(H-25)

89(H-25)

90(H-25)

91(H-25)

92(H-25)

93(H-25)

94(H-25)

95(H-25)

96(H-25)

97(H-25)

98(H-25)

99(H-25)

100(H-25)

101(H-25)

102(H-26)

103(H-26)

104(H-27)

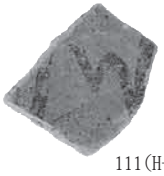
105(H-27)

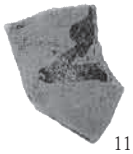
106(H-27)

107(H-27)

108(H-27)

109(H-27)


111(H-27)


112(H-27)

113(H-27)

110(H-27)

115(H-28)

116(H-28)

118(H-28)

117(H-28)

119(H-28)

120(H-28)

121(H-29)

123(H-31)

122(H-31)

124(H-31)

125(H-31)

127(H-31)

126(H-31)

128(H-31)

129(H-31)

130(H-31)

131(H-31)

132(H-31)

133(H-31)

134(H-31)

135(H-31)

136(H-31)

137(H-31)

138(H-31)

139(H-31)

140(H-31)

141(H-31)

142(H-31)

143(H-31)

144(H-31)

145(H-31)

149(H-32)

148(H-32)

150(H-32)

151(H-32)

152(H-32)

153(H-32)

154(H-32)

155(H-32)

157(H-33)

159(H-33)

160(H-33)

161(H-33)

158(H-33)

162(H-33)

163(H-35)

164(H-35)

165(H-35)

166(H-35)

167(H-35)

168(H-35)

169(H-36)

170(H-37)

171(H-37)

172(H-37)

173(H-37)

174(H-37)

176(H-38)

177(H-38)

178(H-38)

179(H-38)

180(H-38)

185(H-39)

186(H-39)

187(H-39)

189(H-40)

195(H-42)

188(H-40)

189(H-41)

196(H-42)

197(H-42)

198(H-42)

199(H-42)

200(H-42)

201(H-43)

202(H-44)

203(H-44)

204(H-45)

205(H-46)

207(H-46)

206(H-46)

208(H-46)

210(H-46)

211(H-46)

253(H-57)

209(H-46)

212(H-46)

213(H-46)

214(H-46)

215(H-46)

217(H-48)

218(H-48)

219(H-49)

220(H-49)

222(H-50)

223(H-50)

224(H-50)

225(H-51)

226(H-51)

227(H-51)

228(H-51)

229(H-51)

230(H-51)

231(H-51)

232(H-51)

233(H-51)

234(H-52)

235(H-52)

236(H-52)

237(H-53)

238(H-53)

239(H-53)

240(H-53)

241(H-54)

242(H-54)

243(H-54)

244(H-54)

245(H-54)

246(H-54)

247(H-54)

248(H-54)

249(H-54)

250(H-55)

251(H-56)

252(H-57)

254(H-57)

255(T-1)

22(H-4)

76(H-24)

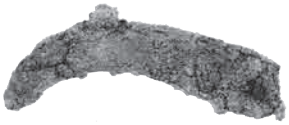
216(H-46)

181(H-38)

182(H-38)

(W-3)

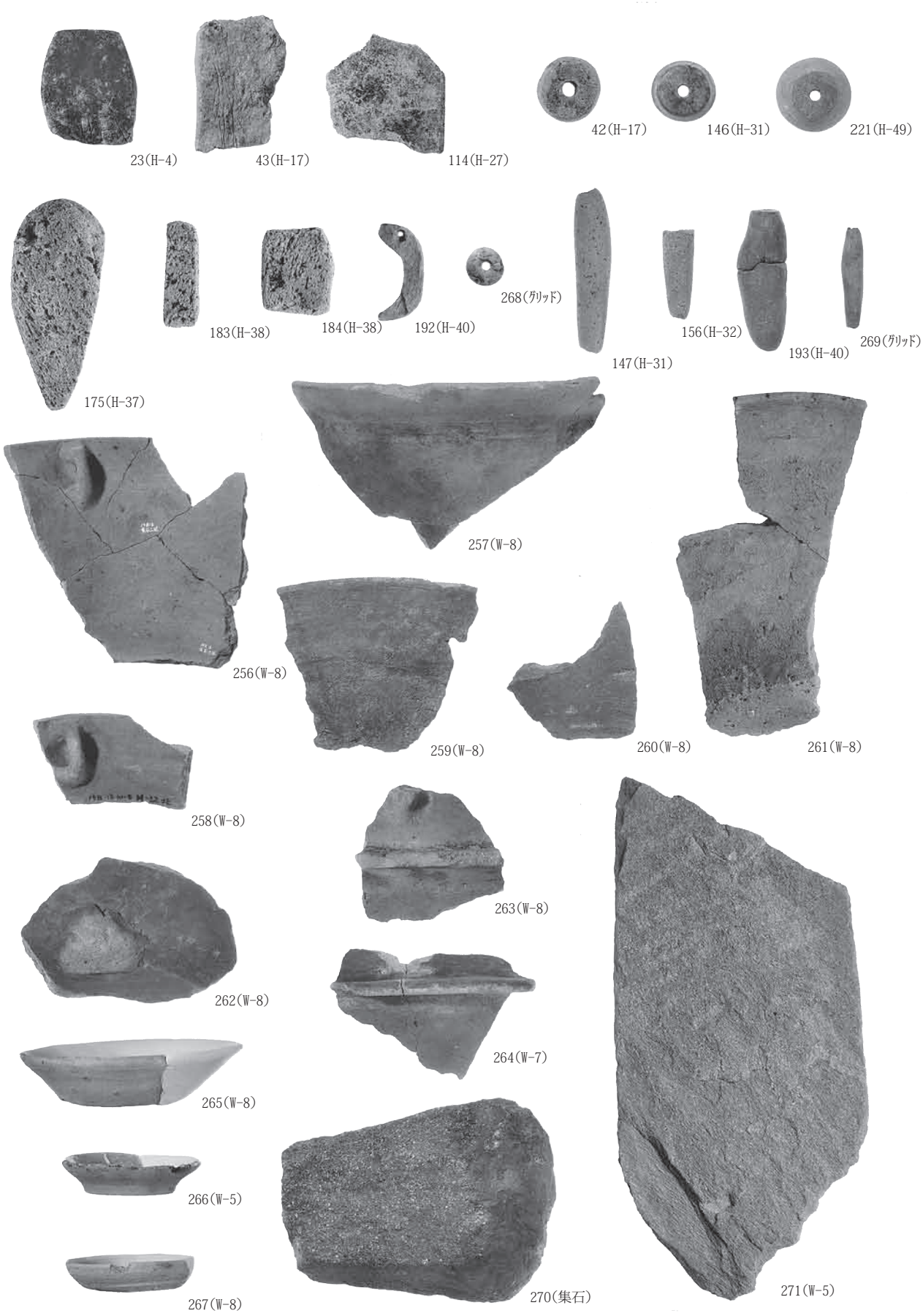
40(H-17)


41(H-17)

190(H-40)

75(H-24)

191(H-40)


23(H-4)
43(H-17)
114(H-27)
42(H-17)
146(H-31)
221(H-49)
175(H-37)
183(H-38)
184(H-38)
192(H-40)
268(グリッド)
147(H-31)
156(H-32)
193(H-40)
269(グリッド)
257(W-8)
256(W-8)
259(W-8)
260(W-8)
261(W-8)
258(W-8)
263(W-8)
262(W-8)
264(W-7)
265(W-8)
266(W-5)
267(W-8)
270(集石)
271(W-5)

抄　録

フリガナ	ナンキツヒガシハライセキ
書名	南橋東原遺跡
副書名	南橋第二グラウンド整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	山下　歳信
編集機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
編集機関所在地	〒371-0018　群馬県前橋市三俣町二丁目10-2
発行年月日	西暦2008年３月19日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		位置（日本測地系）		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
ナンキツヒガシハライセキ 南橋東原遺跡	マエバシシニチリンジ 前橋市日輪寺 マチ 町107－4ほか	10201	19B13	36°25′30″	139°03′56°	20070514 ～ 20080321	約7,040㎡	南橋中学校 第二グラウンド 造成事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
南橋東原遺跡	集落跡	古墳～奈良・ 平安時代 古代～中世	竪穴住居跡52軒、 竪穴遺構１軒、 掘立柱建物跡１軒、 柱穴群 溝跡15条、土坑、道路状遺構２ヶ所	縄文土器、 土師器、須恵器、鉄製品、 石製品、土製品 土鍋・常滑・かわらけ・砥石 板碑	

南橋東原遺跡

2008年３月14日　印　刷
2008年３月19日　発　行
編集発行　前橋市埋蔵文化財発掘調査団
前橋市三俣町二丁目10-2
TEL 027-231-9531
印　刷　日本特急印刷株式会社
前橋市下小出町二丁目9-25
TEL 027-233-2002